

令和3年度

学習の手引き・年間授業計画

(第1学年)



東京都立戸山高等学校
全日制課程

目 次

(学習の手引き)

1. 戸山高校での学習を始めるにあたって	1
2. 戸山生の学習と進路	2
3. 教育課程	4
3年間の教科学習の構成	6
4. 国語	12
5. 地理歴史・公民	15
6. 数学	19
7. 理科	22
8. 英語	25
9. 保健体育	28
10. 芸術	30
11. 家庭	32
12. 情報	33
13. 総合的な探究の時間・人間と社会	34
14. 知の探究	34
15. SSH講座	35

(年間授業計画)

国語	36
地歴・公民	41
数学	51
理科	59
英語	69
保健体育	77
芸術	83
家庭	91
情報	94
知の探究	97
スーパーサイエンス	101

(マトリクス設計図)

数学と理科（物理・化学・生物・地学）の学習項目と学習時期の一覧表

1. 戸山高校での学習を始めるにあたって

東京都立戸山高等学校長

楡野 治和

新入生の皆さん、戸山高校への入学おめでとうございます。皆さんは、中学校時代、優秀な成績で戸山高校への進学を勝ち取りました。これから高校生として新たなスタートを切りますが、戸山生としての学習を始めるにあたり、何点かお話しさせていただきます。

第一に、中学時代は優秀な成績であっても、その優秀な成績の生徒たちが戸山高校に入学して来ています。今までトップだったからと言って、戸山では努力しないとトップにはなれません。まず、自分よりも「上には上」がいるという挫折感を味わうはずです。スタートラインは皆一緒。その挫折感を克服して、初めて戸山生になると思ってください。これまでの成功体験は通用しません。

第二に、その優秀な生徒が集まっている学校の授業ですから、中学時代や他の都立高校と比べても、より速いスピードで授業が進みます。よって、予習・復習を前提とした授業構成なので、家庭学習をおろそかにしないでください。一日に3時間以上の自主学習を求めています。この位の学習を継続しないと、現役での大学合格は不可能です。

以上、厳しいことを書きましたが、戸山生として、以下の2点について意識して、これから学習してください。

(1) タイム・マネジメントを意識する

戸山高校の校是は、「自主自立」です。自ら計画を立てて様々なことを実行する。そのためには、時間をどのように有効活用するかが勝負です。老若男女すべての人に平等に与えられているのが

「時間」です。その時間をどのように使うかは皆さん自身です。また、本校の教育目標の一つに「文部両道」があります。勉強も部活動・学校行事も

一生懸命に取り組むというのが戸山生です。ですから、部活動に力を入れているから勉強がおろそかになるのではなく、時間をうまく調整して対応することがとても大切です。社会に出れば、仕事のデッドライン（締め切り）に追われます。このタイム・マネジメントを意識した行動を高校生のうちに身に付けるようにしてほしいです。

(2) 主体的な深い学びを意識する

これは、学習の在り方についてです。これまでの学習は、ややもすると「暗記」力がモノを言ってきたと思います。しかし、大学入試だけでなく、これからの社会は「正解のない時代」へと大きく変化しています。「暗記」力に頼る学習ではなく、「なぜ」を意識した学習に切り替えてください。新しい大学入学共通テストでは、思考力を問う問題が出題されます。これまで学んだ知識を再構成して、それをどのように生かしていくのかが問われてきます。表面的な知識・理解ではなく、深い学びがこれからの社会でも生かされてきます。宿題があるからではなく、主体的に幅広く様々なことを学習し、探究できるように心がけてください。

(3) まとめ

戸山高では、大学入学がゴールではなく、その先、大学生、社会人になって必要な学力を身に付ける授業、それが、思考力、判断力、表現力の育成を意識した授業です。皆さんの将来の夢の実現に向けて、一緒に頑張っていきましょう。

2. 戸山生の学習と進路

高校における学習生活は、中学校とかなり異なる点があります。戸山生としての学習習慣を早く確立することが大切です。特に本校の方針でもある自主・自立が学習においても要求されます。そこで、本校での学習生活における心構えを具体的に述べます。

1. 授 業

(a) 考える授業

中学校とかなり異なるところはおそらく「授業」そのものでしょう。ほとんどの授業において、考えることが要求されます。「何故」、「どのように」が非常に大切です。高校ではあらゆる授業において、頭を働かせ、知識を拾い出したり、想像力を働かせたり、まとめたりしていかなければならないのです。ただ先生が教えたことを覚えればよいという訳にはいきません。

(b) ノートの取り方

ノートの記入についても同じことが言えます。先生が板書したものだけをそのまま写し取ればよいという訳にはいきません。まとめたり、解説を加えたり、自分が理解しやすいノートを作ることが大切です。要は授業中も常に「理解する」という目標を忘れず、そのためにすべきことをすることが大切だと言いたいのです。

(c) 暗記を軽視しない

「考える」ことを重視するあまり陥りやすい落とし穴があります。それは暗記を軽視することです。考えの基になる知識の積み重ねをおろそかにしては、正確な理解は期待できません。コツコツと知識を増やすことも非常に大切なことを肝に銘じて、しっかり学習しましょう。

(d) 積極的に伝えて、議論しよう

自分の考えを整理し、言語化したうえで、わかりやすく説得力をもって表現することは大切です。一方で、自分と異なる意見にも耳を傾けることも重要です。授業では積極的に議論して合意点を見いだすなど、クラスみんなで活気のある授業をつくって下さい。

2. 自宅での学習

(a) 予習・復習

高校の授業においては予習が原則です。予習をすることによって自分の勉強のやり方が正しかったのか、また、分からないところがどこだったのかなどがはっきりします。これらを授業時間に確認・理解することによって学力がつくのです。授業時間に初めて教科書を開いて先生の話の話を聞いていると、実は何も分からないのに何となく分かったような気になって頭に残らないものです。また、学校で学んだことは必ず自宅で復習してください。教科書とノートを見て、頭の中に授業を再現して、覚えるべきことを暗記し、理解を確実なものにします。そのとき分からなかったことは次の日、すぐに質問に行きましょう。本校では予習・復習は「学年数+2時間」を目標としています。これは「学年数+2時間勉強しないとイケない」という意味ではありません。戸山生として予習・復習をすれば「学年数+2時間はかかってしまう」ということなのです。毎日必ず予習・復習する習慣をつけましょう。

(b) 辞書・副教材の利用

予習・復習のときには、面倒がらずにこまめに辞書を引くようにしましょう。また図説や年表など副教材も大いに利用してください。先生の指示を待っているのではなく、自分自身で有効に使うようにしましょう。さらに、関連した参考書も大いに活用してほしいものです。図書館にある書籍も積極的に利用してください。

(c) 塾・予備校

上記を読めば分かるように、予習・復習で手一杯のはずです。予習・復習の手を抜いて塾や予備校に通うよりも、家庭でしっかりやるほうが、ずっと効果的です。

3. 勉強と部活動の両立

勉強と部活動の両立、それは言葉で言うほど簡単なものではありません。部活動を勉強のバネにするか、逃避の言い訳に使うか、それは皆さんの心の持ち方の問題なのです。

(a) 部活動に参加しよう

勉強だけで3年間を終えたら、おそらく大人になってから高校時代を振り返って、淋しい思いをすることでしょう。それほど部活動は鮮烈な思い出を残してくれるものなのです。高校を卒業した後、母校と自分をつないでくれるのも部活動です。ではどうしたら部活動と勉強を両立させられるのでしょうか。

(b) 時間を有効に使う

部活動をすれば、当然活動日には放課後の勉強時間が減ります。不足した時間をどこで回復するのか？ 自分の生活を振り返ってみれば、必ず多くの無駄な時間が見つかるはずです。それらの時間を集めて有効に使うことを心掛けてください。それでも足りないと思ったら、学校の休み時間を活用することです。また、部活動後に図書館や自習室を利用することもできます。

(c) 切り替えと集中力

時間を無駄にしないことと密接な関係を持っているのが、気持ちの切り替えです。ずるずると前のことを引きずっていく生活では、無駄な時間が増すばかりです。切り換えるためには集中力が必要ですが、それは部活動で身につくはずです。もし集中力も身につかないようなら、部活動も大成しません。

(d) 部活動のせいにしない

勉強をせず、成績が悪くなると、部活動のせいにして、自分の責任から逃れようとする人がいます。そういう人に限って部活動をやめたら勉強するかというと、そうはなりません。やりたいことを思い切りやっていくためにも、やらなければならないことをしっかりやっていきましょう。

4. 難関国公立大をめざそう

「自分は成績がよくないから難関大学なんて無理だ」と思っている人もいるかもしれません。でも、考えてほしいのです。目標設定を簡単にクリアできるものにしたとしましょう。例えば「100mを20秒で走る」。そうすると、どのようなことになるでしょう。「簡単にできる」と思い、「努力」する気持ちは消えてしまいます。容易な目標設定をした時点で進歩がなくなるのです。同じことが志望校の決定にもあてはまります。「自分はこのぐらいの学力だから、このぐらいの大学なら入れる」と考えて志望校を決めてしまうと、がんばろうという気持ちは失せてしまい、その志望校でさえ合格できるか疑わしくなります。「難関大は学力が高い人が目指す」のではなく、「難関大を目指してがんばるから、学力が高くなる」のです。自分のやりたいことを深く考え、高い目標を設定して、高校3年間そこへ向かって努力する。そのことが、将来、社会で生きていく糧に必ずなるということ覚えておいてください。



以上のように、強い意志と情熱を持って、ぜひ自分を育てることができる充実した高校生活を送ってください。

3. 教育課程

I 本校の教育課程の特徴

表を見てください。これが本校の教育課程です。3年生では選択科目が増えますが、全体的には各学年にわたって、全員が幅広い教科・科目を共通に学習するようになっています。

いま社会はめまぐるしく変化していますが、どのような社会にあっても、人間性豊かに生きるために、幅広い視野で物事をとらえ、考え、行動できることが必要です。そのためにも若く柔軟なこの時期に多様な経験を積むことが大切なのです。

将来どの分野に進もうと、ここに示された程度の教科・科目の基礎基本は十分に学習しておく必要があります。また、わずかな経験の中だけでは自分の適性を正しく見つけ、進路を選択することも難しくなります。そのためにも早くから文系科目、理系科目と範囲を狭めて学習するのは好ましくありません。

具体的に見てみましょう。たとえば将来英語の同時通訳をやりたいとします。しかし、いくら英語が得意でも、政治や経済のことが分からなければその分野の同時通訳はできません。科学や日本文化の紹介などでも同じことが言えます。英語だけでなく、他の教科も満遍なく学習しておく必要があるのです。

経験がひろがるにつれて進路が変わる例もよくあります。大学の史学科に進んで建築物の移り変わりを研究するうちに、建築そのものに興味を持つようになり、建築学科に再入学した卒業生もいました。新たな夢が生まれるとき、その夢がかなうのも、若いうちに幅広く教科・科目の基礎基本を学習していたからです。文系の科目だけを履修していたのでは、理系の建築学科に進むことは不可能だったでしょう。

芸術は、「音楽」、「美術」、「書道」から1科目を選択して1年で履修します。

1年からSSHクラス編成を行い、「スーパーサイエンスⅠ」を「情報」に代替して履修します。2年でも、SSHクラスの生徒は、「スーパーサイエンスⅡ」を「情報」に代替して履修します。

2年までの教科・科目の履修を通して、センター試験対策ができることが望ましいと考え、学習指導にあたっています。

3年では、15時間以上の選択科目があります。1・2年の学習内容の発展や課題研究、問題演習などの多彩な講座で、その内容は大学への橋渡しになるものを含み、いずれもレベルが高くなっています。ここでは興味、関心や将来の進路志望を考えながら、自分に適する教科・科目を選びます。

令和3年度入学生 教育課程

教科	科目	1学年		2学年		3学年		
		必修	選択	必修	選択	必修	選択A	選択B
国語	国語総合	5						
	現代文B			2		2	2	2
	古典B			3			5	2
地理	世界史A					2	2	2
	世界史B			3			4	
	日本史A					2	2	2
	日本史B			3			4	
公民	地理B	2				4	2	
	現代社会					2	2	2
	倫理	2				2	2	2
数学	政治・経済					2	2	2
	数学Ⅰ	3						
	数学Ⅱ			3			4	2
	数学Ⅲ						5	2
	数学A	3						
理科	数学B			2				
	物理基礎			3				1
	物理						4	2
	化学基礎			3				1
	化学						4	2
	生物基礎	2						1
	生物						4	2
	地学基礎	1						1
地学						4	2	
保健体育	体育	3		3		2		
	保健	1		1				
芸術	音楽Ⅰ	○2				2	2	
	音楽Ⅱ					2	2	
	美術Ⅰ	○2				2	2	
	美術Ⅱ					2	2	
	書道Ⅰ	○2				2	2	
外国語	書道Ⅱ					2	2	
	コミュニケーション英語Ⅰ	3					4	
	コミュニケーション英語Ⅱ			3			4	
	コミュニケーション英語Ⅲ					4	2	2
外国語	英語表現Ⅰ	2						
	英語表現Ⅱ			2		2		
	英語表現Ⅲ							
家庭基礎	2					2	2	
情報の科学	○1		◆1					
国語	SSH 論述基礎				1			
知の探究	SSH 論文							2
	スーパーサイエンスⅠ	△3						
	スーパーサイエンスⅡ			▲3				1
	スーパーサイエンスⅢ							
	知の探究Ⅰ	□1						
外国語	知の探究Ⅱ			■1				
	知の探究Ⅲ							1
	ドイツ語				2			
	フランス語				2			
SSH 英語				1				
教科等の合計単位数	33~34		33~37			27~36		
総合的な探究の時間	1		0			0		
H R	1		1			1		
H R を含めた総合計	35~36		34~38			28~37		

- 1,2年生の芸術○印は、音楽・美術・書道のうちから1科目選択する。
- 1年は、△印の「スーパーサイエンスⅠ」または□印の「知の探究Ⅰ」を履修する。「スーパーサイエンスⅠ」は、◇印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
- 2年は、▲印の「スーパーサイエンスⅡ」または■印の「知の探究Ⅱ」を履修する。「スーパーサイエンスⅡ」は、◆印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
- 3年の「スーパーサイエンスⅢ」は、「スーパーサイエンスⅠ,Ⅱ」の履修者のみが履修することができる。3年の「知の探究Ⅲ」は、「知の探究Ⅰ,Ⅱ」の履修者のみが履修することができる。
- 2年の自由選択科目からは、1~2科目を選択することができる。
- 3年の必修選択科目は、5単位を1科目、4単位を2科目、2単位を1科目選択する。
- 「人間と社会」は「総合的な探究の時間」で代替する。

II 充実した学習のために

本校の授業は、充実した高校生活を送りながら生徒諸君がその能力を十分に発揮して、将来の自己実現が図れるように、内容は高めに、速度は早めに進められます。

この授業を消化・吸収することは大変です。予習、復習を忘れず、積極的に質問するなど、自ら学ぶ態度をしっかりと見につけることが大切です。そうするうちに真の勉強の楽しさ、すばらしさが分かってくるでしょう。

授業を大切にしたい日々の積み重ねが、幅広くものを考える力をつけ、結果として大学入試に対応する実力をも培うことになるのです。

なかには、大学入試＝予備校と考える人もいますが、両方を消化することは、並みの人にはかなり難しいことです。学校の授業ではやさしくて物足りないという人ならともかく、そうでない人は、何よりも学校の授業を大切にしてください。そうでないと「二兎を追う者は一兎をも得ず」のたとえ通りになってしまいます。

また、ゆとりも大切です。学習一辺倒というゆとりのない状態は問題です。肉体だけでなく、内面的・精神的にも著しく成長するこの3年間に、学習以外の様々な経験をすることも大切なことです。学校行事、部活動、委員会活動、奉仕体験活動等、学校内外において、いろいろな分野で積極的に多様な経験をしてください。

III 単位の認定及び進級・卒業について

高等学校では、単位制度をとっています。

1. 単位

1週1時間の授業1年分が1単位。

2. 単位の履修

当該教科・科目の授業に出席し、指導を受け、その科目の欠時数が年間授業時数(教育課程に定められたその科目の週時間数×35)の1/3以下である場合に、単位の履修が認められる。

3. 単位の修得

教科・科目を履修したうえで、さらに教科・科目の目標から見て満足できる成果を上げた場合に、単位の修得が認定される。

4. 進級について

各学年ごとの進級に必要な条件は以下の通り。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第1学年において未修得教科・科目の単位数の合計が5単位以内。第2学年において未修得教科・科目の単位数の合計が6単位以内。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

5. 卒業について

卒業に必要な条件は以下の通りです。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第3学年において未修得教科・科目の単位数の合計が7単位以内であり、かつ、3年間の修得教科・科目の単位数の合計が85単位以上であること。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

IV 成績評価

1. 評価の方法

科目の成績評価は学期ごとに行い、第1、2学期は10段階、学年末では5段階によって示す。第3学年は各学期末の評定は5段階とする。学年成績を表す5段階法では、単位を修得できなかった科目は1で、それ以外は5、4、3、2で評価する。

2. 評価の基準

定期考査、小テスト、宿題等の成績および平常の学習状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などを考慮して、総合して算定する。

3. 年間の欠時数が多い教科・科目がある場合には未履修となり、進級・卒業が出来ない。学年末の5段階評定が1の教科・科目は未修得となり、未修得の教科・科目がある場合、進級・卒業に影響する。

4. 大学入試の際に必要な調査書は、1年から3年までの全科目の成績が記載される。(大学の推薦入学では、推薦の条件として各教科の評定の平均値を何点以上と指定してきます。実際には4.0以上の場合が多いようです。)

V 定期考査

定期考査は1、2学期は2回、3学期は1回の計5回行う。ただし、3学年の3学期の期末考査を行わない場合もある。

国語科 3年間の教科学習の構成

	現代文	選択現代文	古典〔文系〕	文系古文	理系古典
学習到達度	①基礎的な語彙力を養うため漢検2級程度の語彙を習得する。 ②大学入学共通テストを80%正解する力を8割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次試験に対応する読解、記述力を習得する。	①高度な論理的文章を読み、理解力を養う。 ②大学入学共通テストを85%正解する力を8割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②大学入学共通テストを80%正解する力を8割の生徒が習得する。 ③難関国公立大学二次試験に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②大学入学共通テストを85%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②大学入学共通テストを75%正解する力を7割の生徒が習得する。
1年	科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の2単位をあてる。 ①論理的文章の読解を通じ、近代以降の問題や思想を捉え考察を深める。 ②小説において登場人物の心情や行動を読み取り、小説のテーマ等も捉える。 ③詩歌の言葉や表現を味わうことにより、感性や情操を豊かにする。 ④漢字学習、意見の発表、討論などを通じ、語彙や表現力、論述力を伸ばす。		科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の3単位をあてる。 ①古典文法、漢文の句形に習熟して語釈解釈ができるようにする。 ②様々な時代の文章を読み、日本の思想や美意識について知る。 ③故事成語、史話、思想を読み、中国の文化・歴史の認識を深める。 ④和歌、漢詩を味読し、言語感覚を養い、読解・鑑賞力を身につける。		
2年	科目：現代文B 履修：必修2 ①文学的な文章として1学期「山月記」2学期「こころ」等を味わい、人物・情景・心情を捉える。主題について思考を深化させ自分の考えを表現する。 ②論理的文章について、論理の展開や要旨を捉えて現代が抱えるテーマについて考察する。構成を意識して自分の意見を論理的に表現する。 ③近代以降の時代、思想の流れを学び作品理解につなげる文体や修辞の表現上の特色を捉える。		科目：古典B 履修：必修3 ①教科書を中心として、より多くの作品を、総合的に（文法・単語・時代背景・古典常識などを踏まえて）理解し、作品を通じてものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ②古典の世界を広げるために、古文においては日本史の知識、漢文においては世界史の知識など、他の教科とも関係があることを意識し、作品の読解を深める。③文法や語彙の基本的事項の定着のため、副教材・プリント・小テスト等を活用する。		
3年	科目：現代文B 履修：必修2 ①近代以降の文章を読み、異なるジャンルの文体の特徴や時代背景を捉える。 ②論理的文章を読み、近代以降の諸問題や思想、論の流れを捉え、思考力を深め表現力を高める。 ③副教材を用い系統的な知識や語彙を充実させ思考の手段とする。 ④教材を通じて、豊かな感性や想像力を磨く。	科目：選択現代文 履修：自由選択2 ①評論用語の意味を理解して語彙を増やす。 ②文章構造を論理的に把握する。 ③思考プロセスを意識して設問に取り組む。 ④単元に関連したテーマの入試問題や資料から、読解を深化させる。 ⑤主題をもとに自分の考えを表現する。	科目：古典B〔文系〕 履修：必修選択5 (文系の生徒は全員受講) ①教科書を中心として作品を総合的に理解する。 ②教材理解の手がかりを自ら発見し、各自が発展的課題に取り組めるようにする。 ③大学受験を視野に入れた入試問題の演習を通して、実践的読解力を身につける。	科目：文系古文 履修：自由選択2 (文系の生徒が中心) ①「源氏物語」を中心に「大鏡」や評論、影響を受けた漢文作品にも触れ、知識を広める。 ②演習を行い総合的に学習する。 ③プリントを使って、演習も組み入れる。 ④教養を深め、進路実現の力を身に付ける。	科目：理系古典 履修：自由選択2 (理系の生徒が中心) ①古文：奈良～江戸の和歌・日記・歌論・物語・評論等を扱う。 ②漢文：史伝・思想等多様な分野を扱う。 ③1学期は教科書を中心に作品鑑賞し2学期から入試演習を行う。 ④日中の文化に触れ教養を深め、進路実現の力をつける。

社 会 科 (地理歴史・公民) 3年間の教科学習の構成

	世界史A/B	日本史A/B	地理B	倫理	政治・経済
到達度	学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。	大学入学共通テスト全国平均点+25%以上の学力を目指す。	大学入学共通テスト全国平均点+25%以上の学力を目指す。	大学入学共通テスト全国平均点+25%以上の学力を目指す。	大学入学共通テスト全国平均点+25%以上の学力を目指す。
1 年	科目：地理B 履修：必修2		科目：倫理 履修：必修2		
	①「地理的なものの見方」を深める際に必要な地図について学ぶ。 ②自然環境について地形・気候から入り、災害・防災をとりあげ、徐々に人文的な内容を扱っていく。 ③産業学習として農業、資源、工業まで順に扱う。 ④都市と村落の機能や立地条件および課題について学ぶ。 ⑤人口問題、環境問題などグローバルな課題を取り上げる。 ⑥地誌的学習では、基本的にはなるべく多くの地域を取り上げる。		・青年期の「自分への問い」を出発点として、古今東西の哲学思想や宗教思想を取り上げ、それを青年期の心理的葛藤や、現代社会の諸問題との関連で理解するようにする。 ①青年期の自己形成、②人類思想の源流（ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想）、③ルネサンス以降の西洋近代思想の展開、④20世紀と現代思想、⑤現代文明が直面する倫理的課題、などについて学ぶ。		
	科目：世界史B 履修：必修3		科目：日本史B 履修：必修3		
2 年	・最初に古代・中世を概略的に学ぶ。 ・中心となるのは15世紀以降である。ルネサンス・大交易時代・宗教改革・主権国家群の形成を学習し、また、ユーラシア諸帝国の繁栄を学習する。 ・18世紀後半～19世紀初頭の大西洋革命（急速な工業化・アメリカ独立革命・ラテンアメリカ独立・フランス革命）から19世紀末までの近代ヨーロッパを学び現代社会の基本的枠組が形成される過程を理解する。 ・アジア諸地域の変革運動を学習し、植民地化と民族運動を理解する。 ・3年生で「世界史A」「世界史B」を選択すれば、通史が完成する。		・近世から近代(明治時代)までを主に学習する。 ・日本人と日本社会の成り立ちについて、今日の日本人の社会生活や精神生活、文化の基層がほぼ出来上がる近世初頭から学習を始めて、日本が国際社会の一員として出発し、重要な役割を担うことになる明治維新以降の近代史を通史的に学ぶ。 ・前半の原始・古代から中世までと現代(大正・昭和時代)は、3年生の「日本史B(4単位)」「日本史A(2単位)」で学習するので、3年生で「日本史B」「日本史A」を選択すれば、日本史Bを通史的に網羅し、大学入試に対応できる。		
3 年	科目：世界史A/B 履修：自由選択2/4	科目：日本史A/B 履修：自由選択2/4	科目：地理B 履修：自由選択2/4	科目：倫理 履修：自由選択2	科目：政治・経済 履修：必修2/自由選択2
	◎世界史A ・2年次の必修で未習部分の後半、近代後半から現代史。 ・帝国主義から冷戦解消後21世紀の歴史まで。2学期末から3学期は大学入試特別授業。 ◎世界史B ・2年次必修で未習部分の古代史・中世史を中心に学ぶ。 ・大学入学共通テストから国公立2次・難関私大も対応する。	◎日本史A ・大正から昭和の政治・外交・社会・経済史を通史的に学ぶ。受験に対応できる基礎の確立をはかる。 ◎日本史B ・原始・古代から中世の戦国時代までを学習し、2年次の必修範囲につなげる。 ・さらに2年次に学習しなかった文化史も学習する。	・現代世界の系統地理的考察、現代世界の地誌的考察、地理情報と地図などの学習を踏まえ、世界の抱える諸課題等について正しい地理的認識が得られるように学習する。 ・2単位は大学入学共通テストで高得点がとれるよう、4単位は難関大学にも対応できるよう学習する。	・「倫理」の全領域の大学入学共通テスト必須事項を完全学習する。 ・プリントを使用し、教科書プラスαの補充事項も確認する。 ・大学入学共通テスト試験問題演習を実施する。	◎必修 ・経済の分野から国際分野まで。時事問題を取り入れながら学習する。 ◎自由選択（政経プラス） ・政治の分野から始めて国際分野まで。演習問題等も取り入れながら学習する。 ・どちらもプリントを使用し、大学入学共通テストで得点できる力を習得する。

数 学 科 3年間の教科学習の構成

学 習 到 達 度	数学Ⅲ	数学Ⅱ α 4／数学Ⅱ α 2	数学Ⅱ β 4／数学Ⅱ β 2
	大学入試個別学力試験で、難関 国立大学に対応できる学力を身につける。	大学入学共通テストの全国平均点を25%上回る学力を身につける。	大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。
1 年	科目：数学Ⅰ 履修：必修3単位 ・数学Ⅰ全範囲及びその発展学習をする。数と式，2次関数，図形と計量，データの分析，式と証明（発展学習），複素数と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばし，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	科目：数学A 履修：必修3単位 ・数学Aの全範囲及びその発展学習をする。場合の数と確率，図形の性質，整数の性質，図形と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を育て，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	
	科目：数学Ⅱ 履修：必修3単位 ・数学Ⅱの全範囲及びその発展学習をする。複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数と対数関数，微分法と積分法，数列の極限（発展学習），関数の極限（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	科目：数学B 履修：必修2単位 ・数学Bの全範囲及びその発展学習をする。ベクトル，数列，いろいろな関数（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	
3 年	科目：数学Ⅲ 履修：必修選択5単位 微分法 微分法の応用 （1）導関数の応用 （2）速度と加速度 積分法 （1）不定積分 （2）定積分 積分法の応用 後半は入試問題演習、大学入学共通テスト演習等を行う。	科目：数学Ⅲ 履修：自由選択2単位 複素数平面 式と曲線 （1）2次曲線 （2）媒介変数表示と極座標 後半は入試問題演習、大学入学共通テスト演習等を行う。	科目：数学Ⅱ α 4／数学Ⅱ α 2 履修：自由選択4単位／自由選択2単位 数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容について，大学入学共通テストに向けた演習を中心に行う。 （数学Ⅰ） ●数と式 ●2次関数 ●図形と計量 ●データの分析 （数学A） ●場合の数と確率 ●図形の性質 ●整数の性質 （数学Ⅱ） ●式と証明 ●複素数と方程式 ●図形と方程式 ●三角関数 ●指数関数・対数関数 ●微分法・積分法 （数学B） ●数列 ●ベクトル
	科目：数学Ⅱ β 4／数学Ⅱ β 2 履修：自由選択4単位／自由選択2単位 大学入試個別学力試験に対応できるように，記述問題を中心とした演習を行う。 （数学Ⅰ） ●数と式 ●2次関数 ●図形と計量 ●データの分析 （数学A） ●場合の数と確率 ●図形の性質 ●整数の性質 （数学Ⅱ） ●式と証明 ●複素数と方程式 ●図形と方程式 ●三角関数 ●指数関数・対数関数 ●微分法・積分法 （数学B） ●数列 ●ベクトル		

理 科 3年間の教科学習の構成

	物理基礎／物理	化学基礎／化学	生物基礎／生物	地学基礎／地学
学習到達度	<p>◎物理基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試共通テストの全国平均得点を25%上回る学力を身につける。 <p>◎物理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で難関大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎化学基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題8割正解。 <p>◎化学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題9割正解。 ・難関国立大学の入試問題を最低でも5割正解できるようになる。 	<p>◎生物基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50%以上の生徒が、共通テストの全国平均得点25%上回る学力を身につける。 <p>◎生物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎地学基礎・地学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいた現象の理解ができるようになる。 ・共通テストにおいて、8割以上の得点が得られるようになる。
1年	<p>科目：生物基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴（生物の多様性と共通性・生命活動とエネルギー） ・遺伝子とそのはたらき（生物と遺伝子・遺伝情報の分配・遺伝情報とタンパク質の合成） ・生物の体内環境の維持（体内環境・体内環境の調節・免疫） ・生物の多様性と生態系（植生の多様性と分布・気候とバイオーム・生態系とその保全） ・生殖と発生（動物の生殖と発生・発生のしくみ・植物の生殖と発生） 		<p>科目：地学基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球・宇宙を対象として、観察や実験実習及び巡検を通して自然への探究心を高める。 ・われわれの住む地球を、自然科学の知識をもとに総合的に考察する。 ・地球の姿とその変化、惑星としての地球、大気と地球の熱収支、生物の変遷と多様性について学習し、人間の活動と環境について考える力を養う。 ・2学期に城ヶ島巡検を実施し、実際に自分で地層や地質構造を観察し、報告書を作成する。 	
	<p>科目：物理基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てる。 ・基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 ・系統的で論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がける。 ・力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積み理解を深める。 		<p>科目：化学基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成：物質と探究・原子の構造と元素の周期表・化学結合 ・物質の変化：物質と化学反応式・酸と塩基・酸化還元反応 <p>観察や実験を取り入れながら、発展的な内容（無機化合物や有機化合物、電池や電気分解など）にも触れていき、理解を深める。</p>	
2年	<p>科目：物理基礎／物理</p> <p>履修：自由選択1／4・6</p>	<p>科目：化学基礎／化学</p> <p>履修：自由選択1／2・4</p>	<p>科目：生物基礎／生物</p> <p>履修：自由選択1／4・6</p>	<p>科目：地学基礎／地学</p> <p>履修：自由選択1／2・4</p>

3 年	◎物理基礎（1単位） ・共通テストのための講座である。問題演習を中心に行う。 ◎物理（4・6単位） ・授業では教科書の各項目に則して、実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。 ・力学と電磁気が物理学で重要な柱である。十分に練習を積んで、理解を深めるような努力を望む。	◎化学基礎（1単位） ・自ら復習して、進路実現に向けた学習計画を立てる。 ◎化学（4単位） ・結晶、物質の状態、化学反応の速さと平衡、高分子化合物、生命と物質。授業は前半で理論を中心に、後半で演習や実験を中心に展開していく。	◎生物基礎（1単位） ・細胞・代謝・遺伝子・恒常性・多様性・生態系・生殖・発生 ・共通テストのための講座である。問題演習を中心に行う。 ◎生物（4・6単位） ・遺伝情報の発現調整・代謝・環境応答・生態と環境・進化と系統	◎地学基礎（1単位） ・地球誕生から現在までの地球史・生物の進化を学び、地球環境を理解 ・重力・地磁気等の地球物理的要素、火山や地震。日本列島の形成史 ・気象現象の各要素の理解、四季の天気変化の原因の考察 ・天文学史について1年次の復習、恒星宇宙から銀河宇宙までの学習
--------	---	---	---	--

英語科 3年間の教科学習の構成

	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ ^{プラス}	コミュニケーション英語Ⅲ ^{プラス}
到達度	アカデミックな分野の文章を正確に読める力を身に付け、難関国公立大学中心に出題される記述問題に対する解答力を磨く。	アカデミックな分野の文章を読み、自分の考えを表現できる力を身に付け、難関国公立大学や外部資格・検定試験等にも対応できる力を養う。	主に難関私立大学の入試に対応できる速読・精読力、文法・語法力を養う。 早慶大レベル入試で7割以上得点する学力を身につけることを目指す。	国公立大学、難関私立大学の入試で7割以上得点できる学力を身につけることを目指す。
1 年	科目：コミュニケーション英語Ⅰ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅰ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に扱い、英語の基礎力を養う。パラグラフの構成を意識しながら、教科書以外の物語・説明文なども丁寧に読み、文章を正確に理解できる読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に把握する速読力を養う。 ③授業以外の「多読」により、多量の英文に接し、直読直解の力を養う。 ④英語によるコミュニケーションを通じて、外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして実践的な英語力を養う。		①日常的な場面において、英語を聞いたり話したりする基本的なコミュニケーション能力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ②文法・語法学習を通して、言語の機能を理解し、英語を正確に理解する力を養う。 ③パラグラフィティングを通して、自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。 ④1クラスを2グループに分けて、少人数授業を行う。 ⑤英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。	
2 年	科目：コミュニケーション英語Ⅱ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の総合的な力を伸ばす。ディスコース・マーカーやパラグラフの展開を意識しながら、教科書以外の物語・説明文等を丁寧に読み、文章を正確に理解できる高度な読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に理解する速読力を伸ばす。 ③授業以外の「多読」により、さらに多量の英文に接し、高度な直読直解力を伸ばす。 ④自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。		①基礎的な語彙力・文法力を土台にして、英語を「書く」「話す」という表現力に結び付けていく。 ②パラグラフィティングを通して、自分の伝えたいことを適切に表現できる能力を養う。 ③海外の文化や社会について理解を深め、幅広い話題について表現できる能力を養う。 ④英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。2クラスを3グループに分けて、習熟度別授業を行う。	
	科目：コミュニケーション英語Ⅲ 履修：必修4	科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	科目：コミュニケーション英語Ⅱ ^{プラス} 履修：自由選択4	科目：コミュニケーション英語Ⅲ ^{プラス} 履修：自由選択2
	①これまでに身につけた基礎力を定着	①これまでに身につけた基礎力を確認	①これまで身につけた文法・語法力を	①これまで身につけた文法・語法力を

3年	<p>させると同時に高度な応用力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、内容を十分に理解する能力を養う。</p> <p>②難関大学入学試験・大学入学後の学習に対応できる読解力を養成する。</p> <p>③精読により文法・語法・構文・発音等に注意を払い、正確に読む力・早く読む力を養う。</p>	<p>し、高度な応用力を身につけ、正確な英文を書き、自分の言いたいことを十分に伝える能力を養う。</p> <p>②問題演習を通じて、語法・文法問題に対する解法力を磨く。</p> <p>③1クラスを2グループに分け、少人数授業を行う。</p> <p>④英作文演習を中心に、語法・文法問題演習を合わせて学習する。</p>	<p>確認しながら、高度な総合的英語力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。</p> <p>②問題演習形式で行い、リスニングの教材も用いる。</p> <p>③適宜、テキスト以外の入試問題や新聞・雑誌記事等も扱う。自由英作文の問題演習も扱う場合がある。</p>	<p>確認しながら、高度な総合的英語力の獲得をめざし、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。</p> <p>②問題演習形式で行う。また適宜、補充の演習問題や入試問題も扱う。</p>
----	---	--	--	---

知の探究（スーパーサイエンス） 3年間の教科学習の構成

到達度	外部への発表会参加と論文応募において入賞を目指す。入試においても好成績を残すことを目指す。
1年	<p>科目：スーパーサイエンスⅠ（SSⅠ） 履修：SSHクラス必修</p> <p>1. 数学、物理、化学、生物、地学、情報の6つのコースに分かれて科学人材に必要なリテラシーを修得する。</p> <p>2. 科学的現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。</p> <p>3. 科学的な基本概念を形成し、より高度な知識を受け入れる素地を形成すること。</p> <p>4. 探究の方法やプレゼンテーションの方法の基礎・基本を身につけること。</p> <p>5. 最新の科学の動向について見通しを持つこと。</p>
学習到達度	<p>6つのコースに分かれて行うがどのコースも探究活動の発表を目指す。そのため将来必要な観察力、データの整理におけるパソコンの利用法、規則性の発見の喜び、探究的態度などを育成すること、勉強に対する意欲と関心を喚起すること、論理的思考力と表現力を高めることなどを目的として、自然現象を対象とした観察・実習を中心に行う。理数分野についての課題研究などの準備をする。地域連携として天体観望会の運営や科学教室も行う予定である。</p> <p>週時程に入る授業時間は2時間で、残り1単位については、長期休業中、休日や放課後の時間に野外観察などを実施して充てる。科学館訪問や大学の先生による発展的な内容の講演、大学や研究機関の研究室訪問実習も行う。科学系のコンテスト参加への素地を作る。</p>
2年	<p>科目：スーパーサイエンスⅡ（SSⅡ） 履修：SSHクラス必修</p> <p>自主的な探求活動を中心に行い、地道で着実な実験と分析を繰り返す。</p> <p>2年間のSSH講座の集大成として、対外的な発表を義務づけ目標とする。</p> <p>講演会・大学訪問は受講者のみ義務。講演会は1年SS+希望者が加わる。</p> <p>他校の発表会を参考とする。他校と交流し、外部発表会に慣れる。他校の独自の資料は大いに参考とする。</p> <p>急なイベントにも対応する。（科学フォーラム、科学の甲子園、科学オリンピックなど）</p> <p>大学受験問題から、実験装置を作って実験することも可能。</p>
到達度	<p>科学への興味関心が増し、探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備をし、理解して工夫し科学の魅力を多くの人に伝えることができるようにする。</p> <p>レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行う。</p>
3年	<p>科目：スーパーサイエンスⅢ（SSⅢ） 履修：SSHクラス 自由選択</p> <p>2年間の課題研究を磨き上げ、生徒研究発表会などの外部発表会や科学コンテストの論文応募を行う。</p> <p>英語論文作成にもチャレンジする。入試問題にも意欲的に取り組む。</p>

4. 国 語

本校の国語学習は、1年で「国語総合」5単位、2年で「現代文B」2単位と「古典B」3単位、そして3年では「現代文」2単位といくつかの選択科目という形で組みられています〔「3年間の教科学習の構成」参照〕。このうち1年で学ぶ「国語総合」は、現代文2単位・古典3単位（古文（江戸時代までの文章）2単位、漢文（漢字だけを用いて書かれてある中国の文語体の文章もしくは日本人の手による中国風の文語体の文章）1単位に分けられる）から成り立っています。

国語の勉強に関して「読めばわかるから不必要」と考えている人はいないでしょうか。ひょっとすると今まではそれで済んでいた人もいるかもしれません。しかし、高校では、古典はもとより現代文でもしっかり学んでいかなければ、国語はおろか他教科の学習にも深刻な影響を及ぼします。国語の学習によって、言葉の引き出し、思考の引き出しを増やしていかないと、世の中のあらゆる事象について考えていくことはできません。教材を深く読み、読書の幅を広げることで様々な考え方を学んでください。また優れた文学作品に触れることで、言語感覚、感性が磨かれます。作品を味読することは、優れた表現をするための第一歩でもあります。現代の文章だけでなく、古文、漢文、さらには英文でも自在に文章が読めるようになり、思考、感性を高めていって欲しいと思います。

I 現 代 文

1 なぜ現代文を学ぶのか

人はことばによって、ものごとを考えることができ、感情表現ができます。ことばに関心を持ち、的確に運用する力を身につけることは、社会生活を営む上で必須の条件です。「現代文」では、社会科学、哲学、科学など様々な事象について認識を深め、思考する態度を養います。また文学作品によって、言語感覚や豊かな人間性を涵養して欲しいと思います。

具体的には、評論、小説教材を中心として、読みを深めていきます。現代の諸問題について認識、考察し、「私とは何か」「生の意味」等、一度は考えておかなければならない問題について考えていきます。また思考を深めるための「書く」「話す」「聞く」活動も行っていきます。感想文、意見文の執筆や発表、討論等様々な活動を通して主体的に考える態度を養ってください。

2 どのように学習するのか

(1) 予習は まず、教材を一読しておきましょう。その段階でわからない語、語句の意味調べをします。問、学習の手引きについて解答をしてみると教材のポイントが見

えてくるでしょう。さらに、読んで疑問に感じたところに線を引く、ノートに書き写すなどしておいてください。

(2) 授業中は 評論、小説等ジャンルによっても授業の形態は異なりますが、授業中の先生の発問、解説、教室での意見交換等により理解を深めてください。疑問があれば質問をしましょう。質問がさらに理解を深めてくれることでしょう。要は授業時に、“考える”ことです。くれぐれも「板書をただ写すだけ」という授業にはしないようにしましょう。

(3) 復習は その日の学習内容をノートに整理して書いてみましょう。他人が後で読んでも分かるようなノートを作ってみることで、それによって総括する力や論理的に表現する力が徐々についてくるはずですが、ノートはきれいにとるに越したことはありませんが、芸術作品ではありません。自分が理解するための手段として効果的な使用方法を考えてください。まとめとして、評論教材の要約文を200字程度で書いてみると力がつきます。

(4) さらに 教材に対する理解が深まったら、「発展的な読書」を是非してほしいと思います。例えば、「羅生門」を学習したら、芥

川龍之介の他の作品を読んでみることで。古典で学ぶ「絵仏師良秀」を題材にした「地獄変」という短編があります。評論を学んだら、その著者が書いている新書を読んでみましょう。理解がいつそう深まります。詩、短歌、俳句などは、国語便覧でより多くの作品を学んだり、できれば暗唱したりしましょう。

Ⅱ 古文

1 なぜ古文を学ぶのか

古文を学ぶ意義は「不易流行」ということばに集約されるでしょう。過去において当時の人が抱いていた感性や物の考え方（流行）がある反面、いつの時代にも変わらない人の世の情（不易）も存在します。兼好が「見ぬ世の人を友とする」喜びを『徒然草』に記していますが、古文を学ぶ意義は、ことばを介して我々の祖先である人々と対話をする喜びにあるでしょう。

2 どのように学習するのか

(1) 予習は まず、音読をすることから始めましょう。昔の言葉を「文字から音へ」の作業こそ、いちばんの古文接近の学習です。次に原文をノートに写し、わからない語、語句の意味を調べ、訳をしましょう。是非心得ておいてほしいことがあります。それは“必ず自分の力で

訳す”ということです。授業で指名されるからということで、教科書ガイドのようなものを丸写ししても、決して力はずきません。大事なことは自分で予習をし、“わかるところとわからないところをはっきりさせておくこと”です。

【参考】ノートのとり方の一例（左下）

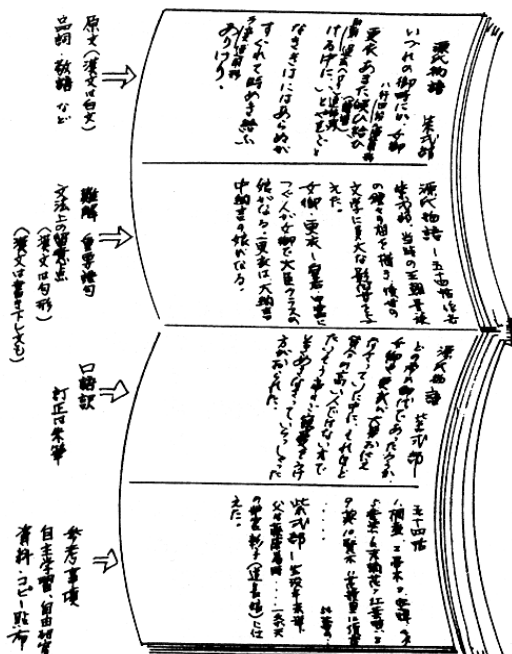
各自、学習しやすいように工夫しましょう。
 ※ノートを2ページ見開きにしてそれぞれ2段ずつに分ける。1 ページ上段に原文（文語文）を一行あけて写す（この作業は古文学習で重要）。下段は、難解・重要語句を辞書で調べる。2 ページ上段に、自分の口語訳、下段は、自主学习、自由研究を記入する。

(2) 授業中は 学習した文法事項を原文横に朱筆し、学んだ口語訳は、自分の口語訳と比較し訂正、板書事項は自主学习欄（2 ページめの下段）に記入してみましょう。授業を受けることが「復習」になるようなノートづくりができていれば完璧です。

※授業後も不明な点は、積極的に先生に質問することが大切。

(3) 復習は ノートでの確認と反復を忘れず、実力を養うための重要事項は、その都度、暗記。最後に、もう一度、原文の朗読（仕上げ読み）を忘れないようにしましょう。

(4) さらに 学習した古文と関連する作品を図書館などで探して読んでみましょう。さらりと大意をつかむ程度の読み方でも、あとで意外に役立つものです。『源氏物語』等のあらすじをつかむために、便覧や漫画を利用してもよいでしょう。学習した作品の一部を原文で読んでみることに挑戦してみることも大切です。



Ⅲ 漢文

1 なぜ漢文を学ぶのか

日本にはもともと固有の文字はありませんでした。中国から移入された漢字を利用して仮名が発明されたのです。やがて日本人は中国語を日本語に書き下す技術を発明しました。こうした過程で日本人は中国語を読み、文化を吸収しました。日本文化の根底には漢字・漢文の受容があるのです。

2 どのように学習するのか

(1) 予習は 古文と同じように見開きにしたノートを4段に分けて使います。1 段目には白文を書き、返り点や送り仮名をつける練習をし

てみましょう。次に音読。分からない語句は漢和辞典で引いて2段目に書いておきます。難しい箇所を書き下し文を書いておくとよいでしょう。3段目には自分でやった口語訳を書いてみましょう。4段目には作品や作者、歴史等の参考事項を整理しておきます。授業中の板書などもここに書くと良いでしょう。

(2) 授業中は 古文と同様ノートを使って必要事項を添削・記入していきます。

(3) 復習は ノートでの確認と反復。重要漢字、基本句形などは徹底的に暗記することが大切です。

(4) さらに 折にふれ、好きな作者の詩や文章などを読んでみると良いでしょう。『十八史略』などは1年生に最適です。また、現代小説に書き換えたものなどを読むと作品の梗概がつかみやすいです。

IV 3年の選択について

3年になると、選択科目として各教科の領域から、必要単位を履修することになります。国語科では、「古典B」、「理系古典」などの選択科目を置いています。詳細については2年2学期の説明会で述べることにしますが、留意しておくべきことは、それらの選択科目を受講できる学力を、1・2年のうちに確実に身に付けておくということです。その時になって、“選択できる科目がない”では困ります。個々の興味関心・必要性等に応じて、積極的に科目選択を考えたいものです。どの科目を選択するか（あるいはしないか）という判断はとても重要です。進路等もよく考えて決めてください。

◎ 推薦図書（入門編 30冊）

以下の図書を推薦します。

（入学後、別に読書リストを配布します。）

- ・『高校生活 100 のアドバイス』東海林明 岩波ジュニア新書
- ・『福翁自伝』 福沢諭吉 岩波文庫
- ・『三四郎』 夏目漱石 新潮文庫
- ・『山椒大夫・高瀬舟』 森鷗外 新潮文庫
- ・『羅生門・鼻・芋粥・偷盗』 芥川龍之介 岩波文庫
- ・『友情』 武者小路実篤 新潮文庫
- ・『清兵衛と瓢箪・網走まで』 志賀直哉 新潮文庫
- ・『黒い雨』 井伏鱒二 新潮文庫
- ・『津軽』 太宰治 新潮文庫
- ・『おとうと』 幸田文 新潮文庫
- ・『夏の花』 原民喜 岩波文庫
- ・『晩年の子供』 山田詠美 講談社文庫
- ・『螢・納屋を焼く』 村上春樹 新潮文庫
- ・『ハムレット』 シェイクスピア 新潮文庫
- ・『車輪の下』 ヘッセ 新潮文庫
- ・『異邦人』 カミュ 新潮文庫
- ・『貧しき人びと』 ドストエフスキー 新潮文庫
- ・『ライ麦畑でつかまえて』 サリンジャー 白水社
- ・『現代語訳 史記』 司馬遷 ちくま新書
- ・『詩のころを讀む』 茨木のり子 岩波ジュニア新書
- ・『日本文学の古典 50 選』 久保田淳 岩波ジュニア新書
- ・『故事成語でたどる楽しい中国史』 井波律子 岩波ジュニア新書
- ・『ことばと文化』 鈴木孝夫 岩波新書
- ・『豊かさとは何か』 暉峻淑子 岩波新書
- ・『日本語練習帳』 大野晋 岩波新書
- ・『思考の整理学』 外山滋比古 ちくま文庫
- ・『寝ながら学べる構造主義』 内田樹 文春新書
- ・『わかりやすいはわかりにくい?』 鷲田清一 ちくま新書
- ・『科学の目 科学のころ』 長谷川真理子 岩波新書
- ・『生物と無生物のあいだ』 福岡伸一 講談社現代新書

5. 社会科（地理歴史・公民）

はじめに（「社会科」について）

高校で「地理歴史科（地歴科）」「公民科」と呼ばれている教科は、中学では「社会科」として学んできた内容を扱うものです。戸山高校では、形式的には2つの教科としていますが、実質的には中学校と同じく、社会科という一つのまとまりで考えています。（以下、教科も科目も特に区別せず用います）

その社会科について、君達は「暗記科目」だと思いませんか。私達社会科教師は新入生のほとんどが、社会科＝暗記科目という先入観をもっていることに、毎年困惑します。少なくとも高校の社会は、単純な暗記科目ではありません。では、どういう科目か。それを知るには、まず社会科がどのような学問を背景にして成り立っているのかを知らねばなりません。

およそあらゆる学問の基礎をなすものは哲学です。哲学とは簡単に言えば、物事をいかに考えてゆくか、ということを考える学問です。哲学（すなわちものの考え方）が「進歩」すると、あらゆる学問も「進歩」します。

近代の世の中に入って、合理的なものの考え方が生まれると、社会や国家、あるいは経済や人間の営んできた生活の歴史や生活環境の変化などについて、様々なデータを集め、その関連を論理立てて推論したり、抽象化して法則を見出そうとしたりする学問が発達してきました。それらが、法律学・政治学・経済学などの社会科学であり、宗教学・倫理学・歴史学などの人文科学です。これらは、人間が人間として生きる以上、自分の生まれてきたその社会がどのようなものなのであるか、自分の属している家族や民族・社会や国家といった自分をとりまく周囲の状況をあらゆる角度から捉える視野を備えたいという願望から生まれたものです。

社会科という科目は、この人文科学や社会科学の学問的成果の上に成立するものです。すなわち、社会科は人間を対象にして人間とは何かを、その歴史、その社会構成の仕組みの上から考察してゆく教科なのです。従って社会科という科目は、何よりも考えること、判断力・洞察力・批判力、暗記でなく理解することが要求さ

れる教科であり、それらの力を養うことにその目標があるのです。〔なお地歴科は主に人文科学（といっても地理はその枠には納まらない）、公民科は主に社会科学（ただし倫理は人文科学）を基礎としている〕

ところで、社会科という科目は、日本が第二次大戦の敗戦を迎えた1945年以降、日本全体が民主化へ向けて大きく変動する中でつくられたものです。新しい社会をどのような社会としてつくってゆくのか、その社会の中でいかに生きてゆくのか、それを考え、そしてまた新しい民主社会のルールや規範を学び、身につけること、それらが社会科の目標となりました。改正教育基本法は、教育の目的を「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」としていますが、社会科はこの目的に直接的に結びついた教科であると言えます。そしてまた、この教育基本法の教育の目的は、戸山高校の教育理念とも、しっかりと重なり合うものです。ですから本校では、あえて二つの教科とされているものを、社会科として学習してゆこうと考えているわけです。

さて、本校社会科のカリキュラムでは、1年で地理と倫理を2単位ずつ、2年で世界史を3単位、日本史を3単位、3年で政治・経済を2単位、全員が学習します。そのうえで3年の選択科目として、世界史、日本史、地理を4単位、及び世界史、日本史、地理、倫理、政治・経済を2単位ずつ設けています。各科目の内容は以下に説明します。

社会の勉強の仕方については、それぞれの授業でお話しますが、社会科に強くなるコツは（i）好奇心を旺盛に働かせる（自分が興味・関心をもっていること、一步踏み込んで追究してみようとする）、（ii）本や新聞や地図を読む、美術館や博物館に足を運ぶ、テレビや映画など（特に学校で勧められたもの）を観る、（iii）何といっても積極的に授業に参加する、授業中一緒に考えること、（iv）生徒同士お互いに教え合うこと。（どの教科にも共通することだと思いますが）要は「受け身」でないことです。

1. 世界史

戸山高校では、「地理・歴史」という教科のなかで世界史Bを学びます。

皆さんの中学での歴史学習は「日本史」が主であったと思います。世界史分野は、中国や第一次・第二次世界大戦など日本と関わりのある時代のみ限定されています。このため皆さんは高校において初めて本格的な「世界史」を学ぶこととなります。「世界史」は諸学問の基礎といっても良い大切な学問です。今日の世界を知る学問として、政治経済や地理があげられますが「世界史」はさらに過去から今日を眺め、現代がどのように形成されてきたかを知る学問です。

今日の世界の基礎が築き上げられたのは古代・中世を経て形成された近代からといわれます。戸山高校では2年生から世界史を学びます。西洋は近代（ルネサンス・宗教改革・大交易時代）から19世紀までの歴史を学びます。

3年生の選択科目・世界史B（4単位）で古代・中世を、選択科目・世界史A（2単位）で現代史を学びます。2年生にとって「世界史」はおもしろいけれど取っ付きにくい、点の取りにくい科目とされています。しかし世界史の様々な事象を学ぶうちに、世界史の流れや基礎的な事柄が身につく、おもしろいだけでなく重要な学問であることに気づくでしょう。当初は苦手と感じる生徒が例年多く見受けられますが、このことに気づいた彼らにとって「世界史」は得意科目となっていきます。皆さんの期待に答えられるよう視聴覚教材・外国語教材など多種の方法で興味・関心を喚起するような授業を行うよう心掛けていきたいと思えます。最後に「世界史」にとって世界の地理は特に重要です。1年生の地理学習で、世界の国々の位置関係をしっかり学習しておいてください。

2. 地理

かつて、地理は地名や各地の特産物を覚える暗記科目と思われていました。それは現在でも物産地理として一つの分野を形成していますが、近年の地理学習では観点が異なってきています。それは、自分の存在を客観的に認識し、広い視

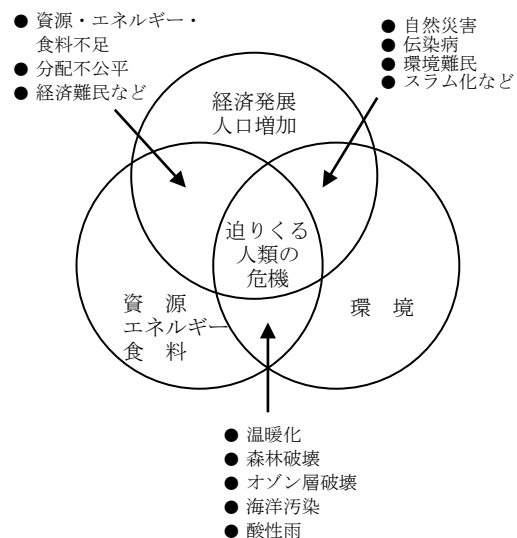
野を持つ世界観を育てることです。

日本人の生活の基盤を知り、日本が世界のなかでどのような存在であるのか、日本人がとるべき態度・役割を認識することは日本人としてだけでなく国際人としても必要なことです。

今日では食料・エネルギー資源・木材・金属資源どれ一つとっても国内で自給できるものではありません。わが国は世界有数の先進工業国となりましたが、各国との協調抜きにはバランスを欠き、種々の摩擦を生じます。

例えば、1993年の大冷害では米を大量に緊急輸入しましたが、それは米の国際価格を4倍に急騰させ、あまりの高値にアジアの多くの人々が米を食べることが出来なくなりました。しかし、わが国では輸入米は口に合わないと思われ、捨てるか粗末に扱われ、金さえ払えば後はどうしようと勝手という態度は、国際的に大きな非難を受けましたが、国民の多くはその実態を認識していないのが実情です。

20世紀は環境破壊の時代、21世紀は環境再生の時代ともいわれています。何億年という年数をかけて生成された石炭・石油などの化石燃料をわずか200年位で使いきろうとし、便利さだけを追求する現在の消費生活は、地球温暖化・オゾン層の破壊・森林破壊・貧富の差の拡大・資源エネルギーや食料の不足など人類の生存そのものを脅かす危険性を持つようになりました。



人口・人権・都市などでも多くの問題を抱えています。地域・民族紛争も絶えることはなく、地球的規模での格差も解消されていません。与えられた時間の中ですが、自分の存在位置を見

つめてみましょう。

3. 日 本 史

【戸山高校での日本史】

日本史は2年で日本史B（3単位）を全員が学習します。2年の日本史Bは、織豊時代から明治時代までを対象とする予定です。3年では、2年から連続する日本史B（4単位）と、主に大正・昭和時代を扱う日本史A（2単位）が選択科目として設置されます。3年の日本史Bは古代から中世を中心に学習し、2年で学習できなかった文化史を補います。日本史Aは、ほかにテーマ史や演習なども行います。

【教養としての日本史】

日本史では、とくに近現代史の理解を問われる場面が少なくありません。そこで戸山高校では、受験や文系・理系の進路と関係なく、近代史を学ぶことの意味を重視して、2年で明治の時代が学習できるような構成としました。

【高校の日本史】

社会科、とくに歴史は暗記科目だという受けとめ方をする人が多いようです。しかし、歴史を理解するには事実についての正確な知識が必要だということと、事実を年代順に並べれば歴史が理解できると考えることはまったくちがいます。歴史学習の核心は、ある出来事について「なぜ」と問いかけることにあります。例えば、鎌倉幕府の創立はなぜ1192年だといわれるのでしょうか。「源頼朝が征夷大将軍になった年だから。」では、将軍になることが「なぜ」幕府を創立したことになるのでしょうか？こんなふうに考えたことがありますか。さらに、鎌倉時代には鎌倉幕府という言葉はつかわれていなかったなどといえば、あなたの頭はもっと混乱するでしょう。きまりきった事実と信じていたことが疑わしくなりませんか。高校の日本史は、自明の事実だと思い込んでいる多くのことが「なぜ」という疑問にさらされるのだという、スリリングな学習体験の場なのです。

他のすべての科目と同じように、こうした体験を面白いと感じるためには、疑問をいただくことに知的な興奮を感じられる力が必要です。暗記しただけの事実はいずれ忘れ去られるものです。「なぜ」と考える姿勢こそが、あなたを成

長させるのです。

4. 倫 理

学校はもちろん、大規模な書店や公共図書館を探しても、人間の生き方やあり方について、高校倫理教科書ほどに多様な内容を包括的に取り扱う書物はない。「倫理」の内容は、人文系の広範な領域にまたがり、古今の思想と文化について基礎的教養を身につけ、現代社会の倫理的課題を理解する、という壮大な目標をもつ。

学習分野は、①青年としての自己理解（青年期の意義と心理的な発達課題）、②人間としての基本的教養（人類思想の源流となった宗教や哲学思想）、③日本文化の思想傾向、④西洋近代思想の展開（科学技術文明を生んだ自然観や人間観）、⑤民主社会の一員としての市民的自覚（民主社会の原理）、⑥現代文明への倫理的な視点、⑦現代社会の特質と課題、などからなる。その全体を通して他者理解と異文化理解の手がかりを得ようとする。しかし授業のすすめ方は担当者によって異ならざるをえず、年間授業計画では標準的な骨子を示すのみである。それでも学習の要点や学び方に違いはない。

（1）自分を問うことー正解のない問いー

学習は「青年期の課題」を手始めに「自分を問うこと」に始まり、その問いに帰着する。この問いには答えがない。しかし、問うことによって自分の在り方を自覚的に対象化し、直面する人生課題に広い視野と柔軟な姿勢で取り組むことが可能になる。答えを追求する過程での、この副産物が、学習の主要な成果である。

（2）分かる一分からないことに気づくー

倫理が分かるということは、正解にたどりつくことではなく、何が問題で何が問われているのか、その問いを自分の問題として発見することである。倫理の言葉が、直接的に心に響いてくるのを感じ取ることができるようになると、答えがないままに、答えがないからこそ、「分かった」と言える。

（3）授業の受け方ー学ぶことを学ぶー

何よりも集中して「聴く」こと。内容をノートに取り、ノート整理を通して理解を確かめる、その復習が基本である。地歴科の学習と同様に、必要な語句人名を覚え、知識と理解を確かめて考査にのぞめば、成果は点数になる。点数では表せない成果も少なくない。学習がすすめば、

人類文化の深い奥行きに驚き、時間と空間の隔たりを超えて無数の人々の心が自分の心と響き合ってくる。自分が「ひとり」ではなく、すべてが連綿と結びあう「有機交流電燈の一つの青い照明」（宮澤賢治）であることに気づく。

（４）自宅学習－知的好奇心－

学習に必要なものは、参考書や問題集ではなく、知的好奇心である。学ぶことそれ自体の楽しみを味わうことである。文学や歴史をはじめ、分野を問わずに多くの書物に接し、自分の考えるところを文章に書くことを奨める。興味を感じた授業の内容について、友人や家族に話してみると理解が深まる。

（５）大学の学部学科との関係

「倫理」は、高校生活の意義や目的をとらえ直し、視野や関心をひろげて、主体的に進路選択に取り組む態度を育てる。文理を問わず分野や職種を越えて広く修得されるべき“教養”科目である。学部・学科では、哲学をはじめ、倫理学・宗教学・心理学・教育学・社会学・史学・文学等、人文系諸学科につながる。

（６）大学入試の受験科目として

大学入学共通テスト「倫理・政経」（４単位）によって、受験科目としての「倫理」の重要度は高まったと言える。

大学受験の出題範囲の全体を１年で学習し終えるのは実際には難しい面もあり、いきおい授業進度は速くなる。だからこそ集中して学習したい。

１年「倫理」を主体的に学ぶことが３年次の受験科目選択の幅を広げることにつながる。

〔地理歴史・公民科おすすめ図書〕

【歴史・地理に興味のある人へ】

「歴史の舞台－文明のさまざま」

司馬遼太郎（中公文庫）

「自分の中に歴史を読む」

阿部謹也（筑摩プリマーブックス）

「ローマ史ものがたり」

藤井 昇（わらび書房）

「砂糖の世界史」

川北 稔（岩波ジュニア新書）

「孫に語り伝える‘満州’」

坂本龍彦（岩波ジュニア新書）

「海から見た戦国日本」村井章介（筑摩新書）

「地図で歩く東京 I（区部東）、II（区部西）、

III（多摩・島嶼）」

全国地理教育研究会（古今書院）

「古代への情熱」シュリーマン（各種文庫）

「ジュリアス・シーザー」

シェークスピア（各種文庫）

「物語 史記」陳 舜臣（朝日文庫）

「物語 イタリアの歴史」（中公新書）

「歴史をみる眼」堀米庸三（NHKブックス）

「日本人はどこからきたか」

樋口隆康（講談社 現代新書）

「東と西の語る日本の歴史」

網野善彦（講談社 学術文庫）

「明治維新の舞台裏」石井 孝（岩波新書）

「ピラミッドは語る－王の墓・黄金・盗掘」

吉村作治（岩波ジュニア新書）

「フランス革命－歴史における劇業」

遅塚忠躬（岩波ジュニア新書）

「キング牧師」

辻内鏡人・中條 献（岩波ジュニア新書）

【現代社会・倫理・政経に興味のある人へ】

「中高生のための憲法教室」

伊藤 真（岩波ジュニア新書）

「憲法対論－転換期を生きぬく力－」

奥平康弘・宮台真司（平凡社新書）

「メディア・コントロール」

ノーム・チョムスキー（集英社新書）

「街角のメディア論」

内田樹（光文社新書）

「自分を知るための哲学入門」

竹田青嗣（ちくま学芸文庫）

「14歳からの哲学」

池田 晶子（トランスビュー社）

「ソクラテスの弁明・クリトン」（岩波文庫）

「方法序説」デカルト（岩波文庫）

「ソフィーの世界」

ヨースタイン・ゴルデル（NHK出版）

「9・11 ジェネレーション－米国留学中の

女子高生が学んだ「戦争」－」

岡崎 玲子（集英社新書）

「里山資本主義」藻谷浩介（角川 one テーマ 21）

「反貧困－「すべり台社会」からの脱出－」

湯浅誠（岩波新書）

「9.11 後の現代史」酒井啓子（講談社現代新書）

「哲学用語図鑑」田中正人（プレジデント社）

「一日一生」酒井雄哉（朝日新書）

6. 数 学

人間は、未知のものを知り、新たな体験をしたいという欲求を持っています。一方、これからの社会では、これまでの経験や予想の範囲をはるかに超えた事態に直面したり、それらを自らの力で解決していかねばならない場面が今まで以上に多くあります。このようにとき、未知のものに取り組もうとする姿勢と同時に、物事を筋道を立てて論理的に考えるという姿勢も大切になります。数学の学習は、まさにそのような能力や態度の育成を目指しています。

世の中には一見不可解に見えることでも、筋道を立てて論理的に考えれば簡単に解決できることがたくさんあります。数学はこのようなことをする学問です。自然科学の分野に限らず、社会の様々なこともそのなりたちや仕組みを調べ、論理的に分析することにより、物事の本質を簡単に表すことができるようになるのです。数学は理科系の学問と思われがちですが、実は文科系の人にも必要な最も基本的な学問です。

はじめに

数学には数千年の歴史がありますが、最近の進歩はめざましく、それは理論の奥深さ・応用の広さのいずれにも言えることです。もともと数学は、信頼できる推論、本質を見抜く直観、理論や方法を構想する創造性などの人間の知性が最も自由に発揮される活力に満ちた学問です。

また、現代科学の基礎にも数学が用いられています。たとえば、コンピューターをさらに発展させるにしても、経済学や心理学の研究をするにしても数学の力を借りなければなりません。さらに情報化社会に向けて変容していく現代の社会では、どの時代よりも、また、どの分野で活躍する人にとっても、数理的な知性が切実に求められます。ここでは、問題を解く力だけでなく、数学によって養われる論理的な思考力、本質を把握する判断力、明快な表現力にも期待が寄せられます。

数学の勉強は安易ではありませんが、特別な才能がなければできないというものではありません。特に高等学校の数学は、筋道を追って考え、問題に取り組んで経験を積んでいけば、理解が進むだけでなくおもしろみを感じるようになるはずです。これは数学が人間の素直な思索の産物であるからです。

戸山高校では一週間に数学の授業が一年次は6時間、二年次は5時間あり、時間数が多いだけでなく中学校時より内容も高度になります。高等学校に入学してから、数学の授業の進度が

とても速く感じる、また、中学校までは数学が得意だったのに…という生徒がいます。しかし、戸山での数学の授業の進度は他校と比較して特別速いものでも難しいものでもありません。

この春、高等学校に入学してきた皆さんが、卒業時に夢をかなえるため三年間数学をどのように学べばよいか、考えてみましょう。

カリキュラムについて

一年次

「数学Ⅰ」：3単位（必修）

数と式、2次関数

図形と計量、データの分析

式と証明、複素数と方程式（発展学習）

「数学A」：3単位（必修）

場合の数と確率、図形の性質

整数の性質

図形と方程式（発展学習）

二年次

「数学Ⅱ」：3単位（必修）

複素数と方程式、図形と方程式

三角関数、指数関数と対数関数

微分法・積分法

数列の極限、関数の極限（発展学習）

「数学B」：2単位（必修）

ベクトル、数列

いろいろな関数（発展学習）

三年次

「数学Ⅲ 5」：5単位（選択）

極限、微分法、積分法

「数学Ⅲ 2」：2単位（選択）

式と曲線、複素数平面

数学ⅠAⅡBⅢの総合入試演習

大学入学共通テスト演習

「数学Ⅱ α 4」：4単位（選択）

大学入学共通テスト対応の演習

「数学Ⅱ β 4」：4単位（選択）

記述式対応の演習

「数学Ⅱ α 2」：2単位（選択）

大学入学共通テスト対応の演習

「数学Ⅱ β 2」：2単位（選択）

記述式対応の演習

詳細についてはシラバス（年間授業計画）のページを見てください。

授業展開・選択について

一年次は、「数学Ⅰ」と「数学A」を全員が自分のホームルーム教室で授業を受けます。

二年次は、「数学B」は全員が自分のホームルーム教室で授業を受け、「数学Ⅱ」は、標準コースと発展コースに分かれて授業を受ける予定です。コースを選ぶのは一学年の三学期なので、1年生のうちどちらにするか決めることになります。それまでに大学受験科目等、進路に関するをよく調べておきましょう。

三年次は「数学Ⅲ5」と「数学Ⅲ2」の講義の他に、数学ⅠⅡAⅢの大学入学共通テスト対応（ α ）、記述式対応（ β ）の演習の選択授業もあります。

教材について

たくさんの教科書や参考書を買って、驚いた人がいるかもしれません。一学期だけでかなり進みます。一步一步着実に進めましょう。

教科書は数研出版のもので、今回皆さんが購入した数学Ⅰ、Aの2冊のほかに、数学Ⅱ、Ⅲ、Bがあり、この5冊を3年間かけて学習します。

参考書と問題集は数研出版の「チャート式」と「サクシード」というシリーズです。これらは授業の予習・復習だけでなく、大学受験までを視野に入れたものです。

ノートは、教科書用（授業用）と演習用（宿題用）2冊ずつ、合計4冊用意してください。

授業の受け方

「どこがわからないか」が、わからない状態で授業を受けることは効率的ではありません。予習の段階でどこまで理解できて、どこからわからなくなったかを自分でよく把握しましょう。

授業を聞いて内容を理解したつもりになっても、自分で問題が解けないということもよくあります。これは、理解したつもりでも本当に理解したわけではないからです。

理解したかどうか確かめるため、数学では問題演習が欠かせません。授業時間中には、問題演習の時間が十分には取れないこともあるので、問題集や参考書を用いて、問題演習をすることが大切になります。具体的には下記の通りです。

学習の流れ

(1) 新学期に向けて

教科書全体を一通り読み、その学習をするために必要な予備知識を確認する。

(2) 授業前日の予習

教科書を3～4ページ読み、問を解いてみる。

(3) 授業を受ける。

予習でわからなかったことを解決する。

(4) 授業のあった日の復習

問題集の相当する問題を解く。

(5) 試験前

問題集の問題をすべて解く。なるべく2回は解く。

(6) 試験後

返却された答案をもう一度解く。

(7) 長期休業中

学期中の復習。青チャートの基本問題、重要問題等。

(7)の後は(1)に戻る。このサイクルを自然にできるようにしましょう。

(1)(2)の予習について

待ちの姿勢ではなく、自分から取り組もうとすることがまず大切です。教科書の本文や問題文をよく読み、意味を正確に把握できるようにして下さい。大学入試問題には問題文や記号の意味が難しいものが多いので、予習で問題の意味を把握する練習をしておくことが大切です。

(4)～(7)の復習について

数学の場合、問題を解けるようにすることが

何よりも大切です。もし、自分で解くことができない場合は、まずヒントを読んで考える。それが無理なら解答を読んで理解する。この場合、ここで終わりにせず、後日自力で解けるように、もう一度自分で解いてみる。このためには計画性も大切です。自分で考えずに模範解答を丸暗記しても数学の思考力はつきません。

(6) 返却された答案をもう一度解くこと。

テストに出題される問題は典型的な良問ばかりです。皆さんがテスト時間中に一生懸命考えたことは記憶の奥の方に何日間も深く残っています。それをしっかり自分の力にすることが大切です。

(7) 長期休業中の勉強

前の学期に勉強したことをまとめて復習します。広い範囲の復習をすることにより、模試や入試等の広い試験範囲の試験に対応する力をつけましょう。

最後に

ここまで、標準的な勉強方法を書きました。先程の(1)～(7)の流れのペースを、入学後、できるだけ早くつかむようにしてください。

中学校まで塾に通っていた人がいると思いま

す。意欲をもって教わる姿勢は大切ですが、高校での学習は自らが能動的に学ぶ自学自習の習慣の確立が最も大切です。従って、やみくもに塾へ通っても学校と塾との両立ができず、消化不良を起こすことがありますので、まずは学校第一の学習習慣、生活習慣を確立してください。

効率よく勉強したいと考える人がいるかもしれませんが、ときには苦勞して勉強すること、さらに、自分自身の勉強方法を身につけることが非常に重要です。そして、数学の学力をつけるだけでなく、最終的には勉強をする力をつけてもらいたいものです。勉強する力がつけば、大学生、社会人になってぐんと力が伸びることでしょう。

高校生の学習時間は一般的に「学年+2」といわれています。1年生は3時間です。通学時間や部活時間等により差ができてしまうかもしれませんが、週に21時間は必ず確保してください。

電車の中や朝早く教室で勉強したり、夕方、図書館や自習室で勉強したりすることも一つの方法です。ただし、健康第一ですので睡眠時間は削らないようにしましょう。

しっかり予習して、4月からの授業に臨みましょう。

7. 理 科

自然科学（教科の名称としては理科とよばれる）は、自然現象を解きあかしたいという欲求と、これを利用して生活を豊かにしようという考えから生まれてきました。

自然現象の中には、物体の動きや、状態の変化といった物理的現象や、物質が変化することによって起こる化学的な現象、地球にしか存在しないとされている生命体のさまざまな生命現象、さらに我々の住む地球、宇宙で起こっている地質学的、あるいは天文学的な現象もあります。このような自然現象の解明には、疑問を抱き、探究的な姿勢で現象を見つめることが必要です。しかし、その現象に関する基礎知識がなければ興味を持って考えることもできません。理解を深め、発展させることもできません。そのためにはまず、自然現象に関する知識を学ぶことが必要です。高校の理科では、その中の基礎的な部分を学びます。それによって自然現象を今まで以上に科学的に見ることができるようになることと思います。

本校では1学年で地学基礎と生物基礎をそれぞれ2単位ずつ、2学年で物理基礎と化学基礎を各3単位ずつ学び、そして3学年では、物理、化学、生物、地学の中から、特に興味を持ったものを選んで学びます。各科目の内容や、勉強方法についてはそれぞれの説明の中で述べられているので必ずよく読んでおいて下さい。



1. 地 学

1、どんなことについて学ぶのか？

私たちは地上で生活していますが、なぜ地球の形や大きさがわかったのでしょうか。地球のさまざまな環境に適応して多様な生物が生息しています。それは当たり前のことだと思いませんか。生物の進化の結果だという知識は持っていると思いますが、いつごろ変化したのか、それはどのような研究からわかったのか、変化したのは生物だけか、などについて考えたことはありますか。地球の表面に山や平野、海があることについて、なぜだろうと思ったことはありませんか。地球の環境は、現在私たちが生活している環境がずっと続いてきたと思いませんか。

1995年1月の兵庫県南部地震、2004年10月の新潟県中越地震、2011年3月の東日本大地震などは、我々に「地球」について考え直すきっかけを与えてくれました。

地学とは「地球科学」のことで、我々が住む地球を対象とする自然科学です。授業では地球の成り立ちや地球を取り巻く宇宙について、自然科学の各分野の知識を総合させた「地球科学的な見方・考え方」で探究して行きます。

よく考えると、地球には謎がたくさんありま

す。地学基礎では、私たちの住む地球の「過去・現在・未来」についてのこのような謎について、様々な自然科学の知識を使って解明して行きます。

2、地学基礎の授業について

私たちの住む地球がどのようなものであるかについて、中学校で学んだ理科の知識を使って調べて行きます。

私たちの住む地球はどのような形をしているのか、内部はどのようにになっているのかについて学習します。その結果わかった地球の特徴を、太陽系の他の惑星と比較してゆきます。地球はいつごろ誕生したか、誕生したばかりの地球はどのような姿をしていたのか、生命が誕生したのはいつごろか、生物はどのような進化を経て現在のようなようになったのかなどについて学習します。地球には、さまざまな動物や植物がいろいろな環境のもとで共存しています。多様性の特徴と、その多様性を作り出した地球環境について、広い視野で見たり考えたりできることを目標にします。

地球の表面は高い山脈があつたり深い海溝があつたりと、非常に起伏に富んでいます。これは地球の内側のマントルという部分の運動によって、地球の表面のプレートと呼ばれる部分が衝突や分裂をすることによって形成されます。そのダイナミックな変動を学習し、そのような

変動が日本列島で進行していることを確認するために、城ヶ島へ地層の観察に行きます。

私たちが地上で生活できるのは、大気圏という大切な層が地球を取り巻いているからです。この大気圏の特徴について学習し、気象変化の原因や日本の四季の天気について理解を深めてゆきます。さらに、現在問題になっているフロンによるオゾン層の破壊や二酸化炭素の増加による温室効果と異常気象など、環境問題についてもその原因を学んでゆきます。

3、授業の受け方

日常生活での体験や観察のなかで、「なぜだろう」「どうしてだろう」という疑問を持つ習慣を身につけることが大切です。地学基礎で学習して行く内容は、そのような疑問を持った事柄の原因について考えてゆくことでさまざまな現象を理解し、説明できるようになることを目標にしています。そのためには、中学校のときに学んだ理科の知識や高校で新しく学んだ理科の知識を整理して、どのような現象を説明するときに使われるのかを考えながら授業に臨むことが大切です。

4、地学の学習

3年に設置された選択科目の地学で、1年の地学基礎で学んだ内容を発展させて学習します。

学習する主な内容は次の通りです。地球の形や内部構造、地球と生命の変遷について。大気圏の構造と特徴、低気圧・高気圧の成因と日々の天気、季節風や偏西風といった地球を取り巻くさまざまなスケールの大気現象。岩石・鉱物という固体地球の構成要素や、プレートテクトニクス理論による地殻変動。地球の自転や公転の証拠と惑星の運動法則、恒星の構造と進化、太陽系・銀河系の構造と進化。

ミクロの現象から宇宙的なスケールの現象まで、宇宙が誕生した137億年前から現在に留まらず未来まで、空間的にも時間的にも様々なスケールの現象を扱います。地学は地球や宇宙の成り立ちについて、自然科学の知識を活用して理解を深めてゆく科目です。

2. 生 物

1、どんなことについて学ぶのか？

生物という科目は、生命についての科学です。したがって、“命”という視点を忘れずに学習すべきです。

現在、地球上に記録されているだけでも 150

万種以上もの生物がいます。生物には、体の形や働きが異なるいろいろな種類があって多様性があります。同時に、どの生物も「生きもの」としての共通の性質も示しています。それは、すべての生物が、約 38 億年前に生まれた同一の原始生命から環境と関わり合いながら次第に進化して多くの種類に分かれていったからです。

私たちヒトを含め、生物には共通した特性や法則があります。これらを学ぶことで、自然環境の中でヒトと他の生物がどのような関わりをもちながら生きるべきかを考えられるようになるのです。

2、生物の授業について

本校では、1 学年で〔生物基礎〕として生物の基礎的な内容を学びます。具体的には「生物の特徴」「遺伝子」「体内環境」「生態系」の分野になります。

「生物の特徴」では、生物は多様でありながら共通性を持っていることを学習します。

「遺伝子」ではミクロの視点で生命現象を学習します。DNA を中心に遺伝情報に基づいてタンパク質が合成され、タンパク質が様々な生命現象にかかわっていることを学習します。

「体内環境」においては個体レベルで生命を学習します。特に多細胞生物の体内環境の調節機能について学習します。

「生態系」ではマクロの視点で生物界を学習します。生物集団の作り上げている自然環境、生物同士のつながり、生態系のバランス等を学習します。

3 学年の選択には、〔生物基礎〕と〔生物〕があります。

〔生物基礎〕では問題演習を多く取り入れ、一度学習してある分野を、より発展的に生命現象をとらえることで学習を深めていきます。

〔生物〕では「細胞と分子」「代謝」「遺伝情報の発現」「生殖と発生」「環境応答」「生体と環境」「進化と系統」を中心とした分野を学習します。〔生物〕はかなり学習範囲が広く、また深く学習します。学習量はかなり多いので、1 学年時に〔生物基礎〕をしっかりと学習しておくことが大切です。

3、授業の受け方

授業は、教科書を中心にして、プリント・資料集などで肉づけをし、ふくらみを持たせ展開します。以下の点に注意して学習しましょう。

(1) 毎日の授業を大切にすることが、学習効果を上げることになります。理解できなかった

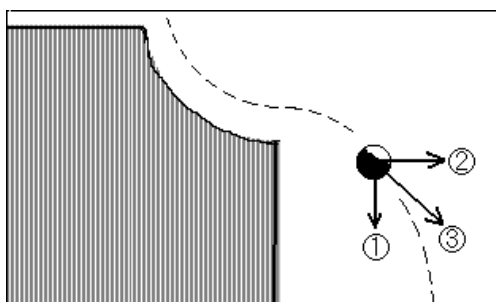
ところや疑問点は、その日のうちに解決するように努力してください。のちに別の単元を学習しているときに気づき、理解できるようになることもあります。知識がリンクしていき、より深い理解につながっていきます。

- (2)ノートには復習するときに書き込みができるように空きスペースをとりましょう。後の書き込みが、深い理解につながっていきます。
- (3)実験や観察は、他人任せにすると理解できず面白さも半減します。また説明を十分に聞かないと、ケガや器具などの破損をおこします。自主的、積極的に実験・実習にのぞみましょう。
- (4)授業内容を覚えようとする前に徹底的に理解するように努力しましょう。様々な学習内容がいろいろなところでつながっています。一つ一つを覚えるよりもいろいろな学習内容と関連付けてゆくことが深い理解につながります。
- (5)生物の学習で最も大切なことは生きものや生命現象に興味を持つことです。小さな事柄や観察も発展させてゆくと、大きな発見や感動をもたらします。自分から積極的に物事を考え、学習する態度でのぞみ、生物に対する興味と関心を持ってください。

3. 物 理

1、物理とはどんな科目か

図のようにとび出した球はどんな力をうけているのでしょうか？



①地球の引力？②前へ進もうとする力？ それから？……………“正解”は来年勉強しましょう。実はこんな“簡単な”問題に正しく答えるのに、人間は2千年もの時間を必要としました。そして、このような考察から、よく知られている「相対性原理」が生まれても来たのです。

物理学は自然界のさまざまな事実から、有効な概念を形成し、それらを統合し法則を見抜いていく、そしてまた、法則の目で新しい事実を

発見していく学問です。自然を統一的にどう認識するか、つまり自然についての哲学です。物理を学ぶことは、現代科学技術を支える基礎科学を学ぶということにとどまらない、文化的な価値をもつことを強調したいと思います。

2、物理をどう勉強するか

2年生の「物理基礎」（必修3単位）では、力と運動・エネルギー・波動・電気をテーマとします。3年生の「物理」（選択4単位）では、それらを基礎として、力学・電磁気を中心に深めて行きます。

物理を学ぶには自分の頭でよく考えることがとりわけ大切です。学んだことをよく吟味して定着させるような学習をのぞみます。

4. 化 学

1、化学と物質、生活とのかかわり

化学は、“物質”についての学問であり、原子や分子の組立（構造）、性質、原子間や分子間で起こる変化（反応）を学ぶ科学です。

物質を組み立てている原子の種類はわずかに百種余りですが、その原子が結びついてできる物質は1000万種以上もあります。

私たちの身の回り、例えば大気中には窒素や酸素、二酸化炭素などの物質が含まれ、呼吸や光合成、燃焼など多くの化学反応に深くかかっています。私たち自身も多くの物質のかたまりであり、成長、運動そして思考さえいろいろな物質の反応です。また、人間はナイロンやプラスチックなど自然界にない物質を作り出すなどして生活を豊かにしてきました。しかし、一方では、資源の消費、環境の汚染などを引き起こしていることにも注意しなくてはなりません。

化学を学ぶにあたって、教科書に記述されているさまざまな知識を単に覚えるだけでは、おもしろくありません。授業では、化学者たちが化学の知識をどのようにして得てきたかという過程を、実験・観察を通じて実際に探究します。さらには、身近な素材や現象にも目を向け、それらに関する実験も行います。そうすれば、物質の性質や構造・変化の知識が広まり、化学の素晴らしさ、面白さがわかるようになってくるはずです。化学がわかってくれば、雑誌や新聞などに出てくる健康や環境、産業にかかわる記事にも自然に目が向き、理解できるようになるでしょう。

8. 英 語

現在英語は国際語として世界中で使われており、情報技術の発達によって日本にいながら英語に触れる機会がますます増えています。英語を学ぶことで、その背後にある異なった考え方や価値観に触れ、自らの視野が広がるのが期待できるとともに、日本の文化についても新しい視点から見直すことができます。日本が諸外国との密接な関係を保つ必要がある今、英語を学習して、幅広い視野で物事を考え、自分の意見をはっきり伝えることができる力を身につけてください。



1. 英語の教育課程

高校の英語では、中学校の英語を土台にして、より高度な理解力や表現力を高めることを目指します。したがって今まで以上の予習・復習が必要となります。高校での英語学習の成否は毎日の学習にかかっているということを、まず肝に銘じておいてください。

学年	必/選	科目名	単位数
1年	必修	コミュニケーション英語Ⅰ	3
		英語表現Ⅰ	2
2年	必修	コミュニケーション英語Ⅱ	3
		英語表現Ⅱ	2
	選択	フランス語	2
		ドイツ語	2
		SSH英語	1
3年	必修	コミュニケーション英語Ⅲ	4
		英語表現Ⅱ	2
	選択	コミュニケーション英語Ⅱプラス	4
		コミュニケーション英語Ⅲプラス	2

2. コミュニケーション英語Ⅰ

英語の授業週5時間のうち、3時間は「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業です。この授業では、「聞く」、「話す」（やり取り・発表）、「読む」、「書く」という語学の四技能の五つの領域を総合的に伸ばすことを目指します。

教科書は一見すると、易しく思われるかもしれませんが、高校の授業では表面的に意味がとれたらそれで終わりというものではありません。速読練習や音読練習などを通じて、汎用性の高い英文をできるだけ多くインプットし、最終的に自分で自在にアウトプットできるように練習を積んでいきます。また教科書以外のやや難しい英文にも取り組み、精読力も高めていきます。さらに洋書などのサイドリーダーを用いた多読も行い、多くの英文に触れる機会も設けます。

先に述べた四技能の基礎となるのが単語力です。新学習指導要領によると、中学3年間で習う単語数は約1,600語～1,800語とされていますが、高校ではさらに1,800語～2,500語以上覚えることとなります。これだけの数の単語は一朝一夕の勉強では身につけません。語彙力を高めるためには、毎日欠かさず反復学習することが一番の近道です。授業では単語集を元にした小テストも実施します。

外国人講師との授業

コミュニケーション英語Ⅰの授業では週に1回程度のペースで、外国人講師が主導で行う授業があります。与えられたさまざまな課題に取り組み、その成果を個人やグループで英語を用いて発表することが主となります。

「話す」ためには、自分から積極的に発話す

る姿勢が大切です。また、何を話すか、その中身も大切な要素となります。この授業では自分で考え、自分で調べ、自分で工夫して「話す」ことを心がけてください。

3. 英語表現 I

週5時間のうち残りの2時間は、「英語表現 I」を行います。この授業は1クラスを2分割した少人数授業で行い、会話や作文で自己表現できる力を伸ばすことを目的とします。英語を理解したり、発信したりする力の土台となる英語の文法を学ぶことで、言語としての英語の基本的構造や規則を理解し、活用することを重点に行います。

英語を正確に読んだり、正確に書くには、豊富な語い力と正しい文法・語法の知識が必要です。

文法はある言語の持つ規則や概念を体系的に説明してくれる、言語を取り扱うときのマニュアルのようなものです。複雑な機械を動かすときと同じで、このマニュアルをうまく活用できるかどうかで、その言語に対する運用能力がぐんと違ってきます。英語を勘と経験を頼りに学習するのは効率的ではありません。よって、早いうちに文法を身につければ、複雑な英文を正確に理解したり、自分で英語の文章を書いたりといった、高学年になってからの学習に自信が持てるようになります。

4. 高校の英語学習について

1. 基本的心構え

言語学習に近道はありません。1年の時から毎日コツコツ根気よく取り組み、毎日の授業に集中し、その日のうちに授業内容のポイントを理解し覚えてしまうようにしましょう。

特に、次の点に注意してください。

- (1) **予習** 高校の授業は予習を前提として行われます。予習の段階で自分なりに内容を理解し、問題点や疑問点を意識して授業に臨むようにしましょう。
- (2) **授業進度** 1時間に進む量は教材により異なりますが、いずれの場合も 相当多く、相当

速いと考えてください。それだけ予習が大変ですが、予習や復習をしっかりとって、授業をきちんと消化して次に進みましょう。

- (3) **復習** 授業で学んだことを定着させるには復習が欠かせません。英語は技能教科ですから、頭で理解するだけでは不十分で、自分で使ってみることで身につけていきます。学習した本文を何度も音読したり、CDを使ってディクテーション（書き取り）をしたり、本文の内容を要約したり、学んだ文法を使って英文を作ってみたりすることで、英語を自分のものにしてください。

- (4) **提出物** 期限までに提出しなければならない課題がたびたび出されます。高校生活に慣れ、クラブや委員会の活動などで忙しくなってくると、提出物まで手が回らなくなりがちです。一度サボり癖がつくと、学力はみるみるうちに落ちていきます。提出物をきちんと出し続けられるかということも、英語力を伸ばすための大切な能力だと思ってください。

- (5) **辞書の活用** 中学の教科書では巻末に新出単語の意味が出ていたと思いますが、高校の教材では必ず自分で辞書を引いて、正しい意味を発見していかななくてはなりません。文脈における単語の品詞やふさわしい意味を考え、辞書の中の例文にも注意して、正しい用法に慣れるようにしましょう。

ただし、未知の単語に出会ったら、片っ端から辞書を引くのではなく、まずは前後関係から意味を類推することも大切です。

なお、電子辞書は、複数の辞書が搭載されている点、音声機能が充実し、リスニング対策にも役立つという点で便利です。一方、単語の全体像を素早く把握できるという点では、紙の辞書の方が優れています。

高校に入学して最初は中級用の辞書を使い、余裕があれば高校後半で上級用に変え、初級の英英辞典も使えれば理想的です。

2. 具体的学習法

(1) コミュニケーション英語 I

英語の学習では、手を使い、口を動かし、耳を働かせて学習することが大切です。まず、教科書各課の本文を通読して、どのような内容について述べられているか大まかに理解してください。次に、辞書を使って新出単語や未知の単語の意味や発音を調べながら、各文の内容を丁寧に理解してみましょう。難しいところやわからないところは、自分なりの見解をできる範囲で用意しましょう。そのようにして予習した内容を授業中に確認し、疑問や誤解を解消してください。また、復習の際には本文を何度も音読しましょう。ひとつのパートにつき最低でも 10 回以上は音読してください。その際、意味も考えず文字を音声化するのでは何回音読をしても無意味です。音読するときは意味を考えながら行うことを心がけ、CD 等の模範音声を忠実に真似てオーバーラッピング、シャドーイング等の練習を繰り返してください。音の連続、区切り、イントネーションといった要素を正確に行わないと、自分の英語が通じないばかりでなく、相手が言っている英語も理解できません。リスニングが弱いという人は、単語の発音以上にこの点ができていないことが多いのです。例えば、**Can I try this on?** (試着してもいいですか) という文は「キャナイ トライ ディソン?」のように聞こえますが、これと同じように言えなければ、この文を聴き取ることはできません。このように音読は「聞く」能力を伸ばす有効な手段であることがわかります。発音できる音は必ず聞き取ることができます。さらに「話す」、「読む」、「書く」

能力も音読は伸ばす効果があります。

(2) 英語表現 I

英語での表現能力を高めるためには、基本的な表現を覚えて自分のものにしていくことが大切です。授業だけでなく、自宅でも音声教材を利用して繰り返し英文を聞いて、読んで、書いて、単語や表現を覚えましょう。

また、基本的なルールを暗記するだけでなく、繰り返し問題演習をしましょう。練習問題を確実にこなし、復習・暗記したものを、作文や会話で活用し、英語の基礎を自分のものにしてください。

3. その他

(1) 多読教材について

年間 10 冊ほどの英語副読本を読みます。副読本は、多読のための教材ですが、何よりも物語を楽しむことが目的です。あまり細かな点にとらわれなくて、内容の大筋をつかみながら、読み進めることが大切です。

出来るだけ多くの英語に接して英語に慣れ、多量の英語に接することで、英語を英語のまま理解できるようになり、英語学習がいつそう楽しいものになっていくでしょう。

原則として家庭において自分の力で読み進めます。そのため、比較的平易なものが選ばれています。もっと難しいものを読みたい人は、英語科にある貸し出し用の他の多読教材や、「原書」を利用してもよいですし、各自で購入して読んでもよいでしょう。

(2) NHK ラジオやテレビの語学番組をはじめ、語学学習者向けのインターネット上の教育サイトや TED、英字新聞(The Japan Times ST 等)などで英語を楽しむこともよいでしょう。

9. 保 健 体 育

保健体育は、心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけることを目標としています。



1. 保 健

本校の保健のねらいは、皆さんが健康や安全に関して理解を深め、日常生活の中でいかせるようにすることです。授業は1・2年、各週1時間で次のような内容を学習していきます。

(1) 1年

- (1) 健康の考え方
- (2) 健康の保持増進と病気の予防
- (3) 精神の健康
- (4) 交通安全
- (5) 災害発生と安全・健康
- (6) 応急手当

(2) 2年

- (1) 生涯の各段階における健康
- (2) 保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用
- (3) さまざまな保健活動や対策
- (4) 環境と健康
- (5) 環境と食品の保健
- (6) 労働と健康

保健の内容は、日常生活と関連が深く、心身共に健康に成長する過程で、正しく理解することが必要不可欠です。内容によっては、自己の思考力、判断力をのばすために保健の教材に関する研究テーマを設定し、レポートの作成や発表などの形式を組み込んでおこなわれます。

2. 体 育

男女共に1・2年生では週3時間、3年生では週2時間の体育実技を、次の表に示した種目を中心に行っていきます。本校の体育施設で実施できる実技種目が上げられていますが、これらのスポーツ活動を実践することは、より快適な生活を送るための第一歩となることでしょう。

学 年		1 年	2 年	3 年
種 目	男 子	体づくり運動 スポーツテスト サッカー バレーボール バスケットボール 持久走 剣道 水泳 体育理論	体づくり運動 スポーツテスト サッカー バレーボール バスケットボール 陸上競技 持久走 剣道 水泳 体育理論	体づくり運動 スポーツテスト サッカー バレーボール バスケットボール 硬式テニス バドミントン 卓球 水泳 体育理論
	女 子	体づくり運動 スポーツテスト バスケットボール バレーボール ダンス 陸上競技 持久走 水泳 縄跳び 体育理論	体づくり運動 スポーツテスト バスケットボール バレーボール 硬式テニス サッカー バドミントン 卓球 持久走 水泳 体育理論	体づくり運動 スポーツテスト バスケットボール バレーボール 硬式テニス バドミントン 卓球 水泳 体育理論

6月の中旬から9月中旬までの期間は、水泳の授業を中心に行います。一学期末、下表の目標に照らして著しく到達していないと判断された場合は、学期末試験終了の翌日から特別水泳講習に参加し指導を受けます。

	泳法と距離
1 年	クロール・背泳ぎ
2 年	平泳ぎ・バタフライ
3 年	個人メドレー (100m)

1・2年生の3学期には、持久力を中心とした体力維持向上のための授業があります。自己の脈拍をとりながら、走る前、走った後の変化などを観察・記録し、走り方について考察していきます。

3年生では1・2年生で実施した球技種目の中から希望の種目を選択します。この授業では、仲間と協力し、学び合う中で運動の意味やスポーツの喜びをより深く理解し、主体的に活動する力を身につけます。

種目ごとにリーダーを中心に、有益な情報や体育理論を活用し、授業計画案を作成することにより、自分の生活や運動習慣の構築に必要な学力を新しく身につける学習活動にしてほしいと思います。

○ 活動計画表等

3年では、活動をより効果的にするために選択した種目の活動計画を事前に作成します。

1・2年生でも実技種目の記録(学習・個人チーム・グループ) ノート等の利用により活動の経過を把握し、進歩の状況を自ら確認しながら行います。

○ 評価 次の観点を考慮して行います。

① 学ぼうとする力(関心、意欲、態度)

健康・安全への意識をもち、欠席・遅刻・早退・見学がなく活動している。

② 学ぶ力(思考、判断、表現、創造)

目標達成のために、学習内容や方法を考え、工夫し自分の力を出し切っている。

③ 学んで得た力(技能)

運動や技能に関して正しい知識をもち学習の場で活用している。

ただし、特に健康上の理由がある場合は別途考慮します。

10. 芸 術

本校の芸術科には、音楽、美術、書道の3科目があります。この中から選択した1科目を1年次に2単位で深めることになります。

1. 音 楽

1、音楽はコミュニケーション

音楽は喜び (joy) である。歌う (sing)、楽器を奏でる (play)、曲を作る (compose)。自己表現する喜び。そして鑑賞をする (appreciate) 楽しみ。力沸き、心癒され、潤すもの。

だが、音楽の持つ力はそれだけでは留まらない。その神髄は、人と人とを繋げる力。誰かが発信し、伝え、誰かが受信する。その機会・場所を誰かが作る。音楽を通じて人と人とが繋がり、世界が繋がっていく。音楽は、究極のコミュニケーションなのだ。

授業では、音楽コミュニケーションに必要な知識や技術を学び、様々な体験をする。感性を磨き、創造力を育む時間。一人でなく、人と共に音楽する喜びを味わってほしい。

2、学習内容

各実技試験は「発表」という形をとって授業内に聞き合い、互いに学び合う。多くの刺激と収穫を得ることだろう。ひとときわ高い天井で反響板が波打つ音楽室、ここでの発表体験は皆を大いに成長させるのだ。

(1) 歌唱

全ての音楽表現の基礎である歌唱(独唱、重唱、合唱)を、授業の主な活動とする。呼吸法と発声の技術を習得し、表現を学んでいく。独唱(発表会)、合唱、重唱(カルテット発表会)を行う。

(2) 器楽・リズムアンサンブル

ボディー・パーカッションなど、グループ練習・アンサンブル発表会を行う。器楽は創作の手段として、キーボードを扱う。

(3) 楽典・鑑賞

充実した表現と、楽曲を深く鑑賞し理解するためには、音楽の知識(=楽譜の理解)

が必要不可欠で、副教材「MUSIC NOTE」を用いて自ら課題演習を行う。

(4) アンサンブル/ソロ・コンテスト

三学期には一年間の集大成として、自由な選曲・形態・グループでの発表をコンテスト形式で企画、運営、演奏、そして審査する。

3、心得

- ・恥を捨てて、本気で取り組む
 - ・瞬間、瞬間が勝負…音楽は時間芸術
 - ・自主練習のススメ…進度は速く復習は必須
 - ・体調管理…発表は一度きりのチャンス
- しっかり体調管理を

2. 美 術

1、美術の喜び

美術の授業を通して、みなさんに学んで欲しいことは、「描く喜び」「つくる喜び」「見る喜び」です。そして、それらを通して「自分を表現する喜び」をつかんでもらえれば最高です。その為には画材を知り、技法を習い、対象を理解し、自分を見つけなければなりません。苦しいことがあるかも知れませんが、喜びもそれだけ大きくなることでしょう。

まずは熱中し、無心に流れる時間に身を浸す喜びから感じ取りませんか？

2、発想とセンスについて

美術の授業中よく聞く言い訳と言えば、自分には「センスがない」「考えつかない」です。技術は磨けても、センスや発想の豊かさは天性のものと思いついていませんか？

もちろん世の中には凡人のおよびもつかない卓抜な発想とセンスの持ち主がいますが、そんなのは大天才、ゆくゆくは大芸術家かプロのデザイナーになる人たちですから置いていて、「ちょっとセンスがいい人」くらいなら努力でなることが出来ます。発想力とセンスは磨けるのです。発想とセンスの源は、発見と観察です。

発見；心のアンテナをピンと立てて色々な情報をキャッチしましょう。自然はそれだけで素晴らしい芸術家ですし、人間の産物も先人の見事な作品です。たとえば、それは「冬のある晴れた日に、意外なほどくっきり見える遠くの山並みの稜線」でもよいし、「友人が着てきた古着のカラフルなTシャツ」でもよいのです。ふと目に止まる、心に引っかかるものを見つけましょう。

「なんて美しいのだろう」「オシャレ!」「凄く面白い」「とっても素敵」「可っ愛いー」等々形容はなんでもかまいませんが、何か感じればこっちのもの。でもそこで止まってははいけません。ここからがお勉強です。

観察；山並みがなぜ美しいか、古Tシャツがなぜオシャレに見えるのかを造形的に(色と形的に)、冷静に観察・分析して下さい。圧倒的な量の空色に負けてない山の青緑色(ちょっと紫も入っているかも)の所為？リズムカルに上昇と下降を繰り返し空とせめぎ合う稜線の所為？自分にもあの線がマネできるか？古Tシャツのメインが黄色の模様の中に、赤とオリーブ色が綺麗。待てよ、ほんの少ししかない青紫が黄色との相性がイイのかも。あっこれって補色だ。ほんの少しだからイイんだな。この配色は使える！等々。

なぜイイかよくわからない！という場合があるかも知れませんが、それでも見過ごさずジューツと観察すれば心に残ります。心に残ってさえいけば、何かの組み合わせで、ある日突然合点が行くことがあります。あーこれだ、そうだったのかと。

自分がイイと思ったものに「何故か」を探す。そんな「イイモノ」と「何故か」を自分の中にいっぱい溜め込むと、心のネタ帖がいっぱいになります。もう困りませんよね？

できればさらに美術館に行って本物の名画名作を見ましょう。美術館には先人のアイデアと疑問と飽くなき戦い、そして彼らなりの答が満載です。じっくり観察してみましょう。

3、最後に

何事にも言えますが、美術も「あきらめない」「自分に妥協しない姿勢」があれば万全です。

3. 書道

1、「書道」について

「書道」は、文字を美化する芸術です。その

起源の詳細は不明ですが、現存する最古のものは約 3500 年前の古代中国の殷代のものです。以降今日に至るまで漢字文化圏の中国・日本を中心に盛んに行われ、多くの名品が生まれました。これらの伝統の上に成立する現代の書作品は漢字文化圏以外の国々でも大いに関心を持たれています。漢字の造形は他の文化圏の文字とは全く異なる意識があり、その文字造形は古代中国人の知恵の結晶と云えるものです。日本の「かな」も同様です。これらを学ぶためには先人の優れた筆跡を手本として勉強する必要があります。その内容は豊富ですからガイドが必要となります。ガイド役の案内をたよりに様々なノウハウを学び、自己の書を創り上げることが書の学習です。歴史上の人物、例えば、弘法大師・伝教大師・良寛などもそのようにして後世に残る名品を作り上げたのです。

2、文字の美化のために

『書道』における造形は各文字のもつ点画の形状と一文字の字形と紙面全体のまとまりの三要素の調和により成立します。どのようにすると美しく見えるのか、そのノウハウを学び、書いて、考えてみましょう。実践を繰り返しながら「書之美」を探究しましょう。

3、筆のおもしろさ

『書道』は主に筆と云う道具を用いて表現します。道具を使うにはその特質・使い方を知る必要があります。筆は獣の毛を紡錘形にまとめられています。この構造は 3500 年前と基本的には同一です。なぜ、そうなっているのか考えてみましょう。初めて筆を執った外国人はその機能に驚きます。筆は線の太さを自由に変えたり、真黒な線・濁れた線が自在に出せます。つまり、使い手の意思通りに多様な表現が可能です。

4、学習の内容

一年次のみ、2 時間の授業になります。1 学期は楷書体、2 学期は行書体、3 学期には仮名を学びます。書の学習を通して漢字文化圏の精神性・美意識にふれてみましょう。国際化と云われる今日、固有の伝統文化に接することは意義のあることでしょう。

— 高村光太郎のことば —

書が真に分かれれば、絵画も彫刻も建築も分かる筈であり、文章の構成、生活の機構にもおのずから通じて来ねばならない。書だけ分かって他のものが分からないといふのは分りかたが浅いに外なるまい。

11. 家庭

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指しています。生活の課題の解は一つではありません。そのため高校で学ぶ地理・倫理・日本史・世界史・公民・国語・英語・美術・情報・生物・化学・保健体育などの学びと繋ぐことで、新たな発見があるはずです。



1. 家庭科の教育課程

家庭科の必修科目

- 「家庭基礎」(2単位) } いずれか1科目
 「家庭総合」(4単位) } 選択して履修

戸山高校では「家庭基礎」(2単位 必修)を1年次に履修します。

2. 家庭基礎

「家庭基礎」は、週2時間連続の授業で以下の内容を学習していきます。

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
- B 衣食住の生活の自立と設計
- C 持続可能な消費生活・環境
- D ホームプロジェクト

様々なテーマで自分の過去や未来、そして現在から多面的に生活を見通します。そのため内容によっては、実験・調理実習、地域調査・交流、ジグソー活動、バズセッション、ワールドカフェ方式などのグループ活動や作品制作、ポスター発表などの個人活動と、学習方法・形態も多彩にアクティブ・ラーニングで、進めていきます。

3. 授業の取り組み

(1) 授業の取り組み

授業の内容は授業内でマスターできるよう普通の授業への取り組みを大切にしてください。

実習の多い科目です。忘れ物や欠課をする

ことなく課題の提出を確実に行ってください。また、外部施設への訪問実習では、実習先でのマナー(身だしなみ、言葉遣い、守秘義務等)を必ず守るようにしてください。

(2) 「家庭基礎」の到達目標

①知識・技能

生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。

②思考・判断・表現

家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造している。

③主体的に学習に取り組む態度

自立した生活者に必要な知識・技能を身に付け、地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。

評価方法 観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に取り組む態度
忘れ物・授業の準備	—	—	A
自己評価の実施・取組状況	B	B	A
ホームプロジェクト	A	A	B
授業プリント提出	B	A	B
定期考査	A	B	—
実技テスト・制作物の提出	A	B	B

12. 情 報

情報科の科目には、『情報と社会』『情報の科学』の2科目があります。本校では、『情報の科学』を学習します。この科目は、「私たちが幸せで豊かになる」ための科目であると表現できます。世の中にあふれる膨大なデータから、私たちが本当に必要としているデータを取捨選択することができ、かつ、有効活用できるようにデータを加工し、さらに発信する方法を学びます。そのためには、コンピュータの仕組みを知ることが大切です。また、インターネットを介した社会への参画を目指して、情報モラルや著作権などの知識を身につけてください。

教材などの準備

使用する教材は、教科書・副教材のみです。情報を扱うためにはコンピュータが欠かせませんが、『情報の科学』では**コンピュータがなくとも学習**することができます。情報の扱い方を学ぶことが主であり、コンピュータは情報を扱うための単なる道具でしかないからです。

よって、ご自宅でコンピュータを用意する必要はありません。

予習について

予習はとても大切です。予備知識を得た上で授業を受けると、理解度が格段に深くなります。面倒がらずに指示された予習をやる習慣を身につけましょう。

授業前に予習する内容が指示されます。予習の量はそんなに多くはありません。短時間でできるものばかりです。多くは教科書の指定ページの読み込みです。インターネットや書籍などからの事前調べなどもあります。

授業の受け方

この科目では、『**情報の授業の内容は授業内でマスターする**』ことを心がけてください。

実習中心の科目であります。欠課をすることなく課題の提出を確実に行ってください。また授業内に確認テストなども行います。普段の取

り組みが評価につながります。全力で取り組んでください。

復習・宿題について

復習も大切な学習です。授業で得た知識を整理できます。学習したことを確実に定着させ、授業内の小テストに備えましょう。

授業後に復習する内容が指示されます。復習の量はそんなに多くはありません。短時間でできるものばかりです。多くは副教材の問題演習です。解答も付いています。実習課題の宿題も出されることがあります。

科目の目標

- (1) コンピュータ、インターネットの歴史を学びます。
- (2) 検索方法を身につけます。
- (3) 情報モラル、インターネットに参画するマナーを身につけます。
- (4) 著作権、インターネットに関する違法行為・犯罪行為を学びます。
- (5) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高めます。
- (6) コンピュータの仕組みを学びます。
- (7) プログラミング能力を身につけ、問題解決能力を高めます。
- (8) ビジネスに対応できるコンピュータスキルを身につけます。

13. 総合的な探究の時間・人間と社会

平成15年度入学生から実施されてきた「総合的な学習の時間」が平成31年度から「総合的な探究の時間」にかわりました。国際理解、情報、環境、福祉・健康などの総合的な視点を要する課題の学習や、自己の興味・関心・進路等に応じての知識や技能の深化、また自己の在り方・生き方について考察する学習をより探究的に行うものです。具体的には、進路に関する調べ学習や探究、それを基にして自己の進路を考察するということが主になります。

一方「人間と社会」は、平成28年度入学生から実施されている、都立高校の全生徒が在学中に1単位以上行うものです。本校では、体験活動、アクティブラーニング等を取り入れて、人間としての在り方生き方を深く考察するカリキュラムを実施しており、「総合的な探究の時間」の履修をもって「人間と社会」の学習活動に変えています。

なお、「人間と社会」は1年において、授業時間の中ではなく、まとめ取りの形で実施します。

また、本校はクラブ活動や委員会活動の盛んな学校です。これらの活動に支障を与えないように工夫しながら行っています。



14. 知の探究

「知の探究」は、平成30年度から設けられた科目です。これまでSSHクラスで行われていた探究的な活動を、学年全体で行おうというものです。探究活動の方法を習得し、自己学習力を身に付けることを目的としています。

1つのテーマについて複数の教科からアプローチするリレー授業や講演会、各種セミナーへの参加等をつうじて、関心の幅を広げ自ら学び表現する力を身に付けてほしいと思います。「知の探究Ⅰ」では、課題探究メソッドを学び、城ヶ島巡検の事前・事後学習を行ったり、SDGsに関する調べ学習レポートを作成したりします。「知の探究Ⅱ」では、海洋に関するSDGsのテーマについての研究、議論、発表を行う。「知の探究Ⅰ」と「知の探究Ⅱ」は「総合的な探究の時間」の代替2単位分となります。

15. SSH講座

戸山高校は、平成16年度に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されました。自主的な課題研究を行うことで自己学習力の修得と論理的な思考力の育成を図っております。平成26年度から新規に指定されており、現在第IV期（平成31年度から5か年）の第2年目となります。

1. 自己学習力とは？

どんなに優秀な人でも、高校時代に学ぶことの出来る知識は大した量ではありません。つまり、大学入学後はもちろん、就職してからも学び続ける必要があります。ですから、本校のSSHとしては、自ら学ぶ力（自己学習力）こそ最も重要な「優れた科学技術人材に必要な素養」であると考えています。もちろん、これは理科系に進む人ばかりではなく、すべての戸山生に必要な能力でしょう。戸山高校では、自己学習力を育成するために、希望者を対象とするSSH講座を設定したり、講演会などの行事を計画したりしています。

自己学習力を育成するには、普通の授業が最も重要です。というのは、基礎学力がなくてはどんなにすばらしい講演もそれを理解することが出来ないからです。勉強を続ける体力や集中力なども重要です。

2. 一年生のSSH講座

数学、物理、化学、生物、地学、情報の6コースに分かれて、観察や実習等を通して自然現象に対する興味関心を喚起し、探究的な態度を育成し、課題研究を行うための知識や態度、技術を準備をする講座です。戸山祭での科学教室・展示・発表や中学生対象の天体観望会の運営を行うコースもあります。その度ごとにアンケートやレポートが要求されます。積極的に取り組むことによって、自己学習力に必要な興味関心が高まります。行事ごとにはっきりとした

目標がありますので、先生の指示を待つのではなく、能動的に観察などを行って下さい。特にこの姿勢は、来年のSSⅡの課題研究では必要です。自分自身の興味関心からテーマを決めて、研究法やまとめの方法まで自分で考えてもらいます。このような体験は大変ですが、将来、非常に役に立ちます。普通の授業ではなかなか出来ないことですので、受講する以上、しっかりやって下さい。

3. 二年生以降のSSH講座

引き続き行うスーパーサイエンスⅡ（SSⅡ）は、スーパーサイエンスⅠ（SSⅠ）で身につけた科学リテラシーを応用して課題研究の発表や科学コンテストを目指しながら、後輩にもよい見本となる影響を与えられるよう行動してください。

SSH英語（1単位）も開講されています。1年生でSSⅠを受講していなくても受講できますので、積極的に受講して下さい。

3年生では、スーパーサイエンスⅢ（SSⅢ：1単位）が開講されています。SSⅢは2年生までに行った課題研究をまとめて外部へ発表したり論文応募を目指します。

SSⅠ、SSⅡの各1単位分は「総合的な探究の時間」の代替2単位分となります。

戸山高校での3年間の高校生活を、どのように送るのかをよく考えて、普通の授業や部活動などに余裕があれば、3年間を見通したSSH受講を計画して下さい。

国語科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目：国語総合（現代文・表現分野）（単位数 2/5）

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	随筆の読み方：筆者の感性に注目した読解。 小説の読み方：小説の設定、語り手の視点、人物の心情理解。「羅生門」等の読解。 評論の読み方：文章の構成、論理の展開等に注意した読解。 芸術論等の読解。	漢字、語彙指導も併せて行う。
	期末	韻文の読み方：自由詩の韻律の理解、鑑賞。 構造に目を向けた評論の読解。 文章の書き方の基礎。	継続的な読書指導を含む。
2 学期	中間	評論（言語論）の読解。 小説「棒」等の読解。 効果的な意見交換のための話し合い方。	発展的な読書を目指す。
	期末	韻文の読み方：短歌・俳句の韻律の理解、鑑賞。 評論（メディア論等）の読解。 要約の書き方基礎。	近代文学史等も併せて学習する。
3 学期	学年末	小説（「夢十夜」等）の読解。 評論（身体論、文化論等）の読解。 他者を意識した文章の書き方。小論文の書き方基礎。	批判的な読解の視点も持つ。

科目：国語総合（古典分野）（単位数 3/5）

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	古文：品詞の区別、用言の活用の習得。助動詞（過去・完了・打消）の習得。文章の読解。 漢文：書き下し文、訓読の仕方、再読文字、返読文字の習得。文章の読解。	古文は説話、漢文は故事成語を中心に。
	期末	古文：助動詞（受身、尊敬、推量等）の習得。文章の読解。 中世の思想 漢文：句形（否定形、疑問形、反語形等）の習得。	古文は随筆、漢文は史伝を中心に。
2 学期	中間	古文：助動詞（打消推量、断定等）の習得。文章の読解。 漢文：句形（仮定形、限定形、等）の習得。漢詩の種類、形式の理解と鑑賞。	古文は歌物語、漢文は漢詩を中心に。
	期末	古文：助動詞まとめ、助詞の用法の習得。 和歌の修辞の基礎、文学史等。 漢文：句形（比較形、抑揚形等）の習得。中国の思想。	古文は和歌・日記、漢文は思想を中心に。
3 学期	学年末	古文：敬語法、まぎらわしい語の識別の習得。 漢文：句形のまとめ。文章の読解。	古文は軍記物語・紀行文、漢文は文章を中心に。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	国語総合（現代文・表現）	2/5 単位	必修	対象学年	1 年
教科書	「精選国語総合 現代文編」（筑摩書房） 「新訂総合国語便覧 新版七訂」（第一学習社） 「上級入試漢字」（桐原書店）	教科担当			
副教材	「ちくま評論入門 改訂版」（筑摩書房） 「現代文長文記述問題集2 読解力養成編 三訂版」（いっぴな書店）				

学習の目標

- ・近代以降の文章を読み、読解力、論理的思考力、表現力を養う。
- ・読書を通して思考力や想像力を伸ばし、豊かな人間性の育成に努める。
- ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、豊かな感性や情趣をはぐくむ。
- ・自己学習力を伸ばし、国語の総合力を高める。

学習到達度規準

- ・近代以降の文章（評論文・小説・随筆・韻文等）を読解することができる。
- ・共通テスト（現代文）70%正解となるような読解力を身に着けることができる。
- ・全教科の基礎となる語彙力を養うために、漢字検定2級レベルの語彙を習得できる。

授業内容と学習方法

- 〔授業内容〕
- ・論理的な文章の読解を通じて、近代以降の諸問題や思想の流れを捉え、考察を深める。
 - ・小説において登場人物の心情や情景を読み味わい、主題等について考察する。
 - ・詩歌の言葉や表現を味わうことによって、感性や情趣を豊かにする。
 - ・漢字学習、意見の発表、討論などを通じて、語彙力や表現力、論述力を伸ばす。
- 〔学習方法〕
- 1 予習
 - ・授業で扱う文章を読み、難読語や意味調べ等をする。
 - 2 授業
 - ・文章の構成を意識して筆者の主張を的確に読み取る。
 - ・小説や韻文を表現に即して味読みし、表現に対する評価や書き手の意図を捉える。
 - ・音読等を通して言葉の美しさを味わい、感性を磨いて鑑賞力を高める。
 - ・課題に対する考えを深めるために、協働学習を行う。
 - 3 復習
 - ・文章を読み直し、内容が理解できているかを確認する。
 - ・副教材を用いて読解力等が他の文章に応用できるかを確認する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1（B）	レベル2（A）	レベル3（S）
情報活用力 （選択する力）	様々な資料を収集し、内容を適切に理解できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解した上で、課題に照らし合わせてその有効性を評価できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解・評価した上で、課題を解決するために重要な情報を主体的に取捨選択できる。
探究心 （考える力）	学びに向かう意欲をもち、他者と関わり新たな視点を知ろうとしている。	文章や発表を理解しようとして他者と関わり、自らのもつもの見方にとらわれず新たな視点を理解しようとしている。	文章や発表を理解しようとして積極的に他者と協働し、自らのもつもの見方にとらわれず新たな視点を獲得しようとしている。

授業計画

学期	月	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	現代文入門	12	「境目」(川上弘美) 「羅生門」(芥川龍之介)	○筆者の感性に触れ、文化の背後にあるものについて考える。 ○登場人物の心理と表現技巧に注意して小説を読み味わう。 ○文章の論理展開を追いながら、言語について考える。
	5	小説 評論		「バラは暗闇でも赤いか？」 (野矢茂樹) (中間考査)	
	6	評論	12	「ことばとは何か」(内田樹) 「くわたし>のいる場所」(鷺田清一) 「演じられた風景」(山崎正和)	○文章の論理展開を追いながら、社会や自己について考える。 ○言葉に対する感覚を磨き、豊かな感受性を育てる。
7	表現	「ことばを発する」 (期末考査)		○ことばをユニークに用いた様々な文章に触れる。	
2 学 期	9	評論	14	「言葉と経験」(藤田正勝) 「魔術化する科学技術」(若林幹夫)	○論旨を正確に読み取り、言語や技術社会について考える。 ○登場人物の心情や情景描写を通し、論理的な解釈をする。
	10	小説		「棒」(安部公房) (中間考査)	
	11	詩歌	14	「詩歌」(谷川俊太郎 他)	○詩歌についての知識を深め、その表現について理解する。 ○論旨を正確に把握し、外国や時代について考え、要旨を的確にまとめる。
12	評論	「エクソフォニー」(多和田葉子) 「主体という物語」(小坂井敏晶) (期末考査)		○1枚の写真から考えたことを文章で表現する。	
3 学 期	1	小説	18	「夢十夜」(夏目漱石)	○登場人物の心情や情景描写を通し、論理的な解釈をする。 ○論旨を正確に読み取り、多様化する社会や日本語の歴史について考え、要旨を的確にまとめる。 ○これまで習ったことをさらに調べ、分かりやすくまとめる。
	2	評論		「マルジャーナの知恵」(岩井克人)	
	3	表現		「名づけと所有」(西谷修) (年度末考査) 「調べてまとめる」	

学習者へのメッセージ

現代文の授業は文章を読み「味わう」時間です。機械的に板書を写すなどの受身の姿勢ではなく、筆者の伝えたいことを正確に読み取り（基本的読解力）、自分はどう考えるかなど（思考力、判断力、表現力）を考える授業にしましょう。副教材などを活用して授業外でも多くの文章に触れることも大切です。なお上記教材は、省略したり、順番を入れ替えたりする場合があります。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	国語総合（古典分野）	3/5 単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	「精選国語総合 古典編」（筑摩書房） 「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「九訂版 読解をたいせつにする体系古典文法」（数研出版） 「三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330」（いいずな書店） 「必携 ～句法と語彙を一緒に学ぶ～ 新明説漢文」（尚文出版）	教科担当			

学習の目標

- ・日本の言語文化の特質や中国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への関心を広げる。
- ・文語のきまり、訓読のきまりなどを理解した上で、古文・漢文の文章を読解する。
- ・古語、漢語を通して、国語における言葉の成り立ち、言語の役割などを理解する。

学習到達度規準

- ・古典文法の基礎を身に付け、平易な古文の文章を読解する力を身に付けることができる。
- ・古文の読解に必須となる重要単語について文章を読むことをとおして習得し活用できる。
- ・漢文の訓読のきまり、基本的な句法、語法を理解し、比較的平易な漢文の文章を読解することができる。

授業内容と学習方法

[授業内容]

- ・古典文法の基礎、漢文の訓読のきまり、基本的な句法、語法を段階的に習得する。
- ・様々な時代、ジャンルの古文の文章を読み、日本の思想や美意識について知る。
- ・様々な時代、ジャンルの漢文の文章を読み、中国の文化、日本文化が受けた影響を知る。
- ・和歌、漢詩を読み味わい、優れた言語感覚に触れ、鑑賞を行う。

[学習方法]

- 1 予習
 - ・授業で扱う文章を筆写し、辞書や副教材を活用して現代語訳や単語調べ等をする。
- 2 授業
 - ・文章を読むことをとおして、当時の価値観や文化を味わう。
 - ・適切な表現の仕方を考えて、文法に即した的確な現代語訳を行う
- 3 復習
 - ・文章を読み直し、内容が理解できているかを確認する。
 - ・副教材を用いて演習問題を解き、既習事項が応用できるかを確認する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	様々な資料を収集し、内容を適切に理解できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解した上で、課題に照らし合わせてその有効性を評価できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解・評価した上で、課題を解決するために重要な情報を主体的に取捨選択できる。
探究心 (考える力)	学びに向かう意欲をもち、他者と関わり新たな視点を知ろうとしている。	文章や発表を理解しようとして他者と関わり、自らのもの見方にとらわれず新たな視点を理解しようとしている。	文章や発表を理解しようとして積極的に他者と協働し、自らのもの見方にとらわれず新たな視点を獲得しようとしている。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4	古文入門	18	古文：「児のそら寝」「絵仏師良秀」「大江山」	○歴史的仮名遣いに慣れ、古語と現代語の違いを理解する。 ○品詞について理解し、用言の基礎知識を身に付ける。 ○漢文の構造と訓読の仕方、助字・返読文字・再読文字を理解する。
	5	漢文入門 故事		漢文：漢文入門 「借虎威」他 (中間考査)	
	6	徒然草 竹取物語	18	古文：『徒然草』 『伊勢物語』	○随筆に描かれた鎌倉時代の人々のものの見方・感じ方を理解する。 ○物語に描かれた平安時代の人々のものの見方、感じ方を味わう。 ○用言に習熟し、助動詞について理解する。 ○基本的な句形を理解する。 ○登場人物の心情を理解し、当時の中国でのものの見方・感じ方を知る。
7	十八史略	漢文：「推敲」 「朝三暮四」他 (期末考査)			
2 学期	9	伊勢物語	21	古文：『伊勢物語』	○物語に描かれた平安時代の人々のものの見方、感じ方を味わう。 ○和歌の基本を理解する。 ○助動詞についての理解を深める。 ○漢詩の形式・構成を理解する。 ○基本的な句形を理解する。
	10	唐詩		漢文：唐詩「絶句」他 (中間考査)	
	11	和歌 土佐日記	21	古文：『万葉集』『古今和歌集』 『新古今和歌集』 古文：『土佐日記』『更級日記』	○和歌の表現に即して内容を味わう。 ○和歌の修辞について理解を深める。 ○日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。 ○助詞・まぎらわしい語の識別について理解する。 ○古代中国の思想を理解し、文章の論理展開について考える。
12	思想	漢文：『論語』『十八史略』他 (期末考査)			
3 学期	1	平家物語	27	古文：『平家物語』	○平安末期の武人のものの見方・考え方を理解する。 ○敬語の用法について理解する。 ○俳諧紀行文の中の江戸時代の人々のものの見方・感じ方を理解する。 ○基本的な句形に習熟する。 ○文章の展開に沿って論旨を把握する。
2	奥の細道	古文：『奥の細道』			
3	文	漢文：「完璧」「塞翁馬」他 (学年末考査)			

学習者へのメッセージなど

古文、漢文の授業の振り分け方については、後日担当者から指示があります。
 ノートは、古文・漢文それぞれ別に用意してください。予習として、古文では本文を写し現代語訳をしておくこと。漢文では白文をノートに写し、書き下し文、現代語訳をしておくこと。
 辞書は電子辞書でも構いませんが、『古語辞典』、『漢和辞典』を必ず用意してください。また副教材「体系古典文法」、「新明説漢文」等での文法や句法の学習、長期休業中の課題等にも着実に取り組んでください。長期休業中の課題や小テスト等については担当から、後日伝えます。
 なお、上記計画にあげた教材は、省略したり、順番を入れ替えたりする場合があります。

地理歴史・公民科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:地理B

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	・地理情報の表現方法 球体としての地球、地理情報と地図、 地理情報の地図化 ・地図の活用と地域調査	
	期末	・自然環境 世界の地形、世界の気候、日本の自然環境、 世界の環境問題	
2 学期	中間	・産業と資源 農林水産業、食料問題、 エネルギーと鉱産資源、資源・エネルギー問題	
	期末	・産業と資源 工業の立地と工業地域の変容 第三次産業と交通・通信、消費と観光	
3 学期	学年末	・人口、都市・村落 人口、人口問題、都市・村落、居住・都市問題 ・生活文化、民族・宗教 生活文化、民族・言語・宗教、民族問題、 現代の国家と領土問題	

科目:倫理

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	青年期の課題、ギリシア思想	
	期末	キリスト教、イスラーム教、仏教、中国思想	
2 学期	中間	日本思想、西洋近世・近代思想	
	期末	現代の思想	
3 学期	学年末	現代の諸課題と倫理	

(令和4年度 第2学年)

科目:世界史B

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	古代史・中世史概観・大交易時代・ルネサンス・アジアの繁栄	
	期末	・宗教改革 ・主権国家群の形成・オランダの繁栄と英仏の追いあげ	
2 学 期	中間	・18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家・近世ヨーロッパの社会と文化・激化する経済覇権抗争	
	期末	・工業化と社会問題の発生・合衆国とラテンアメリカ諸国の独立・フランス革命とウィーン体制	
3 学 期	学年末	・自由主義の台頭と新しい革命の波・イギリスの覇権とヨーロッパ諸国・南北アメリカの発展・第2次産業革命と社会生活の変化・植民地獲得競争と動揺する世界秩序・アジア諸地域の変革運動	

科目:日本史B

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	日本通史概観 織豊政権・幕藩体制の成立	
	期末	幕政の安定・経済の発展	
2 学 期	中間	幕政の改革・幕府の衰退	
	期末	開国と幕末の動乱・明治維新と富国強兵	
3 学 期	学年末	自由民権運動・立憲国家の成立と日清戦争・日露戦争と国際関係	

(令和5年度 第3学年)

科目:世界史A

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	清の動揺と変貌する東アジア・帝国主義・第一次世界大戦前史・第一次世界大戦(1)	
	期末	第一次世界大戦(2)・ロシア革命・戦間期・	
2 学 期	中間	アジア, アフリカでの国家形成の動き・恐慌と各国の対応・	
	期末	第二次世界大戦・冷戦の発生と崩壊 戦後の欧米(1) 戦後の欧米(2)・戦後のアジア・戦後のアフリカ	
3 学 期	学年末	特別講習 論述問題演習	

科目:世界史B

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエント世界と東地中海世界(オリエント世界, ギリシア世界, ヘレニズム世界)	
	期末	地中海世界と西アジア(ローマ史, 西アジア史) 南アジア世界(インド古代史)・東アジア世界(中国史) 西アジア世界(イスラーム世界の形成)	
2 学 期	中間	東アジア世界(中国史・北方民族史・モンゴル帝国) ヨーロッパ世界の形成(東ヨーロッパ世界)	
	期末	ヨーロッパ世界の形成(西ヨーロッパ中世世界, 封建社会と都市, カトリック教会と十字軍, 中世ヨーロッパ文化, 中世的世界の動揺)	
3 学 期	学年末	特別講習・ 小論文演習	

科目:日本史A

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	近現代史概観 第一次世界大戦と日本・ワシントン体制・恐慌の時代	
	期末	恐慌の時代・軍部の台頭・第二次世界大戦	
2 学 期	中間	占領と改革・冷戦の開始と講和・55年体制	
	期末	経済復興から高度成長へ・経済大国への道・冷戦終結 と日本社会の動揺・近現代の文化	
3 学 期	学年末	特別授業、個別指導	

科目:日本史B

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	農耕社会の成立・古墳とヤマト政権・飛鳥の朝廷 ・律令国家の成立・平城京の時代・天平文化	
	期末	平安朝廷の形成・摂関政治・国風文化・荘園と武士 ・院政と平氏の台頭	
2 学 期	中間	鎌倉幕府の成立・武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	
	期末	室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭・室町文化 ・戦国大名の登場（・近世の文化）	
3 学 期	学年末	特別授業、個別指導	

科目:地理B

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	自然環境（地形、気候） 資源と産業（農林水産業）	
	期末	資源と産業（エネルギー・鉱産資源、工業） 人口、都市・村落	
2 学 期	中間	世界地誌（東アジア、東南アジア、南アジア、 西アジア・中央アジア）	
	期末	世界地誌（ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、 南アメリカ、オセアニア）	
3 学 期	学年末	特別授業（共通テスト対策）、論述演習	

科目:地理B

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	地理情報の表現（時差、地図表現） 自然環境（地形、気候、防災、環境問題） 資源と産業（農林水産業、食料問題）	
	期末	資源と産業（エネルギー・鉱産資源、資源・エネルギー 問題、工業、第3次産業、交通・通信） 人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教、 国家、民族・領土問題	
2 学 期	中間	世界地誌（世界と日本、東アジア、東南アジア、 南アジア、西アジア・中央アジア）	
	期末	世界地誌（ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、 南アメリカ、オセアニア）	
3 学 期	学年末	特別授業（共通テスト対策）、論述演習	

科目:政治・経済

(必修2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	経済社会の変容、民主政治の基本原理 市場経済、国民所得、物価	
	期末	財政・金融、日本経済史、選挙と政治参加 日本経済の諸課題	
2 学 期	中間	日本経済の諸課題、基本的人権の保障 国際経済の原理、国際収支	
	期末	グローバル社会での日本経済の課題 地球規模の課題と日本の役割	
3 学 期	学年末	特別授業（共通テスト対策、時事問題、資料解釈問題）	

科目:政経プラス

(選択2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	民主主義の思想、世界の主な政治体制 日本国憲法の基本原則、経済時事問題	
	期末	国際政治の動向 国際政治の課題と日本の役割、経済時事問題	
2 学 期	中間	日本の政治機構 基本的人権の保障、平和主義、経済時事問題	
	期末	国際協調、地球規模の課題と日本の役割 時事問題、総合問題	
3 学 期	学年末	特別授業（共通テスト対策、時事問題、資料解釈問題）	

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	地理B	2単位	必修	対象学年	1学年
教科書 副教材	『地理B』東京書籍 『新詳高等地図』帝国書院 『四訂版 最新地理図表GEO』第一学習社	教科担当			

学習の目標

現代世界の地理的事象と現代世界の諸地域を地理的な観点から理解するとともに、現代世界が抱える諸問題について地理的な観点を用いて、主体的に考える力を養う。また、共通テスト・個別学力試験で高得点をとるための基礎力も身につける。

授業内容と学習方法

中学で学習した内容を踏まえ、自然環境や産業、人口などが世界的にどのような規則性の元、どのように分布しているのかを理解していく。その際、地図や統計、写真などの読み取り方や考察の方法も学ぶ。授業は各単元・項目ごとに整理したプリントを使って行う。その際、教科書、地図帳、資料集など、資料を多角的に用いて内容を深められるようにする。必要な知識を定着させるための小テストも行う。日頃からニュースや新聞を見て、学習内容と実社会との関係を意識するようにすること。5回の定期考査の他、小テスト等の点数を加味して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	S	A	B
関心・意欲・態度	社会で生じている事象や課題に関して、地理的な視点でとらえ、主体的に資料を収集して考察しようとしている。	社会で生じている事象や課題に関して、地理的な視点でとらえ、主体的に考察しようとしている。	社会で生じている事象や課題に関して、地理的な視点でとらえようとしている。
情報の収集と再構成 (技能・表現)	目的に合った地図や統計資料等を収集し、正しく読み取って相互に関連させて考察したり、統計データをもとに正確に作図してそこから読み取れることを考察することができる。	地図や統計資料等を正しく読み取って相互に関連させたり、統計データをもとに正確に作図して特徴を読み取ったりすることができる。	個々の地図や統計資料等を正しく読み取ったり、統計データをもとに正確に作図したりすることができる。
主体的な学び	必要な地図や資料を自ら収集し、それらを有効に活用して自分の解釈を加えて事象を説明考察することができる。	地図や資料を有効に活用し、自分の解釈を加えて考察することができる。	地図や資料を活用して事象を考察することができる。
対話的な学び	グループ学習で、資料などを示しながら根拠をもって自分の意見をわかりやすく伝えるときともに、他者の意見を批判的に聞いて、互いの意見を組み合わせることにより論理的な考察を行うことができる。	グループ学習で、根拠をもって自分の意見をわかりやすく伝えるときともに、他者の意見を批判的に聞いて、新たな気づきを得ることができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるときともに、他者の意見を聞くことができる。

学習者へのメッセージなど

地理は空間の視点から現代の社会を扱う科目です。新聞やニュース等をよく見て、地理で学習した内容が現代社会でどのように関わっているのかを考えるようにしましょう。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点	
1 学 期	4	様々な地図と 地理的技能	1	地理を学習するにあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解の方法を学ぶ。 ・位置の表し方を理解する。 ・地図の活用と地図表現を学ぶ。 ・スケールを変えて様々な地形とその成り立ちを理解する。 	
			2	球体としての地球		
	5	自然環境	2	地理情報と地図		
			3	世界の大地形		
			(8)	(中間考査)		
	6	自然環境	4	小地形		<ul style="list-style-type: none"> ・地形と人々の生活との関係を考察する。 ・気候の成り立ちと気候区分を理解する。また、気候と人々の生活との関係を考察する。 ・日本の地形・気候と自然災害について理解する。 ・世界の環境問題とその解決について考察する。
			4	世界の気候		
1			日本の自然環境			
1			世界の環境問題			
(10)	(期末考査)					
2 学 期	8	資源と産業	4	農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の発達と世界の農業地域区分について理解し、自然的・社会的条件と農業との関係を考察する。 ・世界の食料問題とその解決について考察する。 ・世界のエネルギー・鉱産資源の分布やエネルギー需要の変化について理解する。 ・エネルギーや鉱産資源を巡る課題とその解決について考察する。 	
			1	食料問題		
			3	エネルギーと鉱産資源		
			2	資源・エネルギー問題		
	(10)	(中間考査)				
	11	資源と産業	6	工業の立地と工業地域の変容		<ul style="list-style-type: none"> ・工業立地と立地移動について、空間軸・時間軸の視点を取り入れて考察する。 ・第三次産業の発達と交通・通信の発達の関係性について理解する。 ・消費行動や観光行動の変化とその背景について考察する。
2			第三次産業と交通・通信			
12	2	消費と観光	(10)	(期末考査)		
3 学 期	1	人口	5	人口、人口問題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口に着目して地域を理解し、人口問題について考察する。 ・集落の立地条件や都市機能について考察する。また、途上国と先進国の都市問題について考察する。 ・世界の生活文化や民族・宗教の違いを生み出す背景について考察する。また、民族や領域をめぐる問題について理解する。 	
			5	村落・都市 居住・都市問題		
	2	文化・民族	4	生活文化、民族・宗教		
			(14)	(学年末考査)		

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	倫理	2単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	『高校倫理』（実教出版） 『用語集 倫理』（清水書院）	教科担当			

学習の目標

古今東西の諸思想についての基本的教養を身につけ、先哲の思索を手がかりにしつつも自分の頭で主体的に考えることを追求する。

今年度から実施される新テスト（大学入学共通テスト）に対応できる理解力、思考力、判断力、表現力を身につけるために必要な基礎学力を養う。

授業内容と学習方法

講義形式とグループ学習を併用し、青年期の自己形成、思想の源流（ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想）、日本の思想、ルネサンス以降の西洋近代思想の展開、現代思想、現代社会が直面する諸課題などについて学ぶ。

学習方法としては、毎時間の授業に集中してのぞむことのほかに特別な学習方法はない。

授業では自ら理解しようとする姿勢が最も大切。話を聞くこととメモをとることが同時進行になるが、乱雑でも詳しくメモを取るのがよい。その記録を定期的に整理し、理解度を確認したい。必ず授業前に教科書の進度部分を読み、授業後に資料集で発展的事項の知識を拡充すると、学習意欲がさらに高まる。

年5回の定期考査の得点をもとに評価する。平常点等（授業への取り組み、提出物、実力テスト、小テスト）を評価に加味し、総合的に評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	S	A	B
関心・意欲・態度	社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について深く考えようとしている。	社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について考えようとしている。	社会と人間にかかわることに関心を持っている。
情報の収集と再構成（技能・表現）	倫理の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、課題解決策を他者にわかりやすく提案することができる。	倫理の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、疑問点に対する解決策を考えることができる。	倫理に関する新たな知識を収集し、既知の知識とあわせて理解することができる。
主体的な学び	思想家や思想史、現代の倫理的課題について関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察し、自分の考えをまとめ、説得力をもって伝える工夫をしている。	思想家や思想史、現代の倫理的課題について関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察し、望ましいあり方について自分の考えをまとめようとしている。	思想家や思想史、現代の倫理的課題について関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察しようとしている。
対話的な学び	グループ学習で、自分の意見を伝え、他者の考えを聞いて、共通点、相違点を整理し、新たな気付きを得て、その合意点を見出すことができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気付きを得ることができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを冷静に聞くことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	青年期の課題 人間としての自覚1	8	青年期の意義と課題 青年期、適応と個性 青年の生き方 源流思想 (中間考査)	青年期の特徴を理解する。 哲学的なものの見方の成立 を学ぶ。
	後 半	人間としての自覚2	10	源流思想 中国思想 (期末考査)	三大宗教や中国思想のもの の見方の特色を考える。
2 学 期	前 半	現代に生きる人間の倫 理1	10	日本思想 ルネサンスと近世の思想 宗教改革、ベーコン、 デカルト、社会契約説 (中間考査)	日本思想や近世近代のもの の見方の特徴を理解する。
	後 半	現代に生きる人間の倫 理2	12	民主社会と近代の思想 カント、功利主義、 資本主義・社会主義 20世紀の主要な思想 プラグマティズム、 実存主義 (期末考査)	近代思想が現代社会に及ぼし ている影響、ならびに現代を 代表する思想を学び、人類の 倫理的課題を考える。
3 学 期		現代の諸課題と倫理	13	現代思想 フランクフルト学派、 構造主義、ポストモダンの 思想 現代の諸課題と倫理 生命倫理、環境、 情報化、家族 異文化理解 平和の課題 (学年末考査)	現代社会の諸課題を自分の こととして学ぶ。

学習者へのメッセージなど

世界の宗教思想や哲学思想について自主的に知識の幅を広げ、人間の精神、文化への関心を深めることが大切です。自ら興味のある分野について本を読み、思考を深めましょう。

また、自分が社会の一員であることを自覚し、現代社会において自分はどうか、現代社会の倫理的諸課題に対して何をすべきか、何ができるかを考えましょう。

1年次から3年次を見据えて、充実した高校生活を目指しましょう。そのためには、受身ではなく主体的に学習しましょう。

数学科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:数学 I

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学 I) 1. 数と式 (1) 式の計算 (2) 実数 (3) 1次不等式	
	期末	(数学 I) 1. 数と式 (4) 集合と命題 2. 2次関数 (1) 2次関数とそのグラフ	
2 学 期	中間	(数学 I) 4. データの分析 2. 2次関数 (2) 2次方程式と2次不等式	
	期末	(数学 I) 3. 図形と計量 (1) 三角比 (2) 三角形への応用	
3 学 期	学年末	(「数と式」の発展) 1. 式と証明 (1) 式と計算 (2) 等式と不等式の証明 2. 複素数と方程式	

科目:数学 A

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学 A) 1. 場合の数と確率 (1) 場合の数	
	期末	(数学 A) 1. 場合の数と確率 (2) 確率	
2 学 期	中間	(数学 A) 2. 図形の性質 (1) 平面図形 (2) 空間図形	
	期末	(数学 A) 3. 整数の性質 (1) 約数と倍数 (2) ユークリッドの互除法 (3) 整数の性質の活用	
3 学 期	学年末	(「図形の性質」の発展) 図形と方程式 (1) 点と直線 (2) 円	

(令和4年度 第2学年)

科目:数学Ⅱ

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学Ⅱ) 2. 複素数と方程式 3. 図形と方程式 (軌跡と領域) 4. 三角関数 (1) 三角関数 (三角関数の性質)	
	期末	(数学Ⅱ) 4. 三角関数 (1) 三角関数 (三角関数のグラフ) (2) 加法定理	
2 学 期	中間	(数学Ⅱ) 5. 指数関数と対数関数 6. 微分法と積分法 (1) 微分係数と導関数	
	期末	(数学Ⅱ) 6. 微分法と積分法 (2) 導関数の応用 (3) 積分法	
3 学 期	学年末	(理系) (発展学習) 関数 (分数関数・無理関数・逆関数・合成関数) 極限 (1) 数列の極限 (2) 関数の極限 (文系) 1. 2年復習	

科目:数学B

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学B) 1. 平面上のベクトル (1) 平面上のベクトルと その演算	
	期末	(数学B) 1. 平面上のベクトル (2) ベクトルと平面図形	
2 学 期	中間	(数学B) 2. 空間のベクトル	
	期末	(数学B) 3. 数列 (1) 数列とその和	
3 学 期	学年末	(数学B) 3. 数列 (2) 数学的帰納法	

(令和5年度 第3学年)

科目:数学Ⅲ5

(5単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学Ⅲ) 5. 微分法 6. 微分法の応用 (1) 導関数の応用	
	期末	(数学Ⅲ) 7. 積分法 (1) 不定積分 (2) 定積分 8. 積分法の応用(「曲線の長さ」、「速度と道のり」を除く)	
2 学 期	中間	(数学Ⅲ) 6. 微分法の応用 (2) 速度と近似 8. 積分法の応用(「曲線の長さ」、「速度と道のり」) 微分方程式 数学Ⅲ演習	
	期末	数学Ⅲ演習 大学入学共通テスト対策	
3 学 期	学年末	数学Ⅲ演習 大学入学共通テスト対策	

科目:数学Ⅲ2

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	(数学Ⅲ) 2. 式と曲線 (1)2次曲線	
	期末	(2)媒介変数(と極表示) 1. 複素数平面 (複素数の極形式と乗法、除法まで)	
2 学 期	中間	(数学Ⅲ) 1. 複素数平面 (ド・モアブルの定理から) 2. 式と曲線 (2)(媒介変数と)極表示 数学ⅠAⅡB演習	
	期末	数学ⅠAⅡB演習 大学入学共通テスト対策	
3 学 期	学年末	数学ⅠAⅡB演習 大学入学共通テスト対策	

選択科目

科目:数学Ⅱ α 2

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	数学ⅠAⅡB大学入学共通テスト演習	
	期末		
2 学期	中間		
	期末		

科目:数学Ⅱ β 2

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	文系数学ⅠAⅡB記述式演習	
	期末		
2 学期	中間		
	期末		

科目:数学Ⅱ γ

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	理系数学ⅠAⅡB記述式演習	
	期末		
2 学期	中間		
	期末		

科目:数学Ⅱ α 4

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	数学ⅠAⅡB大学入学共通テスト演習	
	期末		
2 学期	中間		
	期末		

科目:数学Ⅱ β 4

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	文系数学ⅠAⅡB記述式演習	
	期末		
2 学期	中間		
	期末		

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学 I		3 単位	必修	対象学年	1 年
教科書 副教材	数研出版 数学 I 数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A 数研出版 サクシード数学 I + A 数研出版 データ分析ノート (短期完成) 数研出版 項目別学習ノート 式と証明・複素数と方程式		教科担当			

学習の目標

数学 I 全範囲及びその発展的な学習をする。数と式，2次関数，図形と計量，データの分析（以上数学 I），式と証明，複素数と方程式（以上発展学習）について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばし，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

授業内容と学習方法

数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。サクシードやチャート、および大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。5回の定期考査、夏・冬期休業明けの課題テストの点数に、平常点（提出物等）を加味して、評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータを用いてグラフをかける データを表をグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 定数を変化させながら、グラフの特徴を理解できる 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの定数の値の変化に応じてグラフがどのように変化するかを捉えることができる 計算したデータをもとに、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる
探究心 (考える力)	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の基本的な概念や性質を理解し、基礎計算を解くことができる 分散や標準偏差、相関係数など用語の意味や使い方を理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 因数分解の公式を理解し、理論的な考察を行い式の変形をすることができる 関数と方程式、不等式の間関係を理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの数学的な特徴や他の事象との関係を考察することができる 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して批判的に考察できる
行動力 (解決する力)	<ul style="list-style-type: none"> 式の計算、因数分解など基礎の計算問題演習に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 二次関数の値の最大最小など、具体的な値を求めることができる 問題演習においてミスした問題に対して自ら改善することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量から関数を用いて日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、発展的な問題に自ら取り組み、問題を解決することができる

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前半	(数学Ⅰ) 1. 数と式 (1) 式の計算	6	整式 整式の加法・減法・乗法 因数分解	実数の分類について理解する。 絶対値を理解し、場合分けができるようにする。 1次不等式について理解し、解けるようにする。
		(2) 実数	6	実数 根号を含む式の計算	
		(3) 1次不等式	6	1次不等式 1次不等式の利用 (中間考査)	
1 学期	後半	1. 数と式 (4) 集合と命題	7	集合 命題と条件 命題と証明	集合の概念を理解し、命題の真偽や証明ができるようにする。 2次関数とそのグラフについて理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 様々なデータの特徴を捉え、資料を整理できるようにする。
		2. 2次関数 (1) 2次関数とグラフ	10	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大と最小 (期末考査)	
		4. データの分析	3	データの代表値 データの散らばりと四分位範囲	
2 学期	前半	4. データの分析	3	分散と標準偏差 データの相関	複数のデータの相関関係を調べることができる。 2次関数の最大値と最小値が求められるようにする。 2次関数のグラフを用いて2次不等式が解けることを理解する。
		2. 2次関数 (1) 2次関数とグラフ (2) 2次方程式と2次不等式	6 6	2次関数の決定 2次方程式 グラフと2次方程式 グラフと2次不等式 (中間考査)	
2 学期	後半	3. 図形と計量 (1) 三角比	10	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理	三角比の定義とその相互関係について理解する。 正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求める方法について理解し、具体的な図形において活用できるようにする
		(2) 三角形への応用	15	余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 (期末考査)	
3 学期		(数学Ⅱ) 1. 式と証明 (1) 式と計算	9	二項定理 整式の割り算 分数式とその計算	整式の計算を正しく行うことができる。 等式・不等式の証明の仕方を理解する。 2次方程式の解の公式は虚数解についても成り立つことを理解し、公式が正しく使えるようにする。
		(2) 等式と不等式の証明	9	恒等式 等式の証明 不等式の証明	
		2. 複素数と方程式	9	複素数 2次方程式 剰余の定理と因数定理 高次方程式 (学年末考査)	

学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学A	3単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	数研出版 数学A 数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A 数研出版 サクシード数学 I + A 数件出版 図形の性質ノート (短期完成)	教科担当			

学習の目標

場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

授業内容と学習方法

場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。サクシードやチャート、および大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。5回の定期考査、夏・冬期休業明けの課題テストの点数に、平常点 (提出物等) を加味して、評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
探究心 (考える力)	<ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 図形の性質に関する基本的な公式を用いて値を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の性質や法則に着目して確率を求める方法を多面的に考察することができる。 図形の性質に関する公式を利用し、論理的な考察を行い、証明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象に数学の構造を見出し、場合の数を求める方法を他者と協働して多面的に考察することができる。 図形の性質に関する概念を統合的・発展的に考察することができる。
行動力 (解決する力)	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象を基に順列、組合せ、及び組合せの意味を理解し、順列、組合せの総数や事象の確率を求めることができる。 図形の性質の基本的な公式について理解を深め、公式を利用して解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 図形の性質の統合的な問題について自ら取り組み問題を解決することができる。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前 半	(数学A) 1. 場合の数と確率 (1) 場合の数	2 7 9	集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列 組合せ (中間考査)	集合についての基本的な事項を理解し、要素の個数を数えることから場合の数の計算法則を考える。
		1. 場合の数と確率 (2) 確率	10 10	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率 (期末考査)	確率の意味とその性質について理解するとともに、具体的な事象についてその確率が求められるようにする。
2 学期	前 半	2. 図形の性質 (1) 平面図形	6 5	三角形の辺の比 三角形の内心・外心・重心 チェバの定理 メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線 方べきの定理 2つの円の位置関係 作図	三角形や円、多面体などの図形の性質についての理解を深めるとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。
		(2) 空間図形	4	直線と平面 多面体 (中間考査)	
3 学期	後 半	3. 整数の性質 (1) 約数と倍数	8	約数と倍数 最大公約数と最小公倍数 割り算と商及び余り	整数の様々な性質についての理解を深めるとともに、整数の性質を論理的に考察できるようにする。
		(2) ユークリッドの互除法	8	ユークリッドの互除法 1次不定方程式	
		(3) 整数の性質の活用	9	n進法 分数と小数 (期末考査)	
3 学期		図形と方程式 (発展学習) (1) 点と直線	9	平面上の点 直線の方程式	図形に関する諸性質を数式化するにはいろいろな考え方があることを確認し、その中で都合のよい観点から図形の性質を再認識する。
		(2) 円	9	2直線の関係 円の方程式	
			9	円と直線 2つの円 (学年末考査)	

学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。

理科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:生物基礎

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	生物の特徴	生命活動を細胞レベルで学習する
	期末	遺伝子とそのはたらき	DNAとタンパク質について分子レベルで学習する
2 学 期	中間	生物の体内環境の維持	生命現象を個体レベルで学習する
	期末	生物の多様性と生態系	生物界の多様性とバランスを地球レベルで学習する
3 学 期	学年末	生殖と発生	生殖と発生について発展的に学習する

科目:地学基礎

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	地球の概観 地球の内部構造	地震波を用いた探究方法も学習する
	期末	地震	震源球の概念も学習する
2 学 期	中間	大気構造 太陽放射と大気・海水の循環	転向力とフーコーの振りも学習する
	期末	日本で見られる季節の気象 太陽系と太陽	惑星の公転についても学習する
3 学 期	学年末	恒星としての太陽の進化 銀河系と宇宙	天球儀や映像を効果的に活用する

(令和4年度 第2学年)

科目:物理基礎

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	速度、加速度、落下運動、さまざまな力、力の合成・分解とつりあい	発展的学習として平面運動を含む
	期末	運動の3法則、運動方程式の利用、抵抗力を受ける運動、剛体にはたらく力	発展的学習として剛体にはたらく力を含む
2 学 期	中間	仕事と力学的エネルギー、運動量の保存、熱と温度、エネルギーの変換と保存、気体の圧力、	発展的学習として運動量の保存を含む
	期末	波の表し方とその要素、波の重ね合わせ、波の干渉・反射・屈折・回折音の伝わり方、物体の振動、	発展学習として波の干渉・反射・屈折・回折を含む
3 学 期	学年末	ドップラー効果、光の性質、レンズと鏡、光の回折と干渉、電流と抵抗、直流回路、電気エネルギー	発展学習としてドップラー効果、光波を含む

科目:化学基礎

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエンテーション 物質の構成(物質の探究・原子の構造・化学結合・物質の量の表し方・溶液の濃度・化学反応式と物質量)	物質、反応式の理解
	期末	物質の変化(酸と塩基の反応・中和滴定・酸化還元反応・金属の酸化還元反応・電池・電気分解)	化学の2大反応、重要な単元
2 学 期	中間	無機物質(周期表と元素・水素と希ガス・ハロゲン・酸素と硫黄・窒素とリン・炭素とケイ素)	非金属元素の学習
	期末	無機物質(アルカリ金属元素・2族元素・両性元素・遷移元素・金属元素の分離)	金属元素の学習
3 学 期	学年末	有機化合物(有機化合物の特徴・有機化合物の構造決定・炭化水素・酸素を含む有機化合物・芳香族化合物)	炭素を主骨格とする化合物の学習

(令和5年度 第3学年)

科目:物理

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	円運動、慣性力と遠心力、単振動、万有引力	理系の生徒が 受講
	期末	電場、電位、コンデンサー、半導体、磁場、電流が磁場から受ける力、ローレンツ力、電磁誘導、交流、電磁波	理系の生徒が 受講
2 学 期	中間	気体の法則、気体の分子運動、気体の内部エネルギーと仕事、電子、光の粒子性、X線、粒子の波動性、原子の構造、原子核と放射線、核反応とエネルギー、素粒子と宇宙	理系の生徒が 受講
	期末	大学入試問題の過去問を中心とした問題演習	理系の生徒が 受講
3 学 期	学年末	入学試験対策問題演習(特別授業)	理系の生徒が 受講

科目:物理基礎

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	力学を中心とした問題演習	文系の生徒が 受講
	期末	電磁気を中心とした問題演習	文系の生徒が 受講
2 学 期	中間	波動・熱力学を中心とした問題演習	文系の生徒が 受講
	期末	大学入試センターの過去問を中心とした問題演習	文系の生徒が 受講
3 学 期	学年末	センター試験対策問題演習(特別授業)	文系の生徒が 受講

科目:物理

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	力学・波動分野を中心とした基本問題演習	理系の生徒が 受講
	期末	熱力学・電磁気分野を中心とした基本問題演習	理系の生徒が 受講
2 学 期	中間	力学・熱力学・波動分野を中心とした発展問題演習	理系の生徒が 受講
	期末	電磁気・原子分野を中心とした基本・発展問題演習	理系の生徒が 受講
3 学 期	学年末	2次試験対策演習(特別授業)	理系の生徒が 受講

科目:化学

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	化学結合と物質の状態(化学結合・物質の状態・気体の性質・溶液の性質) 化学反応の速さと平衡(化学反応の速さ)	結晶格子 気体の温度・ 圧力・体積の 計算など。
	期末	化学反応の速さと平衡(化学平衡・水溶液中の電離平衡) 生活と物質(プラスチックの化学・食品の化学・衣料の化学・金属とセラミックス)	高校の理論化学で最も高度な内容。 身近な物質の化学。
2 学 期	中間	特別講習 センター試験 私立・国公立二次対策 問題演習・実験講習	化学基礎の総復習、化学の実践的な問題演習、基本的な実験
	期末	特別講習 センター試験 私立・国公立二次対策 問題演習・実験講習	
3 学 期	学年末	各種入試問題解説	生徒の希望を聴いて組み立てる。

科目:化学基礎

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	物質の構成(物質の探究・原子の構造・化学結合・物質の量の表し方・溶液の濃度・化学反応式と物質質量)	化学基礎の復習を行なってから演習に入る
	期末	物質の変化(酸と塩基の反応・中和滴定・酸化還元反応・金属の酸化還元反応・電池・電気分解)	
2 学 期	中間	特別講習 センター試験の問題演習・実験講習	生徒の希望を聴いて組み立てる
	期末		
3 学 期	学年末	特別講習 センター試験の問題演習	受講者の要望に応じる

科目：生物基礎

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	生物の多様性と共通性 細胞とエネルギー	問題演習を多く 行う
	期末	遺伝子とその働き	問題演習を多く 行う
2 学 期	中間	生物の体内環境の維持	問題演習を多く 行う
	期末	生物の多様性と生態系	問題演習を多く 行う
3 学 期	学年末	特別授業	問題演習を多く 行う

科目：生物

(4・6単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	細胞と分子（生体物質と細胞・生命現象とタンパク質） 代謝（呼吸・光合成・窒素同化）	講義中心に行い 問題演習も行う
	期末	遺伝情報の発現（遺伝子の発現調節とその応用） 生殖と発生（有性生殖・動物の発生・植物の発生）	講義中心に行い 問題演習も行う
2 学 期	中間	生物の環境応答（動物の反応と行動・植物の環境応答）	講義中心に行い 問題演習も行う
	期末	生態と環境（個体群と生物群集・生態系） 生物の進化と系統（生物の進化の仕組み・生物の系統）	講義中心に行い 問題演習も行う
3 学 期	学年末	特別授業（問題演習）	実践問題演習を 行う

科目:地学基礎

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	太陽と恒星地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境、日本の自然環境	問題演習を多く行う
	期末	宇宙の構成、宇宙のすがた	問題演習を多く行う
2 学 期	中間	惑星としての地球、太陽系の中の地球、地球の形と大きさ、地球内部の層構造	問題演習中心に行う
	期末	活動する地球、プレートの運動、火山活動と地震移り変わる地球、地球の形成と地質構造、古生物の変遷と地球環境	問題演習中心に行う
3 学 期	学年末	特別授業(センター試験・問題演習)	

科目:地学

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	地球の形状、地球の内部	
	期末	地球の活動、地球の歴史	
2 学 期	中間	大気の種類と運動、海洋と海水の運動	
	期末	太陽系、恒星と銀河、銀河と宇宙	
3 学 期	学年末	特別授業(問題演習)	

科目:地学

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	地球の形と重力、地球の磁気、地球の内部構造、地球内部の状態と物質	
	期末	プレートテクトニクス、地震と地殻変動、火成活動、変成作用と変成岩、地表の変化、地層の観察、地球環境の変遷、日本列島の成り立ち	
2 学 期	中間	大気の種類と運動、大気の大気と気象、海洋の種類と運動	
	期末	地球の自転と公転、太陽系天体とその運動、太陽の活動、構成の性質と進化、銀河系の構造、様々な銀河、膨張する宇宙	
3 学 期	学年末	特別授業(センター試験・問題演習)	

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	生物基礎	2単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	生物基礎 改訂版 (啓林館) スクエア最新図説生物neo (第一学習社) セミナー生物基礎+生物 (第一学習社)	教科担当			

学習の目標

1. 生命現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
2. 生物学的な基本概念を形成し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成すること。
3. 生物の学習を通して、効率の良い学習法を身につけること。

学習到達度基準

- ・生物学の学習を通し、情報活用力・探究心・情報発信力を身につける。
- ・物理基礎、化学基礎を学習するうえで素地となる科学的な見方・考え方を身につける。
- ・50%以上の生徒が、共通テストの全国平均得点25%上回る学力を身につける。

授業内容と学習方法

中学校で習った内容を踏まえ、教科書の順序の通り行っていく。3学期には発展的な内容として「生殖と発生」を取り扱う。授業では、研究者が実験していく過程でどのように発想、思考したか、また研究の積み重ねが現代の生命科学の基礎知識をどのように構築してきたかなどの観点を常にイメージしながら受けるよう心掛ける。そのためには、教科書に書かれた内容の他に授業中に話された内容についての、授業時間内に十分理解する姿勢で参加してほしい。かなり発展的な内容も取り入れていくので、進度が通常に比べて速くなる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	文章・図・グラフ等、あらゆる情報の中から自分の必要な情報を見出し、問題の解決に用いることができる。	文章・図・グラフ等、あらゆる情報の中から自分の必要な情報を漏れなく見出し、的確に用いることで問題を解決することができる。	文章・図・グラフ等、あらゆる情報の中から自分の必要な情報を過不足なく見出し、的確に用いることで滞りなく問題を解決することができる。
探究心 (考える力)	疑問・発問について、考えをもつことができる。	疑問・発問について、根拠に基づく理論的な考えをもつことができる。	疑問・発問について、根拠に基づく理論的な考えをもつことができる。さらに、その考えから派生し、新たな疑問や関連事項についても考察することができる。
情報発信力 (伝える力)	自分の考えを、口頭・記述いずれかにおいて、説明することができる。	自分の考えを根拠と理論に基づいて、口頭・記述のいずれかにおいて、説明することができる。	自分の考えを根拠と理論に基づいて、他者が理解しやすいように口頭・記述いずれにおいても説明することができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	生物の特徴	1 0	・生物の多様性と共通性 ・生命活動とエネルギー (中間考査)	・細胞レベルを意識する ・生命活動とエネルギーの流れ の関係を意識する
	後 半	遺伝子とそのはたらき	1 0	・生物と遺伝子 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報とタンパク質 の合成 (期末考査)	・DNAが遺伝子として働く仕 組みを構造から理解する。 ・遺伝情報の複製を細胞周期の 面から理解する ・遺伝子とタンパク質の関係を 理解する。 ・遺伝子とゲノムを理解する。
2 学 期	前 半	生物の体内環境の維持	1 2	・体内環境 ・体内環境の調節 ・免疫 (中間考査)	・体内環境の維持には体液・臓 器・自律神経・ホルモンがバラン スをとっていることを理解する ・免疫はシステムとして成り立 っていることを意識して学習す る。
	後 半	生物の多様性と生態系	1 2	・植生の多様性と分布 ・気候とバイオーム ・生態系とその保全 (期末考査)	・生物同士のつながりについて だけでなく無機的环境も含めて 考える ・物質の循環に伴ってエネルギ ーも移動することを理解する。 ・人間活動が自然界に及ぼす影 響について考え、多様性が損な われていくことを理解する。
3 学 期		生殖と発生	1 3	・動物の生殖と発生 ・発生のしくみ ・植物の生殖と発生 (期末考査)	・有性生殖と減数分裂の意味を 考える。 ・動物の生命について胚の時間 的変化を理解する ・植物の生活と生殖の関係に注 意する

学習者へのメッセージなど

1年生のうちに、学習する楽しさを身につけてください。様々な知識が身につくとは、知識が増えることだけではなく、一つの事象に対して異なる視点から見つめることができる能力を養うことを意味します。生物に限らず、どんな科目の中にも面白いと思える何かが必ずあり、それを見つけ、知ろうとする意欲を大切にすると、効率の良い学習法が自然に身に付きます。

生物の世界はものすごく多様です。すべてを知ることにはできません。しかし、生物というくりがあるということは共通する部分があるということです。生物に共通する部分はなんなのか、考えていきましょう。生物を学習するということは、自分自身も生物なのですから、自分自身を知ることになります。非常に身近な学問です。

まずは、授業を真剣に聞いてみる。そこからみなさんの「勉強は自分でやる」力を養っていただく！

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	地学基礎	1 単位	必修	対象学年	1 年
教科書 副教材	地学基礎 改訂版 (啓林館) ニューステージ新地学図表 (浜島書店) センサー地学基礎 (啓林館)	教科担当			

学習の目標

- 地球と宇宙を対象として、観察や実験実習及び巡検を通して自然への探究心を高める。
- われわれの住む地球を、自然科学の知識をもとに総合的に考察する。

学習到達度規準

- 観察事実に基づいた地学現象の理解ができるようになる。
- センター試験において、8割以上の得点が得られるようになる。

授業内容

- 地球の概観、惑星としての地球、大気と地球の熱収支、などについて学習し、人間の活動と環境について考える力を養う。

学習方法

- 地球の成り立ちや宇宙の構造を考えたり、大気と海洋の運動を考えたり、大きなスケールの現象を扱います。各授業の内容が、各単元とどのようにかかわりあっているかという思考過程を大切に学習します。
- 観察や実験の結果は、図やグラフを作成し整理することで理解が深まります。

学習の到達目標と評価の観点

- 自然の多様性とその中に潜む規則性について、学習した知識を用いて適切に観察することによって理解し、さまざまな現象を説明できるようになる。
- 時間的・空間的視点を融合させて新しい地球観・宇宙観を作り出し、説明できるようになる。
- 自然の成り立ちについて、探究心を持って観察できるようになる。

評価の方法

- 次の項目について総合的に判断し、評価する。
 - 年5回の定期考査
 - 課題・レポートなどの提出物。城ヶ島巡検関係の提出物。
 - 出席状況・学習態度

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	身近な地学現象に関心を持ちながら、様々な情報の中から、重要な情報を主体的に取捨選択できる。	身近な地学現象に関心を持ち、様々な女王を取捨選択した上で、課題解決に活用することができる。	身近な地学現象に関心を持ち、様々な情報を取捨選択した上で、他者と協働しながら、よりよく課題解決ができる。
探究心 (考える力)	身近な地学現象に興味を持ち、それらの課題を整理し、自分でなぜかを考える姿勢をもっている。	身近な地学現象に興味を持ち、それらの課題を整理し、論理的に事実を分析し、課題解決策を考えることができる。	身近な地学現象に興味を持ち、課題の整理、論理的な分析を行い課題解決の筋道を立て、他者に説明し議論することができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	・地球	6	地球の概観 地球の内部構造 (中間考査)	日常生活と異なる、地学的な空間・時間スケールを扱うことを理解する。
	後 半	・活動する地球	6	地震 (期末考査)	地震の発生メカニズムについて理解する。
2 学 期	前 半	・大気の構造 ・太陽放射と大気海水の運動	6	大気圏 水と気象 地球のエネルギー収支 大気の大循環 (中間考査)	地球環境の変化とその仕組みについて理解する。
	後 半	・太陽放射と大気海水の運動 ・日本の天気 ・太陽系と太陽	7	海水の循環 冬から春の気象, 夏から秋の気象 太陽系の天体 太陽系の誕生 太陽 (期末考査)	大気と海洋の関係について理解する。 日本の天気について理解する。 太陽系の概観について理解する。
3 学 期		・恒星としての太陽の進化 ・銀河系と宇宙	1 0	太陽と恒星, 太陽の誕生と進化 銀河系とまわりの銀河, 宇宙の姿 (学年末考査)	地球の周囲の環境として、宇宙を理解する。

学習者へのメッセージなど

地学は、地球や宇宙について科学的に学んでいく科目です。地震・津波・火山の噴火・台風・集中豪雨等の自然災害、オゾン層の破壊や地球温暖化等の地球環境問題など、地球に関することには日常生活と大きく関わっていることが多いです。これらの現象を、地球の誕生から現在に至るまで、地球進化の観点から学習します。もちろん、地球の誕生の前に宇宙の存在が前提です。

そこも含めて学習していくので、地学の学習の中には、不思議なことや規模が大きすぎてイメージしにくい壮大な内容もあります。しかし、そこが地学の魅力でもあります。

まず、興味を持ってください。宇宙にある天体（様々な色の恒星・星団・星雲など）はとても綺麗なものが多く、地球にある地形（ヒマラヤのような大山脈・氷河など）も美しく壮大なものがたくさんあります。どうして、そう感じるのでしょうか。そして、なぜ、そうなったのでしょうか。興味を持って様々な角度から学ぶことで地学の学習が楽しくなるとともに、日常に関わる上記に挙げた内容の理解に繋がっていくのです。

また、地学的現象に直接触れて観察・理解することも大切です。様々な事象どうしの関連性やそれらの仕組みについて、総合的な視点から学習していきます。

なお、火山・地質・地史分野については、城ヶ島巡検を中心とした学校設定科目「知の探究Ⅰ」で扱います。

英語科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目：コミュニケーション英語 I

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	GENIUS English Communication I Revised Lesson 1,2 Read on! 1,2	
	期末	GENIUS English Communication I Revised Lesson 3,4 Read on! 3,4	
2 学 期	中間	GENIUS English Communication I Revised Lesson 5, 6 Read on! 5,6	
	期末	GENIUS English Communication I Revised Lesson 7,8 Read on! 7,8	
3 学 期	学年末	GENIUS English Communication I Revised Lesson 9,10 Read on! 9,10	

科目：英語表現 I

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	POLESTAR English Expression I Lesson 1~4 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 1~11	
	期末	POLESTAR English Expression I Lesson 5~13 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 12~19	
2 学 期	中間	POLESTAR English Expression I Lesson 14~15, 18~20 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 20~26	
	期末	POLESTAR English Expression I Lesson 16~17, 21~22 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 27~32	
3 学 期	学年末	Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 33~36, Additional 1~10	

(令和4年度 第2学年)

科目：コミュニケーション英語Ⅱ

(3単位)

期 間	学 習 項 目	備 考
1学期	中間 長文読解 助動詞＋完了形、受動態の動名詞、付帯状況 with、複合関係詞、SV(be 動詞)that 節、be 動詞＋to 不定詞、動名詞の意味上の主語、疑問詞+do you think SV、未来進行形の使い方を身につける。	
	期末 長文読解 パラグラフの成り立ち 完了形の受動態、様々な分詞構文、接続詞＋分詞、二重否定、部分否定、独立分詞構文、関係副詞の非限定用法の使い方を身につける。	
2学期	中間 長文読解 パラグラフ同士の関係・文章の構成 不定詞の意味上の主語、if を省略した仮定法、同格の that、仮定法の慣用表現、完了形の動名詞、強調構文の使い方を身につける。	
	期末 長文読解 what を用いた強調、無生物主語、倒置、複合関係詞 however、if 節に相当する表現、未来完了形の使い方を身につける。	
3学期	学年末 長文読解 スキミングとスキヤニング 大学入学共通テスト対策	

科目：英語表現Ⅱ

(2単位)

期 間	学 習 項 目	備 考
1学期	中間 文法総復習 句と節、前置修飾と後置修飾、時制、助動詞、受動態、分詞 上記文法項目別の英作文演習	
	期末 文法総復習 比較、関係詞、仮定法 上記文法項目別の英作文演習	
2学期	中間 トピック別表現 家族、交友関係、食事、服装、仕事、健康、環境、言語、ニュース、伝統芸能、建築、文化、歴史 上記トピック別の英作文演習	
	期末 パラグラフの構成 (topic sentence, supporting sentences, conclusion) 英作文演習	
3学期	学年末 意見・考えの表現 議論・発表	

(令和5年度 第3学年)

科目：コミュニケーション英語Ⅲ

(4単位)

期 間	学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	長文読解演習 大学入学共通テスト対策(リスニング、記述問題)
	期末	長文読解演習 大学入学共通テスト対策(リスニング、記述問題)
2 学 期	中間	難関大長文読解演習および国公立二次試験対策 大学入学共通テスト対策(リスニング、記述問題)
	期末	難関大長文読解演習および国公立二次試験対策 大学入学共通テスト対策(リスニング、記述問題)
3 学 期	学年末	まとめと補足、大学入学共通テスト対策 国公立二次試験対策

科目：英語表現Ⅱ

(2単位)

期 間	学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	文法項目別の和文英訳および英作文演習 文法事項総復習演習、スピーキング、発音・アクセント練習
	期末	文法項目別の和文英訳および英作文演習 文法事項総復習演習、スピーキング、発音・アクセント練習
2 学 期	中間	和文英訳および英作文演習 文法事項総復習演習、スピーキング、発音・アクセント練習
	期末	和文英訳および英作文演習、自由英作文演習 文法事項総復習演習、スピーキング、発音・アクセント練習
3 学 期	学年末	まとめと補足、大学入学共通テスト対策 国公立二次試験対策

選択科目

科目：コミュニケーション英語Ⅱプラス

(4単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	大学入試問題演習	
	期末		
2 学 期	中間		
	期末		

科目：コミュニケーション英語Ⅲプラス

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	大学入試問題演習	
	期末		
2 学 期	中間		
	期末		

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	コミュニケーション英語 I	3 単位	必修	対象学年	1 年
教科書 副教材	GENIUS Communication English I Revised (大修館) 精読: Cutting Edge Green (エミル出版) 三訂版 READING POWER BASIC (数研出版) 速読: 改訂版 Jet Reading 英語速読テスト Level 2 (数研出版) 語彙: 速読英単語 入門編 改訂第3版 速読英単語 必修編 改訂第7版 (Z 会出版) リスニング: CNN Workbook Extended Course 2021(朝日出版社) 多読教材: 年間 10 冊程度の英語の本を読む。	教科担当			

学習の目標

- ① 教科書や副教材で、現代的な話題を英語で理解しながら、4 技能 5 領域(「聞く」、「読む」、「話す」(やり取り・発表)「書く」)の総合的な力の基礎となる英語力の獲得を図る。コミュニケーションを図る資質・能力、内容を正確かつ論理的に理解できる読解力、基本的な語彙力(vocabulary)を養成する。
- ② 速読の訓練を行うことで、文章の概要や要点を素早く正確につかむ読解力を養成する。
- ③ 授業以外の「多読」を通じ、直読直解の力を養う。
- ④ 自分の考えを的確に英語で表現する能力を養成する。

授業内容と学習方法

教科書・精読教材を中心に展開する。語彙や文構造を意識した「精読」や、文章構成に焦点を当てた「パラグラフ・リーディング」を行いながら、文章内容を正確に読み解く練習をする。また、リスニングや音読等を通じてコミュニケーションの基礎となる力を身につける。日本人と外国人のチームティーチングによる学習を毎週 1 回(2 学期以降は 1 回以上)行う予定。

単語等の小テストを行い、習得状況の確認をする。多読活動を継続的に行う。

<予習>

- ① 自分の力で全文を最後まで読み切って大意を把握する。
- ② 未知の単語を、辞書を使って調べ、理解の浅い文法事項について参考書で確認しながら、自分の力で解釈し、あいまいな点や疑問点を明確にしたうえで授業に臨む。

<授業>

予習の段階で理解した内容に間違いがないかを確認すると同時に、正確な文構造を理解するように心がける。理解が不完全な点や疑問点を決して残さない。音読を積極的に行う。

<復習>

解決した疑問点を再確認した上で、CDに合わせて繰り返し音読練習をする。その際、英文を正しく発音し、重要な語彙・語句をしっかりと表現できるように定着させる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	身近な話題について、平易な表現を用いて、簡単に話すことができる。	身近な話題について、基本的な表現を用いて、積極的に話すことができる。	身近な話題について、説明に必要な表現を用いて、論理的に話すことができる。
探究心 (考える力)	身近な話題について、必要な援助があれば、情報や意見を交換するために必要な、簡単な表現を見出し、話すことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために必要な表現を見出し、話すことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために必要な表現を複数文見出し、話すことができる。
情報発信力 (伝える力)	身近な話題について、簡単なやり取りができる。	身近な話題について、自分の意見を加え積極的なやり取りができる。	身近な話題について、具体的に説明するとともに自分の意見を加えたやり取りができる。
傾聴力 (受け入れる力)	身近な話題について、ゆっくりはっきりと、なじみのある発音で話されれば、短い説明の概要や要点を理解することができる。	身近な話題について、短い説明の概要や要点を理解することができる。	身近な話題について、比較的長い説明の概要や要点を理解することができる。
行動力 (解決する力)	身近な話題について、平易な表現を使って、簡単に質疑応答ができる。	身近な話題について、基本的な表現を用いて、具体的に自分の意見や考えを加えることで、積極的に質疑応答ができる。	身近な話題について、説明に必要な表現を用いて、具体的に自分の意見や考えを加えることで、論理的に質疑応答ができる。
創造力 (生み出す力)	身近な話題について、必要な援助があれば、情報や意見を交換するために簡単な語句や文で話すことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために基本的な語句や文を準備し、話すことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために短い文で話し、会話に参加することができる。

学習の到達目標と評価の観点

- ① 関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ② 表現・理解…多様な英文を正しく理解し、その大意を的確に説明することができるか。
- ③ 知識・運用…様々な設問に対応できる正確な基礎力・応用力を身につけたか。

評価の方法

①定期考査（年5回）及び小テスト（語彙テスト等）、②提出課題、③授業に臨む姿勢（発表を含む）を総合的に見て評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	GENIUS English Communication I Revised Lesson 1,2 Read On! 1,2	20	to 不定詞、It の用法、関係 代名詞、助動詞、受動態 他	学習方法 に同じ
	6 7	GENIUS English Communication I Revised Lesson 3,4 Read On! 3,4	20	現在完了進行形、過去完了形、 動名詞、分詞、比較 他	
夏季休業		課題			
2 学 期	9 10	GENIUS English Communication I Revised Lesson 5,6 Read On! 5,6	21	原形不定詞、SVO + if 節 /wh- 節、It の用法、受動態、 関係副詞、助動詞 他	
	11 12	GENIUS English Communication I Revised Lesson 7,8 Read On! 7,8 Cutting Edge Green Unit 3, 4	22	過去完了進行形、動名詞、 分詞、仮定法過去、関係 代名詞の非制限用法、seem + to 不定詞 他	
冬季休業		課題			
3 学 期	1 2 3	GENIUS English Communication I Revised Lesson 9,10 Read On! 9,10 Cutting Edge Green Unit 5~10	22	分詞構文、未来完了、前置詞 + 関係代名詞、仮定法過去 完了、否定 長文読解及びまとめ 他	

学習者へのメッセージなど

英語力をつけることは容易ではありませんが、語学の学習においては努力は決して無駄になりません。時に辛く感じることもあるかもしれませんが、覚えて、忘れて、覚えて、忘れて、覚えて、忘れて、覚えて、身につける。

- ① 毎日、必ず一定量以上の英語に触れること。
- ② 文脈の中で意味や内容を理解すること。
- ③ 分からないことは、辞書や参考書をとことん活用して調べること。
- ④ 実際に声に出して英文を読み、自分の手でたくさん英文を書く労を惜しまないこと。
- ⑤ 楽しみながら学習すること。

学校で扱う教材以外にも、テレビ・ラジオの英語講座、英字新聞・雑誌、映画・ドラマなど、英語に触れる機会は日常生活の中にたくさんあります。自分が楽しみながら英語を学べる素材を探してみるのも良いでしょう。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目	英語表現 I	2 単位	必修	対象学年	1 年
教科書	POLESTAR English Expression I (数研出版) Breakthrough 英文法 36 章、Breakthrough 総合英語 (美誠社)		教科担当		
副教材	リスニング: Focus on Listening Basic・Standard (エミル出版)				

学習の目標

- ① 日常的な場面において英語を聞き、読んで理解するだけでなく、自分からも発信するための表現力を養い、総合的なコミュニケーション能力を養う。
- ② 言語の機能と特性の理解の上に立ち、状況に即し、正しい表現ができる力を身につける。
- ③ 外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして必要な英語力を養う。

授業内容と学習方法

1 クラスを2 グループに分けて授業を行う。基礎となる英文法の学習を項目別に行う。また、学習した内容を活用して、口頭発表したり、自己表現英作文を書いたりする。

<予習>

参考書の該当範囲を読んでから、テキストの練習問題をノートに解く。疑問点をはっきりさせておき、授業に臨む。また、基本例文を暗唱できるまで音読練習をする。

<授業>

- ① 学習項目を正確に理解・習得するよう心がけ、予習時の疑問点を積極的に解決する。
- ② リスニング力、英語での基本的表現力を身につける。

<復習>

- ① ワークブックの演習をすることで、知識の定着、発展を目指す。
学習内容を活用し、自己表現英作文を行う。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい 資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	身近な話題について、平易な表現を用いて、簡単に書くことができる。	身近な話題について、基本的な表現を用いて、積極的に書くことができる。	身近な話題について、説明に必要な表現を用いて、論理的に書くことができる。
探究心 (考える力)	身近な話題について、必要な援助があれば、情報や意見を交換するために必要な簡単な表現を見出し、書くことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために必要な表現を見出し、書くことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するために必要な表現を複数見出し、書くことができる。
情報発信力 (伝える力)	身近な話題について、簡単なやり取りができる。	身近な話題について、自分の意見を加え積極的なやり取りができる。	身近な話題について、具体的に説明するとともに自分の意見を加えたやり取りができる。
傾聴力 (受け入れる力)	身近な話題について、ゆっくりはっきりと、なじみのある発音で話されれば、短い説明の概要や要点を理解することができる。	身近な話題について、短い説明の概要や要点を理解することができる。	身近な話題について、比較的長い説明の概要や要点を理解することができる。
行動力 (解決する力)	身近な話題について、平易な表現を用いて、簡単に質疑応答ができる。	身近な話題について、基本的な表現を用いて、具体的に自分の意見や考えを加えることで、積極的に質疑応答ができる。	身近な話題について、説明に必要な表現を用いて、具体的に自分の意見や考えを加えることで、論理的に質疑応答ができる。
創造力 (生み出す力)	身近な話題について、必要な援助があれば、情報や意見を交換するために簡単な語句や文を書くことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するための簡単な語句や文を書くことができる。	身近な話題について、情報や意見を交換するための短い説明文を書くことができる。

学習到達度規準

- ① 本格的な文法・語法の知識を習得し定着させる。
- ② 習得した文法・語法の知識をもとに、英語を正しく理解し表現することができる。
- ③ 身近な話題について、積極的に英語で話し合い、口頭で発表、英文で書くことができる。

学習の到達目標と評価の観点

- ① 関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ② 表現・理解…自分の伝えたいことを適切に表現し、話し手の意図を的確に理解した上で自らも発信し、積極的にコミュニケーションを図ったか。
- ③ 知識・運用…基本的文法を正確に理解し、応用する力を身につけることができたか。

評価の方法

- ①定期考査（年5回）及び小テスト
- ②提出課題
- ③出席状況、授業に臨む態度・姿勢などを総合的に見て評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	POLESTAR English Expression I Lesson 1~4 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 1~11	12	文の種類、文型、時制、完了形、助動詞、受動態	学習方法に同じ
	6 7	POLESTAR English Expression I Lesson 5~13 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 12~19	12	不定詞、動名詞	
夏季休業		課題		1学期のまとめ	
2 学 期	9 10	POLESTAR English Expression I Lesson 14~15, 18~20 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 20~26	16	分詞、関係詞	
	11 12	POLESTAR English Expression I Lesson 16~17, 21~22 Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 27~32	14	比較、仮定法	
3 学 期	1 2 3	Breakthrough 英文法 36 章 Lesson 33~36, Additional 1~10	16	否定、話法、文法総まとめ	

学習者へのメッセージなど

五感をフルに使って英語をたくさん聞き、たくさん発話し、英文を書くこと。文法中心の授業では予習・復習を必ず行い、疑問点を残さないようにする。文法の理解、問題の解法のみならず、音読練習により例文を暗唱し、「文字」と「音」をセットにして頭の中にインプットすること。言語の源である音声（発音）練習も忘れずに。一年生のうちはたくさんインプットし、反復練習を行い、アウトプットする基礎力を養いましょう。焦らず、たゆまず、コツコツと。

保健体育科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目：体育

(3単位)

期 間		学 習 項 目		
		(男子) 2単位/1単位	(女子) 2単位/1単位	(男女共通) 各学期に 実施
1 学期	中間	バレーボール/剣道	陸上競技/ダンス	体づくり 運動 体育理論
	期末	体力テスト・水泳・トレーニング バレーボール/剣道	体力テスト・水泳・トレーニング 陸上競技/ダンス	
2 学期	中間	水泳・トレーニング サッカー/剣道	水泳・トレーニング バレーボール/ダンス	体づくり 運動 体育理論
	期末	サッカー/剣道	バレーボール/ダンス	
3 学期	学年 末	バスケットボール・ 持久力トレーニング/テニス	バスケットボール・ 持久力トレーニング/バドミントン	体づくり 運動 体育理論

科目：保健

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	健康の考え方	
	期末	健康の保持増進と疾病の予防	
2 学期	中間	健康の保持増進と疾病の予防	
	期末	精神の健康	
3 学期	学年末	交通安全, 応急手当 (心肺蘇生法を含む)	

(令和4年度 第2学年)

科目：体育

(3単位)

期 間		学 習 項 目		
		(男子) 2単位/1単位	(女子) 2単位/1単位	(男女共通) 各学期に 実施
1 学期	中間	陸上競技/剣道	バレーボール/テニス	体づくり 運動 体育理論
	期末	体力テスト・水泳・トレーニング 陸上競技/剣道	体力テスト・水泳・トレーニング バレーボール/テニス	
2 学期	中間	水泳・トレーニング バレーボール/剣道	水泳 サッカー/テニス	体づくり 運動 体育理論
	期末	バレーボール/剣道	サッカー/テニス	
3 学期	学年 末	バスケットボール・ 持久力トレーニング/バドミントン	バスケットボール・ 持久力トレーニング/バドミ・卓球	体づくり 運動 体育理論

科目：保健

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	生涯の各段階における健康（思春期／性意識と行動選択）	
	期末	生涯の各段階における健康（結婚生活／妊娠・出産／加齢）	
2 学 期	中間	保健・医療制度および地域の保健・医療機関	
	期末	さまざまな保健活動や対策，環境と健康	
3 学 期	学年末	食品と環境の保健 労働と健康	

(令和5年度 第3学年)

科目：体育

(2単位)

期 間		学 習 項 目				
		(男子) 1単位/1単位		(女子) 1単位/1単位		(男女共通) 各学期に実施
1 学 期	中間	バレーボール バスケットボール バドミントン 卓球 サッカー より選択		バレーボール バスケットボール バドミントン 卓球 サッカー より選択		体づくり運動 体育理論
	期末	体力テスト・水泳・ トレーニング・バド		体力テスト・水泳・ トレーニング・バド		
2 学 期	中間	水泳		水泳		体づくり運動 体育理論
	期末	バスケット バドミントン 卓球 テニス より選択	バレーボール バドミントン 卓球 テニス より選択	バスケット バドミントン 卓球 テニス より選択	バレーボール バドミントン 卓球 テニス より選択	
3 学 期	学年末	サッカー・バレーボール・バスケットボール・ バドミントン・テニス・卓球より選択				体づくり運動 体育理論

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	体 育		3単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	現代高等保健体育(大修館)	教科担当				

学習の目標

生涯にわたって計画的に運動・スポーツに親しむ資質や能力を身につけるとともに、各種のスポーツに興味関心を持ち、運動技能や体力の高め方を身につけながら運動できるようになる。また、ルールやマナーを大切に、仲間と協力しながら、健康の保持増進ならびに体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度と実践力を身につける。

授業内容

男女共に週3時間の体育実技を年間指導計画に従って実施する。本校の体育施設で実施できる実技種目を実施している。1年男子では、バレーボール・サッカー(フットサル)・バスケットボール、水泳、持久力トレーニングを2単位で実施し、剣道とテニスを1単位で行う。夏季は水泳を実施する。女子では、陸上競技(ハードル・投てき)・バレーボール・バスケットボール、水泳、持久走を2単位で実施し、ダンスとバドミントンを1単位で行う。夏季は水泳を実施する。また、各学期において体づくり運動・体育理論を実施する。

学習方法

実技種目の記録(学習・個人・グループ)ノート等の利用により活動の経過を把握し、進歩の状況を自ら確認しながら行う。6月の第2週目から9月第3週目までは、水泳の授業を集中して行う。1年では、クロール・背泳ぎの習得を目標とする。目標に著しく到達していないと判断された場合は、特別水泳講習に参加し指導を受ける。3学期には、体力向上のために、持久的トレーニングを行う。

学習を通じて育成したい資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	活動中の様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	他者の発言に対して、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
行動力 (解決する力)	指導者等の説明や助言を着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことを自分なりの改善を加えて実行することで、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分が必要行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。
創造力 (生み出す力)	習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼすことができる。

評価の方法

1 単位 100 点とし、実技テスト・記録・発表・レポート等をもとにし、欠席・遅刻・早退・見学等の態度を含め総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	体づくり運動	3	体ほぐし運動／体力を高める運動	互いに協力して練習や競技ができるようにすると共に、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 練習場所や用品用具などの安全を確かめ、健康・安全に留意して活動できるようにする。
		体育理論	2	運動・スポーツの文化的特徴	
	バレーボール (男子)	16	パス レシーブ サービス スパイクトス ゲーム 審判法		
6	ハードル・投てき (女子)			スタート 50m走 フォーム ハードリング 記録測定 ターボジャブ	
	剣道 (男子)	8	礼法 竹刀の握り方 素振り 構え 防具のつけ方・しまい方		
	ダンス (女子)		身体を自由に動かして表現する 課題学習		
		体力テスト		体力テスト	
	6	水泳 (男女)	2	クロール・背泳ぎの習得 姿勢作り けのび	
			10	キック (足・脚の動作) プル (手・腕の動作) コンビネーション 息つき ターン	
2 学 期	9	水泳 (男女)	9	1 学期の復習・記録測定	チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにする。
	10	体づくり運動	3	体ほぐし運動／体力を高める運動	
		体育理論	2	運動・スポーツの文化的特徴	
	サッカー (フットサル) (男子)	16	リフティング パス トラップ ドリブル キック シュート ゲーム 審判法		
	バレーボール (女子)			パス レシーブ サービス スパイクトス ゲーム 審判法	
剣道 (男子)	8	構え 体さばき 素振り 約束稽古 約束掛かり稽古 掛かり稽古			
		ダンス (女子)	8	グループ創作 発表と鑑賞	
3 学 期	1	体育理論	2	運動・スポーツの文化的特徴	
		バスケット (男女)	8	ドリブル パス シュート ゲーム・審判法	
	体づくり運動	8	持久的トレーニング (男女)		
	テニス (男子)	8	フォア・バックハンドストローク サービス、ボレー・ゲーム・審判法		
	バドミントン (女子)	8	サービス・クリアー・ドロップ ヘアピン・スマッシュ・ゲーム・審判法		

学習者へのメッセージなど

体育の授業を通して生涯にわたる健康的な生活を営むために必要とされる、基本的な礼儀・体力を身につけてほしいと思います。また、実技授業にふさわしい体育着を着用の上、名前をしっかりと記入し、体育館・武道場では指定の体育館履きを必ず使用して下さい。見学の際は生徒手帳に理由を記入し保護者印を押して、授業開始前に担当教諭へ提出して下さい。授業中は体育着を着用した上で、見学記録を書き、授業終了後に提出して下さい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	保 健		1 単位	必修	対象学年	1 年
教科書 副教材	現代高等保健体育 (大修館) 図説現代高等保健 (大修館)	教科担当				

学習の目標

現在及び生涯にわたり自他の健康や安全の課題を解決するための基礎となる科学的な知識を身につけ、健康で質の高い生活を送るための理解を深めるとともに豊かな生活を営む態度と実践力を身につける。

授業内容と学習方法

本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、1年生では「現代社会と健康」を中心に個人と健康の関わりについて学習していく。

学習内容を大別すると1. 健康の考え方 2. 健康と意志決定・行動選択 3. 生活習慣病・感染症とその予防 4. 精神の健康 5. 交通安全 6. 災害発生と安全・健康 7. 応急手当 に分けられる。

保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。内容によっては、思考力、判断力、表現力の育成のため、グループワーク、レポートの作成や研究発表を行うなどの形式も組み込まれる。

学期に1回の定期テストの点数に、平常点(授業への主体的取り組み、提出物など)を加味して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	学習活動中の様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	他者の発言に対して、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策について筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	グループ活動の中で自己の考えを整理し、言語化することができる。	言語化した自己の考えを、分かりやすく他者に伝えることができる。	レベル2に加え、立場や考えの異なる他者に対して、自己の考えを論理的に伝え、議論することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	グループ活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。

行動力 (解決する力)	指導者等の説明や助言を着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことを自分なりの改善を加えて実行することで、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。
----------------	--------------------------------------	--	---

評価の方法

定期考査・提出物・発表・レポート・活動状況等をもとにし、総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4	現代社会と健康	1 2	1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意志決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり 5. 生活習慣病とその予防 6. 食事と健康 7. 運動と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 (期末考査)	我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するための、ヘルスプロモーションの考え方を生かす。 人々が適切な生活行動を選択し、実践することの大切さを学ぶ。 自らの環境を改善していく努力が必要であることを理解していく。
2 学 期	9	現代社会と健康	1 3	12. 現代の感染症 13. 感染症の予防 14. 性感染症・エイズとその予防 15. 欲求と適応機制 16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処 18. 心の健康と自己実現 (期末考査)	
3 学 期	1	現代社会と健康	1 0	19. 交通事故の現状と要因 20. 交通社会における 運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり 22. 応急手当の意義とその基本 23. 心肺蘇生法 24. 日常的な応急手当 (学年末考査)	

学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めて下さい。
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てていく場です。
授業に積極的に参加するためにも、新聞やニュースなど現在の保健情勢に目を向けることも大切です。授業へは教科書・図説・ノート等教科担任の先生の指示に従って臨んで下さい。

芸術科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:音楽 I

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	校歌 リズム打ち 楽典	MUSIC NOTE
	期末	日本・外国の歌曲 リズムアンサンブル 楽典	〃
2 学 期	中間	レポート発表 混声四部合唱 楽典	MUSIC NOTE
	期末	キーボードアレンジ創作 混声四部合唱 楽典	〃
3 学 期	学年末	クラスコンサート	MUSIC NOTE

科目:美術 I

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	水彩技法演習	
	期末	平面着彩課題①	
2 学 期	中間	デザイン(サイコロ制作)	
	期末	彫金(銀製品制作)	
3 学 期	学年末	平面着彩課題②	

科目:書道 I

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	文字学及び硬筆書法	
	期末	楷書法基本点画・臨書(各書風)	
2 学 期	中間	行書基本点画	
	期末	行書・蘭亭序臨書	
3 学 期	学年末	仮名基本いろは歌 仮名・蓬萊切臨書	

(令和5年度 第3学年)

科目:音楽Ⅱ

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考	
1 学期	中間	個別自由課題 ※音楽系教育系進学希望者は入試問題演習		
	期末			
2 学期	中間			
	期末			
3 学期	学年末		特別講習受講生のみ	

科目:美術Ⅱ

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考	
1 学期	中間	個別自由課題 ※美術系進学希望者は入試問題演習		
	期末			
2 学期	中間			
	期末			
3 学期	学年末		特別講習受講生のみ	

科目:書道Ⅱ

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考	
1 学期	中間	個別自由課題		
	期末			
2 学期	中間			
	期末			
3 学期	学年末		特別講習受講生のみ	

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	芸術 音楽 I		2 単位	必修選択	対象学年	1 年
教科書 副教材	高校生の音楽 1 (音楽之友社) MUSIC NOTE (啓隆社)	教科担当				

学習の目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育て感性を高める。
- ・創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- ・生涯にわたり音楽を楽しむための基礎力を身につけ、音楽文化についての理解を深める。

授業内容と学習方法

表現分野【歌唱、器楽(ボディー・パーカッションを含む)】は、発声法・呼吸法・楽器の奏法など、技術的な事柄も含めて、曲へ取り組む中で学んでいく。また、パート別練習やグループ練習を通じて自己の役割と責任を果たし、仲間と協力して音楽を作り上げる体験をする。創作分野は楽典【音楽理論全般(主に MUSIC NOTE にて自主学习)】や器楽の学習と合わせ、世界の名曲 日本の伝統音楽 世界の民族音楽などの鑑賞も授業や自主学习で取り組む。また、1年間の最後に行うコンサートは、個々の特性を活かして、集大成として行う。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
情報活用力 (選択する力)	様々な音源や情報の中から、課題に対して適切かつ重要な事柄を主体的に判断し、取捨選択することができる。	取捨選択した音源や情報を使って、課題解決に活かすことができる。	レベル2に加え、課題をより良く解決し、他者と協働したり他者に向けて表現するなど、情報発信をすることができる。
探究心 (考える力)	生活と文化の密接な関わりについて考え、音楽文化の普遍性について理解することができる。	レベル1に加え、社会と文化の密接な関わりについて考え、音楽文化の現代的意義や効用、働きについて理解することができる。	音楽文化に興味を持ち、レベル2に加え、自己の考えを見出して他者に表現や説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	情報活用力をふまえ、自己の主張や表現を見出し、整理し、言語化することができる。	感性を働かせて自己の主張や表現を能動的に構想し、他者に向けて表出することができる。	レベル2に加え、感性や表現方法の異なる他者に対して、自己の表現を根拠を持って伝え、演じたり発信することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	自己と異なる考えや感性、表現を冷静に受け止めることができる。	他者と自己の考え・感性・表現方法の共通点・相違点を把握することができる。	レベル2に加え、考えや表現の多様性を尊重かつ受け入れることができ、新たな価値観を身につけることができる。
行動力 (解決する力)	言われたことを着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことに主体的な改善や工夫を加えて実行し、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、周囲を巻き込んで物事を生み出すことができる。
創造力 (生み出す力)	既知の知識・技能を使って、自己表現をすることができる。	複数の知識・技能を自己の経験と統合し、発想力と観察力をもって表現を構想し、工夫することができる。	レベル2に加え、創造的で豊かな表現を積極的に構想し、楽曲に相応しい表現ができ、他者による影響を及ぼすことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス	1		授業秩序を知り、伸び伸びと表現できる 雰囲気全体で作る
		斉唱 楽典 ソルフェージュ	7	戸山高校校歌 音部記号、音名 リズム打ち	●実技試験 ○ノート提出 パルスの感覚を身に付ける ●個別チェックテスト
	後 半	鑑賞 楽典 リズムアンサンブル	14	日本と世界の音楽 拍子、音程、音楽史 ボディーパーカッション	○まとめ課題提出 ○ノート提出 ボディーパーカッションとグループ学習 の楽しさを知る ●実技発表
2 学 期	前 半	鑑賞	12	楽器、作曲家、ジャンルに関する研究発表	様々な音楽に触れて知識を深め、視野を広げ、音源を用いた発表を行う ○レポート提出 発声法・呼吸法の基本を学ぶ パートの役割を知り、責任を持って歌う ○ノート提出
		独唱・合唱 楽典		愛唱歌・混声四部合唱曲 音程、音階	
	後 半	合唱 楽典 器楽、創作	14	混声四部合唱曲 コードネーム、反復記号、音楽記号 キーボードアレンジ	各声部の役割を自覚し、責任をもって歌えるようにする ●実技発表 ○ノート提出 楽典で学んだコードネームを用いてキーボード伴奏を創作し、弾き語りをする ●実技発表
3 学 期		クラスコンサート	20	ハンドベル・トーンチャイムなど 発表会	グループ活動（企画立案、練習）1年間の集大成としてふさわしいコンサートを作り上げる ●実技発表

学習者へのメッセージなど

週1回の限られた時間です。有意義な時間にしましょう。
失敗を恐れずポジティブに、やる時には何事にも‘本気’で取り組むこと。
すると、いつしか表現の幅が広がっていくものです。
また、集団で作り上げていく授業内容が主となります。
周りとの協調精神を大切に、取り組んで下さい。

※これらの授業計画（内容）は、新型コロナの状況及びコロナ感染防止対策のガイドラインによって適宜変更されます。ご了承ください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	美術 I	2 単位	必修選択	対象学年	1 年
教科書 副教材	高校生の美術 1（日本文教出版）	教科担当			

学習の目標

- ・自己表現や創造の意義を知る。
- ・想像力と表現力を高める。
- ・芸術作品を鑑賞する姿勢を伸ばし、芸術学への理解を深める。

授業内容と学習方法

- 【描画材料演習】 水彩色鉛筆を使い、着彩表現を研究する
 【絵画】 テーマ設定のある着彩画を1学期と3学期、計2作品制作する
 【デザイン】 サイコロの目をデザインし、描画制作する
 【工芸】 シルバークレイ粘土を使用し、オリジナルの銀製品を制作する

- ・教科書の技法解説資料を元に演習を行う。
- ・教科書やプリントの参考作品画像を使用し、発想の引き出し方を解説、指導する。
- ・プレゼンテーションや投票といった、皆で学び合う機会を設定する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
情報活用力 （選択する力）	多種多様な情報から自己にとって重要なものを選択することができる。	選択した情報をモチーフとして活用し、作品を制作することができる。	A に加え、他者の芸術作品や自己の作品を生活に取り入れることができる。
探究心 （考える力）	美術・芸術の世界の意義は何か、考えることができる。	美術・芸術の意義について、作品を鑑賞したり制作することで考えることができる。	A に加え、自己の考えを他者に説明し、共感や理解を得ることができる。
情報発信力 （伝える力）	表現したい事項を作品として表現できる。	作品に込めた自己の意図を他者に伝えることができる。	A に加え、自己の作品と他者の作品の共通点や相違点を議論することができる。
傾聴力 （受け入れる力）	新たな、または自己と異なる意見・思考を受容することができる。	自己の意見・思考以外の情報との共通点・相違点を整理できる。	A に加え、多様性を受け入れると共に自己との合意点を見出すことができる。
行動力 （解決する力）	説明や助言を着実に実行し、課題を解決できる。	説明や助言内容に自分なりの改善を加えて実行し、課題をより良く解決できる。	A に加え、自己の意図する表現に近づける試行と根気強い追求ができる。
創造力 （生み出す力）	これまでに得た技能と知識を使い、作品制作・表現ができる。	新たな技能・知識を自己の経験と統合し、表現を進歩させることができる。	A に加え、未知の手段をも創造し、他者にも良い影響を及ぼすことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス 描画材料演習	1 7	水彩色鉛筆・水彩 技法	画材の種類・成り立ちについて学ぶ 水彩技法を習得する
	後 半	絵画	1 4	着色課題作品制作	与えられたテーマに沿って出たイメージ を他者に「伝える」ことを意識して、「自 己の発表作品」として制作する
2 学 期	前 半	デザイン	1 2	サイコロのデザイ ン・制作	デザイン考案・制作を通して、社会・生活 におけるデザインの役割と相互の関わり に気付き、学ぶ
	後 半	工芸（彫金）	1 4	シルバークレイ粘 土による銀製品制 作	金属素材に触れ、加工することで工芸技術 や工芸品への興味関心を高める
3 学 期		絵画	1 4	自画像作品制作	「自己を表現する」ことについて深く考 える 美術解剖学を知り、学ぶ 色々な表現技法について調べ、取り入れ る

学習者へのメッセージなど

幅広い画材・素材の体験を通して美術の広さ・深さを知り、
描く喜び・作る喜び・見る喜びを通して、表現することの素晴らしさに気付いて欲しい。
自分自身の気持や欲求を表現することにより、新たな自己を発見して下さい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	書道 I	2 単位	必修選択	対象学年	1 年
教科書 副教材	書 I (教育図書刊)	教科担当			

学習の目標

- ☆漢字文化圏の伝統芸術である書の美を学び、文化史の一端として捉える。
- ☆書写力の向上と文字に関する教養を深める。
- ☆芸術に親しむ心を養い、情操を豊かにする。

授業内容

- ☆ 1学期楷書体 2学期行書体 3学期仮名
- ☆ 楷書体・行書体・仮名の成立・発展の過程を古典の名品で探る。
- ☆ 文字の原初の字形・字義、筆順の由来、活字体と筆写体の相違など文字に関すること。
- ☆ 毛筆をはじめとする筆記用具の特性を知り、その使い方に習熟する。
- ☆ 実用書：葉書・封筒の宛名、金封等の書式及び表書など、用語の書法的要領を知る。

学習方法

《実技》課題の解説によって本時のポイントを理解させ、実習する。助言・添削等の指導を行い習熟させる。習熟度の高まりに従い、古典を直に臨書し、より高度な段階を目指す。
《理論》各書体のはじめに成立の要因・発展過程を教科書・プリント等で解説する。文字に関する解説は本時の内容に即して行う。展開に応じて、レポート提出を行うこともある。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
情報活用力 (選択する力)	用途に応じて適切な用具・用材を選ぶことができる	用途に応じて適切な用具・用材を選び、表現することができる	A に加え、書と生活に生かす態度が養われている
探求心 (考える力)	書の特質、書と生活が理解できる	B に加え、書に興味を持ち、主体的に取り組むことができる	A に加え、書の現代的意義、書の文化を理解できる
情報発信力 (伝える力)	情報・活用力をふまえて目的や形式に適した書写ができる	B に加え、他者に表現を伝えることができる	A に加え立場や考えの異なる他者に対して自己の考え、書写能力を発揮できる
傾聴力 (受け入れる力)	自己の異なる意見や考え、書写能力を冷静に受け入れることができる	他者と自己の書写能力の共通点・相違点を把握することができる	A に加え、多様性を受け入れつつ、自己の書写能力との合意点を見出すことができる
行動力 (解決する力)	主体的学習力の伸長を図ることができる	B に加え、自己の喜びを得ることができる	A に加え、意図の表現に近づける試行・根気強い追及ができる
創造力 (生み出す力)	創意・工夫を尊重し、自主性に任せて喜びを得ることができる	B に加え、目的意識を持って吟味・推敲することができる	A に加え、他者にも良い影響を及ぼすことができる

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス	1		
		字学	2	字義・筆順・画数・部首名・平仮名及び片仮名の字母	漢字・仮名に関する教養を深め、文字意識を高める 書写体と活字体の字形の相違を理解する
		楷書基本点画	2	横画・縦画・左右払い 曲がり・反り・点	毛筆の特性・機能、基本点画の書き方を理解する
	後 半	楷書法	5	書風の相違	既学習の内容を拡充し、習熟度の密度を高める 特に結構法への造形意識を高揚する
2 学 期	前 半	行書	2 6	行書体基本点画 行書体蘭亭序臨書（半紙）	行書の発生・展開を理解する。 用筆・結構の要点を理解し添削・助言を受け、習熟を目指す。
	後 半	行書	4	行書体蘭亭序臨書（半切）	構成・結構の要点を理解し、添削・助言を受け、習熟を目指す。
3 学 期		仮名	2	仮名单体	用筆・結構の要点を理解し、添削・助言を受け、習熟を目指す。
			2	仮名連綿	連綿の要領を理解する。添削・助言を受ける。 仮名は単語・短文の連綿法について添削・助言を受け、練度を上げる。
			4	蓬萊切臨書（料紙）	

学習者へのメッセージなど

書は後天性の強い芸術とされ、書法の正しい理解と努力によって目覚ましく進歩するものです。また、書の美は一樣ではありませんが、基礎となる項目＝文字の結構の基本・筆記具の使い方は同一です。そこが理解出来ると楽しくなります。活字体は書く為のものではありません。書く為には書写体を学ぶことが肝要です。授業では、書法の基本的事柄について道案内します。判らないこと、出来ないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。この授業を介して「書」に興味を抱くことになれば幸甚に思います。

家庭科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:家庭基礎

(2単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> 生活を設計する 子どもと共に育つ 	職業労働と家事労働 生涯発達の視点と社会福祉 ライフデザイン これからの保育環境
	期末	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会を生きる 共に生き、共に支える <期末考査> ・ホームプロジェクト	高齢期の理解 これからの高齢社会 ユニバーサルデザイン
2 学 期	中間	<ul style="list-style-type: none"> 食生活をつくる 調理実習① <期末考査>	食事と栄養、食の安全、食文化 糖分・塩分濃度比較(PET 飲料・味噌汁) 加工食品官能評価 調理実習
	期末	調理実習② 調理実習③ <ul style="list-style-type: none"> 衣生活をつくる 	(日常食、行事食の調理) 被服管理 1/10 小袖雛型製作、被服管理
3 学 期	学年末	<ul style="list-style-type: none"> 住生活をつくる 経済生活を営む 生涯を見通す 	住生活の計画と選択 クレジットカード 契約 持続可能な消費

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	家庭基礎	2単位	必修	対象学年	1年
教科書 副教材	『家庭基礎 自立・共生・創造』東京書籍 『最新生活ハンドブック』第一学習社	教科担当			

学習の目標

- 1 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付ける。
- 2 生活の中から問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、課題を解決する力を身に付ける。
- 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

授業内容と学習方法

- 自立・共生・創造の3つ課題について学習する。
- 1 実践的・体験的に学ぶ…実験・実習、ふれあい体験、観察により五感で情報を整理する。
 - 2 問題解決的に学ぶ…家庭や社会に関する問題を発見・分析し、主体的に判断、解決する。
 - 3 つながりながら学ぶ…他教科で学んだ知識と関連づけ、理解を深める。
 - 4 事前学習、事前準備…実験・実習を効果的に進めるための計画・目標をたてる。
- 定期考査の点数に、平常点(授業への主体的取り組み、実習レポート、提出物等)を加味して、評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい 資質・能力	B	A	S
情報活用力 (選択する力)	自立した生活に向けて必要な基礎的・基本的な知識・技能を選択する能力を身に付けている。	自分や家族との生活に向けて必要な基礎的・基本的な知識・技能を選択する力を身に付けている。	各分野について、自分や家族・家庭、地域・社会の役割を理解し、それらの充実・向上にむけて必要な基礎的・基本的な知識・技能を選択する力を身に付けている。
探究心 (考える力)	持続可能な社会に向けて、自ら問題点について考える力を身に付けている。	持続可能な社会に向けて、課題解決のために思考を深めることができる。	課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして、考えをまとめ、判断する力を身に付けている。
情報発信力 (伝える力)	持続可能な社会に向けて、自ら問題点を伝える力を身に付けている。	持続可能な社会に向けて、課題解決のために思考を深め、適切な判断し表現することができる。	課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして、考えをまとめ、判断し、伝える力を身に付けている。
傾聴力 (受け入れる力)	持続可能な社会に向けて、自ら問題点を見出すことができる。	持続可能な社会に向けて、課題解決のために思考を深め、適切な判断をすることができる。	課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして、考えをまとめ、判断する力を身に付けている。

行動力 (解決する力)	調べ・グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを聞くことができる。	調べ・グループ学習で、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気付きを得ることができる。	調べ学習・グループ学習で、自分の意見を伝え、他者の考えとの合意を見出すことができる。
創造力 (生み出す力)	持続可能な社会に向けて、自ら問題点を見出し解決する力を身に付けることができる。	持続可能な社会に向けて、課題解決のために思考を深め、適切な判断をして、表現する力を身に付けることができる。	課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして、考えをまとめ、判断し、表現する力を身に付けることができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
1 学 期	4	自分らしい人生をつくる	6	・ライフデザイン	・キャリアパスを見据えた、ライフスタイルについて意見交換 ・超高齢・人口減少社会の現状と子育ての課題を見出し、実習レポート提出
	5	子どもと共に育つ	6	・職業労働と家事労働 ・生涯発達の視点と社会福祉	
	6	高齢社会を生きる 食生活をつくる	6 6	・ユニバーサルデザイン ・食事と栄養 <期末考査>	・共生社会の現状と課題 ・食生活を見直す
2 学 期	7			・ホームプロジェクト ・食事バランスガイド	・テーマを設定、夏季休業中に実践、2学期の授業で発表
	9	食生活をつくる	14	・食の安全・食文化 ・調理実習① <期末考査>	・調理実習の作業手順の計画、 材料費計算、調理理論などプリント提出
	10			・調理実習② ・調理実習③	
11	衣生活をつくる	10		・平面構成と立体構成	
12		4	・被服管理		
3 学 期	1	住生活をつくる 経済生活を営む	14	・住生活の計画と選択 ・契約	・これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルについてまとめる。
	2			・クレジットカード ・家計のリスク管理	
	3	生活を設計する	4	・持続可能な消費 ・生涯を見通す	

学習者へのメッセージなど

「家庭基礎」では個人の生活を人の一生から見ていきます。また、授業を通して生活者としての自分を考える時間をもってほしいと思います。さらには個人と家族、社会との関係から生活を捉えていきます。生活の課題の解は一つではありません。そのため高校で学ぶ地理・倫理・日本史・世界史・公民・国語・英語・美術・情報・生物・化学・保健体育などの学びと繋ぐことで、新たな発見があるはずです。意思と行動力を持った消費者市民としてのライフスタイルを築く、その第一歩を戸山で踏み出しませんか。「考える」こと、「省みる」こと、「生活に実践する」こと。“Plan Do See”

【関連する大学学部】

家政学部・生活科学部・生活環境学部

情報科の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:情報の科学

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1学期	中間	ガイダンス コンピュータ史 インターネット史	Word 使用 Internet 使用 副教材 使用
	期末	インターネットの仕組み 著作権	副教材使用 HTML 使用
2学期	中間	検索方法の向上 個人情報保護	Excel 使用 PowerPoint 使用
	期末	違法行為犯罪行為 HTML 実習	HTML 使用 Excel 使用
3学期	学年末	表計算ソフト実習 関数・グラフ実習	Excel 使用 副教材 使用

(令和4年度 第2学年)

科目:情報の科学

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1学期	中間	プレゼンテーションソフト実習 コンピュータの仕組み	PowerPoint 使用 Internet 使用 副教材 使用
	期末	モデル化とシミュレーション実習 実験報告書の書き方 誤差と有効数字	Excel 使用 PowerPoint 使用 副教材 使用
2学期	中間	モデル化とシミュレーション実習 最小二乗法	Excel 使用 PowerPoint 使用 副教材 使用
	期末	アルゴリズム実習 プログラミング実習	Excel VBA 使用 Java Script
3学期	学年末	アルゴリズム実習 プログラミング実習	Excel VBA 使用 Java Script

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	情報の科学	単位	必修・選択	対象学年	1年
教科書 副教材	日本文教出版 新・情報の科学 情報のノート 新・情報の科学 等	教科担当			

学習の目標

コンピュータを活用して、情報収集・加工・発信の基礎的な能力を身に付けることを目指す。情報処理能力の重要性を認識して、使いこなすために各人が自分で工夫することを目指す。また、アルゴリズムの理解、プログラミング能力を高める。

授業内容と学習方法

歴史からコンピュータの仕組みを学ぶ、情報社会に参画する能力を身につけ、個人情報を守る、検索エンジン・検索効率の向上、著作権を学び、違法行為・犯罪行為から身を守る、プログラミングの活用、ビジネススキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し、知識を蓄える。授業内のプリントや課題を完成させる。課題を確実に提出する。コンピュータの操作方法に慣れる。実習課題を確実に提出する。指示された予習復習を確実にやる。小テストや課題確認問題に全力で取り組む。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
情報活用力 (選択する力)	情報社会と人間にかかわることに関心を持ちながら、様々な情報の中から何が重要かを主体的に判断し、取捨選択することができる。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について考え、取捨選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について深く考え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	変化する情報社会の諸課題に関する新たな知識を収集し、既知の知識とあわせて理解しながら、疑問点を整理することができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察し、論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、自己の解決策の筋道を立てて他者に提案し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	変化する情報社会の諸課題に関する新たな知識を収集し、既知の知識とあわせて理解しながら、疑問点を整理することができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察し、論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、自己の解決策を筋道を立てて他者に提案し、理解してもらえる。
傾聴力 (受け入れる力)	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるときに、他者の考えを冷静に聞くことができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるときに、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得ることができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるときに、他者の考えを聞いて、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得て、その合意点を見出すことができる。

行動力 (解決する力)	既知の知識・技能を使って、着実に実行することで、課題を解決することができる。	既知の知識・技能のみでなく、自分なりの改善を加えて実行することで、課題をより良く解決することができる。	既知の知識・技能に加え、自分にとるべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで、より高次の視点で解決することができる。
創造力 (生み出す力)	既知の知識・技能を使って、解決策を生み出すことができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合ったよりよい解決策を生み出すことができる。	未知の状況でも目的を達成するためのよりよい解決策を生み出し、他者との関係において、より発展的に新しい関係性を生み出すことができる。

授業計画

第1学年

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス コンピュータ史 インターネット史	6	学習スタイルの把握 情報社会への理解	コンピュータ室の利用方法、コンピュータ利用の校内ルールの習得
	後 半	インターネットの仕組み 著作権	6	インターネットの仕組みの理解 インターネット検索 著作権保護の知識習得	文化祭に向けた、著作権侵害などの知識の習得
2 学 期	前 半	検索方法の向上 個人情報保護	6	個人情報保護の理解 モラル・ルールの理解	個人情報流出、違法行為、
	後 半	違法行為犯罪行為 HTML 実習	7	タグの使い方 Web ページの作成 アナログとデジタル、2進数等の知識習得	犯罪行為をしない知識の習得
3 学 期		表計算ソフト実習 関数・グラフ実習	10	表計算ソフトの使用方法的習得 関数やグラフの使い方	表計算ソフトの基本スキル習得 ビジネススキルの習得

学習者へのメッセージなど

分からないことを分からないままにはしないこと。どこがどのように理解できていないのかを把握し、問題意識を持つことがとても大切です。周囲の友人との情報交換をしたり、資料・文献を用いた調査研究を行ったり、教員へ質問をしたりするなど、積極的な学習活動を行ってください。

知の探究(知の探究)の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:知の探究 I

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエンテーション リサーチトレーニング	
	期末	リサーチトレーニング リレー授業	
2 学 期	中間	リサーチトレーニング 地学巡検事前学習	戸山祭
	期末	リサーチトレーニング 城ヶ島地学巡検 講演会:災害と防災技術 研究成果予備発表	SWR 巡検 ポスター作成 東京都内 SSH 指定校 合同発表会
3 学 期	学年末	リサーチトレーニング 研究成果発表及び見学 学年講演会 (研究成果最終発表)	ポスター作成 TSS 関東近県合同発表会

(令和4年度 第2学年)

科目:知の探究 II

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエンテーション:海洋をテーマに関連した SDGsの内容での 課題研究の発表を目指す研究計画作成 テーマ設置及び課題研究の進め方	
	期末	テーマ決定 テーマ別ゼミ構成:実施計画・調査	
2 学 期	中間	課題研究:中間報告と見直し(リサーチヘリックス)	戸山祭
	期末	課題研究:論文の書き方・発表の仕方(パワーポイント)	SWR ポスター作成 東京都内 SSH 指定校 合同発表会
3 学 期	学年末	課題研究:まとめと発表 課題研究:報告書の作成	ポスター作成 TSS 関東近県合同発表会

(令和5年度 第3学年)

科目:知の探究Ⅲ

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	研究計画作成(仮説の設定から実験による検証)	
	期末	課題研究(口頭発表・ポスター発表)、文献調査	
2 学 期	中間	論文作成と応募	
	期末	報告書素案の作成	ポスター・口頭発表指導
3 学 期	学年末	報告書の完成	レポート作成

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	知の探究I		1単位	必修選択	対象学年	1年
教科書	課題研究メソッドStart Book（啓林館） 地学基礎 改訂版（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店）	教科担当				

学習の目標

1. 科学的なリテラシー(観察力、データの整理法、規則性の発見の喜び、探究的態度など)の育成
2. 自己学習力の基本としての学習に対する自主的な姿勢と意欲と関心の喚起
3. パソコンを使ったプレゼンテーション技術・能力の育成
4. 会話・討論・プレゼンテーション能力を身につけさせるとともに主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
5. 自ら習得した知識や技術を社会へ発信する総合力の育成

学習到達度規準

探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備ができたか。
科学を論理的に議論するために必要な能力を身に着けたか。

授業内容

- ①探究活動に必要なとなる基本的な手法や態度を、系統的・経験的に学ぶ。
- ②城ヶ島地学巡検に関連する、地学分野（プレート、火山、地層、堆積構造、地史）の講義や実験・観察・実習
- ③観察からの仮説の設定、課題研究のテーマ探しと実験・観察・実習
- ④観測機器の使用の基礎（顕微鏡、望遠鏡、ハンドレベル、クリノメーターなど）
- ⑤文献調査とまとめ（レポート、ポスターの作成）
- ⑥校内ポスターセッション、プレゼンテーションの実習
- ⑦探究活動の疑似体験（リサーチトレーニング）
- ⑧成果発表会などを見学するとともに外部での発表の見学することで発表能力を育成する
- ⑨大学・研究所・企業等の研究者による講演会
- ⑩校内の教員によるリレー授業

学習方法

主体的、自発的、積極的に取り組むことが必要である。地学巡検を題材として身の回りの事物・現象の観察・実験をとおして、科学技術リテラシーの育成を目指した討論を経験させ、サイエンスのトピックスについて海外の方々と話し合う機会を活かすことで、生徒の探究意欲を育て、講演会の内容を具体的なイメージとして理解するように心がける。興味関心を広げ、考えを深めることで、研究を極めていく力・国際社会で議論する力の素地を育成させる。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度：科学現象に興味を持ち、進んで探究しようとする意欲を持つようになる。
2. 科学的な見方・考え方：自然現象を観察し、科学の方法を身につけ、自らテーマを設定し考えを深めていくことができる。
3. 知識・理解：学習した知識を用いて正しく推論し、実験結果を予想して解釈できるようになる。

評価の方法

レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行っているかという、自己学習力の観点から総合的に判断して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	地学現象やSDGs・海洋に関心をもちながら、様々な情報の中から、重要な情報を主体的に取捨選択できる。	地学現象やSDGs・海洋に関心をもち、様々な情報を取捨選択した上で、課題解決に活用することができる。	地学現象やSDGs・海洋に関心をもち、様々な情報を取捨選択した上で、他者と協働しながら、よりよく課題解決ができる。
探究心(考える力)	地学現象やSDGs・海洋に興味をもち、それらの課題を整理し、自分でなぜかを考える姿勢をもっている。	地学現象やSDGs・海洋に興味をもち、それらの課題を整理し、論理的に事実を分析し、課題解決策を考えることができる。	地学現象やSDGs・海洋に興味をもち、課題の整理、論理的な分析を行い課題解決の筋道を立て、他者に説

			明し議論することができる。
情報発信力 (伝える力)	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して、言語化して伝えることができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理し言語化した上で、わかりやすく伝える事ができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理・言語化した上で、考えの異なる他者に対して説得力を持って伝え、議論することができる。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・知の探究ガイダンス ・基礎地学講座 ・リサーチトレーニング ・観察及びデータ取得の方法 	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の探究の進め方について学ぶ ・活動する地球（プレート、火山、標本等の観察） ・毎時間探究方法について学ぶ ・顕微鏡などを用いた観察方法を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎地学講座 ・リサーチトレーニング ・SDGs講演 ・リレー授業 ・観察及びデータ取得の方法 ・地学巡検 ・ポスターの準備 	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・地球史の読み方（地層、地質構造、標本等の観察） ・毎時間探究方法について学ぶ。 ・SDGsについての講演を聴く ・異なった分野の関連性から多面的に物事を考える姿勢 ・クリノメーターやハンドレベルで計測方法を習得する ・城ヶ島巡検でフィールドワークを経験することで研究手法の幅を広げさせて、実験観察力を育成する。 ・城ヶ島巡検のレポートをミニポスター形式で作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価する。 ・SDGsについての理解 ・リレー授業の意識調査から物事を多角的に見ることへの意識の変容を見る。 ・習得した調査手法で調査できているかではかる
3 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの準備 ・研究成果発表 ・校内での発信 ・基礎地学講座 ・リサーチトレーニング ・校外への発信 ・2年次のテーマ決定 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの準備 ・城ヶ島巡検のレポートをミニポスター形式で発表する ・校内外での発信 ・リサーチトレーニング ・海洋とSDGsから「知の探究Ⅱ」の個別テーマを決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン資料及びポスターの伝わり易さ。 ・発表の姿勢と聴衆からの評価。 ・ポスター等の完成度 ・1年間の探究活動の経験を踏まえてテーマを決定する

学習者へのメッセージなど

<p>本校が文部科学省から指定されているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、科学技術系人材の育成のみならず、学校全体としての取り組みが求められています。この要請に基づき、たとえ理系の進路に進まなくても、世界市民として科学技術リテラシーを有する人材の育成が重要と考え、探究活動に必要な能力を育成するために「知の探究」を設置しました。</p> <p>内容は、既設の教科科目全般と関連するが、1学年の「知の探究Ⅰ」では、本校で30年以上続いている特色ある行事である城ヶ島地学巡検で現地での自然の観察を基本的な題材として、探究の方法について体系的・体験的に学びながら、科学技術リテラシーの育成を目指した様々な活動を経験し、探究意欲を育て教養を育み、2学年の「知の探究Ⅱ」・3学年の「知の探究Ⅲ」へのアプローチとなることを目指しています。</p>
--

知の探究(スーパーサイエンス)の進捗計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:SS I

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	オリエンテーション, コンピュータの利用、観察方法、器具の操作方法、自然観察や基礎実験	レポートの作成
	期末	基礎科学実習	レポートの作成
2 学期	中間	基礎科学実習 課題研究準備 特別授業	戸山祭で発表
	期末	プレゼンテーションの基礎・基本 SSH 講演会,	発表用パワー ポイント作成
3 学期	学年末	課題研究のテーマ決めと予備実験 関東近県 SSH 合同発表会における発表見学と交流	発表用ポスター作成

(令和4年度 第2学年)

科目:SS II

(3単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	オリエンテーション(課題研究の発表を目指す) 研究計画作成(仮説の設定から実験による検証) 課題研究の進め方	SSH 講演会
	期末	基礎実験、課題研究:テーマ設定・実験計画・実験	SSH 特別授業
2 学期	中間	大学と連携した実験 課題研究:戸山祭で中間報告	SSH 講演会
	期末	課題研究:論文の書き方・発表の仕方(パワーポイント)	課題研究
3 学期	学年末	課題研究まとめと発表	課題研究

(令和5年度 第3学年)

科目:SS III

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学期	中間	研究計画作成(仮説の設定から実験による検証)	
	期末	課題研究(口頭発表・ポスター発表)、文献調査	
2 学期	中間	論文作成と応募	
	期末	中間報告書の作成	ポスター・口頭発表指導
3 学期	学年末	報告書の作成	レポート作成

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	スーパーサイエンス I	3単位	必修選択	対象学年	1年
教科書	課題探究メソッドStartBook 他	教科担当			

学習の目標

1. 数学、物理、化学、生物、地学、情報の6つのコースに分かれて科学技術人材に必要なリテラシーを修得する。
2. 科学的現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
3. 科学的な基本概念を形成し、より高度な知識を受け入れる素地を形成すること。
4. 探究の方法やプレゼンテーションの方法の基礎・基本を身につけること。
5. 最新の科学技術の動向について見通しを持つこと。

学習到達度規準

科学への興味関心が増し、探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備ができたか。理解して工夫し科学の魅力を多くの人に伝えることができたか。

授業内容

6つのコースに分かれて行うがどのコースも探究活動の発表を行う。そのため将来必要な観察力、データの整理におけるコンピュータの利用法、規則性の発見の喜び、探究的態度などを育成すること、勉強に対する意欲と関心を喚起すること、論理的思考力と表現力を高めることなどを目的として、自然現象を対象とした観察・実習を中心に行う。理数情報分野についての課題研究などの準備をする。地域連携として科学教室の運営も行う。

週時程に入る授業時間は2時間で、残り1単位については、長期休業中、休日や放課後の時間にフィールドワークなどを実施して当てる。科学館訪問や大学の先生による発展的な内容の講演、大学や研究機関の研究室訪問実習も行う。科学系のコンテスト参加への素地を作る。

学習方法

観察や実習に自発的、積極的に取り組むことが必要である。観察や実習の目的を的確に把握し、協力して作業を能率良く進めることが大切である。その結果をレポートにまとめて提出する。まとめて発表する方法を学ぶことで知識を整理する力が育ち、論理的思考力や表現力が養われる。

講演会の内容には高度なものが含まれ、理解が難しいこともあるが、話された内容を言葉として覚えるのではなく、具体的なイメージとして理解するように心がける。質問の時間に、自分のイメージを確認する質問や、そのイメージから推論されることについて質問することでさらに理解が深まる。また、講演会や実習の題材について自分で調べたりして興味関心を深め、課題研究のテーマを決め、予備実験として取り組む。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度：科学現象に興味を持ち、進んで探究しようとする意欲を持つようになる。
2. 科学的な見方・考え方：自然現象を観察し、そこから規則性を見つけることができるようになる。科学の方法を身につけ、自らテーマを設定し研究を行うことができる。
3. 表現・処理：実験や観察の結果をコンピュータやタブレットを用いて処理してレポートにまとめ、発表するための能力を身につける。
4. 知識・理解：学習した知識を用いて正しく推論し、実験結果を予想して解釈できるようになる。

評価の方法

レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行っているかという、自己学習力の観点から総合的に判断して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力（選択する力）	科学に関する事物や現象に関心を持ち、様々な情報の中から、重要な情報を主体的に取捨選択できる。	科学に関する事物や現象に関心を持ち、様々な情報を取捨選択したうえで、問いを立てて課題を解決することに生かすことができる。	科学に関する事物や現象に関心を持ち、様々な情報を取捨選択したうえで、他社と協働しながら、明確な問いを立て行動な課題解決ができる。

探究心（考える力）	科学に関する事物や事象に関心をもち、それらの課題を整理し、自ら問いを立てる姿勢を持っている。	科学に関する事物や事象に関心をもち、それらの課題を整理し問いを立て、論理的に事物を分析し、課題解決策を考えることができる。	科学に関する事物や現象に高度な興味を持ち、課題の整理、論理的な分析を行って課題解決の道筋を立て、他者に説明し議論をして高めあうことができる。
情報発信力（伝える力）	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して、言語化して伝えることができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して言語化した上で、わかりやすく相手に伝えることができる。	発表活動やグループ活動で、自分の考えを整理・言語化した上で、考えの異なる他者に対して説得力を持って伝え、議論することができる。

授業計画（注意）講師の都合で講演会などの時期を変更する場合があります。

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習内容の詳細や留意点など
2 学 期	4 5	導入 コンピュータの 利用 自然観察 基礎実験	2 2 4	<ul style="list-style-type: none"> SSHとは コンピュータの使い方 自然観察 ワード、エクセルの使い方 考察の仕方、レポートのまとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 講座の内容解説などを行う。 コンピュータの使い方に慣れる。 自然の観察法を身につける。 科学の種々の分野に興味を持つ。 考察を議論し合い、再実験を行う。
		6 7 8	基礎科学実習 特別授業 戸山祭準備	14 6 6	<ul style="list-style-type: none"> 器具の操作、原理、測定方法、分析方法の基礎について学ぶ。 科学者や技術者の話などをきく。 発表を行う準備をする。
	9 10 11 12	基礎科学実習 課題研究準備 特別授業	4 4 4	<ul style="list-style-type: none"> 戸山祭で来校者に対して科学教室を行う。 統計・プレゼンテーションの方法の基礎・基本を学ぶ。 テーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学の不思議さと楽しさを伝える。 エクセルを用いたデータ集計とパワーポイントを用いて作成法を習得する。 課題研究テーマを探す。
		課題研究 特別授業 発表会参加	8 2 2	<ul style="list-style-type: none"> 先端科学の研究を知る。 生徒研究成果発表会(SWR) データの整理の方法を習得 指定校合同発表会など 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を育て、調べてまとめる。 顕微鏡や望遠鏡など科学機器の操作技能を高める。 上級生や他のSSH校との合同発表会を参考にする。
		1 2 3	課題研究 発表会参加	10 2	<ul style="list-style-type: none"> 予備実験を行う。 生徒研究合同発表会(TSS) 関東近県SSH合同発表会

学習者へのメッセージなど

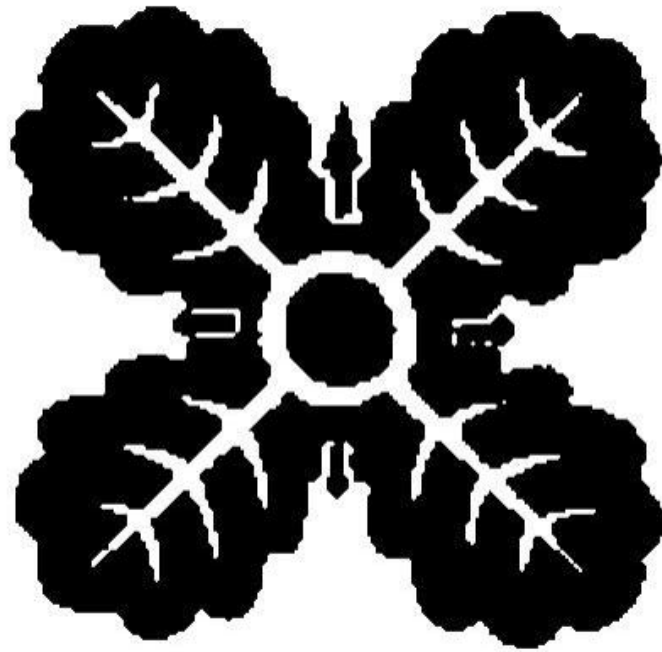
本講座を受講する生徒には、理系進学を志望する人が比較的多い。この講座の受講をきっかけとして、理数及び情報などの科学全般に対する興味や関心をどんどん深め、そこから自ら学ぶ姿勢と取り組み方を身につけよう。学習の内容や進め方には、他の科目にはない独特なところが多くあります。他の通常の科目の学習に組みながら、本講座における多くの観察・実験・検証などに主体的・自発的・自立的に参加する姿勢が求められます。また、校内外で議論や発表の機会を経験することで、コミュニケーション能力を高めることが重要です。1年間しっかりと取り組むことができれば、基本的な探究の方法を修得し、理系文系に関わらず、どんな分野の科目の学習に対しても自信を持って取り組む力を身につけられるはずです。

なお、年間12回程度、開講日の7校時目に城ヶ島巡検に必要な火山・地質・地史分野地質について学習する時間を設定します。

マトリクス設計図 数学と理科（物理・化学・生物・地学）の学習項目と学習時期の一覧表

		M数学	P物理	C化学	B生物	E地学	
1年	1学期	【数学Ⅰ】 ○数と式 整式の加法・減法・乗法 因数分解 根号を含む式の計算 1次不等式	【数学A】 ○場合の数と確率 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列 組合せ		○生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー	○地球 地球の概観 地球の内部構造 ○活動する地球 プレートと地球の活動 地震（対数） 火山活動と火成岩の形成	
		○数と式 集合 命題と条件 命題と証明 ○2次関数 2次関数のグラフ（B生物の体内環境） 2次関数の最大と最小 ○データの分析（P放射線） データの代表値 データの散らばりと四分位範囲	○場合の数と確率 事象と確率 確率の基本的性質 独立な事象の確率 反復試行の確率 条件付き確率		○遺伝子とそのはたらき（指数） 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成	○地球と生命の進化 先カンブリア時代 顕生代	
		分散と標準偏差 データの相関 ○2次関数 2次関数の決定 2次方程式 2次不等式	○図形の性質 三角形の辺と比 三角形の内心・外心・重心 チェバの定理・メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線 方べきの定理 2つの円の位置関係 作図 直線と平面 多面体		○生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫 (グラフの読み取り)	○地球史の読み方 堆積岩とその形成 地層と地質構造（三角比） 地球の歴史の組み立て	
	2学期	○図形と計量 三角比（相互関係、拡張）（E地層） 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積	○整数の性質 約数と倍数 最大公約数と最小公倍数 割り算と商及び余り ユークリッドの互除法 1次不定方程式 n進法 分数と小数		○生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全（指数）	○大気圏の構造 大気圏、水と気象 ○太陽放射と大気・海水の運動 地球のエネルギー収支（P熱エネルギー） 大気の大循環、海水の大循環 ○日本で見られる季節の気象 冬から春の気象、夏から秋の気象	
		「数と式」の発展 ○式と証明 二項定理 整式の割り算 分数式 恒等式 等式・不等式の証明	「図形の性質」の発展 点と直線 円		○生殖と発生 動物の生殖と発生 発生のおくみ 植物の生殖と発生	○太陽系と太陽 太陽系の天体 太陽系の誕生 太陽 ○恒星としての太陽の進化 太陽と恒星（M指数） 太陽の誕生と進化 ○銀河系と宇宙 銀河系とまわりの銀河 宇宙の姿	
		【数学Ⅱ】 ○複素数と方程式 2次方程式 高次方程式 ○図形と方程式 軌跡と領域	【数学B】 ○平面上のベクトル 平面上のベクトルとその演算	○物体の運動（Mベクトル） 速度（M微分・積分） 加速度（M微分・積分） 落下運動 ○力のはたらきとつりあい さまざまな力（Mベクトル） 力の合成・分解とつりあい	○物質の構成 物質の探究 原子の構造（P原子核と放射線） 化学結合 物質の量の表し方（M指数） 溶液の濃度 化学反応式と物質質量		
2年	1学期	○三角関数（P単振動、波動） 三角関数 加法定理	○平面上のベクトル ベクトルと平面図形	○運動の法則（E太陽系） 運動の3法則 運動方程式の利用（M指数） 抵抗力を受ける運動 ○剛体に働く力 剛体にはたらく力（Mベクトル積）	○物質の変化 酸と塩基の反応 中和滴定 酸化還元反応 金属の酸化還元反応 電池 電気分解		
		○指数関数と対数関数（P放射線） 指数の拡張 指数関数（B遺伝子、生態系、 物質の量、E太陽と恒星） 対数とその性質 対数関数（C化学平衡、E地震） 常用対数	○空間のベクトル 空間のベクトル	○仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率、力学的エネルギー ○運動量の保存 運動量と力積 運動量の保存 反発係数 ○熱とエネルギー 熱と温度、エネルギーの変換と保存	○無機物質 周期表と元素 水素と希ガス ハロゲン 酸素と硫黄 窒素とリン 炭素とケイ素		
	○微分法と積分法（P速度と加速度） 微分係数と導関数 導関数の応用 積分法	○数列 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号Σ 階差数列 いろいろな数列の和 漸化式・数学的帰納法	○波の性質（M三角関数） 波の表し方とその要素 波の重ね合わせ 波の干渉・反射・屈折・回折 ○音波 音の伝わり方、物体の振動	○無機物質 アルカリ金属元素 2族元素 両性元素 遷移元素 金属元素の分離			
3年	1学期	「微分法」の発展 数列の極限 無限等比数列	数列演習 「発展学習」 いろいろな関数	ドップラー効果 ○光波 光の性質 レンズと鏡（M相似） 光の回折と干渉 ○静電気と電流	○有機化合物 (B細胞と分子、タンパク質、光合成、 窒素同化) 有機化合物の特徴 有機化合物の構造決定 炭化水素 酸素を含む有機化合物 芳香族化合物		
		【数学Ⅲ 5単位】 ○極限 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性 ○微分法 微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数 接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化、最大と最小、グラフ	【数学Ⅲ 2単位】 ○式と曲線 放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質	円運動 慣性力と遠心力 単振動（M三角関数） 万有引力（M指数）	○化学結合と物質の状態 化学結合 物質の状態 気体の性質 溶液の性質	○細胞と分子（Mグラフの読み取り） 生体物質と細胞 生命現象とタンパク質（C有機化合物） ○代謝（Mグラフの読み取り） 呼吸 光合成（C有機化合物） 窒素同化（C有機化合物）	地球の形状 地球の内部（M対数）
		○積分法 不定積分とその基本性質 置換積分法 部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 定積分の置換積分法・部分積分法 定積分の種々の問題 面積と体積 速度と加速度 近似式	○媒介変数表示と極座標 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 ○複素数平面 複素数平面 複素数の極形式と乗法、除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形	電場 電位 コンデンサー 半導体 磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導（Mベクトル積） 交流（M三角関数） 電磁波（M微分方程式）	○化学反応の速さと平衡（M指数） 化学平衡 水溶液中の電離平衡（M対数） ○生活と物質 プラスチックの化学 食品の化学 衣料の化学 金属とセラミックス ○生命と物質 生命の化学（B生命現象とタンパク質） 薬品の化学	○遺伝情報の発現（M指数） 遺伝子の発現調節とその応用 ○生殖と発生（Mグラフの読み取り） 有性生殖 動物の発生 植物の発生	地球の活動 地球の歴史（M三角比）
2学期	速度と加速度 近似式 曲線の長さ 速度と道のり ○数学Ⅲ演習 ○数学ⅠⅡA B演習	ド・モアブルの定理 複素数と図形 ○数学Ⅲ演習 ○数学ⅠⅡA B演習	気体の法則（E大気の運動） 気体の分子運動 気体の内部エネルギーと仕事 電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造 原子核と放射線（M指数と統計） 核反応とエネルギー 素粒子と宇宙	演習	○生物の環境応答 動物の反応と行動 植物の環境応答	大気圏の構造と運動（P気体の法則） 海洋と海水の運動	
	○数学Ⅲ演習 ○数学ⅠⅡA B演習	○数学Ⅲ演習 ○数学ⅠⅡA B演習	大学入試問題の過去問を中心とした問題演習	演習	○生態と環境 個体群と生物群集（M指数・対数） 生態系 ○生物の進化と系統 生物の進化の仕組み（M二項定理） 生物の系統	太陽系（P運動の法則） 恒星と銀河（M指数） 銀河と宇宙	

令和3年度
年間授業計画
(第2学年)



東京都立戸山高等学校
全日制課程

目 次

1. 第2学年教育課程表	1
2. 単位の認定及び進級・卒業	2
3. 評価	2
4. 定期考査	2
5. 3年間の教科学習の構成	3
6. 各教科・科目の年間授業計画	
国 語	9
地理歴史・公民	13
数 学	17
理 科	21
保健体育	25
外国語	29
情 報	35
SSH	37
知の探究Ⅱ	40
7. マトリクス設計図	
数学と理科(物理・化学・生物・地学)の学習項目と学習時期の一覧表	

1. 第2学年教育課程表

令和2年度入学生 教育課程

教科目	1学年		2学年		3学年		
	必修	選択	必修	選択	必修	選択A	選択B
国語	国語総合	5					
	現代文B			2	2	2	2
	古典B			3		5	2
地歴	世界史A					2	2
	世界史B			3		4	
	日本史A					2	2
	日本史B			3		4	
	地理B	2				4	2
公民	現代社会					2	2
	倫理	2				2	2
	政治・経済					2	2
数学	数学I	3					
	数学II			3		4	2
	数学III					5	2
	数学A	3					
	数学B			2			
理科	物理基礎			3			1
	物理					4	2
	化学基礎			3			1
	化学					4	2
	生物基礎	2					1
	生物					4	2
	地学基礎	1					1
保健体育	体育	3		3	2		
	保健	1		1			
芸術	音楽I	○2				2	2
	音楽II					2	2
	美術I	○2				2	2
	美術II					2	2
	書道I	○2				2	2
	書道II					2	2
外国語	コミュニケーション英語I	3					
	コミュニケーション英語II			3		4	
	コミュニケーション英語III					4	2
	英語表現I	2					
	英語表現II			2		2	
家庭情報	家庭基礎	2				2	2
	情報の科学	◇1		◆1			
国語	SSH 論述基礎				1		
	SSH 論文						2
知の探究	スーパーサイエンスI	△3					
	スーパーサイエンスII			▲3			
	スーパーサイエンスIII						1
	知の探究I	□1					
	知の探究II			■1			
外国語	ドイツ語				2		
	フランス語				2		
	SSH 英語				1		
教科等の合計単位数		33～34		33～37		27～36	
総合的な探究の時間		1		0		0	
H R		1		1		1	
H R を含めた総合計		35～36		34～38		28～37	

(1) 1,2年生の芸術○印は、音楽・美術・書道のうちから1科目選択する。
(2) 1年は、△印の「スーパーサイエンスI」または□印の「知の探究I」を履修する。
「スーパーサイエンスI」は、◇印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
(3) 2年は、▲印の「スーパーサイエンスII」または■印の「知の探究II」を履修する。
「スーパーサイエンスII」は、◆印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
(4) 3年の「スーパーサイエンスIII」は、「スーパーサイエンスI, II」の履修者のみが履修することができる。
3年の「知の探究III」は、「知の探究I, II」の履修者のみを選択することができる。
(5) 2年の自由選択科目からは、1～2科目を選択することができる。
(6) 3年の必修選択科目は、5単位を1科目、4単位を2科目、2単位を1科目選択する。
(7) 「人間と社会」は「総合的な学習の時間」で代替する。

2. 単位の認定及び進級・卒業について

①単位

1週間1時間の授業1年分が1単位である。

②単位の履修

当該教科・科目の授業に出席し、指導を受け、その科目の欠時数が年間授業時数(教育課程に定められたその科目の週時間数×35)の1/3以下である場合に単位の履修が認められる。

③単位の修得

教科・科目を履修したうえで、さらに教科・科目の目標から見て満足できる成果を上げた場合に単位の修得が認定される。

④進級について

各学年ごとの進級に必要な条件は以下の通りである。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第1学年において未修得教科・科目の単位数の合計が5単位以内。

第2学年において未修得教科・科目の単位数の合計が6単位以内。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

⑤卒業について

卒業に必要な条件は以下の通りである。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第3学年において未修得教科・科目の単位数の合計が7単位以内であり、かつ、3年間の修得教科・科目の単位数の合計が85単位以上であること。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

3. 評価

①評価の方法

科目の成績評価は各学期ごとに行い、第1、2学期は10段階法、学年末では5段階法によって示す。第3学年は各学期末の評価は5段階法とする。

学年成績を表す5段階法では、単位を修得できなかった科目は1で、それ以外は5, 4, 3, 2で評価する。

②評価の基準

定期考査、小テスト、宿題等の成績および平常の学習状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などを考慮して、総合して算定する。

4. 定期考査

定期考査は1、2学期は2回、3学期は1回の計5回行う。ただし、3学年の3学期の期末考査を行わない場合もある。

国語科 3年間の教科学習の構成

	現代文	選択現代文	SSH論文	古典〔文系〕	文系古文	理系古典
学習到達度	①基礎的な語彙力を養うため漢検2級程度の語彙を習得する。 ②センター試験80%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次試験に対応する読解、記述力を習得する。	①高度な論理的文章を読み、理解力を養う。 ②センター試験90%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①論述力を高めるための技術を習得する。 ②難関国公立大学の二次試験、後期試験に対応できる記述力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②センター試験に80%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立大学二次試験に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②センター試験80%正解する力を9割生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②センター試験80%正解する力を9割の生徒が習得する。
1年	科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の2単位をあてる。 ①論理的文章の読解を通じ、近代以降の問題や思想を捉え考察を深める。 ②小説において登場人物の心情や行動を読み取り、小説のテーマ等も捉える。 ③詩歌の言葉や表現を味わうことにより、感性や情操を豊かにする。 ④漢字学習、意見の発表、討論などを通じ、語彙や表現力、論述力を伸ばす。			科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の3単位をあてる。 ①古典文法、漢文の句形に習熟して語釈解釈ができるようにする。 ②様々な時代の文章を読み、日本の思想や美意識について知る。 ③故事成語、史話、思想を読み、中国の文化・歴史の認識を深める。 ④和歌、漢詩を味読し、言語感覚を養い、読解・鑑賞力を身につける。		
2年	科目：現代文B 履修：必修2 ①文学的文章として1学期「山月記」2学期「こころ」等を味わい、人物・情景・心情を捉える。主題について思考を深化させ自分の考えを表現する。 ②論理的文章について、論理の展開や要旨を捉えて現代が抱えるテーマについて考察する。また、構成を意識して自分の意見を論理的に表現する。 ③近代以降の時代、思想の流れを学び作品理解につなげる文体や修辞の表現上の特色を捉える。	科目：SSH論述基礎 履修：自由1 ①スピーチ・討論・プレゼンテーション。 ②現代の諸問題について調査・考察する。 ③課題文・資料・統計等の読解・分析を行う。 ④論文作法を学び、小論文を作成する。	科目：古典B 履修：必修3 ①教科書を中心として、より多くの作品を、総合的に（文法・単語・時代背景・古典常識などを踏まえて）理解し、作品を通じてものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ②古典の世界を広げるために、古文においては日本史の知識、漢文においては世界史の知識など、他の教科とも関係があることを意識し、作品の読解を深める。 ③文法や語彙の基本的事項の定着のため、副教材・プリント・小テスト等を活用する。			
3年	科目：現代文B 履修：必修2 ①近代以降の文章を読み、異なるジャンルの文体の特徴や時代背景を捉える。 ②論理的文章を読み、近代以降の諸問題や思想、論の流れを捉え、思考力を深め、表現力を高める。 ③副教材を用いて系統的な知識や語彙を充実させ、思考の手段とする。 ④教材を通じて、豊かな感性や想像力を磨く。	科目：選択現代文 履修：自由選択2 ①評論用語の意味を理解して語彙を増やす。 ②文章の構造を論理的に把握する。 ③思考プロセスを意識して設問に取り組む。 ④単元に関連したテーマの入試問題や資料から、読解を深化させる。 ⑤主題をもとに自分の考えを表現する。	科目：SSH論文 履修：自由選択2 ①テーマに関する文献や資料を分析し、少人数で討論、自らの考えを表現する。 ②大学入試小論文問題演習を行い、添削後の検証を行う。 ③原稿用紙800字程度の小論文を書き、時間内に書き上げる力をつける。	科目：古典B〔文系〕 履修：必修選択5 (文系の生徒は全員受講) ①教科書を中心として作品を総合的に理解する。 ②教材理解の手がかりを自ら発見し、各自が発展的課題に取り組めるようにする。 ③大学受験を視野に入れた入試問題の演習を通して、実践的読解力を身につける。	科目：文系古文 履修：自由選択2 (文系の生徒が中心) ①「源氏物語」を中心に「大鏡」や評論、影響を受けた漢文作品にも触れ、知識を広める。 ②演習を行い総合的に学習する。 ③プリントを使って、演習も組み入れる。 ④教養を深め、進路実現の力を身に付ける。	科目：理系古典 履修：自由選択2 (理系の生徒が中心) ①古文：奈良～江戸の和歌・日記・歌論・物語・評論等を扱う。 ②漢文：史伝・思想等多様な分野を扱う。 ③1学期は教科書を中心に作品鑑賞し2学期から入試演習を行う。 ④日中の文化に触れ教養を深め、進路実現の力をつける。

社 会 科 (地理歴史・公民) 3年間の教科学習の構成

	世界史A/B	日本史A/B	地理B	倫理	政治・経済
到達度	学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。
1 年	科目：地理B 履修：必修2		科目：倫理 履修：必修2		
	①「地理的なものの見方」を深める際に必要な地図について学ぶ。 ②自然環境について地形・気候から入り、災害・防災をとりあげ、徐々に人文的な内容を扱っていく。 ③産業学習として農業、資源、工業まで順に扱う。 ④都市と村落の機能や立地条件および課題について学ぶ。 ⑤人口問題、環境問題などグローバルな課題を取り上げる。 ⑥地誌的学習では、基本的にはなるべく多くの地域を取り上げる。		・青年期の「自分への問い」を出発点として、古今東西の哲学思想や宗教思想を取り上げ、それを青年期の心理的葛藤や、現代社会の諸問題との関連で理解するようにする。 ①青年期の自己形成、②人類思想の源流（ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想）、③ルネサンス以降の西洋近代思想の展開、④20世紀と現代思想、⑤現代文明が直面する倫理的課題、などについて学ぶ。		
	科目：世界史B 履修：必修3		科目：日本史B 履修：必修3		
2 年	・最初に古代・中世を概略的に学ぶ。 ・中心となるのは15世紀以降である。ルネサンス・大交易時代・宗教改革・主権国家群の形成を学習し、また、ユーラシア諸帝国の繁栄を学習する。 ・18世紀後半～19世紀初頭の大西洋革命（急速な工業化・アメリカ独立革命・ラテンアメリカ独立・フランス革命）から19世紀末までの近代ヨーロッパを学び現代社会の基本的枠組が形成される過程を理解する。 ・アジア諸地域の変革運動を学習し、植民地化と民族運動を理解する。 ・3年生で「世界史A」「世界史B」を選択すれば、通史が完成する。		・近世から近代(明治時代)までを主に学習する。 ・日本人と日本社会の成り立ちについて、今日の日本人の社会生活や精神生活、文化の基層がほぼ出来上がる近世初頭から学習を始めて、日本が国際社会の一員として出発し、重要な役割を担うことになる明治維新以降の近代史を通史的に学ぶ。 ・前半の原始・古代から中世までと現代(大正・昭和時代)は、3年生の「日本史B(4単位)」「日本史A(2単位)」で学習するので、3年生で「日本史B」「日本史A」を選択すれば、日本史Bを通史的に網羅し、大学入試に対応できる。		
3 年	科目：世界史A/B 履修：自由選択2/4	科目：日本史A/B 履修：自由選択2/4	科目：地理B 履修：自由選択2/4	科目：倫理 履修：自由選択2	科目：政治・経済 履修：必修2/自由選択2
	◎世界史A ・2年次の必修で未習部分の後半、近代後半から現代史。 ・帝国主義から冷戦解消後21世紀の歴史まで。2学期末から3学期は大学入試特別授業。 ◎世界史B ・2年次の必修で未習部分の古代史・中世史を中心に学ぶ。 ・センター試験から国公立2次と難関私大も対応する内容。	◎日本史A ・大正から昭和の政治・外交・社会・経済史を通史的に学ぶ。受験に対応できる基礎の確立をはかる。 ◎日本史B ・原始・古代から中世の戦国時代までを学習し、2年次の必修範囲につなげる。 ・さらに2年次に学習しなかった文化史も学習する。	・現代世界の系統地理的考察、現代世界の地誌的考察、地理情報と地図などの学習を踏まえ、世界の抱える諸課題等について正しい地理的認識が得られるように学習する。 ・2単位はセンター試験で高得点がとれるよう、4単位は難関大学にも対応できるように学習する。	・「倫理」の全領域のセンター試験必須事項を完全学習する。 ・プリントを使用し、教科書プラスαの補充事項も確認する。 ・センター試験問題演習を実施する。	◎必修 ・経済の分野から国際分野まで。時事問題を取り入れながら学習する。 ◎自由選択（政経プラス） ・政治の分野から始めて国際分野まで。演習問題等も取り入れながら学習する。 ・どちらもプリントを使用し、センター試験で得点できる力を習得する。

数 学 科 3年間の教科学習の構成

学 習 到 達 度	数学Ⅲ	数学Ⅱ α 4／数学Ⅱ α 2	数学Ⅱ β 4／数学Ⅱ β 2
	大学入試個別学力試験で、難関 国立大学に対応できる学力を身につける。	大学入試センター試験の全国平均点を25%上回る学力を身につける。	大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。
1 年	科目：数学Ⅰ 履修：必修3単位		科目：数学A 履修：必修3単位
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ全範囲及びその発展学習をする。数と式，2次関数，図形と計量，データの分析，式と証明（発展学習），複素数と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばし，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学Aの全範囲及びその発展学習をする。場合の数と確率，図形の性質，整数の性質，図形と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を育て，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
2 年	科目：数学Ⅱ 履修：必修3単位		科目：数学B 履修：必修2単位
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱの全範囲及びその発展学習をする。複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数と対数関数，微分法と積分法，数列の極限（発展学習），関数の極限（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学Bの全範囲及びその発展学習をする。ベクトル，数列，いろいろな関数（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
3 年	科目：数学Ⅲ 履修：必修選択5単位	科目：数学Ⅲ 履修：自由選択2単位	科目：数学Ⅱ α 4／数学Ⅱ α 2 履修：自由選択4単位／自由選択2単位
	微分法 微分法の応用 (1) 導関数の応用 (2) 速度と加速度 積分法 (1) 不定積分 (2) 定積分 積分法の応用 後半は入試問題演習、大学入試センター演習等を行う。	複素数平面 式と曲線 (1) 2次曲線 (2) 媒介変数表示と極座標 後半は入試問題演習、大学入試センター演習等を行う。	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容について，大学入試センター試験に向けた演習を中心に行う。 (数学Ⅰ) ●数と式 ●2次関数 ●図形と計量 ●データの分析 (数学A) ●場合の数と確率 ●図形の性質 ●整数の性質 (数学Ⅱ) ●式と証明 ●複素数と方程式 ●図形と方程式 ●三角関数 ●指数関数・対数関数 ●微分法・積分法 (数学B) ●数列 ●ベクトル

理科 3年間の教科学習の構成

	物理基礎／物理	化学基礎／化学	生物基礎／生物	地学基礎／地学
学習到達度	<p>◎物理基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験の全国平均得点を25%上回る学力を身につける。 <p>◎物理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で難関大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎化学基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題8割正解。 <p>◎化学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題9割正解。 ・難関国立大学の入試問題を最低でも5割正解できるようになる。 	<p>◎生物基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50%以上の生徒が、センター試験の全国平均得点25%上回る学力を身につける。 <p>◎生物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎地学基礎・地学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいた現象の理解ができるようになる。 ・センター試験において、8割以上の得点が得られるようになる。
1年	<p>科目：生物基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴（生物の多様性と共通性・生命活動とエネルギー） ・遺伝子とそのはたらき（生物と遺伝子・遺伝情報の分配・遺伝情報とタンパク質の合成） ・生物の体内環境の維持（体内環境・体内環境の調節・免疫） ・生物の多様性と生態系（植生の多様性と分布・気候とバイオーム・生態系とその保全） ・生殖と発生（動物の生殖と発生・発生のしくみ・植物の生殖と発生） 		<p>科目：地学基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球・宇宙を対象として、観察や実験実習及び巡検を通して自然への探究心を高める。 ・われわれの住む地球を、自然科学の知識をもとに総合的に考察する。 ・地球の姿とその変化、惑星としての地球、大気と地球の熱収支、生物の変遷と多様性について学習し、人間の活動と環境について考える力を養う。 ・2学期に城ヶ島巡検を実施し、実際に自分で地層や地質構造を観察し、報告書を作成する。 	
	<p>科目：物理基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てる。 ・基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 ・系統的で論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がける。 ・力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積み理解を深める。 		<p>科目：化学基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成：物質と探究・原子の構造と元素の周期表・化学結合 ・物質の変化：物質と化学反応式・酸と塩基・酸化還元反応 <p>観察や実験を取り入れながら、発展的な内容（無機化合物や有機化合物、電池や電気分解など）にも触れていき、理解を深める。</p>	
3年	<p>科目：物理基礎／物理 履修：自由選択1／4・6</p> <p>◎物理基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験のための講座である。問題演習を中心に行う。 <p>◎物理（4・6単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では教科書の各項目に則して、実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。 ・力学と電磁気は物理学で重要な柱である。十分に練習を積んで、理解を深めるような努力を望む。 	<p>科目：化学基礎／化学 履修：自由選択1／2・4</p> <p>◎化学基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら復習して、進路実現に向けた学習計画を立てる。 <p>◎化学（4単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結晶、物質の状態、化学反応の速さと平衡、高分子化合物、生命と物質。授業は前半で理論を中心に、後半で演習や実験を中心に展開していく。 	<p>科目：生物基礎／生物 履修：自由選択1／4・6</p> <p>◎生物基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞・代謝・遺伝子・恒常性・多様性・生態系・生殖・発生 ・センター試験のための講座である。問題演習を中心に行う。 <p>◎生物（4・6単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報の発現調整・代謝・環境応答・生態と環境・進化と系統 	<p>科目：地学基礎／地学 履修：自由選択1／2・4</p> <p>◎地学基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球誕生から現在までの地球史・生物の進化を学び、地球環境を理解 ・重力・地磁気等の地球物理的要素、火山や地震。日本列島の形成史 ・気象現象の各要素の理解、四季の天気変化の原因の考察 ・天文学史について1年次の復習、恒星宇宙から銀河宇宙までの学習

英 語 科 3年間の教科学習の構成

	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱプラス	コミュニケーション英語Ⅲプラス
到達度	・センター試験で8割以上得点できる学力を身につける。 ・難関国公立大学中心に出題される記述問題に対する解答力を磨く。	・国公立大学の二次試験や難関私立大学で出題される和文英訳、自由英作文の設問に対し、8割以上得点できる記述力を磨く。	・主に難関私立大学の入試に対応できる速読・精読力、文法・語法力を養う。 ・早慶大レベル入試で7割以上得点する学力を身につけることを目指す。	・国公立大学、難関私立大学の入試で7割以上得点できる学力を身につけることを目指す。
1年	科目：コミュニケーション英語Ⅰ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅰ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に扱い、英語の基礎力を養う。パラグラフの構成を意識しながら、教科書以外の物語・説明文なども丁寧に読み、文章を正確に理解できる読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に把握する速読力を養う。 ③授業以外の「多読」により、多量の英文に接し、直読直解の力を養う。 ④英語によるコミュニケーションを通じて、外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして実践的な英語力を養う。		①日常的な場面において、英語を聞いたり話したりする基本的なコミュニケーション能力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ②文法・語法学習を通して、言語の機能を理解し、英語を正確に理解する力を養う。 ③パラグラフィティングを通して、自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。 ④1クラスを2グループに分けて、少人数授業を行う。 ⑤英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。	
2年	科目：コミュニケーション英語Ⅱ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の総合的な力を伸ばす。ディスコース・マーカーやパラグラフの展開を意識しながら、教科書以外の物語・説明文等を丁寧に読み、文章を正確に理解できる高度な読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に理解する速読力を伸ばす。 ③授業以外の「多読」により、さらに多量の英文に接し、高度な直読直解力を伸ばす。 ④自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。		①基礎的な語彙力・文法力を土台にして、英語を「書く」「話す」という表現力に結び付けていく。 ②パラグラフィティングを通して、自分の伝えたいことを適切に表現できる能力を養う。 ③海外の文化や社会について理解を深め、幅広い話題について表現できる能力を養う。 ④英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。2クラスを3グループに分けて、習熟度別授業を行う。	
3年	科目：コミュニケーション英語Ⅲ 履修：必修4	科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	科目：コミュニケーション英語Ⅱプラス 履修：自由選択4	科目：コミュニケーション英語Ⅲプラス 履修：自由選択2
	①これまでに身につけた基礎力を定着させると同時に高度な応用力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、内容を十分に理解する能力を養う。 ②難関大学入学試験・大学入学後の学習に対応できる読解力を養成する。 ③精読により文法・語法・構文・発音等に注意を払い、正確に読む力・早く読む力を養う。	①これまでに身につけた基礎力を確認し、高度な応用力を身につけ、正確な英文を書き、自分の言いたいことを十分に伝える能力を養う。 ②問題演習を通じて、語法・文法問題に対する解法力を磨く。 ③1クラスを2グループに分け、少人数授業を行う。 ④英作文演習を中心に、語法・文法問題演習を合わせて学習する。	①これまで身につけた文法・語法力を確認しながら、高度な総合的英語力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。 ②問題演習形式で行い、リスニングの教材も用いる。 ③適宜、テキスト以外の入試問題や新聞・雑誌記事等も扱う。自由英作文の問題演習も扱う場合がある。	①これまで身につけた文法・語法力を確認しながら、高度な総合的英語力の獲得をめざし、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。 ②問題演習形式で行う。また適宜、補充の演習問題や入試問題も扱う。

理数課題研究 3年間の教科学習の構成

到達度	外部への発表会参加と論文応募において入賞を目指す。入試においても好成績を残すことを目指す。
1年	<p>科目：スーパーサイエンスⅠ（SSⅠ） 履修：SSHクラス必修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理、化学、生物、地学の5つのコースに分かれて科学人材に必要なリテラシーを修得する。 2. 科学的現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。 3. 科学的な基本概念を形成し、より高度な知識を受け入れる素地を形成すること。 4. 探究の方法やプレゼンテーションの方法の基礎・基本を身につけること。 5. 最新の科学の動向について見通しを持つこと。
学習到達度	<p>5つのコースに分かれて行うがどのコースも探究活動の発表を目指す。そのため将来必要な観察力、データの整理におけるパソコンの利用法、規則性の発見の喜び、探究的態度などを育成すること、勉強に対する意欲と関心を喚起すること、論理的思考力と表現力を高めることなどを目的として、自然現象を対象とした観察・実習を中心に行う。理数分野についての課題研究などの準備をする。地域連携として天体観望会の運営や科学教室も行う予定である。</p> <p>週時程に入る授業時間は2時間で、残り1単位については、長期休業中、休日や放課後の時間に野外観察などを実施して充てる。科学館訪問や大学の先生による発展的な内容の講演、大学や研究機関の研究室訪問実習も行う。科学系のコンテスト参加への素地を作る。</p>
2年	<p>科目：スーパーサイエンスⅡ（SSⅡ） 履修：SSHクラス必修</p> <p>自主的な探求活動を中心に行い、地道で着実な実験と分析を繰り返す。 2年間のSSH講座の集大成として、対外的な発表を義務づけ目標とする。 講演会・大学訪問は受講者のみ義務。講演会は1年SS+希望者が加わる。 他校の発表会を参考とする。他校と交流し、外部発表会に慣れる。他校の独自の資料は大いに参考とする。 急なイベントにも対応する。（科学フォーラム、科学の甲子園、科学オリンピックなど） 大学受験問題から、実験装置を作って実験することも可能。</p>
到達度	<p>科学への興味関心が増し、探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備をし、理解して工夫し科学の魅力を多くの人に伝えることができるようにする。 レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行う。</p>
3年	<p>科目：スーパーサイエンスⅢ（SSⅢ） 履修：SSHクラス 自由選択</p> <p>2年間の課題研究を磨き上げ、生徒研究発表会などの外部発表会や科学コンテストの論文応募を行う。 英語論文作成にもチャレンジする。入試問題にも意欲的に取り組む。</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	現代文B		2 単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	「新精選現代文B」(筑摩書房) 「小論文ジャンル別キーワード解説」 (桐原書店) 「読解 評論文キーワード」(筑摩書房) 「重要頻出漢字リアルマスター3300」 (尚文出版) 「論理的に読み書く 現代文記述講座」 (数研出版) 他	教科担当				

学習の目標

- ・国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成する。
- ・論理的な文章や文学的な文章、韻文などを通して、ものの見方、感じ方、考え方などを深化させ、総合的な国語力を向上させ、人生を豊かにする態度を育てる。
- ・論理的思考力向上のために必要な知識・概念を身につけさせると共に、豊かな感性を養い、言語文化に対する関心を深める。

学習到達度

- ・基礎となる語彙力を養うために漢字検定準2級程度の語彙を習得する。
- ・共通テスト80%正解を7割の生徒が身につける。
- ・難関国公立大学の二次試験に対応できる記述力を身につける。

授業内容

- ・文学的な文章として、1学期「山月記」、2学期「こころ」などを味わい、人物・情景・心情を的確にとらえる。また、主題について思考を深化させ、自分の考えを表現する。
- ・論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえ、現代が抱えるテーマについて考察する。また、構成を意識し自分の意見を論理的に表現する。
- ・近代以降の時代、思想の流れを学び、作品理解につなげる。文脈での語句の意味や用法を理解し、文体や修辞の表現上の特色をとらえる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
情報活用力 (選択する力)	様々な資料を収集し、内容を適切に理解できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解した上で、課題に照らし合わせてその有効性を評価できる。	様々な資料を収集し、内容を適切に理解・評価した上で、課題を解決するために重要な情報を主体的に取捨選択できる。
探究心 (考える力)	学びに向かう意欲をもち、他者と関わり新たな視点を知ろうとしている。	文章や発表を理解しようとして他者と関わり、自らのもつものの見方にとらわれず新たな視点を理解しようとしている。	文章や発表を理解しようとして積極的に他者と協働し、自らのもつものの見方にとらわれず新たな視点を獲得しようとしている。

評価の観点

評価の方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況、学習態度などをもとに、総合的に判断し評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4	評論	12	「情報の彫刻」原研哉 「見る」太田省吾 「思考バイアス」	○評論による問題提起のあり方を知る。
	5	小説		「山月記」中島敦 (中間考査)	○小説において、人物、時代背景、場面、心情を的確にとらえると共に、読解を通じて人間存在や人生に対する自己の考えを深める。
	6	評論	12	「実態の美と状況の美」 高階秀爾 「アイオワの玉葱」長田弘	○様々な評論を読解し、論理の展開を学ぶ。
7	随想	「芝」峰飼耳 「空と風と星と詩」茨木のり子 (期末考査)		○随想に描かれた光景、心情を理解し、作者の感性を味わう。	
2 学期	9	小説	14	「こころ」夏目漱石	○人物、時代背景、場面、心情を的確にとらえると共に、読解を通じて人間存在や人生に対する自己の考えを深める。
	10	評論		「異時代人の目」若桑みどり 「つながりと秩序」北田暁大 (中間考査)	○社会と思想の関わりを理解する。
	11	評論	14	「身体、この遠きもの」 鷺田清一 「絵画の二十世紀」前田英樹	○様々なジャンルの評論を読み、認識を深める。
12	詩歌	「永訣の朝」宮澤賢治 「死にたまふ母」斎藤茂吉 (期末考査)		○詩歌に詠まれた作者の感慨、心情を味わい、表現について学ぶ。	
3 学期	1 2 3	評論	18	「虚ろなまなざし」岡真理 「『である』ことと『する』こと」丸山眞男 「絵画の二十世紀」前田英樹 (年度末考査)	○論理的な文章の型を知り、筆者の主張や論理の展開を正確に読み取る。 ○人間、時代、社会、政治について、客観的な視野を広げ、自己の考えを深める。

学習者へのメッセージなど

各自が思考力、鑑賞力、表現力を高める自発的な努力を求めます。教材を熟読した後で、語句の意味調べをしたり、脚問や教材の最後にある「学習」「発展」の問題を解いたりする等、必ず予習して授業に臨んでください。漢字小テスト、課題等は実力を付けるための演習です。上記の計画や学習内容については、省略したり、学ぶ順序を入れ替えたりすることもあります。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	古典B		3 単位	必修	対象学年	2 年
教科書	教科担当	「古典B 古文編改訂版」(筑摩書房) 「古典B 漢文編改訂版」(筑摩書房) 「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「新精選古典文法」(第一学習社) 「新明説漢文」(尚文出版) 「古文単語330」(いいずな書店) 他				
副教材						

学習の目標

- ・ 古典に親しむことにより、先人の考えに触れ、そこから多くを学びとる。
- ・ 古典作品に描かれた社会と人間が、現代の人間の生や問題意識にも通じ合うものであることを知る。
- ・ 古典の文章も、日本語として基本的に現代語と同じ「言語」であることの認識を深める。
- ・ 多くの古典の文章を読むことにより、語彙力を身につけ、読解力を養う。

学習到達度

- ・ 1年次で学習した古典文法を復習する。また古文単語を300語以上習得する。
- ・ 共通テスト80%以上の得点率を7割の生徒が身に付ける。
- ・ 難関国公立大学の二次試験に対応できる古典の読解力や記述力を身に付ける。

授業内容

教科書を中心に多くの古典作品を、総合的に(文法・単語・時代背景・古典常識などを踏まえて)理解し、作品を通じてものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。また、古典の世界を広げるために、古文においては日本史の知識、漢文においては世界史の知識など、他の教科とも関係があることを意識し、作品の読解を深める。さらには、文法や語彙の基本的事項の定着のため、副教材、プリント、小テスト等を重層的に活用する。

学習方法

予習を重視する(授業は復習の時間といえる)。読解力を身につけるためにも、古文・漢文のノートの作り方を工夫する。予習内容としては、古文においては、文章のリズムに慣れるために音読・全文書写を行い、文法事項(助動詞、敬語)、重要単語(古文特有語、古今異義語)、和歌の修辞法などの疑問点を明らかにしつつ、現代語訳をしておく。漢文においては、訓点を付ける練習のために、白文で全文書写を行い、人物関係や話の展開を考えつつ、現代語訳をしておく。授業以外の復習においては、副教材や問題集の内容や、授業と同様の文法事項の演習問題を抜き出して行う。

評価の観点

- ・ 関心・意欲・態度 … 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしたか。
- ・ 話す・聞く能力 … 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしたか。
- ・ 書く能力 … 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書いたか。
- ・ 読む能力 … 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりしたか。
- ・ 知識・理解 … 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けたか。

評価の方法

定期考査、提出物、小テスト、出席状況、学習態度等をもとに、総合的に判断し評価する。

授業計画,

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	〈古文〉 説話 物語 随筆 〈漢文〉 故事	18	『宇治拾遺物語』 『伊勢物語』 『枕草子』 「病入膏肓」「先從隗始」 「曳尾於塗中」他 (中間考査)	○用言の復習。(動詞、形容詞、形容動詞) ○助動詞の復習。 ○主語の確認と敬語の復習。 ○漢文を音読する。 ○訓点のきまり・文構造を理解する。
	後 半	〈古文〉 日記 随筆 〈漢文〉 漢詩	18	『更級日記』 『蜻蛉日記』 『方丈記』 『史記』 「秋風引」「山行」他 (期末考査)	○描写されている情景をイメージする。 ○助動詞・敬語の復習。 ○助詞の用法について学ぶ。 ○文章の展開・構成を理解する。 ○基本的な句形を理解する。 ○漢詩の決まりに従って情景を味わう。
2 学 期	前 半	〈古文〉 物語 〈漢文〉 史伝	21	『源氏物語』 「光源氏の誕生」「飽かぬ別れ」 『史記』 「四面楚歌」「天道是邪、非邪」 (中間考査)	○歴史的背景および登場人物の心情を捉える。 ○敬語を復習し、習得する。 ○紛らわしい語の識別。 ○基本的な句形を理解する。 ○中国史を理解する。
	後 半	〈古文〉 歴史物語 和歌 〈漢文〉 小説 文章	21	『大鏡』 「花山院の出家」「雲林院にて」 「万葉の歌」「王朝の歌」「近世 の句」 「壳鬼」「千日酒」「白亀」他 「漁父辞」「春夜宴桃李園序」 (期末考査)	○歴史的背景・登場人物の心情を捉える。 ○さまざまな時代の歌を味わう。 ○長文読解によって、概略をとらえる。 ○基本的な句形を理解する。 ○文章の歴史的背景や心情を捉える。
3 学 期		〈古文〉 評論 〈漢文〉 思想	27	『無名抄』 『毎月抄』 『論語』『孟子』『老子』『荘子』 等 (年度末考査)	○文法や語句を定着させる。 ○中世文学の特徴を時代とともに理解する。 ○和歌文学の基本知識、修辞を復習する。 ○文学史の知識を整理する。 ○基本的な句形を定着させる。 ○古代中国の様々な思想を読み取る。

学習者へのメッセージなど

正確な文章読解のために、1学年で学習した文法事項や句法といった基礎的な道具を確認し、習熟を図ります。必ず予習をして授業にのぞみ、分からないことや曖昧なことを1つずつ減らしていくことが大切です。1学期、古文では、用言および助動詞・助詞の復習、特に助動詞の理解を確実にします。漢文では、文の構造および句形の例文暗記を徹底します。2学期は、敬語、和歌の修辞の復習。3学期は、これまで学習してきた知識の体系化を目指します。古語の知識を含め、その使い方にも習熟すること。なお、上記の計画や学習内容については、省略したり、学習の順序を入れ替えたりする場合があります。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	世界史B	3単位	必修	対象学年	2学年
教科書 副教材	世界史B（東京書籍） 世界史用語集（山川出版社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）	教科担当			

学習の目標

複雑化した現代を知るためには過去を知ることが必要である。その現代は、その多くを近世・近代に源流を持っている。今日の世界がどのように形成され、現代にどのような影響を及ぼしたかを考察しながら、3年生の選択授業「世界史A」（主に現代史を学習する）、「世界史B」（主に古代・中世を学習する）へとつながる授業を行う。

学習到達度規準

学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。

授業内容と学習方法

世界史Bは2年生の必履修科目である。2年生では3単位で、ユーラシア諸帝国の概観と、ヨーロッパ、アメリカ大陸の近世・近代史を主に学習する。教科書、資史料集や地図、統計、視聴覚的教材の活用や演習を実施しながら「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を進めていく。前半の先史・古代から中世までと近現代(19世紀末以降)は、3年生の「世界史B」と「世界史A」で学習し通史を完成させることができる。評価は年5回行われる定期考査を中心に、出席状況・学習態度・課題・レポートなども含めて総合的に行う。定期考査は全クラスを共通問題で実施し、知識の整理を目指す内容と、記述力を高める内容の問題を出題する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	S	A	B
知識・理解	過去の膨大な歴史事象の中から主題を設定し、時間軸から歴史的事実を理解している。また、諸地域世界の相互の関連を空間軸から理解している。	諸地域世界の歴史事象を広域的に理解し、正しい用語を踏まえた上で歴史事象について正しく理解している。	歴史に対する正しい用語を身につけ、歴史事象について正しい知識を有している。
情報活用力	複数人による共同作業を通じて、地図、資史料、統計データを正しく読み取って諸地域世界の形成と交流を考察し、意見交換や意見集約を行って、他者に分かりやすく説明することができている。	諸地域世界の歴史について、地図、資史料、統計データを読み取って相互に関連させ歴史的事象を理解している。	諸地域の歴史について、年表や地図を活用し、歴史の事象について時系列的に理解している。
探究心	授業内容をよく理解し、発展的に課題を見出し、自らの方法で論理的に分析し、解決して他者に伝えることができている。	授業の内容をよく理解し、自分の意見を醸成した上で、論理的に他者に伝えることができている。	授業の内容を理解し、自分の意見を醸成し、自ら疑問点を見出すことができている。

学習者へのメッセージなど

世界史は人類の歩んできた大きな道筋を辿りながら、現在のわたし達が生きる世界の形成過程を知る科目です。新聞やニュース等をよく見ると、世界史で学習した内容が最新の出来事に大きく関わりを持っていることを知ることがあります。常に歴史の視点を持って、世界を見つめて下さい。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	第2編 広域世界の 形成と交流	2 1	・ 古代史, 中世史の概観 第9章-6 ルネサンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15世紀までの世界通史を概観する。 ・ ルネサンスと宗教改革の理解のため併せてユダヤ教, キリスト教を学ぶ。 ・ 大交易時代の理解のため, 併せて古アメリカを学ぶ。 ・ 繁栄する中国, 西アジア, 南アジアを概観する。
	5	第3編 一体化する 世界		第12章 大交易時代 第13章 ユーラシア諸帝国の繁栄 (中間考査) 第14章-1 主権国家群の形成と 宗教改革	
	6	第3編 一体化する 世界	2 1	第14章-1 主権国家群の形成と 宗教改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教改革, オランダ独立, 17世紀イギリス, フランスのユグノー戦争と絶対王政の追求を学び, 近世ヨーロッパに与えた影響を理解する。 ・ 三十年戦争を学び, 本格的な主権国家体制の到来について理解する。
	7			2 オランダの繁栄と英仏の追いあげ (期末考査) 3 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家	
2 学 期	9	(同上)	2 1	3 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17~18世紀にかけて西欧諸国が世界経済覇権を争う一方, 東欧諸国では啓蒙専制国家が台頭し, 相互に関係を持ちながら, 独自の歴史を展開したことを学ぶ。 ・ 「大西洋革命」の歴史的共通性を学び, 現代的意義も併せて理解する。
	10			4 近世ヨーロッパの社会と文化 第15章-1 激化する経済覇権抗争 (中間考査) 2 工業化による経済成長と社会問題の発生	
	11	(同上)	2 1	3 合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス革命期に生まれた自由・平等・国民主権等の理念がヨーロッパに広がり, ナポレオン後のウィーン体制が, 自由主義・ナショナリズムによって崩壊する過程を理解する。
	12			4 フランス革命とウィーン体制 (期末考査) 5 自由主義の台頭と新しい革命の波	
3 学 期	1	第4編 地球世界の 形成と 課題	2 1	5 自由主義の台頭と新しい革命の波	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀後半から20世紀初頭のヨーロッパ史について, クリミア戦争, イタリア・ドイツの国家統一, 仏の対外膨張, 英の繁栄, アメリカの拡大, 帝国主義と世界秩序までを学習し, 3年次の「世界史A」の授業につなげる。 ・
2		第16章-1 イギリスの覇権とヨーロッパ諸国			
3		2 南北アメリカの発展 3 第2次産業革命と社会生活の変化 4 植民地獲得競争と動揺する世界秩序 (年度末考査)			

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	日本史B	3単位	必修	対象学年	2学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳説日本史(山川出版社) ・ 新詳日本史図説(浜島書店) ・ 詳録新日本史史料集成(第一学習社) ・ 詳説日本史10分間テスト(山川出版社) 	教科担当			

学習の目標

歴史学習の目的は、どの時代を対象にするにしても、現在の日本や社会をより深く理解するための基礎的教養と歴史的考察力を身につけることにあります。私たちにとって大切なことは、現代をよりよく生きる力や未来を展望する能力を高めることであり、そのために必要な知識や方法を過去の出来事や人々の足跡から学び取ることです。

この授業では、歴史を構成する一つひとつの“史実”を積み上げながら、“史像”を理解・構想していくことを学んでほしいです。その上で、これからの人生で役立つ汎用的な力を身に付けてもらいたいと考えています。特に、「情報活用力」（選択する力）と「探究心」（考える力）の育成を重視します。

取り扱う範囲

2年生の「日本史B(3単位)」は、必修科目として、近世から近代(明治時代)までを主に学習します。前半の原始・古代から中世までと近現代(大正から平成時代)は、3年生の「日本史B(4単位)」・「日本史A(2単位)」で学習しますので、3年生で「日本史B」「日本史A」を両方選択すれば、日本史Bを通史的に網羅し、大学入試に対応できるようになります。

学習到達基準（「知識・理解」と「育成したい資質・能力」）

	レベル1（B）	レベル2（A）	レベル3（S）
知識・理解	個々の史実を理解し、その時代の全体像を理解することができる。	個々の史実を正確に理解し、その時代の全体像を具体的に理解することができる。	個々の史実を完全に理解し、その時代の全体像を総合的かつ具体的に理解することができる。
	定期考査を中心に、授業中の小テストなどを加えて評価。詳細な基準については、学期（または単元）ごとのルーブリックで、提示する。		
情報活用力 （選択する力）	歴史の史料を読みこなし、歴史事象との結びつきを理解できる。	歴史史料を正確に読みこなし、史料を活用して、歴史像を考えることができる。	歴史史料を完全に読みこなし、歴史像を考察するために必要な資料の取捨選択もできる。
	授業内で、図説や文書史料の活用を心掛けてほしい。学期ごとのルーブリックで、目標とする到達基準を示す。		
探究心 （考える力）	獲得した知識を活用し、歴史像を考え、諸課題について整理することができる。	知識を統合し、歴史像を構想することができ、課題の発見や整理ができる。これらを論理的に行い、表現することができる。	知識の統合の上に、歴史像を構想し、課題の発見が論理的にでき、表現することができる。その上で、新たな視点などを提案することができる。
	定期考査で、思考力を問う問題を出題予定。さらに、授業内での活動への取り組みや提出物を加えて評価する。詳細は学期ごとのルーブリックで示す。		

評価の方法

年5回の定期考査の成績とルーブリックで示す平常点によって、評価していく。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 ・ 5	日本通史 幕藩体制の 確立	1 5	日本の通史を概観 織豊政権／幕藩体制の成立 (中間考査)	日本通史を時期区分しながら、おおまかにつかむ。 鉄砲伝来から天下統一事業の過程を理解する。江戸幕藩体制の特質を理解する。
	6 ・ 7	幕藩体制の 展開	1 8	幕政の安定／経済の発展 (期末考査)	江戸幕藩体制の特質と江戸時代初期の外交を学習。幕府政治が如何にして安定を得たのかと、その上での経済発展を理解する。
2 学 期	9 ・ 10	幕藩体制の 動揺	1 6	幕政の改革／幕府の衰退 (中間考査)	幕府の改革政治の実態と対外危機の中で開国進取へと推移する幕末の政局の変遷について理解する。
	11 ・ 12	近代国家の 成立	2 0	開国と幕末の動乱／明治維新と富国強兵 (期末考査)	西欧列強を目標に近代的国家の形成に努めた経緯を国家の側だけでなく、民衆の動向についても理解する。
3 学 期	1 ・ 2 ・ 3	近代国家の 成立	2 4	自由民権運動／立憲国家の成立と日清戦争／日露戦争と国際関係／近代産業の発展 (学年末考査)	一連の近代化政策と自由民権運動の経緯をよくまとめること。日清・日露戦争を経て、西欧列強と同様に帝国主義の道を進むことになる日本のアジア外交について理解する。

学習者へのメッセージなど

2年生の日本史では、安土桃山時代～明治時代を中心に学習します。他の都立高校ではあまり例をみませんが、前近代と近現代の両方を学習することで、それぞれの政治機構や社会システムの特徴を考察することができるようになり、今年度学習していない時代もそれぞれの枠組みでとらえることができるようになります。

「歴史観」をもつということは、過去に対する独自の解釈をもつことのみを言うのではなく、現在のさまざまな視点から過去をとらえ直し、そこで考えたことをこれから向かうべき未来の指針につなげていくことができる能力だと思います。授業で扱える歴史の内容はかなり制約されたもので、これだけで「歴史観」を培うには物足りません。それを補って余りあるものが読書だと思います。読書による思索は、想像力を高め、考察力を鍛えるとよく言われます。歴史に関するものに限定はしませんが、学生である今のうちにたくさん読書して、日本と世界の将来をしっかりと見据えて行動できる社会人となることをめざしましょう。決して歴史を学ぶことは、年号や人名を暗記することではありません。教科書は学びをいざなう手がかりです。自ら書に学んだり、博物館や史跡を訪れたりして、主体的な学び（教えてもらうのではなく、自ら学ぶ）姿勢を大切にしたい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学Ⅱ	3単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	数研出版 「数学Ⅱ」 数研出版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B 数研出版 サクシード 数学Ⅱ+B 数研出版 ミゼン数学演習ⅠAⅡB	教科担当			

学習の目標

<p>数学Ⅱ (第4章 三角関数、第5章 指数関数と対数関数、第6章 微分法と積分法) (理系) (「三角関数」「指数関数・対数関数」の発展 (分数関数、無理関数、逆関数、合成関数) 「微分法」の発展 (極限 (1) 数列の極限、 (2) 関数の極限)) (文系) 1、2年復習 を学習する。 学習範囲の基本的事項についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。</p>
--

学習到達度規準

<p>大学入学共通試験の全国平均点を25%上回る学力を身につける。 大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。</p>
--

授業内容

<p>(数学Ⅱ) 第4章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用 3節 積分法 理系 (「三角関数」「指数関数・対数関数」の発展 (分数関数、無理関数、逆関数、合成関数) 「微分法」の発展 (極限 (1) 数列の極限、 (2) 関数の極限)) 文系 (1、2年復習)</p>
--

学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・「例」・「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。 ・各節の終わりにある「問題」及び各章の終わりにある「演習問題」で、問題演習を行い、学習事項を確認する。 ・参考書、プリント等で、教科書+αの内容 (入試問題を含む) の学習を行う。
--

評価の観点

<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度 数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。 2. 数学的な見方・考え方 数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。 3. 表現・処理 物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。 4. 知識・理解 数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。
--

評価の方法

<ol style="list-style-type: none"> 1. 年5回の定期考査、課題テスト 2. ノート・レポートなどの提出物 3. 出席状況、学習態度 <p>などを総合的に判断し、評価する。</p>
--

授業計画

学期	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	前半 4章 三角関数	17	1節 三角関数 2節 加法定理 (中間考査)	・弧度法、三角関数の定義を理解し、三角関数についてのいろいろな公式の使い方に習熟する。
	後半 5章 指数関数と対数関数	17	指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数 (期末考査)	・拡張された指数について、具体例で確認する。 ・指数、対数とも計算に習熟するために基本的な問題を反復練習する。
2 学 期	前半 6章 微分法と積分法	17	1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用 (中間考査)	・極限の概念の定着を図る。 ・微分係数、導関数の定義をきちんと理解するとともに、導関数を種々の問題に応用できるようにする。
	後半 6章 微分法と積分法	17	3節 積分法 (期末考査)	・面積と定積分の関係を十分に理解する。
3 学 期	理系（「三角関数」「指数関数・対数関数」の発展）分数関数、無理関数、逆関数、合成関数（「微分法」の発展） 極限 文系（1. 2年復習）	23	分数関数、無理関数、逆関数、合成関数 (1) 数列の極限 (2) 関数の極限 図形と方程式など (学年末考査)	・分数関数や無理関数などを用いた簡単な場合について、合成関数や逆関数を求められるようにする。また、グラフの概形がかけるようにする。 ・数列の極限の考え方を理解し、様々な極限值を求められるようにする。級数を理解し、級数の収束・発散を調べられるようにする。 関数の極限の考え方を理解し、様々な極限值を求められるようにする。特に三角関数の極限を求められるようにする。 関数の連続性を理解する。 1, 2年で学習した内容を復習し、理解を深める。

学習者へのメッセージなど

- ・教科書は最小限の内容と心得て、問題集やプリントなどの教科書+αの内容について、積極的に取り組むこと。
- ・数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることである。参考書等を利用して、問題演習を必ず行うこと。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学B	2単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	数研出版 数学B 数研出版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B 数研出版 サクシード 数学Ⅱ+B 数研出版 MZAN数学演習ⅠAⅡB	教科担当			

学習の目標

数学B全範囲及びその発展的な内容を学習する。平面上のベクトル、空間のベクトル、数列（以上数学B）、数列と他単元の融合問題、関数（分数関数、無理関数、逆関数、合成関数）（以上発展学習）について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

学習到達度規準

大学入学共通試験の全国平均点を25%上回る学力を身につける。
大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

- (数学B)
- (1) ベクトル ア 平面上のベクトル (ア)ベクトルとその演算 (イ)ベクトルの内積
 イ 空間座標とベクトル
- (2) 数列 ア 数列とその和 (ア)等差数列と等比数列 (イ)いろいろな数列
 イ 漸化式と数学的帰納法 (ア)漸化式と数列 (イ)数学的帰納法
- (発展的な学習)
- (1)数列 (ア) 格子点 (イ) 確率漸化式

学習方法

- ・「例」・「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。
- ・各節の終わりにある「問題」及び各章の終わりにある「演習問題」で、問題演習を行い、学習事項を確認する。
- ・問題集・プリントで、教科書+αの内容（入試問題を含む）の学習を行う。

学習の到評価の観点

1. 関心・意欲・態度
数学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

1. 年5回の定期考査、課題テスト
2. ノート・レポートなどの提出物
3. 出席状況、学習態度 などを総合的に判断し、評価する。

授業計画

学期	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	(数学B) ア 平面上のベクトル	5 4	(ア) ベクトルとその演算 (イ) ベクトルの内積 (中間考査)	・ベクトルの図形への応用は重要である。ベクトルのどの性質がどのように使われるかをよく考え、適材適所への利用ができるように問題演習をしっかりと行う。
	イ 空間座標とベクトル	11	空間のベクトル (期末考査)	・空間についてはそのイメージを頭の中に描き出すことは必ずしも容易ではない。したがって、基本的な図形をいくつもかき上げることによって次第に慣れる努力をすること。
2 学 期	ア 数列とその和	5	(ア) 等差数列と等比数列 (イ) いろいろな数列 (中間考査)	・数列の基本的な考え方を理解し、様々な数列の一般項や総和を求められるようにする。 ・一般項や和について、その求め方を理解する。
	イ 漸化式と数学的帰納法	6 5	(ア) 漸化式と数列 (イ) 数学的帰納法 (期末考査)	・数列を漸化式で表現し、漸化式の意味を理解する。また、簡単な漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができるようにする。 ・数学的帰納法の意味とその扱い方を理解する。簡単な命題を数学的帰納法を用いて証明することでその方法の意味を理解する。
3 学 期	(発展的な学習) (1) 数列	14	(ア) 格子点 (イ) 確率漸化式 数列総合演習 (学年末考査)	・数列の和や漸化式の知識を用いて、整数や確率など他の単元の問題を解くことを扱う。

学習者へのメッセージなど

- ・教科書は最小限の内容と心得て、問題集やプリントなどの教科書+αの内容について、積極的に取り組むこと。
- ・数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることである。参考書等を利用して、問題演習を必ず行うこと。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	物理基礎	3 単位	必修	対象学年	2 年
教科書 副教材	物理基礎 (啓林館) セミナー物理基礎+物理	教科担当			

学習の目標

物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学習到達度規準

自己学習力の伸長を図り、大学入試センター試験の全国平均得点を25%上回る学力を身につける。

授業内容

授業では教科書の各項目に則して、身近で自分でもできる実験と、実験室でないとできない実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。
その過程で、物理的に探求していく能力と態度が育成されていく。このような授業展開をめざしていく。

学習方法

- 論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がけるのが十分な理解への近道である。
- 力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積むことによって理解が深まる。
- 暗記して定期テストに備えるという考えから脱却し、ほんの少しの法則をきちんと理解し、これを適用して探求を進めていくように心がけてほしい。
- 授業で学習した物理用語を用いて、現象を表現し理解することが大切である。例えば「パワー」という言葉で現象を表現しても、「力」や「エネルギー」である場合が多い。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・物理的な事象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけたか。
2. 思考・判断・・・物理的な事象を、観察、実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、事実に基づいて科学的に判断できたか。
3. 観察・実験の技能・表現・・・物理的な事象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できたか。
4. 知識・理解・・・観察・実験などを通して物理的な事象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。

評価の方法

定期テスト、実験レポート、科学的に探求していく態度などを総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	物体の運動 力のはたらきとつりあい	18	速度 加速度 落下運動 さまざまな力 力の合成・分解とつりあい (中間考査)	○ 一直線上の物体の運動の表し方 ○ 自由落下は質量によらない ○ 速度の合成と分解
	後 半	運動の法則 剛体に働く力	18	運動の3法則 運動方程式の利用 抵抗力を受ける運動 剛体にはたらく力 (期末考査)	○ 単位に注意 ○ 最大摩擦力と静止摩擦力 ○ 力の定量的に定義 ○ モーメントの概念
2 学 期	前 半	仕事と力学的エネルギー 運動量の保存 熱とエネルギー	21	仕事と仕事率 力学的エネルギー 運動量と力積 運動量の保存 反発係数 熱と温度 エネルギーの変換と保存 (中間考査)	○ 日常的な仕事は異なる概念 ○ エネルギーはスカラー ○ 運動量はベクトル ○ 物体の衝突を例に運動量保存の法則が成り立つことを理解する。
	後 半	波の性質 音波	21	波の表し方とその要素 波の重ね合わせ 波の干渉・反射・屈折・回折 音の伝わり方 物体の振動 (期末考査)	○ 振動的観点と波動的観点 ○ 進行波に対して定常波 ○ 時間的観点と空間的観点 ○ 音の3要素・共鳴とうなり ○ 基本振動と倍振動 ○ 縦波としての振動
3 学 期		音波 光波 静電気と電流	27	ドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の回折と干渉 静電気 (学年末考査)	○ 光の色と波長 ○ 実像と虚像の意味 ○ 箔検電器の開閉

学習者へのメッセージなど

我々は、日常生活の中で物理的な現象を体験している。これを自分なりに理解する場合、ミスコンセプションを形成している場合が多い。「力がつり合っていると物体は静止する」などがそれで、静止または等速運動をするが正しい理解である。日常生活で体験した現象を、教室で学習した物理の法則を適用して考えを進めていくことを心がけてほしい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	化学基礎	3 単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	東京書籍 化学基礎 第一学習社 セミナー化学基礎+化学 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料	教科担当			

学習の目標

- (1) 正しい物質観を身につける。
- (2) 実験を通して、自然科学の基礎的な方法を習得する
- (3) 化学を通して 科学的な思考を養い、自然科学の社会的機能を認識する。

学習到達度基準

センター入試レベルの問題で8割正解できるようになる。

授業内容

物質の構成：物質の探究、原子の構造と元素の周期表、化学結合
物質の変化：物質と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応

学習方法

講義は教室、実験室、化学講義室にて行う。講義用プリントを用いた授業で、大学入試に十分対応できるレベルである。実験や演習を取り入れながら授業を展開する。生徒実験は3～4名で1グループを編成して行い、実験ごとに個々に作成したレポート（プリント）を提出する。実験を手早く効果的に行うためには予習が必要である。演習ではセンターレベル以上の問題に取り組む。化学は徐々に知識を積み重ねていく学問なので、講義の復習が必要である。

学習の到達目標と評価の観点

- 次の事項を説明することができる。
- ①物質は粒子からできていること、粒子の結合の生成と分解には電子が関わること。
 - ②物質の性質と物質の構造の関連。
 - ③実験事実に対する科学的で体系的な説明。

評価の方法

定期考査・小テスト・提出物（実験プリント、課題プリントなど）・授業態度・実験態度などを総合して評価をつける。特に、実験プリントは、自分の力できちんと仕上げる事が重要。提出物の期限遅れ、未提出には注意すること。

授業計画

学期	単元	配当	学習内容	実験	学習上の留意点
1 学 期	4 オリエンテーション	1			
	5 物質の構成	2 2 4 3 2 2	・物質の探究 ・原子の構造 ・化学結合 ・物質の量の表し方 ・溶液の濃度 ・化学反応式と物質質量	1 赤ワインの蒸留 2 炎色反応 3 化学反応の量的関係	物質が何で構成されているか理解せよ。 電子配置と周期表の関係を理解せよ。 molは個数の単位であることを忘れないこと。
	18		中間考査		
2 学 期	6 物質の変化	4 2	・酸と塩基の反応 ・中和滴定	4 中和滴定	H ⁺ と化学的性質の関係に注目せよ。
	7	3 3	・酸化還元反応 ・金属の酸化還元反応	5 酸化剤と還元剤の反応 6 金属のイオン化傾向	酸化還元と電子の動きに注目せよ。
		3 3	・電池 ・電気分解	7 電池、電気分解	電子の動きと化学的性質に注目せよ。
	18		期末考査		
2 学 期	8 無機物質	3	・周期表と元素	8 ハロゲン元素の性質	非金属元素について、結合の種類とその特徴を理解せよ。 各無機物の性質を理解せよ。
	9	3	・水素と希ガス	9 硫酸の性質	
10	3	・ハロゲン	10 窒素の性質		
	3	・酸素・硫黄			
	3	・窒素・リン ・炭素・ケイ素			
	18		中間考査		
3 学 期	11 無機物質	3 3 3 6 3	・アルカリ金属元素 ・2族元素 ・両性元素 ・遷移元素 ・金属元素の分離	11 1, 2族元素の性質 12 遷移元素の性質 13 金属イオンの分離・確認	金属元素について、結合の種類とその特徴を理解せよ。 各無機物の性質を理解せよ。
	12		期末考査		
	18				
3 学 期	1 有機化合物	4	・有機化合物の特徴	14 アルデヒド・ケトンの性質	有機化学の総合的な知識が要求される ベンゼン環を持ったときの特徴に注目せよ。
	2	4 6 6 6	・有機化合物の構造決定 ・炭化水素 ・酸素を含む有機化合物 ・芳香族化合物	15 エステルの生成とけん化 16 サリチル酸のエステル化	
	3		学年末考査	17 ニトロベンゼンとアニリン	
	26				

学習者へのメッセージなど

化学は、無限ともいえる物質を扱う学問である。そのため、記憶に頼る科目と勘違いされる。しかし、本当は少数の基本的な考え方を理解することにより、物質相互の関連性をつかみ、全体を把握できるのである。記憶に頼るような学習をしないほしい。

また、化学では原子・分子・イオンを扱う。原子・分子のようなマイクロな世界は、直接見ることはできない。しかし、目に見えるマクロな現象から、観察力と洞察力によって、頭の中でマイクロな世界を見ることができるようになる。また、マイクロな世界の原子分子の動きを考え、実際にマクロな世界で起こる現象を予測することもできる。マイクロの世界とマクロな世界をつなげるような、洞察力と観察力を身につけてほしい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	体 育	3単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	現代高等保健体育(大修館)	教科担当			

学習の目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しをできるようにする。

授業内容

男女共に週3時間の体育実技を年間指導計画に従って実施する。本校の体育施設で実施できる実技種目を実施している。2年生の男子では、陸上競技・水泳・バレーボール・バスケットボール・持久力トレーニングを2単位で実施。1単位では通年で剣道を行い、夏季は水泳、冬季はバドミントンを実施する。女子では、バレーボール・水泳・サッカー(フットサル)・持久力トレーニング・バスケットボールを2単位で実施。1単位ではテニスを行い、夏季は水泳、冬季はバドミントン・卓球を実施する。また、各学期において体づくり運動・体育理論を実施する。

学習方法

実技種目の記録(学習・個人・グループ)ノート等の利用により活動の経過を把握し、進歩の状況を自ら確認しながら行う。6月の第3週目から9月第3週目までは、水泳の授業を集中して行う。2年では、平泳ぎ・バタフライの習得を目標とする。目標に著しく到達していないと判断された場合は、特別水泳講習に参加し指導を受ける。3学期には、持久走を中心とした体力向上のためのトレーニングなどを行い、運動負荷のかけ方によって、自己の脈拍にどのような変化を与えるかを記録・分析・考察し、レポートにまとめる。

学習を通じて育成するべき資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	運動する(学習活動中の)様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	他者の発言に対して、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	指導者等の説明や助言を着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことを自分なりの改善を加えて実行することで、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。

創造力 (生み出す力)	習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼすことができる。
----------------	------------------------------	---	--

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 6	体づくり運動 体育理論 陸上競技 (男子) バレーボール (女子) 剣道 (男子) テニス (女子) スポーツテスト 水泳 (男女)	3 2 1 6 8 2 1 0	体ほぐし運動/体力を高める運動 運動・スポーツの学び方 三種混成競技 (ターボジャブ ・高跳び・50mH) パス レシーブ サービス スパイク トス ゲーム 審判法 約束掛かり稽古 掛かり稽古 互角稽古 攻めと守りの試合 フォア・バックハンドストローク サービス, ボレー フリー、バックの習得 キック・プル・息つき	互いに協力して活動ができるようにすると共に、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 また、使用場所や使用器具などの安全を含め、自他の安全に留意して活動ができるようにする。 チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームが行えるようにする。 コロナ対策として、状況に応じた対応を行う。
2 学 期	9 1 0	水泳 (男女) 体づくり運動 体育理論 バレーボール (男子) サ ッ カ ー (フットサル) (女子) 剣道 (男子) テニス (女子)	9 3 2 1 6 8	1学期の復習・記録測定 体ほぐし運動/体力を高める運動 運動・スポーツの学び方 パス レシーブ サービス スパイク トス ゲーム 審判法 リフティング パス トラップ ドリブル キック シュート ゲーム 互角稽古 攻めと守りの試合 技を限定した試合 簡易試合 フォア・バックハンドストローク ボレー・サービス・試合	
3 学 期	1	体育理論 体づくり運動 (男女) バドミントン (男子) バスケット (男子・女子) バドミントン・ 卓球 (女子)	2 8 8 8 8	運動・スポーツの学び方 持久力トレーニング (男女) 記録測定 基本練習・ゲーム 基本練習・ゲーム・審判法 種目別基本練習・ゲーム・審判法	

学習者へのメッセージなど

体育の授業を通して生涯にわたる健康的な生活を営むために必要とされる基本的な礼儀・体力を身につけてほしいと思います。また、持ち物にはきちんと記名し、実技授業にふさわしい体育着を着用のうえ、体育館・武道場では指定の体育館履きを使用して下さい。見学の際は生徒手帳に理由を記入の上、保護者印を押して、授業開始前に担当教諭に提出して下さい。授業中は体育着を着用し、見学しながら見学記録を書き、授業終了後に提出して下さい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	保 健		1 単位	必修	対象学年	2 年
教科書 副教材	現代高等保健体育 (大修館) 図説現代高等保健 (大修館)	教科担当				

学習の目標

現在及び生涯にわたり自他の健康や安全の課題を解決するための基礎となる科学的な知識を身につけ、健康で質の高い生活を送るための理解を深めるとともに豊かな生活を営む態度と実践力を身につける。

授業内容と学習方法

本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、2年生では「生涯を通じる健康」・「社会生活と健康」を中心に集団と健康の関わりについて学習していく。大別すると 1. 生涯の各段階における健康 2. 保健・医療制度のしくみとその活用 3. 環境と健康 4. 食品と環境の保健 5. 労働と健康 に分けられ、それぞれの内容について主体的に学習していく。保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。1・2学期は定期テストの点数に、平常点(授業への主体的取り組み、提出物など)を加味して評価する。3学期には学習したことを基に、思考力、判断力、表現力の育成のため、グループワークを行ったり、研究テーマを設定し調査・研究を行ったり、レポートの作成や研究発表を行うなど、より主体的な授業形式で学習も組み込まれる。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	健康に関わる様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	健康について自他や社会の課題を発見し、整理することができる。	事実を論理的、客観的に分析することで、課題に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	集団活動の中で自己の考えを整理し、言語化することができる。	言語化した自己の考えを、分かりやすく他者に伝えることができる。	レベル2に加え、立場や考えの異なる他者に対して、自己の考えを説得力を持って伝え、議論することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	習得した知識・情報を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・情報や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、自分がとるべき課題解決方法を理解し、解決に向けて周囲を巻き込んで行動することができる。
創造力 (生み出す力)	課題に対して、これまで得た知識や技術から、工夫や改善点を導き出すことができる。	課題について自ら問いを立て、様々な経験や学習から得た知識・情報を活用し、自分独自の答えを導き出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を具体的に創造し、他者により影響を及ぼすことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	生涯を通じる健康	1 2	1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画と人工妊娠中絶 6. 加齢と健康 7. 高齢者のための 社会的取り組み 8. 保健制度とその活用 9. 医療制度とその活用 10. 医薬品と健康 (期末考査)	<p>生涯を通じて健康に生きていくために、生涯の各段階における健康課題を知り、それらに対してどのように対処すればよいかについて学ぶ。</p> <p>また、健康を守るために、保健・医療制度はどのような役割を果たしているか、さらにどのようにそれらを活用すべきなのかについて学ぶ。</p> <p>社会生活における健康の保持増進には、環境などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解できるようにする。</p>
2 学 期	9	生涯を通じる健康 社会生活と健康	1 3	11. さまざまな保健活動や対策 12. 大気汚染と健康 13. 水質汚濁・土壌汚染と健康 14. 健康被害の防止と環境対策 15. 環境衛生活動の しくみと働き 16. 食品衛生活動の しくみと働き 17. 食品と環境の保健 と私たち 18. 働くことと健康 19. 労働災害と健康 20. 健康的な職業生活 (期末考査)	<p>人や社会の健康を保持増進するためには、環境保健の活動や食品の安全確保のための活動は不可欠である。環境や食品にかかわってどのような保健活動が行われているのかを理解できるようにする。</p> <p>現代における職業病や労働災害について学び、職場での総合的な安全管理や、働く人々の積極的な健康づくりの方法を理解する。</p>
3 学 期	1	現代社会と健康 社会生活と健康 生涯を通じる健康	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・研究課題 ・研究レポート 	<p>健康について自己または社会の課題を発見し、課題解決に向けて主体的な研究を行う。</p>

学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めて下さい。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てていく場です。授業に積極的に参加するためにも、新聞やニュースなど現在の保健情勢に目を向けることも大切です。授業へは教科書・図説・ノート等教科担任の先生の指示に従って臨んで下さい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	コミュニケーション英語II	3単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	教科書：ELEMENT コミュニケーション英語II（啓林館） 副教材：Cutting Edge Green 及び Blue（エミル出版） 単語：速読英単語【必修編】（Z会出版） 速読教材：英文速読ドリル 10 minutes（Z会出版） 共通テスト英語読解トレーニング（エミル出版） 多読教材：年間6冊程度の洋書を読む 時事素材：CNN Student News 2021 春（朝日出版社）		教科担当		

学習の目標

- ① 教科書や副教材で、時事的な話題を英語で理解しながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について総合的な英語力伸長を図る。
- ② 速読の訓練を行うことで、文章の概要や要点を素早く正確につかむ読解力を養成する。
- ③ 授業以外の「多読」を通じ、直読直解の力と語彙力を養成する。
- ④ 自分の考えを的確に英語で表現する能力を養成する。

学習到達度規準

- ① 英文を読んだり聞いたりした際に、内容を論理的に理解し、また自分の考えを表現できる。
- ② さまざまな話題について、英文で書いたり、話し合ったりすることができる。

授業内容

教科書・精読教材を中心に展開する。語彙や文構造を意識した「精読」や、文章構成に焦点を当てた「パラグラフ・リーディング」などを行いながら、文章内容を正確に読み解く練習をする。また、リスニングや音読等を通じて「聞く」「話す」力も育成する。

語彙の小テストを行い、習得状況の確認をする。また、速読・多読活動を継続的に行う。

学習方法

- <予習>
- ① 未知の単語の意味を推測しながら、自分の力で全文を読み切って大意を取り、論理展開を確認しておく。
 - ② 複雑な文は文構造を考えながら日本語に訳しておく。文法・語法上の疑問は参考書で調べる。
 - ③ CDを聞いて新出単語の発音を確認・練習し、また音声を聞きながら内容理解ができるかを確認する。
- <授業>
- ① 予習で解決しきれなかった点を確認する。
 - ② 書かれたあるいは聞いた内容について、要約したり意見を述べたりする活動にも取り組む。
- <復習>
- ① 内容が理解できた本文を、CDを用いてリピティングやシャドウイングを行い、正しく音読できるようにする。
 - ② 重要な語彙・語句・表現をしっかり活用できるようにする。（英文を作るなど）

学習の到達目標と評価の観点

- ① 関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ② 表現・理解…多様な英文を正しく理解し、その大意を的確に説明することができるか。
- ③ 知識・運用…様々な設問に対応できる正確な基礎力・応用力を身につけたか。
単語・熟語・構文・文法等を文の流れの中で正しく理解し、応用できるか。

評価の方法

- ① 定期考査（年5回）及び小テスト、② 提出課題、③ 出席状況、④ 授業に臨む態度・姿勢など。
- ①～④を総合的に見て評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	ELEMENT Lesson 1, 2 Cutting Edge Green 13, 14 CNN Student News 1, 2	20	比較文化・言語 生き方・スピーチ アフリカのブランド品 豪華客船の沈没	学習方法 に同じ
	6 7	ELEMENT Lesson 3, 4 Cutting Edge Green 15, 16 CNN Student News 3, 4 共通テスト読解トレーニング 1~4	20	医学 平和・人権 教育と報酬 文明の隆盛	
夏季休業		課題 1学期の復習および Cutting Edge Green 17, 18 等			
2 学 期	9 10	ELEMENT Lesson 5, 6 Cutting Edge Blue 1, 2 CNN Student News 5, 6	21	宇宙・環境 友情・人間愛 教育と疾病 最後のメッセージ	
	11 12	ELEMENT Lesson 7, 8 Cutting Edge Blue 3, 4 CNN Student News 7~9 共通テスト読解トレーニング 7~10	22	医学 動物・科学 目の大きさと脳の関係 液体燃料問題	
冬季休業		課題 2学期の復習および Cutting Edge Blue 5, 6 等			
3 学 期	1	ELEMENT Lesson 9, 10 Cutting Edge Blue 7, 8 CNN Student News 10~12 共通テスト読解トレーニング 11~14	22	スポーツ・人権 環境・科学 国際語としての英語 睡眠の役割	
	2				
	3				
春季休業		課題 3学期の復習および Cutting Edge Blue 9, 10 等			

学習者へのメッセージなど

英語の力を伸ばす上で大切なことは、以下の点です。

- ① 毎日、必ず一定量以上の英語に触れる。
- ② わからないことは、辞書や参考書を徹底的に活用して調べる。
- ③ 実際に声に出して英文を読み、自分の手でたくさん英文を書く苦勞を惜しまない。

学校で扱う教材以外にも、テレビ・ラジオの英語講座、英字新聞・雑誌、映画・ドラマなど、英語に触れられる機会は日常生活の中にたくさんある。自分が楽しみながら英語を学べる素材を探してみるのもよい。それができるのは2年生のうちである。また本校には JET が2名配置されているので、JET に気軽に相談するとよい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目	英語表現Ⅱ	2単位	必修	対象学年	2年
教科書 副教材	ブレイクスルー英文法 36章 Revised POLESTAR English Expression II 必携英語表現集・同活用ノート Steady Steps to Writing Write to the Point リンケージ英語構文 100 Focus on Listening (Pre-advanced)	(美誠社) (数研出版) (数研出版) (数研出版) (数研出版) (旺文社) (エミル出版)	教科担当		

学習の目標

- ① 日常的な場面において英語を聞き、読んで理解するだけでなく、自分からも発信するための表現力を養い、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。
- ② 言語の機能と特性の理解の上に立ち、状況に即しかつ正しい表現ができる力を身につける。
- ③ 外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして必要な英語力を養う。

学習到達度規準

- ① 身近な話題について、積極的に英語で話し合ったり、英文で書いたり、口頭で発表することができる。
- ② 基本的な文法・語法の知識を習得し定着させる。
- ③ 習得した文法・語法の知識をもとに、英語を正しく理解し表現することができる。

授業内容

2クラスを3グループに分けて授業を行う。教科書・英語構文教材を中心に展開する。英作文からパラグラフ・ライティング、自由英作文演習を行いながら、論理的に意見を述べる練習をする。また、英語表現や英語構文の小テストの実施により豊かな語彙表現力を身に付ける。

学習方法

コミュニケーション英語Ⅱ同様、予習→授業→復習のサイクルを定着させる。英語特有の論理構成をしっかりと身につける。

<予習>

- ① テキストの説明ページをよく読み、練習問題を解き、疑問点をはっきりさせて授業に臨む。扱われている例文はすべて暗記する。
- ② 英作文課題については、必ず事前に完成させておく。

<授業>

授業中は学習項目を正確に理解・習得するよう心がけ、気になった英語表現について積極的に質問をすることで、疑問点を残さないようにする。

<復習>

授業で学んだ英語表現を復習する。一度書いた英作文・エッセイをもう一度書き直し、文法・語法の訂正、内容に関する論理構成を再確認する。

学習の到達目標と評価の観点

- ① 関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ② 表現・理解…自分の伝えたいことを適切に表現できたか。
- ③ 知識・運用…基本的文法を正確に理解し、活用する力を身につけることができたか。
単語・熟語・構文を正しく理解し、応用できるか。

評価の方法

- ① 定期考査（年5回）及び小テスト、② 提出課題、③ 出席状況、④ 授業に臨む態度・姿勢など
- ①～④を総合的に見て評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	ブレイクスルー 時制の一致と語法, 名詞と冠詞, 代名詞, 形容詞と副詞 POLESTAR Part 2 Lesson 1, 2, 3, 4, 5 必携英語表現集 Lesson 1~10 リンケージ英語構文 1~10	12	和文英訳 パラグラフライティング 家族・食事 文型にかかわること	学習方法 に同じ
	6 7	ブレイクスルー 前置詞, 接続詞, 様々な構文 POLESTAR Part 2 Lesson 6, 7, 8, 9, 10 必携英語表現集 Lesson 11~20 リンケージ英語構文 11~20	12	和文英訳 パラグラフライティング 環境問題・言語 文型にかかわること	
夏季休業		課題 1学期の復習及び リンケージ英語構文 21~32		受動態, 助動詞, 仮定法	
2 学 期	9 10	Steady Steps to Writing 1~8 章 必携英語表現集 Lesson 21~30 リンケージ英語構文 33~47	16	和文英訳 パラグラフライティング 不定詞, 動名詞, 分詞	
	11 12	Steady Steps to Writing 9~15 章 必携英語表現集 Lesson 31~40 リンケージ英語構文 48~57	14	和文英訳 パラグラフライティング 接続詞	
冬季休業		課題 2学期の復習及び リンケージ英語構文 58~75		関係詞	
3 学 期	1 2 3	Write to the Point 1~6 章 必携英語表現活用ノート 1~6 章 リンケージ英語構文 76~89	16	和文英訳 パラグラフライティング 比較, 否定など	
春季休業		課題 2学期の復習及び リンケージ英語構文 90~100		強調, 省略など	

学習者へのメッセージなど

自分で表現する力を付けることが大切なので、予習がされていなければまったく意味がありません。答えは一通りではないので、自分なりの文を作って授業で確認、添削し、ほかの生徒の作文を参考にしましょう。また、まとまった英文を論理的に書く力を身につけるために、英作文課題に積極的に取り組みましょう。

- ① 授業では予習・復習を必ず行う。
- ② 文法の理解, 問題の解法のみならず, 例文を暗唱する。
- ③ 英語学習を通して覚えた新しい英語表現を, 実際に授業で活用してみる。
- ④ 楽しみながら学習する。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目	SSH 英語	2 単位	必修	対象学年	2 年
教科書 副教材	NEWSBREAKS for Standard English Learners 2021 その他オリジナル教材		教科担当		

学習の目標

- ① 特定の話題・興味のある事項について英語を聞き、読んで理解した情報を、発信し、議論する技術・能力を身に付け、総合的なコミュニケーション能力を伸ばす。
- ② 内容重視の視点に立ち、自ら収集した情報を英語で的確に他者に伝える表現力を身に付ける。
- ③ 外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして必要な英語力を養う。

学習到達度規準

- ① 特定の話題・興味のある事柄について、積極的に英語で討論をしたり、英文を書いたり、口頭で発表することができる。
- ② 上記の活動を行うために必要な情報収集力・英語運用上の方略的能力を身に付ける。

授業内容

与えられた話題について、調査・発表・並びに意見交換等を行うことにより、それらの話題に関わる英語表現を学習すると共に、効果的な発信方法を学ぶ

学習方法

与えられた話題について、情報を収集し、自らの意見を持ち、それを英語で述べるように、以下の事前準備をしておくことが望ましい。

<予習>

- ① 指示された話題について新聞記事や書籍、インターネットから情報を集め、自分の意見としてまとめておく。
- ② ①について発表するために必要な英語表現等をあらかじめ調べ、ノート等へ書き出しておく。

<授業>

授業はJET中心に、原則すべて英語で行う。自らの意見、それを支える資料を英語で提示し、仲間からも新たな情報・考え方を得た上で、質疑応答・討論・議論などを行う。

<復習>

授業での発表・討論・議論を経て、それぞれの話題に関する自分の考えをFinal Reportの形で提出する。(内容面=JET, 言語面=田中 が評価)

学習の到達目標と評価の観点

- ① 関心・意欲・態度… 情報収集・発表・討論などの活動に積極的に取り組んだか。
- ② 表現・理解…自分の伝えたいことを適切に表現できたか。
- ③ 知識・運用…発表や討論を英語で行うことに慣れる。

評価の方法

- ① 出席状況、授業に臨む態度・姿勢(事前準備状況を含む)
 - ② プレゼンテーション(2週に1回程度)
 - ③ 課題提出(主にFinal Report)
- ①～③を総合的に見て評価する。なお、授業に欠席した場合は、減点の対象とする。

授業計画

学期	月	単元	配当 時間	学習内容	学習上の留 意点
1 学 期	4 5	Talking about yourself your neighbors your friends	6	Presentation, Q/A, + Comments	学習方法 に同じ
	6 7	Talking about your hometown your town the place you like the way to improve your town	8	Presentation, Discussion, + Report	
夏季休業		課題		夏休みの過ごし方	
2 学 期	9 10	Talking about Tokyo the Olympics problems we have	6	Presentation, Discussion, + Report	
	11 12	Talking about the environment society and culture technology medical science	8	Presentation, Debate, + Report	
冬季休業		課題		日本の年越し・正月 の習慣	
3 学 期	1 2 3	Talking about foreign countries global issues the future	7	Presentation, Debate + Report	

学習者へのメッセージなど

さまざまな内容について調べて、自分の考えていることを発表したり話し合ったりする活動を中心に行います。まずは、様々な話題について英文を読んだりインターネット上の情報を集めたりして、知識を蓄積することが重要です。話すべき・書くべき内容がなければ、いくら英語が上手でも内容が薄くなってしまいます。知識を蓄えたうえで自分なりの意見を持ち、それを上手に英語で表現する力を付けましょう。覚えた英語表現を利用しながら話せば話すほど、書けば書くほど英語の力は伸びていきます。JETの先生方からは、違った視点からのコメントを頂けることが多いと思われまます。どうしてそういう見方・感じ方をするのか、積極的に質問しましょう。そうしたやりとりの中で、英語による発表能力を伸ばして行きましょう。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	情報の科学	単位	必修・選択	対象学年	2年
教科書 副教材	日本文教出版 新・情報の科学 情報のノート 新・情報の科学 等	教科担当			

学習の目標

コンピュータを活用して、情報収集・加工・発信の基礎的な能力を身に付けることを目指す。情報処理能力の重要性を認識して、使いこなすために各人が自分で工夫することを目指す。また、アルゴリズムの理解、プログラミング能力を高める。

学習内容と学習方法

歴史からコンピュータの仕組みを学ぶ、情報社会に参画する能力を身につけ、個人情報を守る、検索エンジン・検索効率の向上、著作権を学び、違法行為・犯罪行為から身を守る、プログラミングの活用、ビジネススキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し、知識を蓄える。授業内のプリントや課題を完成させる。課題を確実に提出する。コンピュータの操作方法に慣れる。実習課題を確実に提出する。指示された予習復習を確実にやる。小テストや課題確認問題に全力で取り組む。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
関心・意欲・態度	情報社会と人間にかかわることに関心を持っている。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について考えようとしている。	情報社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方・生き方について深く考えようとしている。
情報の収集と再構成（技能・表現）	変化する情報社会の諸課題に関する新たな知識を収集し、既知の知識とあわせて理解することができる。	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、疑問点に対する解決策を考えることができる	変化する情報社会の諸課題に関する知識を積極的に収集し、自ら考察して、課題解決策を他者にわかりやすく提案することができる。
主体的な学び	情報やインターネットについて関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察しようとしている。	情報やインターネットについて関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察し、望ましいあり方について自分の考えをまとめようとしている。	情報やインターネットについて関心のある分野を見つけ、多角的・多面的に考察し、自分の考えをまとめ、説得力をもって伝える工夫をしている。
対話的な学び	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを冷静に聞くことができる。	グループ学習で、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得ることができる。	グループ学習で、自分の意見を伝え、他者の考えを聞き、共通点、相違点を整理し、新たな気づきを得ながら、その合意点を見出すことができる。

**授業計画
第2学年**

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	プレゼンテーションソフト実習 コンピュータの仕組み	6	プレゼンテーション CPU、メモリ、I/F、 BUS、プロトコル	プレゼンテーションの場 面と課題、コンピュータの 現状と課題
	後 半	モデル化とシミュレーシ ョン実習 実験報告書の書き方 誤差と有効数字	6	モデル化 シミュレーション 探究活動への応用 著作権保護	モデル化とシミュレーシ ョンの現状と課題、著作権 侵害などの現状と課題
2 学 期	前 半	モデル化とシミュレーシ ョン実習 最小二乗法	6	モデル化 シミュレーション 探究活動への応用	モデル化とシミュレーシ ョンの現状と課題、著作権 の関連としての個人情報 流出、違法行為、
	後 半	アルゴリズム実習 プログラミング実習	7	フローチャート、アルゴリ ズム 逐次探索、二分探索、選択 整列法	プログラミングの基本ス キル習得 ビジネススキルの習得
3 学 期		アルゴリズム実習 プログラミング実習	10	フローチャート、アルゴリ ズム 2次元動作	プログラミングの基本ス キル習得 ビジネススキルの習得

学習者へのメッセージなど

分からないことを分からないままにはしないこと。どこがどのように理解できていないのかを把握し、問題意識を持つことがとても大切です。周囲の友人との情報交換をしたり、資料・文献を用いた調査研究を行ったり、教員へ質問をしたりするなど、積極的な学習活動を行ってください。

令和3年度 年間授業計画

都立戸山高等学校

科目（講座名）	スーパーサイエンスⅡ		3単位	必修選択	対象学年	2年
教科書	なし		教科担当			

学習の目標

1. 数学、物理、化学、生物、地学、情報の6つのコースに分かれて科学人材に必要なリテラシーを修得する。
2. 科学的現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
3. 科学的な基本概念を形成し、より高度な知識を受け入れ課題研究に活かすこと。
4. 探究の方法やプレゼンテーションの方法を身につけたことを、応用し実践すること。
5. 最新の科学の動向について見通しを持つこと。

学習到達度規準

科学への興味関心が増し、探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に取り組むことができたか。理解して応用し科学の魅力を多くの人に伝えることができたか。

授業内容

6つのコースに分かれて行うがどのコースも探究活動の発表を目指す。そのため将来必要な観察力、データの整理におけるコンピュータ等の利用法、規則性の発見の喜び、探究的態度などを育成すること、勉強に対する意欲と関心を喚起すること、論理的思考力と表現力を高めることなどを目的として、自然現象を対象とした観察・実習を中心に行う。理数情報分野についての課題研究などの準備をする。地域連携として科学教室の運営も行う。

週時程に入る授業時間は2時間で、残り1単位については、長期休業中、休日や放課後の時間に野外観察などを実施して当てる。科学館訪問や大学の先生による発展的な内容の講演、大学や研究機関の研究室訪問実習も行う。科学系のコンテスト参加に挑戦する。

学習方法

自ら定めた課題研究のテーマに対して、先行研究を調査し、研究計画を設計し、仮説を立てて条件設定をした上で観察実験を繰り返して客観的なデータの取得をする。ICT機器を利用してデータを集計し、グラフ化して関係を把握して結論を出す。仮説と照らし合わせて結果を考察することで、新たな疑問が出れば、その検証のための実験を行う。この流れで、真の法則性を明らかにし、社会への科学の応用を考える。自主的な課題研究を通して自己学習力を身につけることで、論理的思考力が養われ、他の学習への意欲向上につながる。

大学・研究機関等と連携をした講演会・実験を行い科学の最先端に触れながら、レポートにまとめる過程を通して、理解を深め、内容を再認識し、高度な内容であっても、教科書に書かれている基礎基本が重要であることを理解し、日頃の学習に役立てる。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度：科学現象に興味を持ち、進んで探究しようとする意欲を持つようになる。
2. 科学的な見方・考え方：自然現象を観察し、そこから規則性を見つけることができる。
科学の方法を身につけ、自らテーマを設定し研究を行うことができる。
3. 表現・処理：実験や観察の結果を、コンピュータ等を用いて処理してレポートにまとめ、発表するための能力を身につける。
4. 知識・理解：学習した知識を用いて正しく推論し、実験結果を予想して解釈できるようになる。

評価の方法

レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行っているかという、自己学習力の観点から総合的に判断して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
探究心 (考える力)	科学に関する事物や事象に関心を持ち、それらの課題を整理し、自ら問いを立てる姿勢を持っている。	科学に関する事物や事象に関心を持ち、それらの課題を整理し問いを立て、論理的に事物を分析し、課題解決策を考えることができる。	科学に関する事物や現象に高度な興味を持ち、課題の整理、論理的な分析を行って課題解決の道筋を立て、他者に説明し議論をして高めあうことができる。
情報発信力 (伝える力)	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して、言語化して伝えることができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して言語化した上で、わかりやすく相手に伝えることができる。また、以上のような活動を外国語でもある程度行うことができる。	発表活動やグループ活動で、自分の考えを整理・言語化した上で、考えの異なる他者に対して説得力を持って伝え、議論することができる。また、以上のような活動を外国語でも行うことができる。
創造力 (生み出す力)	科学に関する事物や事象に関して生じた課題を、既知の知識や技能を活用して、解決することができる。	科学に関する事物や事象に関して生じた課題を、複数の既知の知識・技能や経験知を総合して、その目的に沿って解決していくことができる。	発科学に関する事物や事象を、複数の知識・技能・経験知の統合により解決し、未知の状況でも手段を創造し解決し、他者により影響をもたらすことができる。

授業計画 (注意) 講師の都合、感染症予防対策の観点から、講演会などの時期を変更する可能性があります。

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習内容の詳細や留意点など
1 学 期		導入	2	・二年目のSSHの態度とは	課題研究を行い、外部の発表を目指す姿勢の確認を行う。
	4	課題研究実験	6	・先行研究調査	・論文情報の取得方法を学ぶ。
			10	・コンピュータ等を駆使する	・Excel、PowerPoint、計測ソフトウェアソフトの活用
	5	科学オリンピック準備		・自然観察	・データの分析法
				・課題実験と理論の研究	・実験方法を議論し合い、精度良い測定法を探す。過去の問題を研究する。
	6	科学実習	16	・器具の操作、原理、測定方法、分析方法を応用する。	・客観的なデータ取得のための条件設定を行い、データの取得を繰り返す。
	7	研究機関訪問	10	・科学研究施設を訪問。	・研究者から最先端の研究の説明と研究者になるための心構えを聞く。
	8	全国大会	6	・パワーポイントで発表用のファイルを作成する。	・他校の発表を参考にする。
		戸山祭準備		・戸山祭で発表を行う準備をする。	・質問能力も研究者に必要な素質。
					・エクセルを用いたデータ集計とPowerPointでポスターを作成し、プレゼンテーションの練習をする。

2 学 期	9	研究中間発表	6	<ul style="list-style-type: none"> ・戸山祭で来校者に対して課題研究の中間発表を行う。 ・プレゼンテーションの方法を向上させる。 ・科学の甲子園へ参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた意見からフィードバックにより改善を行うアイデアを得る。 ・積極的に発表の機会を多く設ける。 ・準備してチーム編成をして科学の甲子園予選突破に臨む。 		
	10	プレゼンテーション講習 科学の甲子園	4				
	11	科学講演会	4			<ul style="list-style-type: none"> ・先端科学の研究を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端の研究と研究者の生き方に接することで、将来への指針とする。
	12	課題研究実験 課題研究発表	18			<ul style="list-style-type: none"> ・データの整理。 ・東京都SSH指定校合同発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための改善を重ねて、研究の熟成を目指す。
3 学 期	1	課題研究発表	15	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめあげた発表を行う。 ・一年生へ発表を伝える。 ・課題研究成果発表会。 ・関東近県SSH合同発表会 ・論文形式にまとめる。 	<p>自ら設定した研究テーマについて、自主的に取り組んできた成果を発表し、下級生に課題研究のテーマを引き継ぎ、研究態度を伝える。</p>		
	2	論文作成					
	3	発表会見学					

学習者へのメッセージなど

2年間で課題研究の外部への発表を目指す本講座を受講する生徒は、理系進学を志望する人が比較的多い。将来の科学技術人材として、この講座の受講をきっかけとして、科学に対する興味や関心をどんどん深め、そこから自ら学ぶ姿勢と取り組み方を身につけよう。他の通常の科目の学習に取り組みながら、本講座における多くの観察・実験・検証などに自発的自立的に参加する姿勢が大切です。また、2年間しっかりと取り組むことができれば、理系文系に関わらず、どんな分野の科目の学習に対しても自信を持って取り組む力を身につけられるはずです。

知の探究(知の探究)の進度計画表

(令和3年度 第1学年)

科目:知の探究 I

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエンテーション リサーチトレーニング	
	期末	リサーチトレーニング リレー授業	
2 学 期	中間	リサーチトレーニング 地学巡検事前学習	戸山祭
	期末	リサーチトレーニング 城ヶ島地学巡検 講演会:災害と防災技術 研究成果予備発表	SWR 巡検 ポスター作成 東京都内 SSH 指定校 合同発表会
3 学 期	学年末	リサーチトレーニング 研究成果発表及び見学 学年講演会 (研究成果最終発表)	ポスター作成 TSS 関東近県合同発表会

(令和4年度 第2学年)

科目:知の探究 II

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	オリエンテーション:海洋をテーマに関連した SDGsの内容での 課題研究の発表を目指す研究計画作成 テーマ設置及び課題研究の進め方	
	期末	テーマ決定 テーマ別ゼミ構成:実施計画・調査	
2 学 期	中間	課題研究:中間報告と見直し(リサーチヘリックス)	戸山祭
	期末	課題研究:論文の書き方・発表の仕方(パワーポイント)	SWR ポスター作成 東京都内 SSH 指定校 合同発表会
3 学 期	学年末	課題研究:まとめと発表 課題研究:報告書の作成	ポスター作成 TSS 関東近県合同発表会

(令和5年度 第3学年)

科目:知の探究Ⅲ

(1単位)

期 間		学 習 項 目	備 考
1 学 期	中間	研究計画作成(仮説の設定から実験による検証)	
	期末	課題研究(口頭発表・ポスター発表)、文献調査	
2 学 期	中間	論文作成と応募	
	期末	報告書素案の作成	ポスター・口頭発表指導
3 学 期	学年末	報告書の完成	レポート作成

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	知の探究I		1 単位	必修選択	対象学年	1 年
教科書	課題研究メソッドStart Book（啓林館） 地学基礎 改訂版（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店）	教科担当				

学習の目標

1. 科学的なリテラシー（観察力、データの整理法、規則性の発見の喜び、探究的態度など）の育成
2. 自己学習力の基本としての学習に対する自主的な姿勢と意欲と関心の喚起
3. パソコンを使ったプレゼンテーション技術・能力の育成
4. 会話・討論・プレゼンテーション能力を身につけさせるとともに主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
5. 自ら習得した知識や技術を社会へ発信する総合力の育成

学習到達度規準

探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備ができたか。
科学を論理的に議論するために必要な能力を身につけたか。

授業内容

- ①探究活動に必要なとなる基本的な手法や態度を、系統的・経験的に学ぶ。
- ②城ヶ島地学巡検に関連する、地学分野（プレート、火山、地層、堆積構造、地史）の講義や実験・観察・実習
- ③観察からの仮説の設定、課題研究のテーマ探しと実験・観察・実習
- ④観測機器の使用の基礎（顕微鏡、望遠鏡、ハンドレベル、クリノメーターなど）
- ⑤文献調査とまとめ（レポート、ポスターの作成）
- ⑥校内ポスターセッション、プレゼンテーションの実習
- ⑦探究活動の疑似体験（リサーチトレーニング）
- ⑧成果発表会などを見学するとともに外部での発表の見学することで発表能力を育成する
- ⑨大学・研究所・企業等の研究者による講演会
- ⑩校内の教員によるリレー授業

学習方法

主体的、自発的、積極的に取り組むことが必要である。地学巡検を題材として身の回りの事物・現象の観察・実験をとおして、科学技術リテラシーの育成を目指した討論を経験させ、サイエンスのトピックスについて海外の方々と話し合う機会を活かすことで、生徒の探究意欲を育て、講演会の内容を具体的なイメージとして理解するように心がける。興味関心を広げ、考えを深めることで、研究を極めていく力・国際社会で議論する力の素地を育成させる。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度：科学現象に興味を持ち、進んで探究しようとする意欲を持つようになる。
2. 科学的な見方・考え方：自然現象を観察し、科学の方法を身につけ、自らテーマを設定し考えを深めていくことができる。
3. 知識・理解：学習した知識を用いて正しく推論し、実験結果を予想して解釈できるようになる。

評価の方法

レポートやプレゼンテーションの内容、日常の活動状況・出席状況などを自発的、かつ積極的な活動を行っているかという、自己学習力の観点から総合的に判断して評価する。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	レベル1（B）	レベル2（A）	レベル3（S）
情報活用力 （選択する力）	地学現象やSDGs・海洋に関心を持ちながら、様々な情報の中から、重要な情報を主体的に取捨選択できる。	地学現象やSDGs・海洋に関心を持ち、様々な情報を取捨選択した上で、課題解決に活用することができる。	地学現象やSDGs・海洋に関心を持ち、様々な情報を取捨選択した上で、他者と挙動しながら、よりよく課題解決ができる。
探究心（考える力）	地学現象やSDGs・海洋に興味を持ち、それらの課題を整理し、自分でなぜかを考える姿勢をもっている。	地学現象やSDGs・海洋に興味を持ち、それらの課題を整理し、論理的に事実を分析し、課題解決策を考えることができる。	地学現象やSDGs・海洋に興味を持ち、課題の整理、論理的な分析を行い課題解決の筋道を立て、他者に説明し議論することができる。

情報発信力 (伝える力)	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理して、言語化して伝えることができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理し言語化した上で、わかりやすく伝える事ができる。	発表活動やグループ学習で、自分の考えを整理・言語化した上で、考えの異なる他者に対して説得力を持って伝え、議論することができる。
-----------------	---	---	---

授業計画

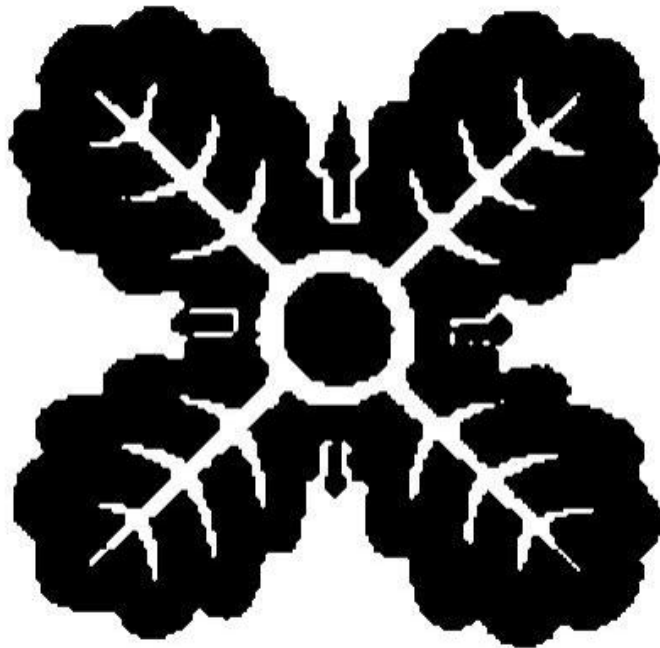
学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・ 知の探究ガイダンス ・ 基礎地学講座 ・ リサーチトレーニング ・ 観察及びデータ取得の方法 	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の探究の進め方について学ぶ ・ 活動する地球（プレート、火山、標本等の観察） ・ 毎時間探究方法について学ぶ ・ 顕微鏡などを用いた観察方法を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎地学講座 ・ リサーチトレーニング ・ SDGs講演 ・ リレー授業 ・ 観察及びデータ取得の方法 ・ 地学巡検 ・ ポスターの準備 	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球史の読み方（地層、地質構造、標本等の観察） ・ 毎時間探究方法について学ぶ。 ・ SDGsについての講演を聴く ・ 異なった分野の関連性から多面的に物事を考える姿勢 ・ クリノメーターやハンドレベルで計測方法を習得する ・ 城ヶ島巡検でフィールドワークを経験することで研究手法の幅を広げさせて、実験観察力を育成する。 ・ 城ヶ島巡検のレポートをミニポスター形式で作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価する。 ・ SDGsについての理解 ・ リレー授業の意識調査から物事を多角的に見ることへの意識の変容を見る。 ・ 習得した調査手法で調査できているかではかる
3 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンの準備 ・ 研究成果発表 ・ 校内での発信 ・ 基礎地学講座 ・ リサーチトレーニング ・ 校外への発信 ・ 2年次のテーマ決定 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンの準備 ・ 城ヶ島巡検のレポートをミニポスター形式で発表する ・ 校内外での発信 ・ リサーチトレーニング ・ 海洋とSDGsから「知の探究Ⅱ」の個別テーマを決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン資料及びポスターの伝わり易さ。 ・ 発表の姿勢と聴衆からの評価。 ・ ポスター等の完成度 ・ 1年間の探究活動の経験を踏まえてテーマを決定する

学習者へのメッセージなど

<p>本校が文部科学省から指定されているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、科学技術系人材の育成のみならず、学校全体としての取り組みが求められています。この要請に基づき、たとえ理系の進路に進まなくても、世界市民として科学技術リテラシーを有する人材の育成が重要と考え、探究活動に必要な能力を育成するために「知の探究」を設置しました。</p> <p>内容は、既設の教科科目全般と関連するが、1学年の「知の探究Ⅰ」では、本校で30年以上続いている特色ある行事である城ヶ島地学巡検で現地での自然の観察を基本的な題材として、探究の方法について体系的・体験的に学びながら、科学技術リテラシーの育成を目指した様々な活動を経験し、探究意欲を育て教養を育み、2学年の「知の探究Ⅱ」・3学年の「知の探究Ⅲ」へのアプローチとなることを目指しています。</p>
--

令和3年度
年間授業計画

(第3学年)



東京都立戸山高等学校
全日制課程

目 次

1. 第3学年教育課程表	1
2. 単位の認定及び進級・卒業	2
3. 評価	2
4. 定期考査	2
5. 3年間の教科学習の構成	3
6. 各教科・科目の年間授業計画	
国 語	9
地理歴史・公民	15
数 学	31
理 科	45
保健体育	63
芸 術	65
外国語	67
7. マトリクス設計図	
数学と理科(物理・化学・生物・地学)の学習項目と学習時期の一覧表	

1. 第3学年教育課程表

平成31年度入学生 教育課程

教科目	1学年		2学年		3学年		
	必修	選択	必修	選択	必修	選択A	選択B
国語	国語総合	5					
	現代文B			2	2	2	2
	古典B			3		5	2
地歴	世界史A					2	2
	世界史B			3		4	
	日本史A					2	2
	日本史B			3		4	
	地理B	2				4	2
公民	現代社会					2	2
	倫理	2				2	2
	政治・経済				2	2	2
数学	数学I	3					
	数学II			3		4	2
	数学III					5	2
	数学A	3					
	数学B			2			
理科	物理基礎			3			1
	物理					4	2
	化学基礎			3			1
	化学					4	2
	生物基礎	2					1
	生物					4	2
	地学基礎	1					1
地学					4	2	
保健体育	体育	3		3	2		
	保健	1		1			
芸術	音楽I	○2				2	2
	音楽II					2	2
	美術I	○2				2	2
	美術II					2	2
	書道I	○2				2	2
	書道II					2	2
外国語	コミュニケーション英語I	3					
	コミュニケーション英語II			3		4	
	コミュニケーション英語III					4	2
	英語表現I	2					
	英語表現II			2		2	
家庭情報	家庭基礎	2				2	2
情報	情報の科学	◇1		◆1			
国語	SSH 論述基礎				1		
	SSH 論文						2
知の探究	スーパーサイエンスI	△3					
	スーパーサイエンスII			▲3			
	スーパーサイエンスIII						1
	知の探究I	□1					
	知の探究II			■1			
	知の探究III						1
外国語	ドイツ語				2		
	フランス語				2		
	SSH 英語				1		
教科等の合計単位数		33～34		33～37		27～36	
総合的な探究の時間		1		0		0	
H R		1		1		1	
H R を含めた総合計		35～36		34～38		28～37	

(1) 1,2年生の芸術○印は、音楽・美術・書道のうちから1科目選択する。
(2) 1年は、△印の「スーパーサイエンスI」または□印の「知の探究I」を履修する。
「スーパーサイエンスI」は、◇印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
(3) 2年は、▲印の「スーパーサイエンスII」または■印の「知の探究II」を履修する。
「スーパーサイエンスII」は、◆印の「情報の科学」(1単位)の代替とする。
(4) 3年の「スーパーサイエンスIII」は、「スーパーサイエンスI, II」の履修者のみが履修することができる。
3年の「知の探究III」は、「知の探究I, II」の履修者のみ選択することができる。
(5) 2年の自由選択科目からは、1～2科目を選択することができる。
(6) 3年の必修選択科目は、5単位を1科目、4単位を2科目、2単位を1科目選択する。
(7) 「人間と社会」は「総合的な学習の時間」で代替する。

2. 単位の認定及び進級・卒業について

①単位

1週間1時間の授業1年分が1単位である。

②単位の履修

当該教科・科目の授業に出席し、指導を受け、その科目の欠時数が年間授業時数(教育課程に定められたその科目の週時間数×35)の1/3以下である場合に単位の履修が認められる。

③単位の修得

教科・科目を履修したうえで、さらに教科・科目の目標から見て満足できる成果を上げた場合に単位の修得が認定される。

④進級について

各学年ごとの進級に必要な条件は以下の通りである。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第1学年において未修得教科・科目の単位数の合計が5単位以内。

第2学年において未修得教科・科目の単位数の合計が6単位以内。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

⑤卒業について

卒業に必要な条件は以下の通りである。

ア 必履修教科・科目をすべて履修していること。

イ 第3学年において未修得教科・科目の単位数の合計が7単位以内であり、かつ、3年間の修得教科・科目の単位数の合計が85単位以上であること。

ウ 特別活動で十分な成果が認められること。

3. 評価

①評価の方法

科目の成績評価は各学期ごとに行い、第1、2学期は10段階法、学年末では5段階法によって示す。第3学年は各学期末の評価は5段階法とする。

学年成績を表す5段階法では、単位を修得できなかった科目は1で、それ以外は5, 4, 3, 2で評価する。

②評価の基準

定期考査、小テスト、宿題等の成績および平常の学習状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などを考慮して、総合して算定する。

4. 定期考査

定期考査は1、2学期は2回、3学期は1回の計5回行う。ただし、3学年の3学期の期末考査を行わない場合もある。

国語科 3年間の教科学習の構成

	現代文	選択現代文	SSH論文	古典〔文系〕	文系古文	理系古典
学習到達度	①基礎的な語彙力を養うため漢検2級程度の語彙を習得する。 ②共通テスト80%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次試験に対応する読解、記述力を習得する。	①高度な論理的文章を読み、理解力を養う。 ②共通テスト90%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①論述力を高めるための技術を習得する。 ②難関国公立大学の二次試験、後期試験に対応できる記述力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②共通テストに80%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立大学二次試験に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②共通テスト80%正解する力を9割の生徒が習得する。 ③難関国公立二次に対応する読解力を習得する。	①古文読解に必須の古文単語を習得する。 ②共通テスト80%正解する力を9割の生徒が習得する。
1年	科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の2単位をあてる。 ①論理的文章の読解を通じ、近代以降の問題や思想を捉え考察を深める。 ②小説において登場人物の心情や行動を読み取り、小説のテーマ等も捉える。 ③詩歌の言葉や表現を味わうことにより、感性や情操を豊かにする。 ④漢字学習、意見の発表、討論などを通じ、語彙や表現力、論述力を伸ばす。			科目：国語総合 履修：共通5 国語総合の3単位をあてる。 ①古典文法、漢文の句形に習熟して語釈解釈ができるようにする。 ②様々な時代の文章を読み、日本の思想や美意識について知る。 ③故事成語、史話、思想を読み、中国の文化・歴史の認識を深める。 ④和歌、漢詩を味読し、言語感覚を養い、読解・鑑賞力を身につける。		
2年	科目：現代文B 履修：必修2 ①文学的文章として1学期「山月記」2学期「こころ」等を味わい、人物・情景・心情を捉える。主題について思考を深化させ自分の考えを表現する。 ②論理的文章について、論理の展開や要旨を捉えて現代が抱えるテーマについて考察する。また、構成を意識して自分の意見を論理的に表現する。 ③近代以降の時代、思想の流れを学び作品理解につなげる文体や修辞の表現上の特色を捉える。	科目：SSH論述基礎 履修：自由1 ①スピーチ・討論・プレゼンテーション。 ②現代の諸問題について調査・考察する。 ③課題文・資料・統計等の読解・分析を行う。 ④論文作法を学び、小論文を作成する。	科目：古典B 履修：必修3 ①教科書を中心として、より多くの作品を、総合的に（文法・単語・時代背景・古典常識などを踏まえて）理解し、作品を通じてものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ②古典の世界を広げるために、古文においては日本史の知識、漢文においては世界史の知識など、他の教科とも関係があることを意識し、作品の読解を深める。 ③文法や語彙の基本的事項の定着のため、副教材・プリント・小テスト等を活用する。			
3年	科目：現代文B 履修：必修2 ①近代以降の文章を読み、異なるジャンルの文体の特徴や時代背景を捉える。 ②論理的文章を読み、近代以降の諸問題や思想、論の流れを捉え、思考力を深め、表現力を高める。 ③副教材を用いて系統的な知識や語彙を充実させ、思考の手段とする。 ④教材を通じて、豊かな感性や想像力を磨く。	科目：選択現代文 履修：自由選択2 ①評論用語の意味を理解して語彙を増やす。 ②文章の構造を論理的に把握する。 ③思考プロセスを意識して設問に取り組む。 ④単元に関連したテーマの入試問題や資料から、読解を深化させる。 ⑤主題をもとに自分の考えを表現する。	科目：SSH論文 履修：自由選択2 ①テーマに関する文献や資料を分析し、少人数で討論、自らの考えを表現する。 ②大学入試小論文問題演習を行い、添削後の検証を行う。 ③原稿用紙800字程度の小論文を書き、時間内に書き上げる力をつける。	科目：古典B〔文系〕 履修：必修選択5 (文系の生徒は全員受講) ①教科書を中心として作品を総合的に理解する。 ②教材理解の手がかりを自ら発見し、各自が発展的課題に取り組めるようにする。 ③大学受験を視野に入れた入試問題の演習を通して、実践的読解力を身につける。	科目：文系古文 履修：自由選択2 (文系の生徒が中心) ①「源氏物語」を中心に「大鏡」や評論、影響を受けた漢文作品にも触れ、知識を広める。 ②演習を行い総合的に学習する。 ③プリントを使って、演習も組み入れる。 ④教養を深め、進路実現の力を身に付ける。	科目：理系古典 履修：自由選択2 (理系の生徒が中心) ①古文：奈良～江戸の和歌・日記・歌論・物語・評論等を扱う。 ②漢文：史伝・思想等多様な分野を扱う。 ③1学期は教科書を中心に作品鑑賞し2学期から入試演習を行う。 ④日中の文化に触れ教養を深め、進路実現の力をつける。

社 会 科 (地理歴史・公民) 3年間の教科学習の構成

	世界史A/B	日本史A/B	地理B	倫理	政治・経済
到達度	学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。	センター試験全国平均点+25%以上の学力を目指す。
1 年	科目：地理B 履修：必修2		科目：倫理 履修：必修2		
	①「地理的なものの見方」を深める際に必要な地図について学ぶ。 ②自然環境について地形・気候から入り、災害・防災をとりあげ、徐々に人文的な内容を扱っていく。 ③産業学習として農業、資源、工業まで順に扱う。 ④都市と村落の機能や立地条件および課題について学ぶ。 ⑤人口問題、環境問題などグローバルな課題を取り上げる。 ⑥地誌的学習では、基本的にはなるべく多くの地域を取り上げる。		・青年期の「自分への問い」を出発点として、古今東西の哲学思想や宗教思想を取り上げ、それを青年期の心理的葛藤や、現代社会の諸問題との関連で理解するようにする。 ①青年期の自己形成、②人類思想の源流（ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想）、③ルネサンス以降の西洋近代思想の展開、④20世紀と現代思想、⑤現代文明が直面する倫理的課題、などについて学ぶ。		
	科目：世界史B 履修：必修3		科目：日本史B 履修：必修3		
2 年	・最初に古代・中世を概略的に学ぶ。 ・中心となるのは15世紀以降である。ルネサンス・大交易時代・宗教改革・主権国家群の形成を学習し、また、ユーラシア諸帝国の繁栄を学習する。 ・18世紀後半～19世紀初頭の大西洋革命（急速な工業化・アメリカ独立革命・ラテンアメリカ独立・フランス革命）から19世紀末までの近代ヨーロッパを学び現代社会の基本的枠組が形成される過程を理解する。 ・アジア諸地域の変革運動を学習し、植民地化と民族運動を理解する。 ・3年生で「世界史A」「世界史B」を選択すれば、通史が完成する。		・近世から近代(明治時代)までを主に学習する。 ・日本人と日本社会の成り立ちについて、今日の日本人の社会生活や精神生活、文化の基層がほぼ出来上がる近世初頭から学習を始めて、日本が国際社会の一員として出発し、重要な役割を担うことになる明治維新以降の近代史を通史的に学ぶ。 ・前半の原始・古代から中世までと現代(大正・昭和時代)は、3年生の「日本史B(4単位)」「日本史A(2単位)」で学習するので、3年生で「日本史B」「日本史A」を選択すれば、日本史Bを通史的に網羅し、大学入試に対応できる。		
3 年	科目：世界史A/B 履修：自由選択2/4	科目：日本史A/B 履修：自由選択2/4	科目：地理B 履修：自由選択2/4	科目：倫理 履修：自由選択2	科目：政治・経済 履修：必修2/自由選択2
	◎世界史A ・2年次の必修で未習部分の後半、近代後半から現代史。 ・帝国主義から冷戦解消後21世紀の歴史まで。2学期末から3学期は大学入試特別授業。 ◎世界史B ・2年次の必修で未習部分の古代史・中世史を中心に学ぶ。 ・センター試験から国公立2次・難関私大も対応する内容。	◎日本史A ・大正から昭和の政治・外交・社会・経済史を通史的に学ぶ。受験に対応できる基礎の確立をはかる。 ◎日本史B ・原始・古代から中世の戦国時代までを学習し、2年次の必修範囲につなげる。 ・さらに2年次に学習しなかった文化史も学習する。	・現代世界の系統地理的考察、現代世界の地誌的考察、地理情報と地図などの学習を踏まえ、世界の抱える諸課題等について正しい地理的認識が得られるように学習する。 ・2単位はセンター試験で高得点がとれるよう、4単位は難関大学にも対応できるように学習する。	・「倫理」の全領域のセンター試験必須事項を完全学習する。 ・プリントを使用し、教科書プラスαの補充事項も確認する。 ・センター試験問題演習を実施する。	◎必修 ・経済の分野から国際分野まで。時事問題を取り入れながら学習する。 ◎自由選択（政経プラス） ・政治の分野から始めて国際分野まで。演習問題等も取り入れながら学習する。 ・どちらもプリントを使用し、センター試験で得点できる力を習得する。

数 学 科 3年間の教科学習の構成

学 習 到 達 度	数学Ⅲ	数学Ⅱα4／数学Ⅱα2	数学Ⅱβ4／数学Ⅱβ2
	大学入試個別学力試験で、難関 国立大学に対応できる学力を身につける。	大学入試センター試験の全国平均点を25%上回る学力を身につける。	大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。
1 年	科目：数学Ⅰ 履修：必修3単位		科目：数学A 履修：必修3単位
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ全範囲及びその発展学習をする。数と式，2次関数，図形と計量，データの分析，式と証明（発展学習），複素数と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばし，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学Aの全範囲及びその発展学習をする。場合の数と確率，図形の性質，整数の性質，図形と方程式（発展学習）について理解する。 ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を育て，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
2 年	科目：数学Ⅱ 履修：必修3単位		科目：数学B 履修：必修2単位
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱの全範囲及びその発展学習をする。複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数と対数関数，微分法と積分法，数列の極限（発展学習），関数の極限（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学Bの全範囲及びその発展学習をする。ベクトル，数列，いろいろな関数（発展学習）について理解する。 ・学習範囲の基本的事項についての理解を深め，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
3 年	科目：数学Ⅲ 履修：必修選択5単位	科目：数学Ⅲ 履修：自由選択2単位	科目：数学Ⅱα4／数学Ⅱα2 履修：自由選択4単位／自由選択2単位
	微分法 微分法の応用 (1) 導関数の応用 (2) 速度と加速度 積分法 (1) 不定積分 (2) 定積分 積分法の応用 後半は入試問題演習、大学入試センター演習等を行う。	複素数平面 式と曲線 (1) 2次曲線 (2) 媒介変数表示と極座標 後半は入試問題演習、大学入試センター演習等を行う。	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容について，大学入試センター試験に向けた演習を中心に行う。 (数学Ⅰ) ●数と式 ●2次関数 ●図形と計量 ●データの分析 (数学A) ●場合の数と確率 ●図形の性質 ●整数の性質 (数学Ⅱ) ●式と証明 ●複素数と方程式 ●図形と方程式 ●三角関数 ●指数関数・対数関数 ●微分法・積分法 (数学B) ●数列 ●ベクトル

理科 3年間の教科学習の構成

	物理基礎／物理	化学基礎／化学	生物基礎／生物	地学基礎／地学
学習到達度	<p>◎物理基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験の全国平均得点を25%上回る学力を身につける。 <p>◎物理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で難関大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎化学基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題8割正解。 <p>◎化学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試レベル問題9割正解。 ・難関国立大学の入試問題を最低でも5割正解できるようになる。 	<p>◎生物基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50%以上の生徒が、センター試験の全国平均得点25%上回る学力を身につける。 <p>◎生物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。 	<p>◎地学基礎・地学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいた現象の理解ができるようになる。 ・センター試験において、8割以上の得点が得られるようになる。
1年	<p>科目：生物基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴（生物の多様性と共通性・生命活動とエネルギー） ・遺伝子とそのはたらき（生物と遺伝子・遺伝情報の分配・遺伝情報とタンパク質の合成） ・生物の体内環境の維持（体内環境・体内環境の調節・免疫） ・生物の多様性と生態系（植生の多様性と分布・気候とバイオーム・生態系とその保全） ・生殖と発生（動物の生殖と発生・発生のしくみ・植物の生殖と発生） 		<p>科目：地学基礎 履修：必修2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球・宇宙を対象として、観察や実験実習及び巡検を通して自然への探究心を高める。 ・われわれの住む地球を、自然科学の知識をもとに総合的に考察する。 ・地球の姿とその変化、惑星としての地球、大気と地球の熱収支、生物の変遷と多様性について学習し、人間の活動と環境について考える力を養う。 ・2学期に城ヶ島巡検を実施し、実際に自分で地層や地質構造を観察し、報告書を作成する。 	
	<p>科目：物理基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てる。 ・基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 ・系統的で論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がける。 ・力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積み理解を深める。 		<p>科目：化学基礎 履修：必修3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成：物質と探究・原子の構造と元素の周期表・化学結合 ・物質の変化：物質と化学反応式・酸と塩基・酸化還元反応 <p>観察や実験を取り入れながら、発展的な内容（無機化合物や有機化合物、電池や電気分解など）にも触れていき、理解を深める。</p>	
3年	<p>科目：物理基礎／物理 履修：自由選択1／4・6</p> <p>◎物理基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験のための講座である。問題演習を中心に行う。 <p>◎物理（4・6単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では教科書の各項目に則して、実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。 ・力学と電磁気は物理学で重要な柱である。十分に練習を積んで、理解を深めるような努力を望む。 	<p>科目：化学基礎／化学 履修：自由選択1／2・4</p> <p>◎化学基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら復習して、進路実現に向けた学習計画を立てる。 <p>◎化学（4単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結晶、物質の状態、化学反応の速さと平衡、高分子化合物、生命と物質。授業は前半で理論を中心に、後半で演習や実験を中心に展開していく。 	<p>科目：生物基礎／生物 履修：自由選択1／4・6</p> <p>◎生物基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞・代謝・遺伝子・恒常性・多様性・生態系・生殖・発生 ・センター試験のための講座である。問題演習を中心に行う。 <p>◎生物（4・6単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報の発現調整・代謝・環境応答・生態と環境・進化と系統 	<p>科目：地学基礎／地学 履修：自由選択1／2・4</p> <p>◎地学基礎（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球誕生から現在までの地球史・生物の進化を学び、地球環境を理解 ・重力・地磁気等の地球物理的要素、火山や地震。日本列島の形成史 ・気象現象の各要素の理解、四季の天気変化の原因の考察 ・天文学史について1年次の復習、恒星宇宙から銀河宇宙までの学習

英 語 科 3年間の教科学習の構成

	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱプラス	コミュニケーション英語Ⅲプラス
到達度	・ 共通テストで8割以上得点できる学力を身につける。 ・ 難関国公立大学中心に出題される記述問題に対する解答力を磨く。	・ 国公立大学の二次試験や難関私立大学で出題される和文英訳、自由英作文の設問に対し、8割以上得点できる記述力を磨く。	・ 主に難関私立大学の入試に対応できる速読・精読力、文法・語法力を養う。 ・ 早慶大レベル入試で7割以上得点する学力を身につけることを目指す。	・ 国公立大学、難関私立大学の入試で7割以上得点できる学力を身につけることを目指す。
1年	科目：コミュニケーション英語Ⅰ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅰ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に扱い、英語の基礎力を養う。パラグラフの構成を意識しながら、教科書以外の物語・説明文なども丁寧に読み、文章を正確に理解できる読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に把握する速読力を養う。 ③授業以外の「多読」により、多量の英文に接し、直読直解の力を養う。 ④英語によるコミュニケーションを通じて、外国の文化や社会について理解を深め、国際理解のためのツールとして実践的な英語力を養う。		①日常的な場面において、英語を聞いたり話したりする基本的なコミュニケーション能力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ②文法・語法学習を通して、言語の機能を理解し、英語を正確に理解する力を養う。 ③パラグラフィティングを通して、自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。 ④1クラスを2グループに分けて、少人数授業を行う。 ⑤英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。	
2年	科目：コミュニケーション英語Ⅱ 履修：必修3		科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	
	①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の総合的な力を伸ばす。ディスコース・マーカーやパラグラフの展開を意識しながら、教科書以外の物語・説明文等を丁寧に読み、文章を正確に理解できる高度な読解力を養う。 ②速読の練習により、文章の概要や要点を素早く正確に理解する速読力を伸ばす。 ③授業以外の「多読」により、さらに多量の英文に接し、高度な直読直解力を伸ばす。 ④自分の考えを的確に英語で表現する能力を伸ばす。		①基礎的な語彙力・文法力を土台にして、英語を「書く」「話す」という表現力に結び付けていく。 ②パラグラフィティングを通して、自分の伝えたいことを適切に表現できる能力を養う。 ③海外の文化や社会について理解を深め、幅広い話題について表現できる能力を養う。 ④英文法の復習と英作文の演習を軸にして、英語表現の習熟を図る。2クラスを3グループに分けて、習熟度別授業を行う。	
3年	科目：コミュニケーション英語Ⅲ 履修：必修4	科目：英語表現Ⅱ 履修：必修2	科目：コミュニケーション英語Ⅱプラス 履修：自由選択4	科目：コミュニケーション英語Ⅲプラス 履修：自由選択2
	①これまでに身につけた基礎力を定着させると同時に高度な応用力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、内容を十分に理解する能力を養う。 ②難関大学入学試験・大学入学後の学習に対応できる読解力を養成する。 ③精読により文法・語法・構文・発音等に注意を払い、正確に読む力・早く読む力を養う。	①これまでに身につけた基礎力を確認し、高度な応用力を身につけ、正確な英文を書き、自分の言いたいことを十分に伝える能力を養う。 ②問題演習を通じて、語法・文法問題に対する解法力を磨く。 ③1クラスを2グループに分け、少人数授業を行う。 ④英作文演習を中心に、語法・文法問題演習を合わせて学習する。	①これまで身につけた文法・語法力を確認しながら、高度な総合的英語力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。 ②問題演習形式で行い、リスニングの教材も用いる。 ③適宜、テキスト以外の入試問題や新聞・雑誌記事等も扱う。自由英作文の問題演習も扱う場合がある。	①これまで身につけた文法・語法力を確認しながら、高度な総合的英語力の獲得をめざし、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。 ②問題演習形式で行う。また適宜、補充の演習問題や入試問題も扱う。 (今年度開講なし)

理数課題研究 3年間の教科学習の構成

到達度	外部への発表会参加と論文応募において入賞を目指す。入試においても好成績を残すことを目指す。
1年	<p>科目：スーパーサイエンスⅠ（SSⅠ） 履修：SSHクラス必修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理、化学、生物、地学の5つのコースに分かれて科学人材に必要なリテラシーを修得する。 2. 科学的現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。 3. 科学的な基本概念を形成し、より高度な知識を受け入れる素地を形成すること。 4. 探究の方法やプレゼンテーションの方法の基礎・基本を身につけること。 5. 最新の科学の動向について見通しを持つこと。
学習到達度	<p>5つのコースに分かれて行うがどのコースも探究活動の発表を目指す。そのため将来必要な観察力，データの整理におけるパソコンの利用法，規則性の発見の喜び，探究的態度などを育成すること，勉強に対する意欲と関心を喚起すること，論理的思考力と表現力を高めることなどを目的として，自然現象を対象とした観察・実習を中心に行う。理数分野についての課題研究などの準備をする。地域連携として天体観望会の運営や科学教室も行う予定である。</p> <p>週時程に入る授業時間は2時間で，残り1単位については，長期休業中，休日や放課後の時間に野外観察などを実施して充てる。科学館訪問や大学の先生による発展的な内容の講演，大学や研究機関の研究室訪問実習も行う。科学系のコンテスト参加への素地を作る。</p>
2年	<p>科目：スーパーサイエンスⅡ（SSⅡ） 履修：SSHクラス必修</p> <p>自主的な探求活動を中心に行い、地道で着実な実験と分析を繰り返す。 2年間のSSH講座の集大成として、対外的な発表を義務づけ目標とする。 講演会・大学訪問は受講者のみ義務。講演会は1年SS+希望者が加わる。 他校の発表会を参考とする。他校と交流し、外部発表会に慣れる。他校の独自の資料は大いに参考とする。 急なイベントにも対応する。（科学フォーラム、科学の甲子園、科学オリンピックなど） 大学受験問題から、実験装置を作って実験することも可能。</p>
到達度	<p>科学への興味関心が増し、探究活動の方法を習得し、自主的な態度でテーマを設定して研究に入る準備をし、理解して工夫し科学の魅力を多くの人に伝えることができるようにする。 レポートやプレゼンテーションの内容，日常の活動状況・出席状況などを自発的，かつ積極的な活動を行う。</p>
3年	<p>科目：スーパーサイエンスⅢ（SSⅢ） 履修：SSHクラス 自由選択</p> <p>2年間の課題研究を磨き上げ、生徒研究発表会などの外部発表会や科学コンテストの論文応募を行う。 英語論文作成にもチャレンジする。入試問題にも意欲的に取り組む。</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	現代文B	2単位	必修	対象学年	3年
教科書 副教材	「新精選 現代文B」(明治書院) 「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「ちくま評論選」(筑摩書房) 「上級入試漢字」(桐原書店) 「現代文キーワード読解」(Z会) 「現代文長文記述問題集3 入試必修編」 (いいずな書店) 「センター試験過去問題集」(尚文出版) 「共通テスト対策 現代文完答20」 (尚文出版)他	教科担当			

学習の目標

- ・近代以降の文章を読んで、読解力・論理的思考力・表現力の深化を目指す。
- ・読書を通じて、想像力・創造力を鍛え、豊かな人間性の育成に努める。
- ・進路実現のための総合的な国語の力を身に付ける。

学習到達度

- ・基礎となる語彙力を養い、共通テストの語彙問題で90%以上正解する力を身に付ける。
- ・共通テスト80%正解を、9割の生徒が身に付ける。
- ・難関国公立大学の二次試験に対応できる読解力、記述力を身に付ける。

授業内容

- ・近代以降の文章を読み、異なるジャンルの文体の特徴や時代背景、文化の特徴を捉える。
- ・論理的な文章を読み、論展開を踏まえつつ、近代以降の諸問題や思想を捉え、思考力・表現力を一層伸展させる。
- ・副教材を通じて、系統的な知識や語彙を充実させるとともに、思考を深める。
- ・様々な教材を通じて、豊かな感性や想像力を磨く。

学習方法

- ・巨視的な視点、微視的な視点で文章を論理的に読解する。(二項対比・弁証法等)
- ・文章の論展開や段落構成、枠組み等を理解し、主張を把握する。(引用・対比・例示等)
- ・新聞や新書等を読み、知識・語彙を増やす。(評論用語・現代用語・古語・漢語・外来語)
- ・評論文の要約を行い、読解力の向上を図る。また、的確な論展開のある意見文を書く。
- ・比喩、修辞、接続詞、筆者独自の定義等、文章表現に留意する。

評価の観点

- ・関心・意欲・態度……学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、関連書物等も発展的に読み、社会に関心を向け、思考の深化に努めたか。
- ・理解……筆者の主張や登場人物の思考や感情について、様々な視点から捉えられたか。
- ・読解……文脈における意味を、論理的に把握できたか。
- ・表現……教材を通じて問題意識を持ち、自らの考えを的確に表現することができたか。
- ・知識……思考のベースになる語彙や思想のパラダイムについての知識が身に付いたか。

評価の方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況、学習態度等をもとに、総合的に判断し、評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	小説	12	「舞姫」 森鷗外 (中間考査)	○近代日本の時代背景・価値観を把握する。近代思想と旧来の思想の乖離に悩む主人公の苦悩を通じて人間存在や人生に対する自己の考えを深める。
	5				
	6	評論	12	「グローバリゼーションの光と影」 小熊英二 「猫は後悔するか」 野矢茂樹 (期末考査)	○評論の基礎となるナショナリズムの問題について考える。 ○論理の展開に従い、筆者の主張を正確に読み取る。
2 学 期	9	評論 『評論選』	14	「わたしの個人主義」 夏目漱石 副教材『評論選』 岡真理 「棗椰子の木陰の文学」 (中間考査) 副教材『評論選』 丸山真男 「幕末における視座の文学」 共通テスト(センター試験過去問) 演習	○論理の展開に従い、筆者の主張を正確に読み取る。 ○共通テスト(センター評論) 演習を行う中で論理展開に沿って文章を理解する。また、共通テスト(センター小説演習) では場面展開に沿って心情把握に努める。
	10	共通テスト演習			
	11	共通テスト演習	14	共通テスト(センター試験過去問) 演習 (期末考査)	○共通テスト(センター試験) 演習を行う中で、論理展開に沿って文章を理解する。また、場面展開に沿って小説を味わう。
	12	特別授業			
3 学 期	1	特別授業	18	直前共通テスト対策 私大・国公立2次試験対策	○演習と解説(論述・小論文対策)

学習者へのメッセージなど

現代社会に生きる私たちは、現状を認識し、原因や背景の分析、今後について思考し行動する。これらの活動を支えているのが言語である。現代社会の中で論理的な思考力を築き、感性を磨き、問題意識をもって、国語学習に取り組んでほしい。そして、より豊かで高潔な精神生活を送ることを目指してほしい。なお、上記の課題については、省略したり、適宜入れ替えたりする場合もある。

授業計画

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	古 典 B	5 単 位	選 択	対 象 学 年	3 年
教科書 副教材	「高等学校古典B 古文編」（三省堂） 「高等学校古典B 漢文編」（三省堂） 「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「体系古典文法」（数研出版） 「新明説漢文」（尚文出版） 「古文単語 330」（いいずな書店） 「ウイニングクリアー漢文」（尚文出版） 「古典 センター試験国語過去問題」（尚文出版） 「共通テスト対策古典 完答 2 4」（尚文出版） 「まぎらわしい語の識別マスターノ一改訂版」（数研出版）他	教科担当			

学習の目標

- ・ 古典の文章を読解・鑑賞する方法を習得し、ものの見方・考え方を深めると共に、古典文学作品を読む楽しみを知る。
- ・ 古典文学の鑑賞を通して言語感覚を高め、表現力をより豊かにしてゆく。
- ・ 国際社会を生きる日本人として、価値ある古典作品を多く読み、わが国の文化と伝統について考察と理解を深める。

学習到達度

- ・ 古典を読解するための必須古文単語（330語及び関連語）を復習し、習得する。
- ・ 共通テスト試験80%正解を、9割の生徒が身に付ける。
- ・ 難関国公立大学の二次試験に対応できる読解力を身に付ける。

授業内容

- ・ 教科書を中心として、作品を総合的に（文法・語彙・背景知識を踏まえて）理解する。
- ・ 教材理解のための手がかりや学習活動のポイントを自ら発見し、各自が発展的な課題に取り組めるようにする。
- ・ 大学受験を視野に入れた入試問題の演習を通して、実践的な読解力を身につける。

学習方法

- ・ 予習を前提として授業にのぞむ。
- ・ 古文・漢文の背景知識を授業等によって増やし、読解に活用する。
- ・ 音読・口語訳・文法理解および作品理解を通して、文章の読解・鑑賞を深めてゆく。
- ・ 入試問題演習に計画的に取り組み、応用力をつける。

評価の観点

- ・ 関心・意欲・態度・・・学習に関心を持ち、積極的に参加したか。
- ・ 読解・・・読解のための文法事項を徹底的に理解し習得する。さまざまな基本的な古典知識を身につけ、作品読解に生かしたか。
- （古文）
 - ・ 基本的な重要語彙を習得しているか。
 - ・ 文法知識・古文知識を駆使し、解釈に生かしているか。
 - ・ 内容を適切に読解しているか。
- （漢文）
 - ・ 語順及び基本句形、用字を習得し、解釈に生かしているか。
 - ・ 内容を適切に読解しているか。

評価の方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況、学習態度等をもとに、総合的に判断し、評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	4	〈古文〉 随筆 日記	30	「枕草子」 「蜻蛉日記」	○基本的な文法事項（用言・助動詞・敬語）を確認し、正しい現代語訳を行えるようにする。 ○主客の把握を的確に行い、作品の内容を正確に把握する。 ○基本的な句形を復習・確認する。
	5	〈漢文〉 小話		「列女伝」「韓非子」 (中間考査)	
	6	〈古文〉 日記 物語	30	「和泉式部日記」 「紫式部日記」 「源氏物語」	○作者や登場人物の心情を的確に読み取る。 ○古典知識を復習し、時代背景や貴族の日常生活を理解する。 ○句形・語法の整理をしつつ、登場人物の行動、正確、心情を理解する。
7	〈漢文〉 史伝	「史記」 (期末考査)			
2 学期	9	〈古文〉 物語 歌論	35	「源氏物語」 「古今和歌集仮名序」 「無名抄」他	○「源氏物語」の概要を理解し、登場人物の心情を読み取る。 ○歌論にふれ、筆者の主張を読み取り、近代以前の人々の古典の読み方、感じ方、考え方を理解する。 ○儒家や道家・墨家などの思想に触れその概要を理解する。 ○句形、語法の総括を行う。
	10	〈漢文〉 思想		「孟子」「老子」「荘子」 「墨子」他 (中間考査)	
			共通テスト演習	共通テスト（センター試験過去問）演習	○過去5年分のセンター過去問題演習を行う。
	11	共通テスト演習	35	共通テスト（センター試験過去問）演習	○過去5年分のセンター過去問題演習を行う。
	12	特別授業		(期末考査) 文章読解のまとめ	
3 学期	1	特別授業	45	直前共通テスト対策 私大・国公立2次試験 対策	○主要大学の過去問題を中心に演習を行い、論述力を身につける。

学習者へのメッセージなど

- ・必ず予習し、主体的な自学自習の態度を身に付ける。予習の徹底により問題意識をもって授業に参加する姿勢を貫き、実践的な読解力を養ってほしい。
- ・授業の中で、予習した時点での疑問点を解消し、復習を行う。不明な点は質問する。
- ・古典は特別な教材ではなく、私たちの血脈の中に行き続けるものであることを実感し、人間観察眼をも養うことを願う。なお、上記の課題については省略したり、適宜入れ替えたりする場合もある。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	理系古典（古典B）	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	「高等学校古典B 古文編」（三省堂） 「高等学校古典B 漢文編」（三省堂） 「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「体系古典文法」（数研出版） 「新明説漢文」（尚文出版） 「古文単語330」（いいずな書店） 「ウイニングクリアー漢文」（尚文出版） 「古典 センター試験国語過去問題」（尚文出版） 「共通テスト対策古典完答24」（尚文出版） 「まぎらわしい語の識別マスターノート」（尚文出版）他	教科担当			

学習の目標

- ・ 古典の文章を読解・鑑賞する方法を習得し、ものの見方・考え方を深めると共に、古典文学作品を読む楽しみを知る。
- ・ 古典文学の鑑賞を通して言語感覚を高め、表現力をより豊かにしてゆく。
- ・ 国際社会を生きる日本人として、価値ある古典作品を多く読み、わが国の文化と伝統について考察と理解を深める。

学習到達度

- ・ 古典を読解するための必須古文単語（330語及び関連語）を復習し、習得する。
- ・ 共通テスト80%正解を、9割の生徒が身に付ける。
- ・ 理系の難関国公立大学二次試験に対応できる読解力を身に付ける。

授業内容

- ・ 教科書を中心として、作品を総合的に（文法・語彙・時代背景を踏まえて）理解する。
- ・ 教材理解のための手がかりや学習活動のポイントを自ら発見し、各自が発展的な課題に取り組めるようにする。
- ・ 大学受験を視野に入れた入試問題の演習を通して、実践的な読解力を身につける。

学習方法

- ・ 予習を前提として授業にのぞむ。
- ・ 古文・漢文の背景知識を授業等によって増やし、読解に活用する。
- ・ 音読・口語訳・文法理解および作品理解を通して、文章の読解・鑑賞を深めてゆく。
- ・ 入試問題演習に計画的に取り組み、応用力をつける。

評価の観点

- ・ 関心・意欲・態度…学習に関心を持ち、積極的に参加したか。
- ・ 読解…読解のための文法事項を徹底的に理解習得する。さまざまな基本的な古典知識を身につけ、作品読解に生かしたか。
- （古文）
 - ・ 基本的な重要語彙を習得しているか。
 - ・ 文法知識・古文知識を駆使し、解釈に生かしているか。
 - ・ 内容を適切に読解しているか。
- （漢文）
 - ・ 語順及び基本句形、用字を習得し、解釈に生かしているか。
 - ・ 内容を適切に読解しているか。

評価の方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況、学習態度等をもとに、総合的に判断し評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当欄	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	〈古文〉 随筆 日記	12	「枕草子」 「蜻蛉日記」	○基本的な文法事項（用言・助動詞・敬語）を確認し、正しい現代語訳を行えるようにする。 ○主客の把握を的確に行い、作品の内容を正確に把握する。 ○基本的な句形を復習・確認する。
	5	〈漢文〉 小話		「列女伝」「韓非子」 (中間考査)	
	6	〈古文〉 日記	12	「和泉式部日記」 「紫式部日記」	○作者や登場人物の心情を的確に読み取る。 ○古典知識を復習し、時代背景や貴族の日常生活を理解する。 ○句形・語法の整理をしつつ、登場人物の行動、正確、心情を理解する。
	7	〈漢文〉 史伝		「史記」 (期末考査)	
2 学 期	9	〈古文〉 物語 歌論	14	「源氏物語」 「古今和歌集仮名序」 「無名抄」他	○「源氏物語」の概要を理解し、登場人物の心情を読み取る。 ○歌論にふれ、筆者の主張を読み取り、近代以前の人々の古典の読み方、感じ方、考え方を理解する。 ○儒家や道家・墨家などの思想に触れ、その概要を理解する。 ○句形、語法の総括を行う。 ○過去5年分のセンター過去問題演習を行う。
	10	〈漢文〉 思想 共通テスト 演習		「孟子」「荘子」「墨子」 他 (中間考査) 共通テスト（センター試験過去問）演習	
	11	共通テスト 演習		共通テスト（センター試験過去問）演習	
	12			(期末考査)	○過去5年分のセンター過去問題演習を行う。
3 学 期	1	特別授業	18	共通テスト（センター試験過去問）演習 国公立2次試験対策	○主要大学の過去問題を中心に演習を行い、論述力を身につける。

学習者へのメッセージなど

予習・復習を徹底し、地道に努力を積み重ねてください。古典文学を読むにあたって、文法に基づいた現代語訳ができることは無論ですが、時代による価値観や考えの違い、現代に通じるテーマ等を読み取り、自分自身の世界を広げてください。なお、上記の教材や課題については省略したり、入れ替えたりする場合があります。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山高等学校

科目 (講座名)	世界史B	4単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史B (東京書籍) ・ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店) ・世界史用語集 (山川出版社) 	教科担当			

学習の目標

2年次必修「世界史B」未学習部分の19世紀半ば以降のヨーロッパ史・古代史・中世史を学ぶ。歴史の流れを把握し、確実な知識と歴史的な思考力を身につけ、国公立大学の2次試験問題に対応できる学力をつける。

学習到達度規準

全範囲の学習を終えた時点で、2年次の学習と「世界史A」の学習範囲を併せて、現代世界で起きている諸事象の歴史的背景を考察し、理解し、表現できる力を身につけている。

授業内容

年度当初は19世紀半ば以降の帝国主義時代を学び、古代史においては、オリエント世界・地中海世界・西アジア世界・南アジア世界・東アジア世界など、諸地域世界の政治・経済の流れと諸地域間との関連を把握し、現代への影響も含めて理解する。中世史においては、諸地域世界が、ゲルマン人やトルコ人の移動、キリスト教の伝播、さらには東西交易などによって変容を遂げ、新たにイスラーム世界や中国の諸王朝、ヨーロッパ世界が成立したことを理解する。次に西アジア・南アジア・東アジア世界の近世を学び、「世界史A」と併せて通史を完結させる。

学習方法

教科書・資料集や各教員の出すプリントを基に、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を進めていく。史資料、統計を用い、生徒間の討議を中心に進めていく時間もある。世界史学習には、予習と復習が欠かせない。予習で教科書をよく読み、授業にのぞみ、計画的に復習を重ねていけば、無理なく世界史の理解を達成できる。通史完成と大学入試問題への対策のために、放課後補習や夏期講習を行う計画があるので、積極的に参加して欲しい。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度 … 世界史の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、世界史で学んだ知識を積極的に活用しようとしたか。
2. 世界史的な見方・考え方 … 時代ごとに、世界史的な視野で国際情勢を把握することができたか。また、現代の世界について、歴史から課題を見つけ、国際社会におけるわが国の役割と立場を認識できたか。
3. 表現 … 歴史を叙述する力を身につけることができたか。発問や討議などを通じて自分の意見を表現する方法を身につけることができたか。
4. 知識・理解 … 世界史の基本的な流れを理解し、知識を身につけたか。

評価の方法

年に4回の定期考査と日常の学習状況、オンライン配信学習への取り組みから評価する。日常の学習状況の評価とは、出席状況、世界史への関心度、授業への取り組み(史資料の活用、ノート作成等)、予習復習、課題(配布プリント、レポート等)への取り組み、発問に対する回答姿勢などを総合的に見る。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 ・ 5	資本主義の 発達と帝国 主義 ・ さまざまな 地域世界	2 5	・ 19世紀のヨーロッパ ・ 文明以前の人類 ・ オリエント世界と 東地中海世界（前半） (中間考査)	・ 2年次の未修項目を学ぶ。 ・ 考古学的観点から先史を説明し、 オリエントはメソポタミアから アケメネス朝まで。 ・ エーゲ文明、ポリスの発展、アテ ネの民主政、ポリスの衰退等ギリ シア史。
	6 ・ 7	2世紀の世界	2 5	・ オリエント世界と 東地中海世界(後半) ・ 地中海世界と西アジア ・ 南アジア世界 ・ 東アジア世界 (期末考査)	・ ヘレニズム時代からローマ帝国の 東西分裂・ササン朝まで。 ・ インダス文明から、インドにおけ る古代統一帝国の盛衰と東南ア ジア史。 ・ 周辺民族との関係を踏まえながら 黄河文明・殷～後漢。 ・ イスラーム世界の形成。 ・ ユーラシア諸帝国の繁栄。
	8	広域世界の 形成と交流			
2 学 期	9 ・ 10	広域世界の 形成と交流	2 5	・ 東アジア世界の変容 ・ 中華帝国とアジア ・ ヨーロッパ世界の形成 (中間考査)	・ 唐・宋・遼・西夏・金代。 ・ 明・清。 ・ ビザンツ帝国・東欧史。 ・ 西ヨーロッパ世界の成立。
	11 ・ 12	広域世界の 形成と交流	2 5	・ ヨーロッパ世界の形成 (後半) (期末考査)	・ 西欧中世封建社会が、十字軍運動 等を契機に変容する過程と、当時 の文化・社会の動向。 ・ 中世ヨーロッパ世界の動揺。
	12	特別授業	1 0	・ ヨーロッパ中世文化史 ・ 大学入学共通テスト対策	・ 文化史の特徴。 ・ 大学入学共通テスト対策問題演習。
3 学 期	1 ・ 2	特別授業	1 0	・ 大学入学共通テスト対策 ・ 国公立2次論述対策	・ 大学入学共通テスト対策問題演習。 ・ 国公立2次論述の演習・答案指導。 論述問題への対応。

学習者へのメッセージなど

近年の世界史は学習範囲が広まる傾向を見せており、世界の諸地域についてより深く学ぶことが求められるようになりました。理解すべき知識量は増大し、大学入試の出題も多岐にわたるようになってきました。世界史は人類全ての歴史を扱う学問です。現代の世界が、連綿たる人類の営みの集積で築かれたものであるとすれば、21世紀を生きる皆さんには、世界史を学ぶ重要性は以前にも増して重要なはずで、興味のない世界史と一緒に学び、同時に大学入試に合格するために必要な学力を完成させましょう。

本授業で学ぶ古代・中世史は、2年次に学んだ近世・近代の歴史の前提となる範囲です。近世・近代の源泉が古代・中世にある事実を知ると共に、古代・中世の歴史が現代にも大きな影響を与えていることを学んで欲しいと思います。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山高等学校

科目(講座名)	世界史A	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	・現代の世界史(山川出版社) ・ニューステージ世界史詳覧(浜島書店)	教科担当			

学習の目標

2年次の必修で学んだ内容を基に、未習部分の後半、近代後半から現代史(19世紀末～21世紀史)を学ぶ。本講座は、未習部分の古代・中世を扱う同じ選択講座(4単位)と共に学習することによって、世界史学習の完成を目指す。難易度はセンター試験よりやや難しい内容とし、国公立の2次・難関私立大学にも対応できるものとする。

学習到達度規準

全範囲の学習を終えた時点で、現代世界で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。

授業内容

2年次に学んだ範囲の続きを行う。2年次での必修授業ではルネサンスから19世紀末までの授業を行った。それを受けた形で行われる本講座は、19世紀以降の中国史から始め21世紀の歴史までを扱う。

2学期期末試験終了後から3学期にかけて、大学入試に即応した特別授業を実施する。

学習方法

普段の授業は講義形式で行う。補助教材としてプリントを配布する場合もある。講義の展開は相当程度の進捗と深い内容に及ぶ予定なので、各人の予習と復習が大変重要である。各人が努力を積み重ねて、しっかりとした「世界史の実力」を養成して欲しい。

ただし2単位の学習時間では、学習できない部分も出てくる可能性もある。平日補習、夏期講習等の補習で通史を完成させる予定であるので、ぜひ参加してほしい。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・世界史の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また世界史的な見方や考え方を認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 世界史的な見方・考え方・・・世界史の知識の習得により、世界史的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・・・物事を歴史的に考察し、表現し、推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解・・・世界史の基本的な流れを理解し、因果関係を認識できたか。

評価の方法

年に4回の定期考査と普段の学習状況から評価する。普段の評価とは、出席状況、世界史への関心度、発問への返答内容などを総合的に見る。定期考査はセンター対策として知識の整理を目指す内容と、国公立大2次対策として論述問題を出题する。

授業計画

期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4 ・ 5	一体化する 世界	15	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸地域の変革運動 ・産業資本主義の発展と帝国主義 <p>(中間考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半のヨーロッパ史や、アヘン戦争に始まるアジアのヨーロッパへの従属に関する歴史的展開、国際情勢の変化を理解する。 ・ヨーロッパ各国による帝国主義政策が、第一次世界大戦を引き起こす過程を理解する。
	6 ・ 7	地球世界の 成立	15	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦 ・ロシア革命 ・ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編 (前半) <p>(期末考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初の世界大戦である第一次世界大戦の経過・性格を通覧すると共に、その最中に起こったロシア革命、戦後成立したヴェルサイユ体制が、どのような歴史的意義を持ったのかを理解する。
2 学期	9 ・ 10	(同 上)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編 (後半) ・大戦後の合衆国とヨーロッパ ・アジア・アフリカでの国家形成の動き <p>(中間考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制下のヨーロッパで、経済復興や国際協調が実現した経過と、欧米諸国の国内情勢をそれぞれ理解する。 ・中国国民革命、インド独立運動、東南アジアの民族運動、朝鮮の独立運動を理解する。
	11 ・ 12	(同 上)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌と国際対立の激化 ・第二次世界大戦 ・アメリカ合衆国の覇権と冷戦の成立 <p>(学年末考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1929年に発生した世界恐慌と、その影響・各国の対応を理解する。 ・第二次世界大戦の経過・性格を通覧する。 ・大戦後に生じた冷戦の原因・構造を理解する。
	12	特別授業	4	<ul style="list-style-type: none"> ・第三世界の自立と危機 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別学習として、第三世界の連帯とアフリカ諸国の独立を扱う。
3 学期	1 2	特別授業	8	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張緩和とヴェトナム戦争 ・経済の国際化とソ連圏の崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別学習として第二次世界大戦後、とくに20世紀後半・21世紀に入ってから現代史を講義する。

学習者へのメッセージなど

最近の世界史は以前に比べて大学入試における出題範囲が広がりました。特にイスラーム世界や第二次世界大戦後の現代史が増えています。イスラーム世界はこの地域への関心が高まったため、第二次世界大戦後の歴史は、冷戦構造の終結と共に歴史的評価が定まりました。その結果、膨大な内容となりましたが、世界史とは人類全ての歴史を扱う学問であり、現代を生きる我々にとって必要な内容を包含しています。2年次の必修だけでなく、3年次の選択を受講した諸君には、深く現代史を学んでももらいたいと考えています。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	日本史B	4単位	選 択	対象学年	3 学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・詳説日本史 (山川出版社) ・新詳日本史図説 (浜島書店) ・詳録新日本史史料集成 (第一学習社) ・詳説日本史10分間テスト(山川出版社) 	教科担当			

学習の目標

東京大学の本郷教授は、「歴史学とは、一方で史実の確かさを、飽かず検証する振る舞いである。それと同時に他方では、大きな物語の構築に向け、史実の独創的な組み上げに挑みつづける試みであると思う。」と述べている。高校段階での歴史学習もこの2つの側面を学ぶことと考えて欲しい。まずは、しっかりと史実を積み上げて行ってほしい。その上で、大きな物語がどのように構築されているかを考えていってほしい。そして、このことを通じて、現代をよりよく生きる力や未来を展望する能力を高めることを目標に学習を進めていってほしい。

日本の歴史自体を学ぶことと併せて、さまざまな資料を活用する力を身につけていってほしい、学んだことを用いて、考え、判断し、表現する力を身に付けることも学習の目標である。

授業内容

原始・古代から中世までを学習します。また、文化史について、全範囲を学びます。さらに、共通テスト対策も行います。限られた時間の中で、多くのことを取り扱うので、基本的な事柄については、自学自習を進めてもらいます。授業では、内容を精選しつつ、受験に対応できる基礎の確立をはかります。その上で、獲得した知識や資料を用いて、歴史へのより深い理解が得られるようにしていきます。なお、長期休業期間等に講習・補習を行う予定です。

学習方法

授業は講義形式です。その上で、グループワークや発表形式も取り入れて、“深い学び”を目指してもらいます。まずは、受験に向けた「ノート」の製作が大切です。授業の予習、復習はもちろん、模試の分析や過去問実践の際、気になったことを書き込んでいくようにしてください。

学習到達度規準と評価の観点

	レベル1 (B)	レベル2 (A)	レベル3 (S)
知識・理解	定期考査で50%以上。基礎的な事柄は理解し、覚えている。	定期考査で70%以上。ほとんどの事柄は理解し、覚えている。	定期考査で90%以上。多くの事柄を理解し、覚えている。
情報活用力	図説の資料、文書史料を読み取ることができる。	図説の資料、文書史料を活用して、思考することができる。	史資料を活用し、総合的な課題について考察することができる。
思考・判断・表現力	基本的な問題について、考え、表現することができる。	歴史的な課題について、思考。判断でき、表現することができる。	新たな課題を発見し、それについての解決策などを考え、提案することができる。

評価の方法

年4回の定期考査の成績をもとに、普段の出席状況等の授業態度を総合して評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 ・ 5	文化のはじ まり～律令 ・ 国家の成立	20	文化のはじまり／農耕社 会の成立／古墳とヤマト 政権／飛鳥の朝廷／律令 国家の成立 (中間考査)	新たな考古学的な発見や分析方法に よって、古代社会の解釈が激変して いる今日的な状況についても興味・ 関心をもつ。
	6 ・ 7	平城京の時 代～院政と 平氏の台頭	20	平城京の時代／平安朝廷 の形成／王朝国家と摂関 政治／荘園と武士／院政 と平氏政権 (期末考査)	古代国家の形成と東アジアとの関連、 古代国家の推移と社会の変化を中心 に理解すること。武士の台頭など地方 の動向についても着目する。
2 学 期	9 ・ 10	鎌倉幕府の 成立～幕府 の衰退	20	鎌倉幕府の成立／武士の 社会／蒙古襲来と幕府の 衰退 (中間考査)	武家社会の成立と進展について、東 アジア世界との動向と関連づけて理 解すること。また庶民の登場と産 業・経済の発展との関わりについ ても注意する。
	11 ・ 12	室町幕府の 成立～戦国 大名の登場	20	室町幕府の成立／幕府の 衰退と庶民の台頭／戦国 大名の登場 (期末考査)	庶民の経済活動の進展と農民の自 立化に伴う下剋上の到来について 理解すること。また戦国大名の領国 経営について理解を深める。
	12	特別授業	6	時代史・文化史など テーマ別通史 大学入学共通テスト演習	テーマ史を通して、既習事項の復習 を図る。
3 学 期	1 ・ 2	特別授業 個別指導	10	過去問演習	過去問演習を通して、問題の傾向およ び既習事項の整理を図る。 また、論述対策の希望者には添削指導 を行う。

学習者へのメッセージなど

昨年度、初めての「大学入学共通テスト」がありました。いわゆる新傾向の問題も出題されました。そこでは、日常の学習の場面を想定した問題もありました。高大接続改革の中で、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」への転換が次期学習指導要領の柱になっています。

“受験勉強”という名のもとに、“効率よく”要点だけを覚えよう、というような学び方はしないでください。共通テストでも、問われているのは、知識量の多寡ではなく、与えられた材料で考える力＝思考力です。また、国公立の2次試験などで、問われているのは、判断力や表現力です。

この授業での学びを通じ、歴史を深く理解し、汎用性の高い（人生のいろいろな場面で使える）力を身に付けてほしい、と考えています。そして、そのことが大学入試での合格、進路の実現につながるように、共に学んでいきましょう。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	日本史A	2単位	選 択	対象学年	3 学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史A（山川出版社） ・詳説日本史（山川出版社） ・新詳日本史図説（浜島書店） ・詳録新日本史史料集成（第一学習社） ・詳説日本史10分間テスト(山川出版社) 	教科担当			

学習の目標

社会的な事象を時期や推移などに着目して、類似や差異などを明確にすることを通じて、その本質を明らかにすることが歴史学習の目的です。現在の日本や社会をより深く理解するための考察力や構想力を育成することが目標です。また、歴史学習を通じて身に付けた知識や技能を活用する力＝リテラシーを高めることも、この授業の大切な目標で、思考力・判断力・表現力を伸ばすことです。さらに、協働性・創造性・主体性を養っていきます。

「深い学び」を追求することで、難関大合格への学力をつけてもらいます。この授業は、日本史Aとして、近現代を学んでいきます。この授業を通じて、現在の日本や社会をより深く理解するための基礎的教養と歴史的考察力を身につけることも大きな目標です。

学習到達度規準

大学入学共通テストにおいて、80%以上得点できる力をつける。

授業内容

2年生で学んだ近世から近代（幕末・明治）についての学習の上にたって学んでいきます。昨年度の末、最後の考査や授業が出来なかったこともあり、復習をまず行いましょう。その上で、大正から昭和、戦後と学んでいきます。特に「大正デモクラシー」「2つの大戦」「戦後の民主主義の形成」は大きな柱となっていきます。2単位の週1回の授業ですので、“自らが学ぶ”という姿勢で、臨んでください。私の方は、あくまでファシリテーターとして、皆さんの学習を支援していこうと思っています。

学習方法

教科書を読めば、分かるようなこと。用語集などで調べれば、分かることなどの説明は、極力行いません。また、プリントなどによって、概要や流れをまとめることもしません。東京大や一橋大、早慶などの問題への対応力を念頭に、毎時間テーマ学習の形で進めていきます。グループやペアでの活動も取り入れていきます。

平行して、「10分間小テスト」を使った学習も行います。

評価の観点

- 1 近代史の基本的知識と、史料の読み取り・活用が身についているか。
- 2 近代の日本について、積極的に学び、他の事項と関連付けるなどして、歴史的な意義を考察し、課題について他者に説明できるか。
- 3 学習の場面において、自分の意見を伝え、他者の考えとの共通点や相違点を整理し、新たな気づきを得て、合意点をみつけることができるか。

評価の方法

年4回の定期考査の成績をもとに、授業での学習活動や提出・発表を総合して評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	4 ・ 5	近代日本と 東アジア	10	産業革命と近代の文化/ 第一次世界大戦と日本/ ワシントン体制 (中間考査)	日清戦争・日露戦争から第一次世界大戦をへて日本経済の発展さらに国際協調時代とその終焉を学習する。
	6 ・ 7	近代日本と 東アジア	10	恐慌の時代/軍部の台頭 第二次世界大戦 (期末考査)	戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌・昭和恐慌と連続する中でファシズム化していく日本社会と第二次世界大戦の勃発から終戦を学習する。
2 学 期	9 ・ 10	占領下の日本	10	占領と改革/冷戦の開始 と講和/55年体制 (中間考査)	米ソの対立が東アジアに及ぼした影響と戦後の日本社会に与えた影響を探る。
	11 ・ 12	高度成長の 時代 激動する世 界と日本	10	経済復興から高度成長へ/ 経済大国への道/近現 代の文化 (期末考査)	戦後の経済復興から高度成長への経済発展を学び、冷戦の終結と日本の経済大国化の問題を探る。近現代の文化を概観する
	12	特別授業	4	テーマ史など	テーマ史を通して、既習事項の復習を図る。
3 学 期	1 ・ 2	個別指導	6	難関大過去問演習の添削 指導	過去問演習を通して、問題の傾向および既習事項の整理を図る。 また、論述対策の希望者には添削指導を行う。

学習者へのメッセージなど

この日本史Aの科目は、「受験科目だから」という理由で、選択した人が多いかもしれませんが。教科担当者としても、東大、京大、一橋大などの難関国立や早慶などの難関私大に合格してもらいたいと思っています。実際、これらの大学では、近代史が出題されるケースが多く、内容的にもしっかりと「深い学び」がないと、正しく答えることができません。

日本の近代を考えることは、現代の世界や日本が抱える諸課題について考えることにつながります。歴史を学ぶことは、単に年号や人名を覚えるだけでなく、その背景や原因を見定め、そのことがもたらす影響や結果を分析し、歴史的な意義を考察することです。そして、そのような学びをするためには、よき仲間が必要で、仲間とともに、切磋琢磨して欲しい、自己の表現力を伸ばすとともに、協働性を高め、主体的に学習に取り組んで欲しい、と思っています。

このような学習が深い学びにつながり。そこで身につけた力は、これからの皆さんの人生の中で、汎用性の高いものとして、役立つことでしょう。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	地理B	4単位	選択	対象学年	3学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・地理B(東京書籍) ・新詳高等地図(帝国書院) ・最新地理図表GEO 二訂版(第一学習社) ・データブックオブザワールド 2021年版 (二宮書店) ・地理の整理と演習(とうほう) 	教科担当			

学習の目標

- ①地図を読む、作成する、地図を使って事象を説明する技能を身に着ける。
- ②現代世界の地理的な事象について、地図や統計資料等を用いて、地域性、地域差を理解することができる。
- ③世界の様々な地域について、系統地理の知識と歴史的な背景を踏まえて地域の特徴を理解するとともに、他地域との差異を考察することができる。
- ④①～③を達成することで、共通テスト・個別学力試験でも高得点がとれる力を身につける。

学習到達度規準

大学入学共通テストで85%以上得点できる力を身に着ける。

授業内容

1年時に学んだことを復習しながら進めていく。まずは地理の基礎となる地図表現(新傾向問題で特に重視されている)について学ぶ。その後、自然環境を学習し、自然環境とのつながりを意識して人文地理的な内容を扱っていく。そして、系統地理的な知識を用いて、世界地理を学んでいく。地図や統計資料を読み取る力、そこから考察する力を身につけていく。

学習方法

授業は各項目について整理したプリントを使って行う。その際、教科書、地図帳、資料集、統計を用いて「なぜそうなるのか」を理解し、自分で説明できるようになるようになる。授業で知識や資料を読み取る技能を身に着け、関連する個別試験の問題演習を通して、どのように思考・判断・表現をしていけばよいのかも理解していく。小テストやグループ学習も取り入れて学習を行う。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度……地理学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。地理的見方・考え方をよく理解し、積極的に活用しようとしたか。
2. 思考・判断・表現……位置・空間性の認識、他地域との比較・関連、地域性とその成立条件について思考・判断し、表現することができたか。
3. 技能……地図・図表・統計から必要な情報を読み取るとともに、統計資料を用いて地図で表現することができたか。
4. 知識・理解……地理の基本概念・知識を習得し、現代世界を地理的に認識・理解できる力＝世界観が身に付いたか。

評価の方法

年4回の定期考査と小テストをもとに、課題や授業への取り組みなどから判断する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	ガイダンス 地理情報と 地図 自然環境	2	地理を学習するにあたって	地理の基礎を学ぶ時期。地図を読む技能を身につけ、地図を用いた問題に対する苦手意識をなくすこと。地形・気候はこの後学習する農業や鉱工業、人口分布や都市の形成場所等と強く結びついているため、確実に理解する。
			2	地図の種類とその活用	
			4	世界の地形	
			4	世界の気候	
			2	日本の自然環境と災害 (中間考査)	
	5 6	資源と産業 人口 村落・都市	4	農業	自然環境の知識をもとに理解を進める。産業や人口・村落と都市は、先進国と発展途上国によって大きく違いが見られることから、各国の発展状況や経済規模を意識しながら特徴を捉えていくことが重要となる。系統地理分野は夏休み中までにほぼ完成させたい。
			2	林業・水産業	
			2	資源・エネルギー問題	
			2	世界の工業	
			2	交通・通信	
4	人口、人口問題				
4	村落と都市、居住問題 (20) (期末考査)				
2 学 期	9 10	世界地誌	4	東アジア	系統地理で学習した内容を踏まえ、各地域・国を理解していく。学習を進めていくうえで、各地域同士を比較し、似ている点や異なる点を見つけ、その背景を理解していくことが重要となる。世界史や政経等、他科目の知識も活用しながら学習すること。
			4	東南アジア	
			4	南アジア	
			4	中央・西アジア	
			4	アフリカ	
	11 12	世界地誌	4	ヨーロッパ (24) (中間考査)	
			2	ロシア	系統地理で学習した内容を踏まえ、各地域・国を理解していく。既習の地域との関係を意識しながら、理解を進めていく。世界史や政経等、他科目の知識も活用しながら学習すること。
			4	北アメリカ	
			2	南アメリカ	
			2	オセアニア	
8	共通テスト問題演習 (18) (期末考査)				
12	特別授業	10	共通テスト問題演習	地図や資料集、統計を活用しながら学習する。	
3 学 期	1	特別授業	8	共通テスト問題演習	地図や資料集、統計を活用しながら学習する。
	2		6	個別学力試験対策	過去問の添削指導を行う。

学習者へのメッセージなど

コンピュータで作成された地図、防災、旅行や消費行動、各国間の対立と結びつき・・・地理で扱う内容は、皆さんがいま生きている社会の様々な事象を理解するために非常に重要なものです。入試のためだけではなく、これから皆さんが社会に出ていく中で、世の中のことに興味を持ち続けていくための教養として学習を進めてほしいと思います。そのため、地理の基本的な知識を身につけるとともに、日頃から新聞やニュースを見て、学習したことが社会とどう関係しているのか知ることが大切です。他の教科・科目の知識も使います。

私大・二次試験で地理を利用する方は、添削指導を行うので申し出てください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	地理B	2単位	選択	対象学年	3学年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・地理B(東京書籍) ・新詳高等地図(帝国書院) ・最新地理図表GEO 二訂版(第一学習社) ・データブックオブザワールド 2021年版 (二宮書店) ・地理の整理と演習(とうほう) 	教科担当			

学習の目標

- ①地図を読む、作成する、地図を使って事象を説明する技能を身に着ける。
- ②現代世界の地理的な事象について、地図や統計資料等を用いて、地域性、地域差を理解することができる。
- ③世界の様々な地域について、系統地理の知識と歴史的な背景を踏まえて地域の特徴を理解するとともに、他地域との差異を考察することができる。
- ④①～③を達成することで、共通テスト・個別学力試験でも高得点がとれる力を身につける。

学習到達度規準

大学入学共通テストで80%以上得点できる力を身に着ける。

授業内容

1年時に学んだことを復習しながら進めていく。まずは地理の基礎となる地図表現(新傾向問題で特に重視されている)について学ぶ。その後、自然環境を学習し、自然環境とのつながりを意識して人文地理的な内容を扱っていく。そして、系統地理的な知識を用いて、世界地理を学んでいく。地図や統計資料を読み取る力、そこから考察する力を身につけていく。

学習方法

授業は各項目について整理したプリントを使って行う。その際、教科書、地図帳、資料集、統計を用いて「なぜそうなるのか」を理解し、自分で説明できるようになるようになる。授業で知識や資料を読み取る技能を身に着け、関連する共通テストの問題演習を通して、どのように思考・判断をしていけばよいのかも理解していく。小テストも取り入れて学習を行う。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度……地理学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。地理的見方・考え方をよく理解し、積極的に活用しようとしたか。
2. 思考・判断・表現……位置・空間性の認識、他地域との比較・関連、地域性とその成立条件について思考・判断し、表現することができたか。
3. 技能……地図・図表・統計から必要な情報を読み取るとともに、統計資料を用いて地図で表現することができたか。
4. 知識・理解……地理の基本概念・知識を習得し、現代世界を地理的に認識・理解できる力＝世界観が身に付いたか。

評価の方法

年4回の定期考査と小テストをもとに、課題や授業への取り組みなどから判断する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点	
1 学 期	4	ガイダンス 自然環境 資源と産業	1	地理を学習するにあたって	地理の基礎を学ぶ時期。地図を読む技能を身につけ、地図を用いた問題に対する苦手意識をなくすこと。地形・気候はこの後学習する農業や鉱工業、人口分布や都市の形成場所等と強く結びついているため、確実に理解する。農林水産業は、自然環境の知識をもとに理解を進める。	
			1	地図の種類とその活用		
			2	世界の地形		
			2	世界の気候		
			2	農業		
	5	資源と産業	2	林業・水産業		
			(10)	(中間考査)		
			2	資源・エネルギー問題		
			2	世界の工業		
			2	人口、人口問題		
6	人口 村落・都市	2	村落と都市、居住問題	産業や人口・村落と都市は、先進国と発展途上国によって大きく違いが見られることから、各国の発展状況や経済規模を意識しながら特徴を捉えていくことが重要となる。系統地理分野は夏休み中までにほぼ完成させたい。		
		2	東アジア			
		(10)	(期末考査)			
		2	東南アジア			
2 学 期	9	世界地誌	2		南アジア	系統地理で学習した内容を踏まえ、各地域・国を理解していく。学習を進めていくうえで、各地域同士を比較し、似ている点や異なる点を見つけ、その背景を理解していくことが重要となる。世界史や政経等、他科目の知識も活用しながら学習すること。
			2		中央・西アジア	
			2		アフリカ	
			2		ヨーロッパ	
			2		北アメリカ	
			(12)		(中間考査)	
	10	世界地誌	2	ロシア		
			2	南アメリカ		
			2	オセアニア		
			4	共通テスト問題演習		
			(10)	(期末考査)		
			12	特別授業		
12	特別授業	10	共通テスト問題演習	地図や資料集、統計を活用しながら学習する。		
		8	共通テスト問題演習	地図や資料集、統計を活用しながら学習する。		
3 学 期	1	特別授業	6	個別学力試験対策	過去問の添削指導を行う。	
			2			

学習者へのメッセージなど

コンピュータで作成された地図、防災、旅行や消費行動、各国間の対立と結びつき・・・地理で扱う内容は、皆さんがいま生きている社会の様々な事象を理解するために非常に重要なことです。入試のためだけでなく、これから皆さんが社会に出ていく中で、世の中のことに興味を持ち続けていくための教養として学習を進めてほしいと思います。そのため、地理の基本的な知識を身につけるとともに、日頃から新聞やニュースを見て、学習したことが社会とどう関係しているのか知ることが大切です。他の教科・科目の知識も使います。

私大・二次試験で地理を利用する方は、添削指導を行うので申し出てください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	政治・経済	2単位	必修	対象学年	3年
教科書 副教材	『政治・経済』東京書籍 『最新図説 政経』浜島書店	教科担当			

学習の目標

広い視野に立って、政治・経済・国際関係などについて多角的に理解させるとともに、現代社会の基本的な問題について、主体的に考え、公正に判断する力を養う。そして、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。また、共通テストの「倫理・政経」、「政治・経済」でも「現代社会」でも高得点をとれる力を身につける。

学習到達度規準

大学入学共通テストで80%を上回る点をとれる学力を身につける。
自分の意見をまとめる作業を通じて、情報収集能力と読解力、表現力を身につける。

授業内容

中学で学んだ「公民」の知識をベースとして、経済分野を中心に基本的仕組みを理解し、日本と国際社会の課題について学習する。課題（テーマ）については、広い視野に立って、様々な観点からアプローチする方法と論点を学ぶ。
小テストにより、知識の定着を図る。

学習方法

各自、教科書を読んでから授業に臨む。資料集、プリントを主に用いて、学習を進める。単元の学習が終わるごと、小テストで知識の定着を図る。
復習しやすいように、各自工夫して、ノートをつくっていくこと。時事問題は、適宜取り上げて解説するが、日頃から、ニュースや新聞をみて、関心を持つこと。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする姿勢をもったか。
2. 思考・判断・・・変化する現代社会の諸課題を、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、望ましい解決の在り方について、主体的に考えようとしたか。
3. 技能・表現・・・様々な情報を活用し、自分の考えを的確に表現することができたか。
4. 知識・理解・・・基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができたか。

評価の方法

4回の定期考査の点数に、平常点（授業への取り組み・提出物等）を加味する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	現代の経済社会と政府 民主政治の基本原理	8	経済社会の変容 経済主体・市場経済 市場の失敗 GDP・物価 国民主権・権力分立 法の支配 (中間考査)	時事問題に関心を持って、新聞を読む。 重要用語を理解し、経済活動や政治についてのとらえ方のポイントを知る。
	後 半	日本経済の発展と課題 選挙と政治参加 日本経済の諸課題	10 3	財政・金融 日本経済史 選挙 (期末考査) 公害・環境問題	経済の大きな流れをつかむ。 理論をベースとして、現状を理解する。 政治と経済の関連性について留意する。
2 学 期	前 半	日本社会の諸課題 基本的人権の尊重	8	時事問題 自由権・社会権 労使関係・社会保障 消費者問題 農業・食料問題 (中間考査)	時事問題として、夏季休業中の出来事で重要な事件をとりあげる。 人権保障の面からも日本の課題を考察する。
	後 半	国民経済と国際経済	12	貿易と国際収支 経済対立と国際協調 国際社会における日本の役割 (期末考査)	政治や経済、日本と世界など、多面的、多角的な観点から、国際関係のダイナミズムをとらえる。
	12	特別授業	14	共通テスト向け問題演習と解説 時事・資料問題対策	重要用語を押さえた上で、共通テストに向けた演習問題を行う。
3 学 期	1	特別授業	8	共通テスト向け問題演習と解説	
	2		2 6	国立二次問題演習と解説 私立入試問題演習と解説	

学習者へのメッセージなど

授業を大切にして、正確な基礎知識を身につけていきましょう。疑問に思ったことは教員にいつでも質問に来てください。入試では、時事問題に関連した出題もあるので、是非とも毎日、ニュースに接することを習慣づけましょう。そして、現代社会が抱える課題を自らの関わる課題としてとらえ、今後日本は、そして自分はどうあるべきかを考えてください。なお、夏季休業中に国際政治分野、環境、資源・エネルギー分野、基本的人権の保障に関する補講を行う予定です。また、学期中の補講では、政治分野（政治機構など）を学習します。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	政経 プラス	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	『政治・経済』東京書籍 『最新図説 政経』浜島書店 『ウィニングコンパス 倫理・政経／現社の整理と演習』東京法令出版	教科担当			

学習の目標

政治・経済・国際関係などについて多面的・多角的に考察しようとする態度を育てるとともに、現実の社会が抱える課題について、公正に判断する能力や健全な批判力を養う。また、重要事項の整理や資料の読み取りなどを通じて、共通テストに対応できる力をつける。

学習到達度規準

大学入学共通テストで80%を上回る点を取れる学力を身につける。
発表作業を通じて、情報収集能力と読解力、表現力を身につける。

授業内容

現代の日本の政治及び日本経済の課題について、時事的な話題を教材として考察させる。
現代の国際政治に関する基本的概念や理論とともに、現代の国際政治の特質や紛争について考察させ、人類が平和的に共存していくことについて思考させる。
国際経済に関する基本的概念や理論とともに、グローバル化が進む現代の世界経済の動向について関心を高め、国際社会における日本の役割について考察させる。
知識の定着を図るため、各自が問題演習を行い、小テストにより確認させる。

学習方法

予め教科書を読んだうえで、授業を受ける。授業は、資料集、プリントを用いて行う。復習しやすいように、各自工夫して、ノート等つくっていくこと。各単元のあと、副教材を用いた演習、小テストを行い、知識の定着を図る。

時事問題は適宜取り上げて教材とするので、日頃から、ニュースや新聞をみて、広い視野に立って「なぜ・どうして・どうなった・これからどうなる」ということを考察してほしい。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・社会と人間にかかわることに関心を持ち、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする姿勢をもったか。
2. 思考・判断・・・変化する現代社会の諸課題を、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、望ましい解決の在り方について、主体的に考えようとしたか。
3. 技能・表現・・・様々な情報を活用し、自分の考えを的確に表現することができたか。
4. 知識・理解・・・基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができたか。

評価の方法

4回の定期考査の点数に、平常点（授業への取り組み・提出物等）を加味する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	民主政治の基本原理 日本国憲法の基本原理 現代の国際政治	8	民主政治の思想 世界の主な政治体制 大日本帝国憲法と日本国 憲法・基本原則 国際社会と国際法 時事問題 (中間考査)	民主政治の思想をおさえた 上で、憲法や日本の政治をと らえる。 時事問題で経済について考 察する。
	後 半	現代の国際政治 国際社会の諸課題 日本の政治機構	10 4	国際政治の動向 国際政治の課題と日本 地球環境問題・民族問題 軍縮・ODA (期末考査) 時事問題 国会・内閣	重要用語をきちんと理解し、 国際政治のダイナミズムを とらえる。 政治や経済、日本と世界な ど、多面的、多角的な観点か ら分析する。
2 学 期	前 半	日本の政治機構	8	時事問題 裁判所、地方自治 選挙・政党 時事問題 (中間考査)	時事問題で経済・国際分野に ついて考察する。 日本の民主政治の仕組みを 理解し、現代政治の課題に気 づく。
	後 半	日本国憲法と人権保障	12	基本的人権の尊重 平和主義 演習問題 (期末考査)	日本国憲法の三大原理につ いて、理解する。
	12	特別授業	14	共通テスト向け問題演習 と解説 時事・資料問題対策	共通テストに向けた演習問 題を行い、不得意分野をなく していく。
3 学 期	1	特別授業	8	共通テスト向け問題演習 と解説	
	2		2 6	国立二次問題演習と解説 私立入試問題演習と解説	

学習者へのメッセージなど

授業を大切にして、正確な基礎知識を身につけていきましょう。疑問に思ったことは教員にいつでも質問に来てください。入試では、時事問題に関連した出題もあるので、是非とも毎日、新聞の一面と社説を読むことを習慣づけましょう。共通テスト対策として、夏季休業中に環境、資源・エネルギー分野の補講を行う予定です。夏季休業が終わるまでには、教科書を2周読み切りましょう。「倫理・政経」での受験者は、1年次の「倫理」の教科書の復習を1学期から先行して行いましょう。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	数学Ⅲ（5単位）	5単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	数研出版 「数学Ⅲ」 「サクシード 数学Ⅲ」 「チャート式 基礎からの数学Ⅲ」 東京書籍 ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB	教科担当			

学習の目標

1 学期は数学Ⅲの「関数の極限」「微分法」「微分法の応用」（速度と近似値を除く）「積分法」「積分法の応用」（速度と道のり、微分方程式を除く）を学習し、数学の見方、考え方を養うとともに、自然科学を記述するときに、微分法・積分法は重要な役割を果たしていることを理解させる。
2 学期は「速度と近似値」「速度と道のり」「微分方程式」を学習した後、入試問題演習を行う。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

- | | | |
|------------|---|--------------------|
| (1) 関数の極限 | (ア) 三角関数と極限 | (イ) 関数の連続性 |
| (2) 微分法 | (ア) 導関数の計算 | (イ) 三角・指数・対数関数の導関数 |
| (3) 微分法の応用 | (ア) 接線と法線 | (イ) 速度と近似式 |
| (4) 積分法 | (ア) 不定積分 | (イ) 定積分 |
| (5) 積分法の応用 | (ア) 面積 | (イ) 体積 |
| (6) 入試問題演習 | (ア) 数列と極限 (イ) 関数と極限 (ウ) 微分法 (エ) 微分法の応用
(オ) 積分法 (カ) 積分法の応用 など | |

学習方法

- (1) 関数の極限 (2) 微分法 (3) 微分法の応用 (4) 積分法 (5) 積分法の応用
・「例」, 「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。
・各節, 各章の終わりにある「問題」, 「練習問題」で問題演習を行い, 学習事項を確認する。
(6) 入試問題演習
過去の入試問題をもとにした教材を用いて, 問題演習を行う。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。
また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方・・・数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理・・・物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解・・・数学の基本的な概念や原理・原則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

1. 年4回の定期考査
2. ノート・レポートなどの提出物
3. 出席状況、学習態度などを総合的に判断し評価する。

授業計画

学期		単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前半	関数の極限 微分法 微分法の応用	30	三角関数と極限, 関数の連続性 微分係数と導関数, 導関数の計算, 様々な関数の導関数 接線の方程式, 平均値の定理 関数の値の変化, 最大と最小, 関数のグラフ, 方程式, 不等式への応用 (中間考査)	様々な関数の導関数が求められるようにする。 導関数の符号から関数の値の変化を調べ, 極値が求められるようにする。 曲線の凹凸に関する性質を知り, グラフの概形がかけられるようにする。 微分法を応用して, 方程式の実数解の個数を調べたり, 不等式を証明したりすることができるようにする。
	後半	微分法の応用 積分法	30	不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 定積分の置換積分法 定積分の部分積分法 定積分の種々の問題 面積, 体積 (期末考査)	置換積分法, 部分積分法などの方法を理解するとともに, これらを用いて積分の計算が確実にできるように問題演習を行う。 図を用いて, 区分求積法の考え方や定積分と不等式の関係を理解する。 曲線と接線などで囲まれた図形の面積, 回転体の体積, 曲線の長さ等が求められるようにする。
2 学期	前半	積分法の応用 入試問題演習	35	速度・加速度, 近似値 速度と道のり, 微分方程式 数学Ⅲの入試問題演習 極限, 微分法, 微分法の応用 積分法, 積分法の応用など (中間考査)	大学入試に備えるために, 入試問題の中から演習効果の高い標準的な問題を選び, 問題演習を行う。
	後半	入試問題演習	35	入試問題演習 極限, 微分法, 微分法の応用 積分法, 積分法の応用など (期末考査)	大学入試に備えるために, 入試問題の中から演習効果の高い標準的な問題を選び, 問題演習を行う。
	12	特別授業	10	共通テスト対策問題演習	共通テストレベルの問題演習を行う。
3 学期	1・2	特別授業	35	理系二次対策問題演習	二次試験レベルの記述式問題の演習を行う。

学習者へのメッセージなど

数学Ⅲの微分法・積分法の授業では, 1, 2年次に学習した内容を基礎に, その扱う関数が増えます。授業中に1, 2年次の内容で分からないところが出てきたら, 復習のよいチャンスと考えて, きちんと分かるまで復習をすることが大切です。

数学の実力をつけるためには, 自分の頭でじっくりと考えることが大切です。授業中に分かることと自分で問題が解けることにはギャップがあり, そのギャップを埋めるのが問題演習です。習った範囲の基本問題演習は当然のこととして, 問題集やプリントなどの教科書+αの内容についても積極的に取り組むべきです。どうしても解らないときは, そのままにしないで担当の先生に質問してください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学Ⅲ (2単位)	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	数研出版 「数学Ⅲ」 「サクシード 数学Ⅲ」 「チャート式 基礎からの数学Ⅲ」 東京書籍 「ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB」 Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」 「数学Ⅱ・B」	教科担当			

学習の目標

1学期は、主に数学Ⅲの「式と曲線」と「複素数平面」を学習する。「式と曲線」では、放物線、楕円、双曲線等の2次曲線の基本事項について理解する。「複素数平面」では、方程式を満たす図形を求めたり、点や図形を回転することと複素数の積の関係に触れたりする。基本的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、それらを的確に活用する能力を伸ばす。

2学期は、入試問題演習を行い、大学受験に備える。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

- (1) 式と曲線 2次曲線、媒介変数表示と極座標
(2) 複素数平面 , (3) 「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲ」の入試問題演習

学習方法

- (1) 式と曲線 , (2) 複素数平面
・「例」・「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。
・各節、各章の終わりにある「問題」, 「練習問題」で問題演習を行い、学習事項を確認する。
(3) 過去の入試問題をもとにした教材を用いて、問題演習を行う。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方・・・数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理・・・物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解・・・数学の基本的な概念や原理・原則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

1. 年4回の定期考査
2. ノート・レポートなどの提出物
3. 出席状況、学習態度などを総合的に判断し評価する。

授業計画

学期		単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	式と曲線	7 3	2次曲線 媒介変数表示 (中間考査)	放物線, 楕円, 双曲線を定義から学び, 平行移動, 直線との交点, 接線等も理解する。 標準形と媒介変数表示の変換ができるようにする。
	後 半	式と曲線 複素数平面	3 7	極座標と極方程式 複素数平面と極形式 ド・モアブルの定理 (期末考査)	極座標と直交座標の関係から曲線を極方程式で表したり, 直交座標の方程式で表したりできるようにする。 複素数の図形的側面を意識する。特に乗法と回転の關係に注意する
2 学 期	前 半	複素数平面 「数学ⅠAⅡBⅢ」の範囲の受験問題の演習を行う。	6 4	複素数平面と図形 問題演習 (中間考査)	複素数平面上の図形がどのような方程式を満たすか理解する。特に2直線のなす角を表現できるようにする。 「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲ」について, 大学入試に備えるために入試問題の中から演習効果の高い標準的な問題を選び, 問題演習を行う。
	後 半	「数学ⅠAⅡBⅢ」の範囲の受験問題の演習を行う。	10	問題演習 (期末考査)	「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲ」について, 大学入試に備えるために入試問題の中から演習効果の高い標準的な問題を選び, 問題演習を行う。
	12	特別授業	4	共通テスト対策問題演習	共通テストレベルの問題演習を行う。
3 学 期	1 2	特別授業	14	理系二次対策問題演習	二次試験レベルの記述式問題の演習を行う。

学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるためには, 自分の頭でじっくりと考えることが大切です。授業中に分かることと自分で問題が解けることにはギャップがあり, そのギャップを埋めるのが問題演習です。習った範囲の基本問題演習は当然のこととして, 問題集やプリントなどの教科書+αの内容についても積極的に取り組むべきです。どうしてもわからないときは, そのままにしないで担当の先生に質問してください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学Ⅱα4	4単位	選択	対象学年	3年
教科書	数研出版「数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B」 「ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」	教科担当			
副教材	東京書籍「ニューグローバルα数学ⅠAⅡB」 Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」				

学習の目標

これまでに学んできた数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数Bについて問題演習を通して学習し、これらの教科の基礎基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、生徒一人一人の進路実現へ向けて大学入試共通テスト対策の準備をしていく。

学習到達度規準

大学入試共通テストの全国平均点を25%上回る学力を身につける。

授業内容

数学Ⅰ	(1)数と式	(2)2次関数	(3)図形と計量	(4)データの分析
数学A	(5)場合の数	(6)確率	(7)図形の性質	(8)整数の性質
数学Ⅱ	(9)式と証明	(10)複素数と方程式	(11)図形と方程式	(12)三角関数
	(13)指数関数・対数関数		(14)微分法	(15)積分法
数学B	(16)ベクトル	(17)数列		

学習方法

- ・1学期は東京書籍「ニューグローバルα数学ⅠAⅡB」、2学期は数研出版「ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」の中から指定された問題を解く。
- ・解説を聞き、重要事項をまとめる。
- ・考え方、答案の作り方などを理解し、復習する。
- ・問題演習で理解ができているかの確認をする。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度
数学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

- ・学習の到達目標に従って評価し、特に考査の得点を重視する。
- ・授業での問題演習の取り組み方及び提出物の内容と状況などを平常点として考慮する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(3)一次関数と2次関数 (4)方程式 (5)図形と計量・図形の性質 (12)図形と方程式 (18)平面のベクトル (19)空間のベクトル (11)整式の除法・不等式の証明 (7)論理 (10)整数 (中間考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(15)微分 (16)積分 (8)場合の数 (9)確率 (17)数列 (2)不等式・数と式の文章題 (6)データの分析 (期末考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
2 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	重要事項の確認。 過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (中間考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	過去の予想問題を利用して、共通テスト形式の演習と解説を行う。 (期末考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	12	特別授業	8	共通テスト対策問題演習	共通テストレベルの問題演習を行う。
3 学 期	1 2	特別授業	28	共通テスト対策問題演習	共通テストレベルの問題演習を行う。

学習者へのメッセージなど

<p>(1) 授業は休まず、集中して真剣に受けること。</p> <p>(2) 授業内容は自分に適した方法で、工夫をしてノートを取ること。</p> <p>(3) 宿題等の提出物はきちんと取り組み、提出期限を守って提出すること。</p> <p>(4) 自宅学習（授業で扱うことのできなかつた問題や応用問題等）を十分にすること。</p> <p>(5) どうしても分からない時は、担当の先生に質問すること。</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	数学Ⅱα2	2単位	選択	対象学年	3年
教科書	数研出版「数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B」 「ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」	教科担当			
副教材	東京書籍「ニューグローバルα数学ⅠAⅡB」 Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」				

学習の目標

これまでに学んできた数Ⅰ、数A、数Ⅱについて問題演習を通して学習し、これらの教科の基礎基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、生徒一人一人の進路実現へ向けて大学入試共通対策の準備をしていく。

学習到達度規準

大学入試共通試験の全国平均点を25%上回る学力を身につける。

授業内容

数学Ⅰ
 (1)数と式 (2) 2次関数 (3) 図形と計量 (4) データの分析
 数学A
 (5)場合の数 (6)確率 (7)図形の性質 (8)整数の性質
 数学Ⅱ
 (9)式と証明 (10)複素数と方程式 (11)三角関数

学習方法

- ・1学期は東京書籍「ニューグローバルα数学ⅠAⅡB」、2学期は数研出版「ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」の中から指定された問題を解く。
- ・解説を聞き、重要事項をまとめる。
- ・考え方、答案の作り方などを理解し、復習する。
- ・問題演習で理解ができているかの確認をする。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度
 数学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
 数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
 物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
 数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

- ・学習の到達目標に従って評価し、特に考査の得点を重視する。
- ・授業での問題演習の取り組み方及び提出物の内容と状況などを平常点として考慮する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ	1 2	(3)一次関数と2次関数 (4)方程式 (5)図形と計量・図形の性質 (11)整式の除法・不等式の証明 (7)論理 (10)整数 (中間考査)	授業は初級問題と 中級問題の演習、解 説が中心である。予 習をしておくこと。 その問題以外は、復 習用として各自で 取り組むこと。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ	1 2	(10)整数 (8)場合の数 (9)確率 (2)不等式・数と式の文章題 (6)データの分析 (期末考査)	授業は初級問題と 中級問題の演習、解 説が中心である。予 習をしておくこと。 その問題以外は、復 習用として各自で 取り組むこと。
2 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ	1 4	重要事項の確認。 過去の予想問題を利用して、演習と解説を 行う。 (中間考査)	受験の重要ポイン トを確認しながら、 実戦的な演習を行 う。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ	1 4	過去の予想問題を利用して、共通テスト形 式の演習と解説を行う。 (期末考査)	受験の重要ポイン トを確認しながら、 実戦的な演習を行 う。
	12	特別授業	4	共通テスト対策問題演習	共通テストレベル の問題演習を行う。
3 学 期	1 2	特別授業	1 4	共通テスト対策問題演習	共通テストレベル の問題演習を行う。

学習者へのメッセージなど

<p>(1) 授業は休まず、集中して真剣に受けること。 (2) 授業内容は自分に適した方法で、工夫をしてノートを取ること。 (3) 宿題等の提出物はきちんと取り組み、提出期限を守って提出すること。 (4) 自宅学習（授業で扱うことのできなかつた問題や応用問題等）を十分にすること。 (5) どうしても分からない時は、担当の先生に質問すること。</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	数学Ⅱβ4	4単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	数研出版 「数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B」 東京書籍 ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」	教科担当			

学習の目標

これまでに学んできた数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数Bについて問題演習を通して学習し、これらの教科の基礎基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、生徒一人一人の進路実現へ向けて、記述式の大学入試対策の準備をしていく。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

数学Ⅰ	(1)数と式	(2)2次関数	(3)図形と計量	(4)データの分析
数学A	(5)場合の数	(6)確率	(7)図形の性質	(8)整数の性質
数学Ⅱ	(9)式と証明	(10)複素数と方程式	(11)図形と方程式	(12)三角関数
	(13)指数関数・対数関数		(14)微分法	(15)積分法
数学B	(16)ベクトル	(17)数列		

学習方法

- ・東京書籍 ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB の中から指定された問題を解く。
- ・解説を聞き、重要事項をまとめる。
- ・考え方、答案の作り方などを理解し、復習する。
- ・問題演習で理解ができているかの確認をする。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度
 数学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
 数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
 物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
 数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

- ・学習の到達目標に従って評価し、特に考査の得点を重視する。
- ・授業での問題演習の取り組み方及び提出物の内容と状況などを平常点として考慮する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(3)一次関数と2次関数 (4)方程式 (5)図形と計量・図形の性質 (12)図形と方程式 (18)平面のベクトル (19)空間のベクトル (11)整式の除法・不等式の証明 (7)論理 (10)整数 (中間考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(15)微分 (16)積分 (8)場合の数 (9)確率 (17)数列 (2)不等式・数と式の文章題 (6)データの分析 (期末考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
2 学期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	重要事項の確認。 過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (中間考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (期末考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	12	特別授業	8	共通テスト対策問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。
3 学期	1	特別授業	28	共通テスト対策問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。
	2				

学習者へのメッセージなど

- (1) 授業は休まず、集中して真剣に受けること。
- (2) 授業内容は自分に適した方法で、工夫をしてノートを取ることを。
- (3) 宿題等の提出物はきちんと取り組み、提出期限を守って提出すること。
- (4) 自宅学習（授業で扱うことのできなかつた問題や応用問題等）を十分にすること。
- (5) どうしても分からない時は、担当の先生に質問すること。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	数学ⅡβXY	4単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	数研出版 「数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B」 東京書籍 ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」	教科担当			

学習の目標

これまでに学んできた数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数Bについて問題演習を通して学習し、これらの教科の基礎基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、生徒一人一人の進路実現へ向けて、記述式の大学入試対策の準備をしていく。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

数学Ⅰ	(1)数と式	(2)2次関数	(3)図形と計量	(4)データの分析
数学A	(5)場合の数	(6)確率	(7)図形の性質	(8)整数の性質
数学Ⅱ	(9)式と証明	(10)複素数と方程式	(11)図形と方程式	(12)三角関数
	(13)指数関数・対数関数	(14)微分法	(15)積分法	
数学B	(16)ベクトル	(17)数列		

学習方法

- ・東京書籍 ニューグローバルα 数学ⅠAⅡB の中から指定された問題を解く。
- ・解説を聞き、重要事項をまとめる。
- ・考え方、答案の作り方などを理解し、復習する。
- ・問題演習で理解ができているかの確認をする。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度
 数学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
 数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
 物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
 数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

- ・学習の到達目標に従って評価し、特に考査の得点を重視する。
- ・授業での問題演習の取り組み方及び提出物の内容と状況などを平常点として考慮する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(3)一次関数と2次関数 (4)方程式 (5)図形と計量・図形の性質 (12)図形と方程式 (18)平面のベクトル (19)空間のベクトル (11)整式の除法・不等式の証明 (7)論理 (10)整数 (中間考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	(15)微分 (16)積分 (8)場合の数 (9)確率 (17)数列 (2)不等式・数と式の文章題 (6)データの分析 (期末考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
2 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	重要事項の確認。 過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (中間考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (期末考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	12	特別授業	8	共通テスト対策問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。
3 学 期	1	特別授業	28	共通テスト対策問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。
	2				

学習者へのメッセージなど

- (1) 授業は休まず、集中して真剣に受けること。
- (2) 授業内容は自分に適した方法で、工夫をしてノートを取ることを。
- (3) 宿題等の提出物はきちんと取り組み、提出期限を守って提出すること。
- (4) 自宅学習（授業で扱うことのできなかつた問題や応用問題等）を十分にすること。
- (5) どうしても分からない時は、担当の先生に質問すること。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	数学Ⅱγ	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	数研出版「数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B」 「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」 Learns-S 2021進研共通テスト直前演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」	教科担当			

学習の目標

これまでに学んできた数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数Bについて問題演習を通して学習し、これらの教科の基礎基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、生徒一人一人の進路実現へ向けて、記述式の大学入試対策の準備をしていく。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

数学Ⅰ	(1)数と式	(2)2次関数	(3)図形と計量	(4)データの分析
数学A	(5)場合の数	(6)確率	(7)図形の性質	(8)整数の性質
数学Ⅱ	(9)式と証明	(10)複素数と方程式	(11)図形と方程式	(12)三角関数
	(13)指数関数・対数関数		(14)微分法	(15)積分法
数学B	(16)ベクトル	(17)数列		

学習方法

- ・数研出版『クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編』の中から指定された問題を解く。
- ・解説を聞き、重要事項をまとめる。
- ・考え方、答案の作り方などを理解し、復習する。
- ・問題演習で理解ができているかの確認をする。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度
数学の学習に関心をもち、授業に積極的に参加したか。また、数学的な見方や考え方のよさを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 数学的な見方・考え方
数学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理
物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解
数学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

- ・学習の到達目標に従って評価し、特に考査の得点を重視する。
- ・授業での問題演習の取り組み方及び提出物の内容と状況などを平常点として考慮する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数と二次関数 ・方程式 ・図形と計量・図形の性質 ・図形と方程式 ・平面のベクトル ・空間のベクトル ・整式の除法・不等式の証明 ・論理 ・整数 (中間考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	24	<ul style="list-style-type: none"> ・微分 ・積分 ・場合の数 ・確率 ・数列 ・不等式・数と式の文章題 ・データの分析 (期末考査)	授業は初級問題と中級問題の演習、解説が中心である。予習をしておくこと。 その問題以外は、復習用として各自で取り組むこと。
2 学 期	前 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	重要事項の確認。 過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (中間考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	後 半	数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B	28	過去の予想問題を利用して、演習と解説を行う。 (期末考査)	受験の重要ポイントを確認しながら、実戦的な演習を行う。
	12	特別授業	8	共通テスト対策問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。
3 学 期	1 2	特別授業	28	共通テスト問題演習 二次対策問題演習	進路別問題演習を実施する。

学習者へのメッセージなど

<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業は休まず、集中して真剣に受けること。 (2) 授業内容は自分に適した方法で、工夫をしてノートを取ること。 (3) 宿題等の提出物はきちんと取り組み、提出期限を守って提出すること。 (4) 自宅学習（授業で扱うことのできなかつた問題や応用問題等）を十分にすること。 (5) どうしても分からない時は、担当の先生に質問すること。
--

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	物理	4単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・物理（啓林館） ・セミナー物理（第一学習社） ・物理重要問題集（数研出版） ・直前演習 物理（ラーンズ）他 	教科担当			

学習の目標

自然に対する興味・関心を培い、物理的に探求していく能力と態度を育成することをめざす。これにともない、物理的な概念や基本的な法則を習得させ、科学的な自然観を育成するように努める。また、科学技術に関する幅広い知識を理解し、活用する能力を身につける。

学習到達度規準

自己学習力の伸長を図り、進学指導重点校として大学入試個別学力試験で難関大学に対応できる学力を身につける。

授業内容

授業では教科書の各項目に則して、身近で自分でもできる実験と、実験室でないとできない実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。

学習方法

- 論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がけるのが十分な理解への近道である。
- 力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積むことによって理解が深まる。
- 力学と電磁気が物理学で重要な柱である。十分に練習を積んで、理解を深めるような努力を望む。
- 暗記して定期テストに備えるという考えから脱却し、法則をきちんと理解し、これを適用して探求を進めていくように心がけてほしい。
- 物理的な事象を科学的に分析し、論理的に考える習慣を付ける。

学習評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・物理的な事象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけたか。
2. 思考・判断・・・物理的な事象を、観察、実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、事実に基づいて科学的に判断できたか。
3. 観察・実験の技能・表現・・・物理的な事象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できたか。
4. 知識・理解・・・観察・実験などを通して物理的な事象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけたか。

評価の方法

定期テスト、実験レポート、出席状況、科学的に探求していく態度などを総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	前半	単振動 万有引力	20	慣性力 円運動 単振動 万有引力 万有引力の位置エネルギー (中間考査)	○向心力と遠心力の違いを理解する。 ○円運動を念頭に置いて、単振動を考える。 ○一定の大きさの重力から、大きさが変化する万有引力へ発展させる。
	後半	気体分子の運動 電荷と電場 電流と磁場	20	内部エネルギー 熱力学の第1法則 クーロンの法則 電場, 電位 コンデンサー 電荷保存 電流の作る磁場 ローレンツ力 (期末考査)	○定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化について理解する。 ○電場 E と電位 V の概念を取得することが最重要課題。 ○コンデンサーにおける電荷保存則を使えるように、十分な演習が必要。 ○磁場の中を動く荷電粒子には、ローレンツ力が働く。
2 学 期	前半	電磁誘導と電磁波 原子と原子核	26	ファラデーの法則 自己誘導 相互誘導 交流 電磁波 原子・原子核 放射線・核分裂・核融合 (中間考査)	○中学でも学習したファラデーの法則について、理解を深めていく。 ○各種の電磁誘導現象の理解。 ○気体分子の運動を力学的に理解し、式で表現する。 ○質量欠損が核分裂と核融合のエネルギー源で、 $E=mc^2$ を学習する。
	後半	問題演習	22	共通テスト対策 国公立2次試験対策 (期末考査)	○問題演習と解説を行う。
	12	特別授業		共通テスト対策 国公立2次試験対策	○対策。
3 学 期	1 ・ 2	特別授業	12	共通テスト対策 国公立2次試験対策	○ 共通テスト対策。 ○ 二次試験対策を行う。

学習者へのメッセージなど

我々は、日常生活の中で物理的な現象を体験している。これを自分なりに理解する場合、ミスコンセプションを形成している場合が多い。「力がつり合っていると物体は静止する」などがそれで、静止または等速度運動をするが正しい理解である。日常生活で体験した現象を、教室で学習した物理の法則を適用して考えを進めていくことを心がけてほしい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	物理プラス	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	入試必修問題集 高校物理 (啓林館)	教科担当			

学習の目標

自然に対する興味・関心を培い、物理的に探求していく能力と態度を育成することをめざす。これにともない、物理的な概念や基本的な法則を習得させ、科学的な自然観を育成するように努める。また、科学技術に関する幅広い知識を理解し、活用する能力を身につける。

学習到達度基準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学・早慶理科大に対応できる学力を身に着ける

授業内容

難関大学の入試問題をあらかじめ指定し、予習を行う。毎回の授業で取扱い解説を行う。

学習方法

年間の授業計画をあらかじめ示し、毎回の授業で3問ずつ取扱う問題を指定しておく。予習を行い、授業で解法を確認し、予習で分からなかった問題や予習の解法と授業の解説の内容が異なるときには復習をして解法を身に付ける。

学習の到達目標と評価の観点

1. 意欲的に入試問題にチャレンジする姿勢を持ち、予習を行う。
2. 答えまでわからない問題でも、途中まででも粘り強く考え抜くことができる。
3. 考察した自身の考えを、的確に表現し文章記述で伝達できるようになる。
4. 予習で分からなかった問題や解説と内容が異なった場合は、復習を行い解法を身に付ける。

評価の方法

定期テスト、出席状況、科学的に探求していく態度などを総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	力学（標準）	10	問題演習・解説	入試問題が解けるような学力を身につける。
	後 半	力学（発展） 波動（標準）	10	問題演習・解説	入試問題が解けるような学力を身につける。
2 学 期	前 半	波動（発展） 熱力学（標準・発展） 電磁気（標準）	10	問題演習・解説	入試問題が解けるような学力を身につける。
	後 半	電磁気（発展） 原子（標準・発展）	10	問題演習・解説	入試問題が解けるような学力を身につける。
3 学 期		総合演習	6	問題演習・解説	発展的な入試問題が解けるような学力を身につける。

学習者へのメッセージなど

授業を聞くだけでは、学力は向上しません。入試問題を解くということは、強い気持ちを持って取り組むことが必要です。この授業を一人ひとりが自ら入試問題を解くためのペースメーカーとして利用してくれることを望みます。きちんと予習を行い、授業内容だけでわからないことは、担当教員に積極的に質問をし、理解するまであきらめないという強い気持ちを持ち続けることが大切です。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	物理基礎演習	1 単位	選 択	対象学年	3 年
教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎 (啓林館) ・セミナー物理基礎+物理 (第一学習社) ・大学入試共通テスト対策チェック &演習 物理基礎 (数研出版) ・2022進研 [共通テスト] 直前演習 物理基礎 (冊子版) (ラーンズ) 	教科担当			

学習の目標

自然に対する興味・関心を培い、物理的に探求していく能力と態度を育成することをめざす。これにともない、物理的な概念や基本的な法則を習得させ、科学的な自然観を育成する。

学習到達度規準

自己学習力の伸長を図り、大学入試共通テストの全国平均得点を25%上回る学力を身につける。

授業内容

共通テストのための講座である。二年生で学習しなかった分野の講義を行い、後半は問題演習を行う。

授業では教科書の各項目に則して、実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。その過程で、物理的に探求していく能力と態度が育成されていく。このような授業展開をめざしていく。

学習方法

- 論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がけるのが十分な理解への近道である。
- 力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積むことによって理解が深まる。
- 暗記して定期テストに備えるという考えから脱却し、ほんの少しの法則をきちんと理解し、これを適用して探求を進めていくように心がけてほしい。
- 授業で学習した物理用語を用いて、現象を表現し理解することが大切である。例えば「パワー」という言葉で現象を表現しても、「力」や「エネルギー」である場合が多い。

評価の観点

1. 関心・意欲・態度・・・物理的な事象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけたか。
2. 思考・判断・・・物理的な事象を、観察、実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、事実に基づいて科学的に判断できたか。
3. 観察・実験の技能・表現・・・物理的な事象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できたか。
4. 知識・理解・・・観察・実験などを通して物理的な事象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけたか。

評価の方法

定期テスト、科学的に探求していく態度などを総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4	電気	6	静電気・電場 モーターと発電機 交流と電波 ジュールの法則 (中間考査)	○身近な電磁気的な現象の理解。
	5				
	6	問題演習	6	共通テストの過去問を中心とした問題演習 (期末考査)	○暗記してしまうという勉強法から、理解するという勉強法を心がける。
2 学期	7				
	9	問題演習	6	マーク式問題演習 (中間考査)	○理解した事柄の定着を心がける。
	10				
	11	問題演習	3	マーク式問題演習 (期末考査)	○理解した事柄の定着と活用。
12	特別授業	4	マーク式問題演習	○理解した事柄の定着と活用。	
3 学期	1	特別授業	6	マーク式問題演習	○理解した事柄の定着と活用。

学習者へのメッセージなど

我々は、日常生活の中で物理的な現象を体験している。これを自分なりに理解する場合、ミスコンセプションを形成している場合が多い。「力がつり合っていると物体は静止する」などがそれで、静止または等速度運動をするが正しい理解である。日常生活で体験した現象を、教室で学習した物理の法則を適用して考えを進めていくことを心がけてほしい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	化学	4単位	選 択	対象学年	3 年
教科書 副教材	東京書籍 化学 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料 第一学習 セミナー化学基礎+化学 数研出版 2021化学重要問題集	教科担当			

学習の目標

化学を理解し、物質や現象を科学的な目でとらえる力を養う。そのために、単に知識を要領よく覚えるのではなく、一つ一つの単元の内容を、実験を通して実感理解する。そして、科学の方法、科学的な思考を実践する能力を養う。また、化学の広範な知識の理解とその活用能力を身につける。

学習到達度規準

難関国立大学の入試問題を最低でも5割正解できるようになる。

授業内容

物質の状態と平衡：物質の状態、気体の性質、溶液の性質、固体の構造
 化学反応とエネルギー：化学反応と熱・光、電池と電気分解
 化学反応の速さと平衡：化学反応の速さ、化学平衡、水溶液中の化学平衡
 無機物質 有機化合物 高分子化合物

学習方法

化学基礎と同様に、講義、演示実験、生徒実験、問題演習を組み合わせた授業を行う。化学の本質に触れること目指すとともに、大学受験に対応できる実力を身につけることを最重点目標とする。実験に関しては、事前に配布される実験プリントによく目を通し、実験の流れを読みとって目的を理解し、結果を予想する。実験中は、班員でよく議論し、協力して操作を進める。結果は各自実験プリントに記録し、レポートとして提出する。実験・講義とも、教科書の内容からかなり踏み込んだ高度なものまで扱う。授業中の集中力と納得するまでの復習が大切である。

学習の到達目標と評価の観点

- ・ 化学の知識や理論を確実に身につける。
- ・ 正しい実験法を身につけ、安全かつ正確な実験が行えるようにする。
- ・ 単なる机上論に終わらず、身近な現象から地球規模の現象まで、物質に関することを科学的な視野で見られるようにする。
- ・ 学習した内容を使いこなせるだけでなく、高度な内容をも自ら学習できる能力を養う。

評価の方法

- ・ 考査の点数を重視し、実験レポートや平常点を加えて評価する。
- ・ 考査では、大学入試の過去問を題材にした出題も行う。
- ・ 実験およびそのレポートでは、積極的に操作に加わっているか、実験内容をよく理解しているか、結果をよく理解し分かりやすく表現できるかを重視する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4	オリエンテーション 化学結合と 物質の状態	1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の状態 ・気体の性質 ・溶液の性質 ・固体の構造 ・化学反応とエネルギー 	結晶の構造をイメージする。 分子運動論を理解する。 難解な計算に慣れる。 コロイド溶液の概念を理解する。 速度論や活性化エネルギーについて理解する。
	5	化学反応の速さと平衡	8 4 3		
		24		中間考査	
2 学 期	6	化学反応の速さと平衡 生活と物質	4 6 2 2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応の速さ ・化学平衡 ・水溶液中の電離平衡 ・無機物質 ・有機化合物 ・高分子化合物 	高校化学の全てを結集し、反応を関連づけて理解する。 総まとめ、有機の発展として化学基礎の復習の意味もある。 身近な物質に対する理解を深める。
	7	生命と物質	4 2		
		24		期末考査	生物の内容と重複する部分もあるが、化学的な観点から学習を進める。
2 学 期	9	問題演習 実験	8	共通テスト対策問題	化学の総復習として共通テスト演習を行う。 二次試験対策として実践的な問題演習を行う。 1学期に学習した範囲を中心に、理解を深めるため、実験を行う。
	10		8	二次試験対策問題	
		24	8	実験	
				中間考査	
3 学 期	11	問題演習 実験	8	共通テスト対策問題	共通テスト演習の仕上げを行う。 二次試験対策として難度の高い問題にも取り組む。 1学期に学習した範囲を中心に、理解を深めるため、実験を行う。
	12		8	二次試験対策問題	
		24	8	実験	
				中間考査	
	12	特別授業			
3 学 期	1	特別授業	12	各種入試過去問解説	生徒の希望や実態などを考慮してテキストを編集する。
	2				

学習者へのメッセージなど

<メッセージ>

初めての内容は特に集中して学習すること。得た知識はすぐに問題演習を行い、自らの次の思考に使える形で頭にしまっておくこと。基本を押さえれば応用につながる。問題演習でも、実験の考察でも、基本問題が少し変化しただけである。思考パターンを反復しながら、探究力を磨くこと。

<大学入試との関係>

共通テストでもそうであるが、特に国公立二次や私大入試では、実験に関する出題が多い。したがって実験に際しては、単にそれを楽しむだけでなく、深く考え、きちんとレポートにまとめる作業が不可欠である。講義内容は難関入試にも対応している。ただし、時間に限りがあるので、問題演習に関しては、授業で扱うものに加えて自主的にどんどん量をこなして補う必要がある。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	化学基礎（化学基礎演習）	1単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	東京書籍 化学基礎 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料 数研出版 2022 大学入試共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎	教科担当			

学習の目標

- ① 生徒が2年で学習してきた化学基礎の内容を自ら復習して、進路実現に向けた学習計画を立てる。
- ② 2年次に学習した化学基礎を総復習し、より深く理解することを目標とする。
- ③ 化学の基本法則への理解を深め、科学的に探究する能力を身につける。
- ④ 学習内容・項目について、生徒自らの進路実現に合わせた演習も行う。
学習内容・項目を深く理解して、自らの考える力（自己学習力）の醸成を図る。

学習到達度規準

共通テスト入試レベルの問題で8割5分正解できるようになる。

授業内容

- ① 生徒が設定した演習の内容を一覧表にまとめ、進路実現に役立つようにする。
- ② 学教員の指導を受け、演習などを行い、総合的に自ら学習する。

学習方法

- ① 生徒が学習した化学基礎から、特に興味関心のある内容・項目を自ら発展させ学習する意欲と態度を養う。
- ② 生徒自らの学習した化学基礎の項目が進路実現に役立つよう指導助言を受ける。
- ③ 演習を通して自ら考える力を身につける。

評価の観点

- ① 生徒が学習した化学基礎から、特に興味関心のある内容・項目を自ら発展させ学習する意欲と態度が育ったか。
- ② 演習などを通して、自ら考える力を身につけたか。
- ③ 関心や意欲、態度が深化されたか。
- ④ 化学の基本的な概念・法則・用語・化学反応式などの知識が活用できるようになったか。
- ⑤ 進路実現に役立ったか。

評価の方法

- ① 出席状況、参加状況、提出物の提出状況・学習計画等を総合的に判断して評定する。
- ② 必要に応じて学習状況を確認するための考査を行う。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス 化学基礎	1 10	共通テスト対策問題演習	ガイダンスを通して、学習目標、学習内容、学習方法を理解させる。担当教員が生徒の実情を考慮して指導する。
	後 半	化学基礎	12		生徒の研究、演習などについての指導は、生徒の学習状況に合わせる。
2 学 期	前 半	ガイダンス 化学基礎	1 11	共通テスト対策問題演習	ガイダンスを通して学習進捗状況を把握させる。進路実現に向けての学習目標・内容・方法を再検討させる。
	後 半	化学基礎	12		繰り返しの演習に依り知識の定着を図る。担当教員が生徒の実情を考慮して指導する。
	12	特別授業		共通テスト対策問題	問題演習の取組に依り不足知識の発見を図る。担当教員が生徒の実情を考慮して指導する
3 学 期	1	特別授業	6	共通テスト対策問題	
	2	化学基礎 まとめ			

学習者へのメッセージなど

- ① 授業は休まず積極的に取り組むこと
- ② 自宅での学習も意欲的に取り組むこと
- ③ 自分に適した方法で創意工夫して学習すること
- ④ 提出物は期限を守って提出すること
- ⑤ わからないことは担当教員に相談すること

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	生物	4 単位	選択	対象学年	3 年
教科書 副教材	生物 改訂版 (啓林館) スクエア最新図説生物 neo (第一学習社) セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) 生物重要問題集—生物基礎・生物 (数研出版)	教科担当			

学習の目標

1. 生物現象に興味を持ち、自ら進んで理解しようと学習に意欲的に取り組む。
2. 生物学的な基本概念に習得し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成する。
3. 生物の学習を通して効率の良い学習法を身につけること。

学習到達度規準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身につける

授業内容

生命現象と物質、代謝 (細胞の構造と機能、タンパク質の構造と性質、酵素、代謝、ATP)
 遺伝・遺伝子発現 (遺伝現象、遺伝情報の発現、DNA、形質発現とその調節、)
 生物の系統と進化 (生物の多様性、進化の証拠、生命の起源、生物の変遷、進化のしくみ)
 植物の環境応答 (生物と環境、生物群集と生物生産、生態系とその保全)
 動物の反応 (刺激の受容と応答、恒常性、神経・ホルモン・筋肉)

学習方法

講義の内容について、生徒自身が自分なりのイメージを持って理解、記憶するように心がける。とくに、基本的な生物学的概念が、どのような研究と歴史を経て形成されてきたか、その実験方法はどのようなものであったかを考えながら、受講することを心がける。

観察や実習では、その目的を的確に把握し、作業を能率よく進めることが大切である。文章や模式図で学習したことを実際に自分の目で確認し、知識として定着させる。実験結果をレポートにまとめることで、結果や実験の意義について整理し、そこから得られる情報について考察する力やその情報をまとめる表現力を身につける。

自宅学習として問題集を活用し、学校における学習で得た知識や考える力を受験に役立てる能力を養って欲しい。

学習の到達目標と評価の観点

1. さまざまな生物用語を正しく理解して記憶し、それらを用いて身の回りの生物現象を説明することができるようになる。
2. 学習した知識を用いて正しく推論し、実験結果を予想したり、解釈したりできるようになる。
3. 生物現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つようになる。

評価の方法

1. 定期考査において、どれだけ多くの知識が定着したかとそれらの知識を用いて正しく推論することができるようになったかを調べる。
2. 観察や実習ではレポートを提出させ、それに基づいて、理解度、表現力、学習に対する意欲などを調べる。これらに学習態度などを加味して数値化して評定する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	生命現象と物質 代謝	20	細胞の構造と機能 タンパク質の構造と性質 酵素反応 アロステリック効果 同化と異化 酸素呼吸と発酵 炭酸同化・窒素同化 (中間考査)	分子のレベルで詳しく学ぶ。 1年生で学習した内容と2年生 で学習した化学の内容の復習が 不可欠である。 研究の進め方に触れながら説 明する。
	後 半	遺伝現象 遺伝子発現	20	染色体と遺伝子 性と遺伝 遺伝子の連鎖と組換え 分子生物学 遺伝情報の発現 形質発現の調節 遺伝子組換え (期末考査)	現在、遺伝子については最も 活発に研究されている分野なの で、遺伝を含めると受験では最 も頻出な分野である。
2 学 期	前 半	植物の環境応答 動物の反応	21	生物と環境 植物ホルモン 個体群動態 生物群集と生物生産 生態系とその保全 刺激の受容と応答 神経・ホルモン・筋肉 (中間考査)	グラフが多用されている内容 であり、グラフの読み方をきちん と身に付けておくことが大切と なる。 医療系の受験には小論文形式 で出題されることが多く重要で ある。
	後 半	生物の進化と系統	21	分類・系統の方法 植物の分類と系統 動物の分類と系統 進化の証拠 生命の起源 生物の変遷 進化のしくみ 分子進化と集団遺伝学 (期末考査)	進化のしくみについて、受験で は、遺伝子のはたらきと絡めた複 雑な問題が出るので要注意。 分類・系統の範囲では、知識を 整理して学ぶことが重要となる。
	12	特別授業	8	共通テスト対策	共通テスト対策問題演習解説
3 学 期	1 2	特別授業 総合問題演習	13	論述対策・実験考察問題 演習	実験考察問題、小論文形式の 記述問題の演習を行う。

学習者へのメッセージなど

1年で学習した生物基礎に比べると、量的にも、内容的にも豊富な内容である。それだけ、授業進度は速いものとなる。授業をしっかりと聞く姿勢は不可欠であるが、授業中の学習だけでは不十分になる。授業内容の復習と不明な内容の質問は大切である。この意味で、自学自習が必要である。効率のよい勉強方法を身に付けているかが、授業についているかどうかのカギとなる。生物における「生物の進化と系統」の単元は、生物基礎および生物の集大成のような内容であり、生物の学習の総復習的な色彩が強い。その分、まとめとしての学習が大切になる単元である。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	生物プラス	2単位	選択	対象学年	3年
教科書 副教材	生物 改訂版 (啓林館) スクエア最新図説生物 neo (第一学習社) 生物重要問題集—生物基礎・生物 (数研出版)	教科担当			

学習の目標

1. 生命現象に興味を持ち、自ら進んで理解しようと学習に意欲的に取り組む。
2. 生物学的な基本概念を習得し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成する。
3. 生物の学習を通して効率の良い学習法を身につけること。

学習到達度基準

大学入試個別学力試験で、難関国立大学に対応できる学力を身に着ける

授業内容

実験実習と問題演習を中心に行う。実験から考察する力を養うとともに、分野を横断した総合的な問題演習を通じ、別分野の知識を活かし、解決する力を身につける。

実験考察問題：実際に実験を行い、技術を身につけるとともに、その実験の意味を考え、結果から生命現象を説明できる力を身につける

生物計算問題：さまざまな実験データから、導き出せる数字、データの統計処理等を問題演習を通じ学習する。

総合記述問題：実験結果、データなどからの考察を、自身の言葉で表現できるよう、文章記述できるようにする。

学習方法

実験については、それぞれの実験が何を知らるために、どんな計画で行われているのか、実験計画の全体像を理解できるように心がける。実験計画の全体像が理解できないとその実験の行われている意味が理解できず、考察する力が身につかない。まずはその研究・実験の目的をしっかりと理解することが大切である。実験の全体像を図解したり、得られた情報を表にまとめたり、正しくデータ分析できる力を身につける

問題演習については、さまざまな情報を整理し、学習してきた知識を用いて正しく推論し解釈する力を養う。そこから導き出せる結論を正しく考察する。学習した知識を別分野にも活かせるような広い視野を持って、総合的に考察する力を身につける。また考察した考えを的確に表現できる力を養う。

学習の到達目標と評価の観点

1. 観察実験において、実験の目的・意味を正しく理解し、正確な実験技術を身につける。
2. 問題演習を通じ、学習した知識を有機的に結び付け、総合的な考察ができるようになる。
3. 考察した自身の考えを、的確に表現し文章記述で伝達できるようになる。

評価の方法

1. 観察・実験においてそれぞれの作業がどんな意味をもって行っているのか理解できているか。
2. 問題演習において、文章記述の問題で適切に自身の意見、考えを表現できているか。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	生命現象と物質 代謝	10	細胞の構造と機能 タンパク質の構造と性質 酵素反応 アロステリック効果 同化と異化 酸素呼吸と発酵 炭酸同化・窒素同化	分子レベルでの理解が不可 欠。 代謝では様々な化学反応を理 解する必要があり、モル計算を 確実に理解しておく必要があ る。
	後 半	遺伝現象 遺伝子発現	10	染色体と遺伝子 性と遺伝 遺伝子の連鎖と組換え 分子生物学 遺伝情報の発現 形質発現の調節 遺伝子組換え	遺伝現象については、確実に 記号遺伝学を理解しておく必要 がある。 遺伝子発現については現代生 物学のすべての分野の基礎にな るのでしっかり理解しておく必 要がある。
2 学 期	前 半	動物の環境応答 植物の環境応答	10	刺激の 受容と応答 神経・ホルモン・筋肉 植物ホルモン	グラフの読み取り問題、デー タの分析方法に関する問題など 様々なタイプの出題が考えられ る。良問をしっかりと学習してお くことが大切
	後 半	生物の進化と系統	10	分類・系統の方法 植物の分類と系統 動物の分類と系統 進化の証拠 生命の起源 生物の変遷 進化のしくみ 分子進化と集団遺伝学	進化のしくみについて、遺伝 子レベルでの計算問題などが、 頻出。 細かい知識も必要なので図説 で生物名なども学習しておく必 要がある。
3 学 期		総合問題演習	6	特別授業として、受験 指導を行う。	実験考察問題、小論文形式の 記述問題の演習を行う。

学習者へのメッセージなど

4単位の生物の授業を補完する授業である。実験についてはより発展的な実験を行うので実験の全体像をイメージできるようにしなければならない。そのためには生物学の基礎知識はもちろん、さまざまな情報を得ていなければならない。実験を終えたら、やりっぱなしにせず、きちんと整理し、より発展的な実験を自身で考えるくらいのことはしてもらいたい。

問題演習についてもより総合的、発展的な問題演習を行っていくので、教科書、図説等を熟読しておくことは最低限必要である。問題を解いていくうえで新しい気づき、学習した知識の有機的な結びつき、知識の定着が起こっていくはずである。

授業時間が大切なことはもちろんであるが、学習後に自身でしっかりと丁寧にまとめていくことが大切である。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	生物基礎演習	1 単位	選択	対象学年	3 年
教科書 副教材	生物基礎（数研出版） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社） 生物基礎単元別問題集（駿台文庫）	教科担当			

学習の目標

- ① 生徒が1年で学習してきた生物基礎の内容を自ら復習して、進路実現に向けた学習計画を立てる。
- ② 1年次に学習した生物基礎を総復習し、より深く理解することを目標とする。
- ③ 生物界の原理・法則への理解を深め、科学的に探究する能力を身につける。
- ④ 学習内容・項目は、生徒自らの進路実現に合わせた演習も行う。

学習到達度規準

- ・50%以上の生徒が、共通テストの全国平均得点25%上回る学力を身につける。

授業内容

- ① 問題演習を多く取り入れ実践的な力をつける。
 - ② 問題演習を通じ、より深く理解し、進路実現に役立つようにする。
1. 遺伝現象と遺伝情報の複製と分配（遺伝情報とタンパク質合成・細胞とエネルギー）
 2. 生物の体内環境の維持（動物の刺激の受容と反応・動物の恒常性と調節・植物の反応と調節）
 3. バイオームの多様性と分布 生態系とその保全

学習方法

- ① 教室での講義を中心として、問題演習を多く取り入れるので予習と復習を心がける。
- ② 1年で学習したノートを利用して復習すること。
- ③ 図解、問題集を授業と並行して利用すると理解が深まる。

評価の観点

- ① 生物の共通性と多様性を理解できているか
- ② 生命現象と物理・化学の法則との関係を理解できているか。
- ③ 生命現象を探究していく土台となる基礎知識が身についたか。
- ④ 生命現象を探究するための論理的思考力や表現力が身についたか。
- ⑤ 進路実現に役立ったか。

評価の方法

- ① 出席状況、参加状況、提出物の提出状況・テーマ設定・学習計画等を総合的に判断して評定する。
- ② 研究、実験・実習、演習などについては生徒の参加状況、受講態度などを参考に評定する。
- ③ 必要に応じて学習状況を確認するための考査を行う。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	ガイダンス 生物の特徴	10	学習テーマの設定 学習計画の作成 ・生物の多様性と共通性 ・生命活動とエネルギー (中間考査)	・ガイダンスを通して、学習目 標、学習内容、学習方法を理解 させる。 ・細胞レベル・生命活動とエネル ギーの流れの関係を意識する
	後 半	遺伝子とその はたらき	10	・生物と遺伝子 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成 (期末考査) 学期のまとめ	・DNAが遺伝子として働く仕 組みを構造から理解する。 ・遺伝情報の複製を細胞周期の 面から理解する ・遺伝子とタンパク質の関係を 理解する。 ・遺伝子とゲノムを理解する。
2 学 期	前 半	ガイダンス 生物の体内環 境の維持	12	学習内容・計画の再検討 体内環境 ・体内環境の調節 ・免疫 (中間考査)	・体内環境の維持には体液・臓 器・自律神経・ホルモンがバラ ンスをとっていることを理解 する ・免疫はシステムとして成り立 っていることを意識して学習 する。
	後 半	生物の多様性 と生態系	12	・植生の多様性と分布 ・気候とバイオーム ・生態系とその保全 (期末考査) 演習・学期のまとめ	・生物同士のつながりについて だけでなく無機的环境も含め て考える ・物質の循環に伴ってエネルギ ーも移動することを理解する。 ・人間活動が自然界に及ぼす影 響について考え、多様性が損な われていくことを理解する。
	12	特別授業		総まとめ・演習	
3 学 期	1	特別授業		総まとめ・演習	
	2				

学習者へのメッセージなど

- ① 入試では、試験問題を読んで理解したことに基づいて設問に答えてゆくタイプの問題が増加している。そのため、単純暗記型の勉強では対応できない。自分で教科書を読んで理解しようとする訓練を予習として実施してほしい。
- ② 授業は休まず積極的に取り組むこと。
- ③ 学習内容を自分の言葉で文章にまとめることで論述式の問題にも対応できる学力が身につく。
- ④ わからないことは担当教員に相談すること

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	地学基礎演習	1 単位	選択	対象学年	3 年
教科書 副教材	高等学校 地学基礎 改訂版 (啓林館) ニューステージ新地学図表 (浜島書店) マーク式基礎問題集 地学基礎-改訂版- (河合出版)	教科担当			

学習の目標

- 地球・宇宙についての関心や探究心を高め、新しい自然観を理解する。
- 1年次の地学基礎・生物基礎、2年次の物理基礎・化学基礎で学んだ科学的法則を基礎にして、より本質的な考察を行う。

学習到達度規準

- 観察事実に基づいた現象の理解ができるようになる。
- 共通テストにおいて、8割以上の得点が得られるようになる。

授業内容

- 地球誕生から現在までの地球史・生物の進化を学び、地球環境について考察する。
- 重力・地磁気等の地球物理的要素を深め、火山や地震について説明し、日本列島の形成史を編む。
- 気象現象の各要素を理解し、四季の天気変化の原因について考察してゆく。
- 天文学について、太陽系から銀河宇宙までを学ぶ。

学習方法

- 岩石・鉱物、地球そして宇宙の物質や空間を、それぞれのスケールで整理する。
- 2年までの物理・化学・生物や数学という分析手段で、より深く自然を理解し、その階層性を明確にする。

学習の到達目標と評価の観点

1. 関心・意欲・態度 : 地学の学習に関心を持ち、授業に積極的に参加したか。また、地学的な見方や考え方の良さを認識して、それらを積極的に活用しようとしたか。
2. 地学的な見方・考え方 : 地学の基本的な概念や法則の習得・活用を通して、地学的な見方や考え方を身に付けることができたか。
3. 表現・処理 : 物事を地学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けることができたか。
4. 知識・理解 : 地学の基本的な概念や原理・法則、用語、記号などを理解し、知識が身に付いたか。

評価の方法

1. 年4回の定期考査
2. 課題プリント・ノートなどの提出物
3. 出席状況・学習態度などを総合的に判断し、評価する。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	大気と水 大気の運動 日本の天気	13	大気圏 水蒸気と雲 地球の熱収支 風 シベリア高気圧と移動性高気圧 梅雨前線とオホーツク高気圧 北太平洋高気圧 (中間考査)	気象現象の各要素を理解し、空気塊に働く力で風を理解、各スケールで流れを考える。 四季の変化を天気図から考察する。
	後 半	現在の地球の活動 造山運動	11	プレートとその動き 地震 火山活動と火成岩の形成 地殻変動と地質構造の形成 造山帯と変成作用 (期末考査)	プレートの存在、深部モデルの考え方を知り、地球物理の情報を整理し、日本列島の地質を成因的にまとめる。
2 学 期	前 半	地球史の読み方 地球と生命の進化	9	堆積岩とその形成場 地層と化石 地球史の組み立て 先カンブリア時代 顕生代 (中間考査)	地球は水の惑星であるという環境が、地球進化で重要であることを理解する。
	後 半	海洋と気候 太陽と太陽系 恒星の性質と進化 銀河系と宇宙	13	海洋とその運動 海洋と気候 地球の運動、惑星の運動、太陽 恒星の光、恒星の性質とHR図 恒星の誕生と進化 銀河系、銀河と宇宙 (期末考査)	恒星の代表として太陽の物理的要素を理解し、恒星の分布と進化を理解する。 観察される天の川から恒星の空間的分布を考えることにより、銀河系の構造を考える。
	12	特別授業			
3 学 期	1 2	特別授業	6	共通テスト演習 ほか	

学習者へのメッセージなど

- ・ 新聞・テレビ・科学雑誌の情報に関心を持ち、日常生活の中で観察できる自然現象を、地学的な視点で考察する姿勢ができれば地学を選択・学習した意義が大きい。
- ・ 選択者は主に文系大学進学者であるので、基礎的事項の理解に努め、共通テスト対策など計画的に学習を進めると良い。
- ・ 地学などの理系進学者は授業担当者まで相談してください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	体育		2単位	必修	対象学年	3年
教科書 副教材	新保健体育（大修館）	教科担当				

学習の目標

生涯にわたって計画的に運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持・増進ならびに体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度と実践力を身につける。

学習到達度規準

- ・自分が選択した種目の運動特性に応じた課題解決の仕方を工夫し、計画的に運動することができる。
- ・身につけた力を発揮しながら仲間と協力し、教えあい、励ましあいながら運動することができる。

授業内容

週2時間の体育実技を年間指導計画に従って実施する。本校の体育施設で実施できるサッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・テニスを選択種目とする。また、各種目の実施に当たっては、体づくり運動・体育理論を取り入れ、年間を通して実施する。夏季は、水泳および体づくり運動を実施する。

学習方法

3年生では1・2年生で実施した球技種目の中から希望の種目を3つ選択する。この授業では、種目やグループごとにリーダーを決め、リーダーを中心に生徒同士が協力して授業計画を立案して活動を進めて行く。「勝敗を楽しむことはもちろん、個々の技術や体力を高めるとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。」「自分やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自分や仲間の考えたことを他者に伝える」「公正、協力、責任等の態度や健康や安全に留意して活動を進める。」等をポイントに計画・実践することで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力を養う学習活動である。6月の中旬から9月初旬までは、水泳と体づくり運動の授業を集中して行う。水泳では、4泳法の習得を目標とする。

学習を通じて育成すべき資質・能力

重点的に育成したい資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
情報活用力 (選択する力)	高めたい運動技能や体力について、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。	選択した情報を活用して、課題を解決することができる。	レベル2に加え、他者と協働しながら課題をより良く解決することができる。
探究心 (考える力)	技能や戦術について、自分の頭で「何故か」と考え、疑問点を整理することができる。	技術や戦術を論理的、客観的に分析することで、疑問点に対する解決策を考えることができる。	レベル2に加え、自己の解決策を筋道を立てて他者に説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 (伝える力)	集団活動の中で自己の考えを整理し、言語化することができる。	言語化した自己の考えを、分かりやすく他者に伝えることができる。	レベル2に加え、立場や考えの異なる他者に対して、自己の考えを説得力を持って伝え、議論することができる。
傾聴力 (受け入れる力)	集団活動のなかで、自己と異なる意見や考えを冷静に聴くことができる。	他者の考えと自己の考えの共通点、相違点を整理することができる。	レベル2に加え、多様性を受け入れつつ、自己の考えとすり合わせることで、合意点を見出すことができる。
行動力 (解決する力)	安全や健康に関する一般的な知識を活用して活動することができる。	安全や健康に関する知識を活動内容に合わせて、自分なりに改善を加えて行動することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、課題解決のために周囲を巻き込んで行動することができる。
創造力 (生み出す力)	習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる。	複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。	レベル2に加え、未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼすことができる。

評価の方法

1単位100点とし、実技テスト・記録・発表・レポート等をもとにし、欠席・遅刻・早退・見学等の態度も含め総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	4	体づくり運動 体育理論 選択種目	1 1 8	体ほぐし運動／実生活に生かす運動の計画 豊かなスポーツライフの設計 ①サッカー バスケットボール (バレーボール) バドミントン 卓球 テニス より選択	互いに協力して練習や競技ができるようにすると共に、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 また、練習場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 チームにおける役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにする。
	6	水泳 (バドミントン) 体づくり運動	2 8	スポーツテスト 4泳法 実生活に生かす運動の計画	
2 学期	9	水泳 (バドミントン) 体づくり運動 体育理論	6 1 1	4泳法 体ほぐし運動 ／体力を高める運動 実生活に生かす運動の計画	感染症予防の観点から、更衣の場所や人数、活動の場所や人数、内容については「三密」を避けられるようにする。
	10	選択種目	8	②③バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 テニスより2種目選択	
12	特別授業	2	5種目より選択 バレーボール 卓球・バスケットボール テニス・バドミントン		
3 学期	1	特別授業	2	5種目より選択 バレーボール 卓球・バスケットボール テニス・バドミントン	
	2				

学習者へのメッセージなど

体育の授業を通して生涯にわたる健康的な生活を営むために必要とされる、基本的な礼儀・体力を身につけてほしいと思います。知識は豊富であっても個々の創造性が乏しくては困ります。しっかりと目指すものを持ち、追求する意欲を持って望んで下さい。見学の際は生徒手帳に理由を記入の上保護者印を押して、授業開始前に担当教諭に提出して下さい。授業中は記名した体育着を着用し、見学記録を書き、授業終了後に提出して下さい。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	芸術 音楽Ⅱ		2単位	必修選択	対象学年	3年
教科書 副教材	高校生の音楽2（音楽之友社） MUSIC NOTE（啓隆社）	教科担当				

学習の目標

- ・音楽系受験対策の補助を担う講座の性質から、個性豊か且つ創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能とソルフェージュ能力を身に付けるようにする。
- ・生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

授業内容と学習方法

主として個別自由課題へ取り組み、個人指導を受ける。
実技においては講座外へ公開する試演会で、入試の実技試験に備える。

学習を通じて育成すべき資質・能力

	B	A	S
情報活用力 （選択する力）	様々な音源や情報の中から、課題に対して適切かつ重要な事柄を主体的に判断し、取捨選択することができる。	取捨選択した音源や情報を使って、課題解決に活かすことができる。	レベル2に加え、課題をより良く解決し、他者と協働したり他者に向けて表現するなど、情報発信をすることができる。
探究心 （考える力）	生活と文化の密接な関わりについて考え、音楽文化の普遍性について理解することができる。	レベル1に加え、社会と文化の密接な関わりについて考え、音楽文化の現代的意義や効用、働きについて理解することができる。	音楽文化に興味を持ち、レベル2に加え、自己の考えを見出して他者に表現や説明し、理解してもらうことができる。
情報発信力 （伝える力）	情報活用力をふまえ、自己の主張や表現を見出し、整理し、言語化することができる。	感性を働かせて自己の主張や表現を能動的に構想し、他者に向けて表出することができる。	レベル2に加え、感性や表現方法の異なる他者に対して、自己の表現を根拠を持って伝え、演じたり発信することができる。
傾聴力 （受け入れる力）	自己と異なる考えや感性、表現を冷静に受け止めることができる。	他者と自己の考え・感性・表現方法の共通点・相違点を把握することができる。	レベル2に加え、考えや表現の多様性を尊重かつ受け入れることができ、新たな価値観を身に着けることができる。
行動力 （解決する力）	言われたことを着実に実行することで、課題を解決することができる。	言われたことに主体的な改善や工夫を加えて実行し、課題をより良く解決することができる。	レベル2に加え、自分がとるべき行動を理解し、周囲を巻き込んで物事を生み出すことができる。
創造力 （生み出す力）	既知の知識・技能を使って、自己表現をすることができる。	複数の知識・技能を自己の経験と統合し、発想力と観察力をもって表現を構想し、工夫することができる。	レベル2に加え、創造的で豊かな表現を積極的に構想し、楽曲に相応しい表現ができ、他者によい影響を及ぼすことができる。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	楽典 ソルフェージュ	8	新曲・聴音・コール ユーブンゲン	各自の大学別入試問題に対応する 個人指導
	後 半	表現、鑑賞 楽典 ソルフェージュ	14	新曲・聴音・コール ユーブンゲン	各自の大学別入試問題に対応する 個人指導
2 学 期	前 半	楽典 ソルフェージュ	12	新曲・聴音・コール ユーブンゲン	各自の大学別入試問題に対応する 個人指導
	後 半	表現、鑑賞 楽典 ソルフェージュ	14	新曲・聴音・コール ユーブンゲン	各自の大学別入試問題に対応する 個人指導
3 学 期		表現、鑑賞、創作 ソルフェージュ	20	個別課題発表	● 試演会

学習者へのメッセージなど

自分自身で授業目標をしっかりと定め、授業に臨んでください。有意義な時間にしましょう。

※授業計画（内容）は、新型コロナの状況及びコロナ感染防止対策のガイドラインによって適宜変更されます。ご了承ください。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目(講座名)	コミュニケーション英語Ⅲ	4単位	必修	対象学年	3年
教材	教科書：CROWN English Communication III (三省堂) 問題集：Change the World (Advanced) (いいずな書店) Clues to Reading (数研出版) 速読：共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes (Z会出版) 語彙：解体英熟語 (Z会出版) リスニング：共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes (Z会出版) 他		教科担当		

学習の目標

- ① これまでに身につけた基礎力をもとに更に高度な力をつけ、難易度の高い英文を正確に読み、内容を十分に理解する能力を養成する。ある程度の速度でまとまった量を読めるようにする。
- ② 難関大学入学試験・大学入学後の学習に対応できる読解力を養成する。

学習到達度規準

- ① 主に「読む」「書く」「聴く」の技能を多角的な指導で伸長させ、共通テストで8割以上の得点をとれる学力を身につける。
- ② 難関国公立大を中心に出题される記述問題に対する解答力を磨く。

授業内容

精読により文法・語法・構文・発音等に注意を払い、正確に読む力を養成し、また、速読力の養成も行う。また、適宜小テスト等を行い到達度の確認をする。

学習方法

予習では、設問を把握して本文を最後まで読み、内容を把握する。次に問題に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨む。
 授業では、予習の段階でつかんだ英文の解釈に違いがないか確認すると同時に正確な文法力を身につけるようにする。理解が不完全な点や疑問点を決して残さないこと。
 復習では、解決した疑問点を再確認して身につけると同時に、CDを利用してリスニング力をつける。

評価の観点

- ① 関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ② 表現・理解…文の大意を正しく把握し、自分の言葉で的確に説明することができるか。
多様な英文を正しく理解できるか。
- ③ 知識・運用…様々な設問に対応できる正確な基礎力・応用力を身につけたか。
単語・熟語・構文・文法等を文の流れの中で正しく理解し、応用できるか。

評価の方法

- ① 年間4回の定期考査、小テスト
- ② 課題などの提出物
- ③ 出席状況、授業に臨む姿勢など
①～③を総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容（予定）	学習上の留意点
1 学 期	前半	CROWN III Change the World (Advanced) Clues to Reading 解体英熟語 共通テストドリルリーディング 共通テストドリルリスニング	24	Lesson 1～5 1～5 1～4 小テスト 1～8 1～5	学習方法に同じ
	後半	CROWN III Change the World (Advanced) Clues to Reading 解体英熟語 共通テストドリルリーディング 共通テストドリルリスニング	24	Lesson 6～10 6～10 5～8 小テスト 9～16 6～12	
2 学 期	前半	Change the World (Advanced) Clues to Reading 解体英熟語 共通テストドリルリーディング 共通テストドリルリスニング 記述対策	24	11～14 9～12 小テスト 17～24 13～17	
	後半	Change the World (Advanced) Clues to Reading 解体英熟語 共通テストドリルリーディング 共通テストドリルリスニング 記述対策	20	15～18 13～15 小テスト 25～32 18～25	
	12	特別授業		共通テスト直前演習	
3 学 期	1	特別授業 共通テスト対策		共通テスト向けリスニング演習および共通テスト模擬演習と解説	
	2	二次試験対策		自由英作文・和文英訳 個別添削	

学習者へのメッセージなど

実力をつけるには予習や復習が重要である。また、疑問点は決して放りっぱなしにしないこと。しっかり確実に取り組めば、必ず力がつくので、授業を大切にすること。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目	英語表現Ⅱ	2単位	必修	対象学年	3年
教科書	入試必携英作文 Write to the Point (数研出版)		教科担当		
副教材	RANDOM CHALLENGE 600 Advanced (いっずな書店) ドラゴンイングリッシュ基本英文100 (講談社) 自由英作文編 英作文のトレーニング 改訂版 (Z会出版)				

学習の目標

これまでに身につけた基礎力を確認しながら、高度な応用力を身につけ、正確な英文を書き、自分の伝えたいことを十分に伝える能力を養う。また、問題演習を通じて、語法・文法問題に対する解法力を磨く。様々なタイプの英作文に対応できる力をつける。

学習到達度規準

国公立大学の二次試験や難関私立大学で出題される和文英訳、自由英作文の設問に対し、満点のうち8割以上の点数を得られる記述力を養う。

授業内容

1クラスを2グループに分けて少人数授業を行う。英作文が主、語法・文法問題を副として、時間を配分する。

学習方法

予習を徹底し、疑問点を明確にして授業に望むこと。授業では、正解である場合には理解を深め、不正解である場合には、その理由を理解するようにする。授業中は学習項目を時間内に理解・習得するように心がけ、疑問点を残さないようにする。

評価の観点

- ①関心・意欲・態度…英語の学習に関心を持ち、積極的に授業に取り組んだか。
- ②表現・理解…自分の伝えたいことを適切に表現し、話し手の意図を的確に理解した上で積極的にコミュニケーションを図ったか。
- ③知識・運用…語法・文法問題を解き、応用する力を身につけることができたか。

評価の方法

- ①年間4回の定期考査、小テスト
- ②課題などの提出物
- ③出席状況、授業に臨む姿勢など
- ①～③を総合的に評価する。

授業計画

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	前半	入試必携英作文 Write to the Point ドラゴンイングリッシュ RANDOM CHALLENGE 英作文のトレーニング 他	8	1～4 1～25 1～4 序章・第1章 標準問題 小テスト(暗唱・語法・文法)	学習方法 に同じ
	後半	入試必携英作文 Write to the Point ドラゴンイングリッシュ RANDOM CHALLENGE 英作文のトレーニング 他	10	5～9 26～50 5～8 第1章 標準問題 小テスト(暗唱・語法・文法)	
2 学 期	前半	入試必携英作文 Write to the Point ドラゴンイングリッシュ RANDOM CHALLENGE 英作文のトレーニング 他	10	10～13 51～75 9～12 第2章 資料問題 小テスト(暗唱・語法・文法)	
	後半	入試必携英作文 Write to the Point ドラゴンイングリッシュ RANDOM CHALLENGE 英作文のトレーニング 他	12	14～18 76～100 13～15 第3章 発展問題 小テスト(暗唱・語法・文法)	
	12	特別授業		志望校別英作文演習	
3 学 期	1	特別授業		志望校別英作文演習	
	2	国公立二次試験・私大受験対策			

学習者へのメッセージなど

予習を必ず行い、その際には英和辞典、和英辞典、英英辞典を活用すること。
電子辞書の例文検索をうまく利用し、自分でエラーを見つけられる力をつける。
授業後や課題提出後は、復習をして、必ずより良い英文を書き上げること。
繰り返し書き直し、より良い英文を書けるようになってこそ、自信が得られるものである。
授業からできる限り多くのことを学び取ろうという姿勢で学習すること。

令和3年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目 (講座名)	コミュニケーション英語Ⅱ プラス	4単位	必修選択	対象学年	3年
教材	Make Progress in English Reading (数研出版) PATHWAYS 3 (National Geographic Learning) 速読英単語上級編 (Z会出版) 2度聴き精聴トレーニング (旺文社)		教科担当		

学習の目標

これまで身に着けた文法・語法力を確認しながら、高度な総合的英語力を身につけ、難易度の高い英文を正確に読み、かつ自分の述べたいことを表現できる十分な応用力を養う。

学習到達度規準

主に難関私立大学の入試に対応できる速読・精読力、文法・語法力を養い、早慶大レベルの入試で7割以上得点ができることを目指す。

授業内容

問題演習形式で行い、リスニングの教材も用いる。適宜、テキスト以外の入試問題や新聞・雑誌記事等も扱う。また、自由英作文の問題演習も扱う場合がある。

学習方法

予習を徹底的にすること。英文を読む際には、未知の単語があっても最後まで読み切り、設問に解答すること。その後、単語を辞書等で確認し、疑問点を明確にして授業に望むこと。授業では、予習の段階でつかんだ英文の解釈に間違いがないか確認すると同時に正確な文法を習得するようにする。自分の解答が不正解である場合には、不正解である理由を理解することが重要である。理解が不完全な点や疑問点を決して残さないこと。

学習の到達目標と評価の観点

英語の長文を読んだときに、細かな部分は別として、著者の言いたいことを完全に理解し、設問に正確に解答できるようになることが目標である。そのためには必ず予習して授業に臨み、授業中に完全に理解することが必要である。また、語彙力を養っていくことも大切である。

評価の方法

評価は原則として、定期考査の結果に基づいて行う。定期考査は講座使用テキストからの問題と独自の問題（応用問題を含む）を出題する。

また、小テストや授業中の姿勢、課題なども加味する。

授業計画

学期	月	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学習上の 留意点
1 学 期	前 半	Make Progress in English Reading PATHWAYS 3 速読英単語上級編 2度聴き精聴トレーニング	24	1～5 1～3 小テスト 1～7	学習方法に同じ
	後 半	Make Progress in English Reading PATHWAYS 3 速読英単語上級編 2度聴き精聴トレーニング	24	6～10 4～6 小テスト 8～14	
2 学 期	前 半	Make Progress in English Reading PATHWAYS 3 速読英単語上級編 2度聴き精聴トレーニング	24	11～15 7～8 小テスト 15～22	
	後 半	Make Progress in English Reading PATHWAYS 3 速読英単語上級編 2度聴き精聴トレーニング	20	16～20 9～10 小テスト 23～27	
	12	特別授業		記述問題演習	
3 学 期	1 2	特別授業 共通テスト対策 国公立二次試験・私大受験対策		志望校別長文演習	

学習者へのメッセージなど

予習を完全にして授業に望むことにより力が伸びるので、予習を忘れないこと。
必修のコミュニケーション英語Ⅲの4単位に加えてのコミュニケーション英語Ⅱプラスの4単位なので、
学校の授業だけで十分に力がつく。